

牛頸後田窯跡群 3

— 68・69・70・71・72・74 地点 —

大野城市文化財調査報告書 第218集

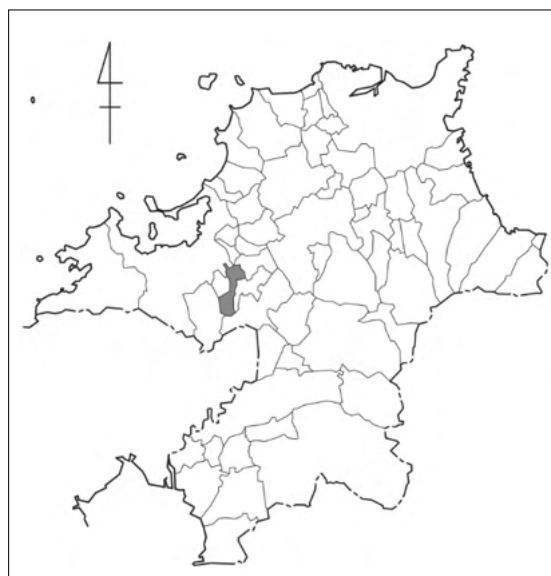
2024

大野城市

う し く び う し ろ だ か ま あ と ぐ ん
牛頸後田窯跡群 3

— 68・69・70・71・72・74 地点 —

大野城市文化財調査報告書 第218集



2024

大野城市



上 70地点1・3～5号窯跡全景 下 70地点出土ヘラ書須恵器「大」



68地点出土須恵器

序

福岡県大野城市は福岡平野の東南部に位置し、その市名は日本最古の朝鮮式山城「大野城」に由来します。市域は中央部がくびれ、南北に細長い形をしていますが、東部に大野城跡、中央部に水城跡、南部に牛頸須恵器窯跡と、それぞれ国指定史跡を配し、それらを中心に数多くの文化財を擁する歴史豊かな街です。

後田窯跡群は市域の南部、牛頸山山麓に広がる丘陵上に立地します。一帯には小田浦窯跡群、石坂窯跡群、大谷窯跡群などたくさんの窯跡群があり、開発に伴って幾多の須恵器窯跡が発掘調査され、貴重な成果を上げてきました。

本書で報告するのは、68～72・74地点の調査成果です。調査は霊園建設に伴って行い、総数で須恵器窯跡10基と炭窯跡1基や、たくさんの土坑が確認され、パンケース250箱分の遺物が出土しました。

須恵器窯跡は7世紀後半から8世紀後半のもので、杯蓋・杯身のみを焼く窯は天井も低く、幅も狭いのに対し、甕を焼く窯は天井が高く、幅も広がっていることから、須恵器工人は、生産する器種によって、窯の大きさを変えていることが明らかになりました。

また、出土遺物には「大」と書かれたヘラ書き須恵器が含まれており、牛頸須恵器窯の工人である大神部と関連がありそうだと考えられます。

遺跡は土地に刻まれた歴史であり、私たちに沢山のことを教えてくれます。大野城心のふるさと館では、開発などで失われていく遺跡を調査記録し、このような報告書という形で広く公開すると共に、次の世代へ伝えていけるよう努めています。本書が文化財の理解と重要性の認識を深めてもらえる一助となり、学術研究や教育現場で広く活用して頂けたら幸いです。

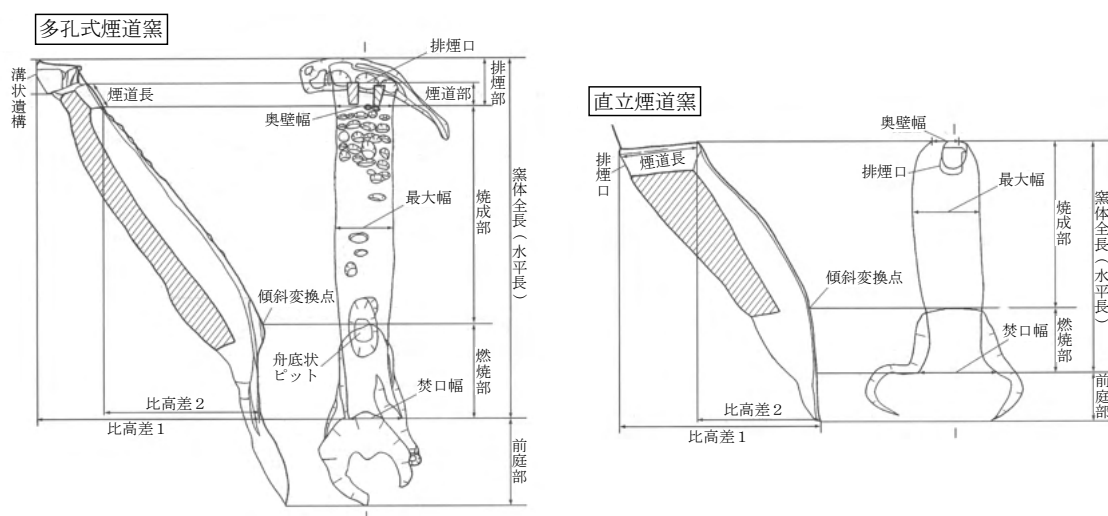
最後になりましたが、現地での発掘調査および報告書作成・刊行にあたり、ご理解ご協力いただいた事業関係者及び地元各位に厚くお礼申し上げます。

令和6年3月31日

大野城心のふるさと館
館長 赤司 善彦

例 言

1. 本書は大野城市教育委員会が発掘調査を実施した、大野城市大字牛頸2471-11他所在の「後田窯跡群68・69・70・71・72・74地点」の調査報告書である。
2. 発掘調査は、宗教法人「龍華寺」の委託を受け、大野城市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は、68・69地点を徳本洋一、70・71・72・74地点を石木秀啓が担当した。
4. 各遺構写真は、発掘調査担当者が撮影した。
5. 遺構実測図は、発掘調査担当者が作成し、遺構実測図中の方位は磁北を示す。
6. 遺物実測・拓本・製図、遺構図の製図は株式会社イビソク福岡営業所に委託した。
7. 遺物の写真撮影は、牛嶋茂（株写測エンジニアリング）が行った。
8. 本書に掲載した遺跡分布図は、国土地理院発行の1/25,000地形図『福岡南部』『太宰府』及び1/50,000地形図『福岡南部』『太宰府』を一部改変して使用した。
9. 本書に使用する土色名は、『新版標準土色帖』農林水産省技術会議事務局監修を使用している。
10. 本書に掲載した資料は、全て大野城市が保管・管理している。
11. 本書の執筆は、文末に担当者名を記し、編集は澤田康夫監修のもと、稗田智美・藤島友美（株イビソク）が行った。
12. 書名は『牛頸後田窯跡群』大野城市文化財調査報告書第33集、『牛頸後田窯跡群Ⅱ』77地点の調査がすでに刊行していることから、『牛頸後田窯跡群3』68・69・70・71・72・74地点の調査とする。
13. 本書の遺物観察表は株イビソクが作成した。
14. 本書で使用する須恵器窯跡の部位、名称と計測箇所は、以下のとおりとする。



須恵器窯跡の部位名称と計測箇所

本文目次

| | |
|-------------------------|---------|
| I. はじめに | |
| 1. 調査に至る経過 | 1 |
| 2. 調査体制 | 1～4 |
| II. 位置と環境 | |
| 1. 地理的環境 | 5 |
| 2. 歴史的環境 | 5～10 |
| III. 調査の成果 | |
| 1. 68地点の調査 | 11～40 |
| 2. 69地点の調査 | 41～45 |
| 3. 70地点の調査 | 46～134 |
| 4. 71地点の調査 | 135～146 |
| 5. 72地点の調査 | 147～153 |
| 6. 74地点の調査 | 154～158 |
| IV. 総括 | |
| 1. 課題の抽出 | 210・211 |
| 2. 窯群の設定 | 211 |
| 3. 窯構造 | 212～214 |
| 4. 器種別遺物数量から見た生産傾向 | 214・215 |
| 5. 68地点1号窯跡出土の鉄鏃の性格について | 216～218 |
| 6. 土師器杯d模倣須恵器について | 219～221 |

図版目次

| | |
|-----|-------------------------|
| 図版1 | (1) 68地点全景 (東から) |
| | (2) 68地点検出状況 (南西から) |
| | (3) 68地点検出状況 (南から) |
| | (4) 68地点1号窯跡完掘状況 (南から) |
| | (5) 68地点1号窯跡完掘状況 (南から) |
| | (6) 68地点1号窯跡完掘状況 (上方から) |
| | (7) 68地点1号窯跡土層 (南東から) |
| | (8) 68地点1号窯跡内土層 (南から) |
| 図版2 | (9) 68地点1号窯跡土層ベルト (南から) |

- (10) 68地点2号窯跡全景（南東から）
- (11) 68地点2号窯跡遺物出土状況（南東から）
- (12) 68地点2号窯跡煙道（排煙側から）
- (13) 68地点2号窯跡奥壁部煙道掘削状況（南西から）
- (14) 68地点3号窯跡完掘状況（南東から）
- (15) 69地点全景（北西から）
- (16) 69地点焼土坑検出状況（北から）
- 図版3 (17) 69地点焼土坑完掘状況（西から）
- (18) 69地点焼土坑土層（東から）
- (19) 70地点調査前（北西から）
- (20) 70地点検出状況（北西から）
- (21) 70地点全景（北西から）
- (22) 70地点1・3～5号窯跡全景（北西から）
- (23) 70地点1号窯跡完掘状況（北西から）
- (24) 70地点1号窯跡焚口部、4号窯跡煙道（東から）
- 図版4 (25) 70地点1号窯跡船底ピット遺物出土状況（北から）
- (26) 70地点1号窯跡貼床除去後遺物出土状況（北西から）
- (27) 70地点1号窯跡窯内縦断面土層奥壁側（東から）
- (28) 70地点1号窯跡焚口部土層（北東から）
- (29) 70地点1号窯跡B-B'南側土層（北から）
- (30) 70地点1号窯跡前庭右側遺物出土状況（西から）
- (32) 70地点2号窯跡完掘状況（北西から）
- (33) 70地点2号窯跡焚口部（南から）
- 図版5 (34) 70地点2号窯跡右側壁（東から）
- (35) 70地点2号窯跡左側壁（西から）
- (36) 70地点2号窯跡窯体縦断面土層奥壁側（北から）
- (37) 70地点2号窯跡杭2-A付近土層（西から）
- (38) 70地点2号窯跡横断面土層（北西から）
- (39) 70地点2号窯跡灰原横断面土層杭2B-2H（北西から）
- (40) 70地点2号窯跡灰原縦断面土層杭2B-2C（北東から）
- (41) 70地点3号窯跡全景（北西から）
- 図版6 (42) 70地点3号窯跡焚口左側壁（西から）
- (43) 70地点3号窯跡焚口土層3-SA～SB（北西から）
- (44) 70地点3号窯跡窯内横断面土層（北から）
- (45) 70地点3号窯跡焚口縦断面土層（北東から）
- (46) 70地点3号窯跡横断面土層（北から）

- (47) 70地点3号窯跡窯体内土層（北から）
(51) 70地点3号窯跡内粘土検出状況（北から）
- 図版7 (48) 70地点3号窯跡遺物出土状況（北から）
(49) 70地点3号窯跡窯体内粘土検出状況（北から）
(50) 70地点3号窯跡窯体内粘土検出状況（北から）
(52) 70地点3・4号窯跡灰原（杭1-DN～1-D）（北から）
(53) 70地点3・4号窯跡灰原5区土層（北東から）
- 図版8 (54) 70地点3・4号窯跡灰原（杭1-D～1-DS）（北西から）
(55) 70地点3・4号窯跡灰原3・6区縦断面土層（北東から）
(56) 70地点3・4号窯跡灰原6区縦断面土層（北東から）
(57) 70地点3・4号窯跡灰原4・5区間土層（北東から）
(58) 70地点4号窯跡完掘状況（北から）
(59) 70地点4号窯跡焚口部（南から）
(60) 70地点4号窯跡土坑（南西から）
(61) 70地点4号窯跡左側壁（西から）
- 図版9 (62) 70地点4号窯跡右側壁（東から）
(63) 70地点4・5号窯跡焚口部検出状況（北から）
(64) 70地点4号窯跡遺物出土状況（北から）
(65) 70地点4号窯跡4A-4B縦断面土層（東から）
(66) 70地点4号窯跡焚口部縦断面土層（北から）
(67) 70地点4号窯跡縦断面土層（北から）
(68) 70地点4号窯跡横断面土層（北西から）
- 図版10 (69) 70地点4号窯跡完掘状況（北西から）
(70) 70地点4号窯跡焼台設置状況（北西から）
(71) 70地点4号窯跡遺物復元風景（北西から）
(72) 70地点5号窯跡完掘状況（北西から）
(73) 70地点5号窯跡焚口部（西から）
(74) 70地点4・5号窯跡土層（杭3B東側）（西から）
(75) 70地点5号窯跡焚口部検出状況（北西から）
- 図版11 (76) 70地点5号窯跡縦断面土層（北西から）
(77) 70地点5号窯跡煙道部（西から）
(78) 70地点5号窯跡掘削状況復元（北から）
(79) 70地点6号窯跡全景（北西から）
(80) 70地点SX02全景（北から）
(81) 70地点SX02（A-B土層）（東から）
- 図版12 (82) 71地点調査前（北西から）

- (83) 71地点調査後全景（北西から）
- (84) 71地点遺構検出状況（北西から）
- (85) 71地点遺構検出状況窯体近景（北西から）
- (86) 71地点谷部遺構検出状況（北西から）
- (87) 71地点1号窯跡全景（北西から）
- (88) 71地点長頸壺出土状況（東から）
- 図版13 (89) 71地点1号窯跡土層（南西から）
- (90) 71地点1号窯跡煙道部土層（南西から）
- (91) 71地点1号窯跡焚口部土層（北から）
- (92) 71地点1号窯跡窯体内煙出し縦断面土層（北東から）
- (93) 71地点1号窯跡内煙道土層（南西から）
- (94) 71地点1号窯跡内横断面土層（北西から）
- (95) 71地点1号窯跡窯内 K-K' 土層（北西から）
- 図版14 (96) 71地点1号窯跡灰原土層（北西から）
- (97) 71地点1号窯跡灰原 J-Ja 土層（北西から）
- (98) 71地点1号窯跡灰原 g-gb 土層（北西から）
- (99) 71地点1号窯跡灰原 ga-gb 土層（北西から）
- (100) 71地点1号窯跡灰原 g-ga 土層（北西から）
- (101) 71地点1号窯跡灰原 h-hb 土層（北西から）
- (105) 71地点谷部 b-ba 土層（北西から）
- (106) 71地点谷部土層（北から）
- 図版15 (107) 72地点調査前（南から）
- (108) 72地点完掘状況（東から）
- (109) 72地点炭窯跡全景（東から）
- (110) 72地点炭窯跡煙道完掘状況（東から）
- (111) 72地点炭窯跡窯内（東から）
- (112) 72地点炭窯跡煙出し（東から）
- (113) 72地点炭窯跡煙道（東から）
- 図版16 (114) 72地点炭窯跡焚口下部土層（北東から）
- (115) 72地点炭窯跡焚口部縦断面土層（北から）
- (116) 72地点炭窯跡内縦断面土層（北から）
- (117) 72地点道路側土層（西から）
- (119) 74地点調査後全景（北東から）
- (120) 74地点 SX01遺物出土状況（南東から）
- (121) 74地点 SX01完掘状況（北東から）
- (122) 74地点 SX05完掘状況（北から）

- 図版17～24 68地点1号窯跡出土遺物①～⑧
 図版25 68地点1号窯跡出土遺物⑨、69地点出土遺物
 図版26～31 70地点1号窯跡出土遺物①～⑥
 図版32～37 70地点2号窯跡出土遺物①～⑥
 図版38～41 70地点3号窯跡出土遺物①～④
 図版42 70地点4号窯跡出土遺物①
 図版43 70地点4号窯跡出土遺物②、70地点3・4号窯跡灰原出土遺物①
 図版44～49 70地点3・4号窯跡灰原出土遺物②～⑦
 図版50 70地点3・4号窯跡灰原出土遺物⑧、70地点5号窯跡出土遺物①
 図版51・52 70地点5号窯跡出土遺物②・③
 図版53 70地点5号窯跡出土遺物④、70地点SX01出土遺物①
 図版54～57 70地点SX01出土遺物②～⑤
 図版58 70地点SX02・SP06・谷部下層出土遺物、71地点1号窯跡出土遺物①
 図版59～61 71地点1号窯跡出土遺物②～④
 図版62 71地点1号窯跡出土遺物⑤、74地点試掘トレンチ出土遺物

挿 図 目 次

| | | |
|---------|--------------------------------------|-------|
| 第1図 | 68～72・74地点位置図(1/2,500)()内は試掘調査時の地点名 | 4 |
| 第2図 | 周辺遺跡分布図(1/62,500) | 7・8 |
| 第3図 | 68地点地形測量図(1/100) | 12 |
| 第4図 | 1号窯跡実測図(1/40) | 13・14 |
| 第5図 | 1号窯跡土層断面実測図(1/60) | 15 |
| 第6図 | 1号窯跡窯体内埋土最下層(5層)出土遺物実測図(1/3) | 17 |
| 第7図 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1～3層)出土遺物実測図(1/3) | 18 |
| 第8図 | 1号窯跡掘下時出土遺物実測図(1/3) | 19 |
| 第9・10図 | 1号窯跡灰原A区出土遺物実測図①②(1/3) | 20・21 |
| 第11・12図 | 1号窯跡灰原B区出土遺物実測図①②(1/3) | 23・24 |
| 第13～15図 | 1号窯跡灰原C区出土遺物実測図①②③(1/3) | 26～28 |
| 第16図 | 1号窯跡灰原D区出土遺物実測図(1/3) | 29 |
| 第17図 | 1号窯跡灰原出土遺物実測図(1/3) | 31 |
| 第18図 | 2号窯跡実測図(1/40) | 33・34 |
| 第19図 | 2号窯跡床面出土遺物実測図(1/3) | 36 |
| 第20図 | 2号窯跡床面・窯体内・煙出奥部埋土出土遺物実測図(1/3) | 37 |
| 第21図 | 3号窯跡実測図(1/40) | 38 |

| | | |
|---------|---|-----------|
| 第22図 | 3号窯跡出土遺物実測図 (1/3) | 39 |
| 第23図 | 69地点地形測量図 (1/100) | 41・42 |
| 第24図 | 1号窯跡実測図 (1/40) | 43 |
| 第25図 | 焼土坑実測図 (1/40) | 43 |
| 第26図 | 69地点出土遺物実測図 (1/3) | 44 |
| 第27図 | 70~72・74地点調査地配置図 (1/1,000) | 46 |
| 第28図 | 70地点地形測量図 (1/150)・1~6号窯跡配置図 (1/300) | 49・50 |
| 第29図 | 1号窯跡最終操業面実測図 (1/40) | 51・52 |
| 第30図 | 1号窯跡貼床除去後遺物出土状況実測図 (1/40) | 53 |
| 第31図 | 1号窯跡灰原土層断面実測図 (1/60) | 54 |
| 第32図 | 1号窯跡窯体内出土遺物実測図 (1/3) | 55 |
| 第33・34図 | 1号窯跡前庭部出土遺物実測図①② (1/3) | 56・57 |
| 第35・36図 | 1号窯跡灰原出土遺物実測図①② (1/3) | 58・59 |
| 第37図 | 2号窯跡実測図 (1/40) | 61・62 |
| 第38図 | 2号窯跡土層断面実測図 (1/60) | 63 |
| 第39図 | 2号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図 (1/3) | 64 |
| 第40図 | 2号窯跡前庭部出土遺物実測図 (1/3) | 65 |
| 第41図 | 2号窯跡灰原1区出土遺物実測図 (1/3) | 66 |
| 第42図 | 2号窯跡灰原2区出土遺物実測図 (1/3) | 67 |
| 第43・44図 | 2号窯跡灰原3区出土遺物実測図①② (1/3) | 68・69 |
| 第45・46図 | 2号窯跡灰原4区出土遺物実測図①② (1/3) | 70・71 |
| 第47図 | 3号窯跡実測図 (1/40) | 73・74 |
| 第48図 | 3号窯跡遺物出土状況実測図 (1/40) | 75 |
| 第49~52図 | 3号窯跡出土遺物実測図①~④ (1/3) | 77~80 |
| 第53図 | 4号窯跡実測図 (1/40) | 83・84 |
| 第54図 | 4号窯跡遺物出土状況実測図 (1/40) | 85・86 |
| 第55図 | 4号窯跡出土遺物実測図 (1/3) | 87 |
| 第56図 | 3・4号窯跡灰原土層断面実測図 (1/60) | 89・90 |
| 第57・58図 | 3・4号窯跡灰原1区出土遺物実測図①② (1/3) | 91・92 |
| 第59図 | 3・4号窯跡灰原2・3区、3区、4・5区出土遺物実測図 (1/3) | 94 |
| 第60~65図 | 3・4号窯跡灰原4区出土遺物実測図①~⑥ (1/3) | 95・97~101 |
| 第66~68図 | 3・4号窯跡灰原5区出土遺物実測図①~③ (1/3) | 103~105 |
| 第69~72図 | 3・4号窯跡灰原6区出土遺物実測図①~④ (1/3) | 107~110 |
| 第73図 | 5号窯跡実測図 (1/40) | 113・114 |
| 第74図 | 5号窯跡遺物出土状況実測図 (1/40) | 115・116 |
| 第75・76図 | 5号窯跡窯体内・焚口手前出土遺物実測図①② (1/3) | 117・118 |

| | | |
|---------|--|-----------------|
| 第77図 | 6号窯跡実測図(1/40) | 119・120 |
| 第78図 | 6号窯跡出土遺物実測図(1/3) | 122 |
| 第79~83図 | SX01出土遺物実測図①~⑤(1/3) | 123~125・127・128 |
| 第84図 | SX02実測図(1/60) | 129 |
| 第85図 | SX02出土遺物実測図(1/3) | 130 |
| 第86図 | SP、谷部下層、1・2号窯跡出土遺物実測図(1/3) | 132 |
| 第87図 | 1号窯跡灰原土層断面実測図(1/60) | 136 |
| 第88図 | 71地点地形測量図(1/100) | 137・138 |
| 第89図 | 1号窯跡実測図(1/40) | 139・140 |
| 第90図 | 谷部A-2須恵器出土状況実測図(1/40) | 141 |
| 第91図 | 1号窯跡出土遺物実測図(1/3) | 142 |
| 第92図 | 1号窯跡前庭部出土遺物実測図(1/3) | 143 |
| 第93図 | 1号窯跡灰原出土遺物実測図(1/3) | 144 |
| 第94図 | SX04・谷部出土遺物実測図(1/3) | 145 |
| 第95図 | 72地点地形測量図(1/100) | 148 |
| 第96・97図 | 炭窯跡実測図①②(1/40) | 149~152 |
| 第98図 | 74地点地形測量図(1/100) | 155 |
| 第99図 | SX01実測図(1/40) | 156 |
| 第100図 | SX05実測図(1/40) | 157 |
| 第101図 | SX06実測図(1/40) | 157 |
| 第102図 | SX01・SX05・その他出土遺物実測図(1/3) | 158 |
| 第103図 | 牛頸後田窯跡群のこれまでの調査地点と小田浦窯跡群79地点の調査地点(註6より転載、一部改変) | 211 |
| 第104図 | 68地点2号窯跡窯詰指定図(1/40) | 213 |
| 第105図 | 牛頸後田窯跡群77地点1号窯跡実測図(S=1/80)(註6より転載) | 214 |
| 第106図 | 観音山古墳群中原IV群31号墳(「観音山古墳群II」より転載) | 216 |
| 第107図 | 瀬戸内市寒風古墳石室(「史跡寒風古窯跡群」より転載) | 217 |
| 第108図 | 瓦窯内箱型小石室(スケッチ)(「福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書第八輯」から転載) | 217 |
| 第109図 | 牛頸窯跡群・大宰府出土須恵器杯d(1/4) | 221 |

表 目 次

| | | |
|----|-------------|----|
| 表1 | 68地点出土遺物重量表 | 39 |
| 表2 | 69地点出土遺物重量表 | 45 |

| | | |
|-----|---------------------------|---------|
| 表3 | 70地点出土遺物重量表 | 133 |
| 表4 | 71地点出土遺物重量表 | 146 |
| 表5 | 68地点出土遺物観察表 | 159~169 |
| 表6 | 69地点出土遺物観察表 | 169・170 |
| 表7 | 70地点1号窯跡出土遺物観察表 | 170~174 |
| 表8 | 70地点2号窯跡出土遺物観察表 | 174~178 |
| 表9 | 70地点3号窯跡出土遺物観察表 | 179~182 |
| 表10 | 70地点4号窯跡出土遺物観察表 | 182・183 |
| 表11 | 70地点3・4号窯跡灰原1区出土遺物観察表 | 184~186 |
| 表12 | 70地点3・4号窯跡灰原2・3区出土遺物観察表 | 186 |
| 表13 | 70地点3・4号窯跡灰原3区出土遺物観察表 | 186 |
| 表14 | 70地点3・4号窯跡灰原4・5区出土遺物観察表 | 186 |
| 表15 | 70地点3・4号窯跡灰原4区出土遺物観察表 | 187~192 |
| 表16 | 70地点3・4号窯跡灰原5区出土遺物観察表 | 192~194 |
| 表17 | 70地点3・4号窯跡灰原6区出土遺物観察表 | 194~196 |
| 表18 | 70地点5号窯跡出土遺物観察表 | 196~199 |
| 表19 | 70地点6号窯跡出土遺物観察表 | 199 |
| 表20 | 70地点SX01出土遺物観察表 | 199~203 |
| 表21 | 70地点SX02出土遺物観察表 | 204 |
| 表22 | 70地点SP出土遺物観察表 | 204・205 |
| 表23 | 70地点1・2号窯跡出土遺物観察表 | 205 |
| 表24 | 71地点出土遺物観察表 | 205~208 |
| 表25 | 74地点出土遺物観察表 | 208・209 |
| 表26 | 牛頸後田窯跡群68~71・77地点の窯跡各部計測表 | 212 |
| 表27 | 牛頸窯跡群・大宰府出土須恵器杯d一覧 | 220 |

巻頭図版目次

| | | |
|-------|---|-----------------|
| 巻頭図版1 | 上 | 70地点1・3~5号窯跡全景 |
| | 下 | 70地点出土ヘラ書須恵器「大」 |
| 巻頭図版2 | | 68地点出土須恵器 |

I. はじめに

1. 調査に至る経過

牛頸後田窯跡群は、牛頸窯跡群全体の中でも西側に位置する一群を指す。これまで月の浦団地の造成工事など周辺の開発を進める牛頸土地区画整理事業地内で、多くの須恵器窯跡が確認され、45・46・59・60・63地点（昭和61年度）を皮切りに、61・65・66地点（昭和62年度）、68・69地点（平成8年度）、70～72・74地点（平成11年度）と実施してきた。

今回報告を行う68～72・74地点の調査は、大野城太宰府環境処理施設組合が所有する大野城環境処理センターのすぐ東側に位置する。調査地周辺は、脊振山から北側に伸びる標高120～150mの丘陵地である。

この場所において、東側に位置する龍華霊園より霊園拡張の申し入れがあり、対象地を手掘りによる試掘調査を実施したところ、A～Hの8地点で須恵器の出土や、灰原・窯体確認をすることができた。霊園は丘陵部を造成して行われ、遺構の保存は困難であったことから、発掘調査を実施した。なお、工事は1工区（68・69地点）、2工区（70～72・74地点）に分けて行っており、調査期間や面積等については下記の表のとおりである。

| 遺跡名 | 発掘調査期間 | 開発面積（㎡） | 調査面積（㎡） | 調査担当 |
|-------------------------|-----------------------|---------|---------|------|
| 後田窯跡群 68・69地点 | 平成8年10月24日 ～12月20日 | 43,305 | 350 | 徳本洋一 |
| 後田窯跡群 70～72・74 地点 | 平成11年1月11日 ～6月1日 | 45,357 | 1,100 | 石木秀啓 |

（石木・澤田）

2. 調査体制

平成8年度及び平成10年度における現場発掘調査体制は以下のとおりである。また、令和5年度の事業として整理作業を株式会社イビソク福岡営業所に業務委託し、本書の刊行を行った。

[平成8年度（68・69地点調査）]

| | | |
|-----------|--------|-------------|
| 大野城市教育委員会 | 教育長 | 久野 英彦 |
| | 教育部長 | 後藤 幹生 |
| | 社会教育課長 | 岡部 弥之助、關 隆明 |
| | 課長補佐 | 白水 岩人 |
| | 主査 | 舟山 良一 |
| | 同 | 浦山 敏弘（庶務担当） |
| | 主任技師 | 向 直也 |
| | | 徳本 洋一（調査担当） |

嘱託 岸野 和子

その他発掘作業員さん多数のご協力を得た。

[平成11年度 (70～72・74地点調査)]

| | | |
|-----------|---------|--------------|
| 大野城市教育委員会 | 教育長 | 堀内 貞夫 |
| | 教育部長 | 高橋 正治、青木 克正 |
| | 社会教育課長 | 片岡 猛 |
| | 文化財担当係長 | 舟山 良一 |
| | 主査 | 徳本 洋一 |
| | 主任技師 | 向 直也 |
| | | 石木 秀啓 (調査担当) |
| | | 丸尾 博恵 |
| | 技師 | 林 潤也 |
| | 主事 | 大道 和貴 (庶務担当) |
| | 嘱託 | 元吉 知子、明永 美和 |

その他発掘作業員さん多数のご協力を得た。

また、現場での発掘調査の費用を負担頂いた宗教法人龍華寺をはじめ、区画整理関係者並びに地元関係者各位にご理解・ご協力いただきましたことをお礼申し上げます。

[令和5年度 (整理・報告書刊行)]

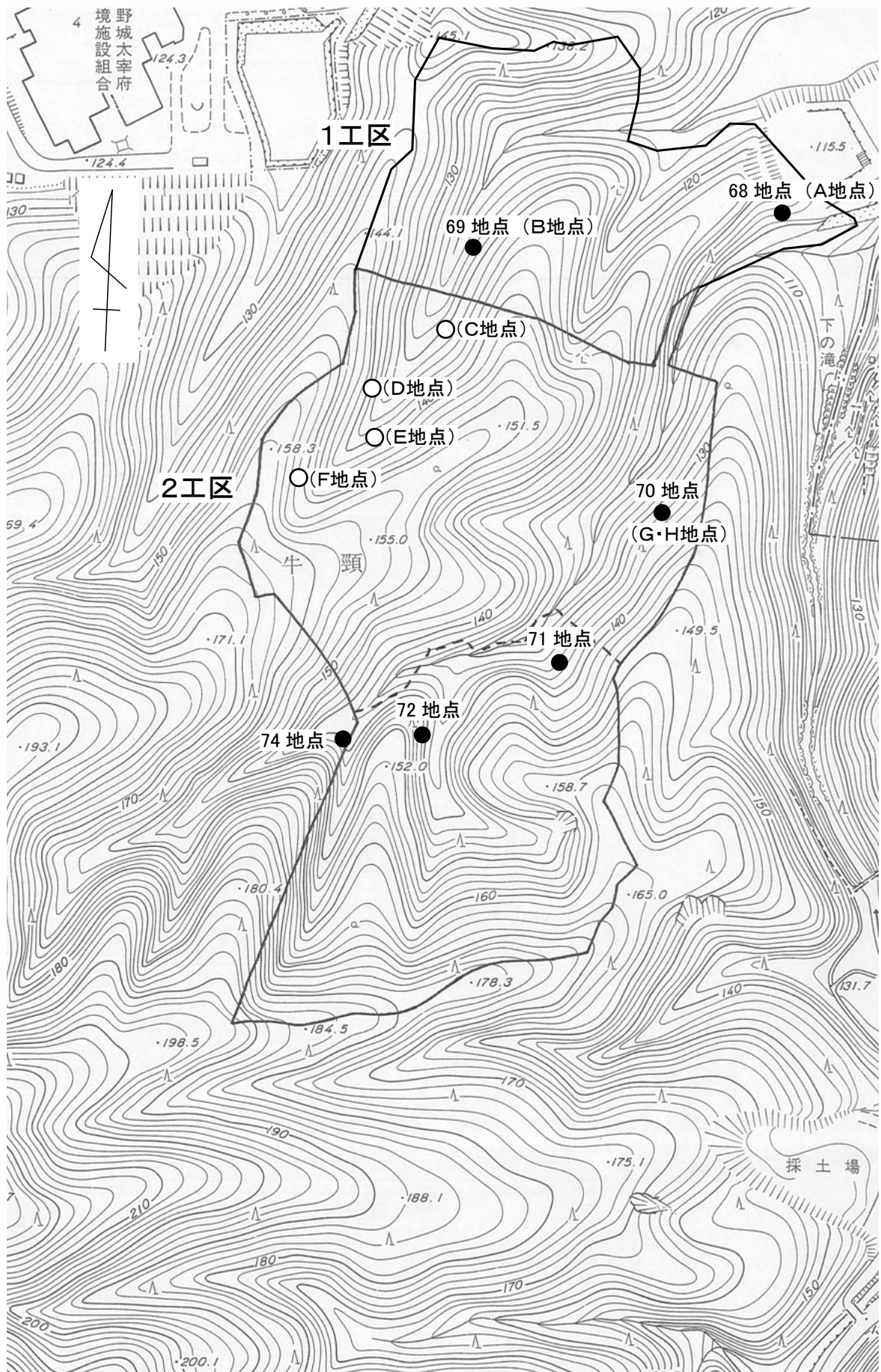
| | | |
|------|----------------|---------------------|
| 大野城市 | 市長 | 井本 宗司 |
| | 地域創造部長 | 日野 和弘 |
| | 大野城心のふるさと館 | |
| | 館長 | 赤司 善彦 |
| | 心のふるさと館文化財担当課長 | 石木 秀啓 |
| | 係長 | 林 潤也 (保護啓発担当) |
| | 係長 | 上田 龍児 (発掘調査担当) |
| | 主任主事 | 濱田 裕之 (庶務担当) (4～6月) |
| | | 下川 みお (庶務担当) (7月～) |
| | 主任技師 | 龍 友紀 |
| | | 山元 瞭平 |
| | 会計年度任用職員 | 澤田 康夫 (委託業務担当) |
| | | 石川 健 (発掘調査担当) |
| | | 深町 美佳 (保護啓発担当) |
| | | 山村 智子 (同上) |
| | | 尾川 絢香 (同上) |
| | | 清水 康彰 (庶務担当) |

会計年度任用職員

藤田 香 (庶務担当)
小畑 貴子 (整理作業)
古賀 栄子 (同 上)
小嶋のり子 (同 上)
眞田 萌世 (同 上)
篠田千恵子 (同 上)
津田 りえ (同 上)
仲村 美幸 (同 上)
氷室 優 (同 上)
松本友里江 (同 上)

受託事業者 株式会社イビソク福岡営業所 (統括・製図；稗田、遺物原稿；藤島)

(澤田)



第1図 68~72・74地点位置図 (1/2,500) () 内は試掘調査時の地点名

Ⅱ. 位置と環境

1. 地理的環境

大野城市が位置する福岡平野は、南を脊振山地、東を三郡山地に挟まれ、北は博多湾に面している。平野中央部に那珂川・御笠川が貫流し、広大な沖積平野を形成する。大野城市は福岡平野東南の最奥部に位置し、最も平野が狭くなる地峡部にあたる。古代以来この地峡部は交通の要衝で、現在でも九州縦貫自動車道・JR鹿児島本線・西鉄大牟田線・国道3号線など九州の南北を結ぶ幹線道が走っている。市域は東側を月隈丘陵に連なる乙金山・四王寺山、南側を牛頸山に挟まれ、中央に御笠川が貫流する。山地は早良花崗岩からなり、風化が著しく真砂土となっており、山麓部から平地丘陵部にかけて段丘が発達する。高位段丘は開析がすすみ、中位段丘は平坦部も多く、平野部では沖積地が広がる。

2. 歴史的環境

旧石器時代 市域北東部の松葉園遺跡、薬師の森遺跡、原口遺跡、雉子ヶ尾遺跡、釜蓋原遺跡や市域南部の出口遺跡、横峰遺跡、本堂遺跡など丘陵上の遺跡でナイフ形石器・細石刃が確認される。

周辺では南八幡遺跡、諸岡遺跡、井尻B遺跡、門田遺跡などで後期旧石器時代の遺物が分布する。

縄文時代 市域で草創期の遺構・遺物は確認されていないが、周辺では門田遺跡で爪形文土器が出土している。早期になると遺跡の数が増加し、市域北東部の善一田遺跡、古野遺跡、薬師の森遺跡、雉子ヶ尾遺跡、釜蓋原遺跡や市域南部の本堂遺跡といった丘陵地で押型文土器や石器が出土するほか、石勺遺跡などの平野微高地上にも遺跡が展開する。前期～中期の遺跡は市域では確認されておらず、周辺でも遺跡の数が増加する。後・晩期の遺跡として牛頸塚原遺跡・日ノ浦遺跡で後期後半～晩期の住居等が確認できるほか、善一田遺跡、古野遺跡、原口遺跡、薬師の森遺跡で後・晩期の遺物が分布する。なお、薬師の森遺跡や石勺遺跡では落とし穴状遺構を確認しており、これらは縄文時代の所産である可能性が高い。

弥生時代 弥生時代には福岡平野全域で遺跡が増加し、沖積地にも遺跡が展開する。市域では北部～中央部の丘陵・平野部に遺跡が多い。

【前期】 川原遺跡や薬師の森遺跡で板付I式期にさかのぼる集落がある。墳墓は御陵前ノ椽遺跡(前期中頃)、中・寺尾遺跡(前期中頃～中期)、塚口遺跡(前期後半～末)で甕棺墓・土坑墓・木棺墓などが展開する。南部では牛頸日ノ浦跡で前期後半の甕棺墓・土坑墓がある。また御陵遺跡では前期中頃～末の集落が確認されている。前期末頃には仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡など平野部で集落の数が増加し、これらの多くは中期に継続する。なお、周辺地域では板付遺跡や那珂遺跡で早・前期の環濠集落が成立し拠点集落となる。

【中期】 市域では平野部の仲島遺跡、石勺遺跡、ヒケシマ遺跡が前期末から中期を通して継続する集落である。丘陵地でも北部の中・寺尾遺跡、森園遺跡で中期前半～後半に集落が展開し、南部でも本堂遺跡で小規模な集落がある。墳墓遺跡は前期から継続する中・寺尾遺跡や、森園遺跡で中期後半を中心にした甕棺墓群があるほか、平野部の石勺遺跡や瑞穂遺跡で甕棺墓を主体とする墳墓が

展開する。周辺では春日丘陵に大規模な集落・墳墓が出現し、青銅器生産も開始される。特に須玖岡本遺跡D地点甕棺は約30面の前漢鏡・ガラス璧・多数の青銅器を副葬し「王墓」と称される。

【後期】 中期以来の集落である仲島遺跡、石勺遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、松葉園遺跡、本堂遺跡などが継続するほか、村下遺跡、榎町遺跡で新たな集落が出現する。仲島遺跡では貨布・銅鏡片や青銅器鑄型などが出土しており拠点集落となる。周辺地域では中期以降春日丘陵一帯や那珂・比恵遺跡群が拠点集落として継続しており、特に春日丘陵一帯は『三国志』『魏書』東夷伝倭人条に記された「奴国」の中心的な地域と位置づけられる。

古墳時代

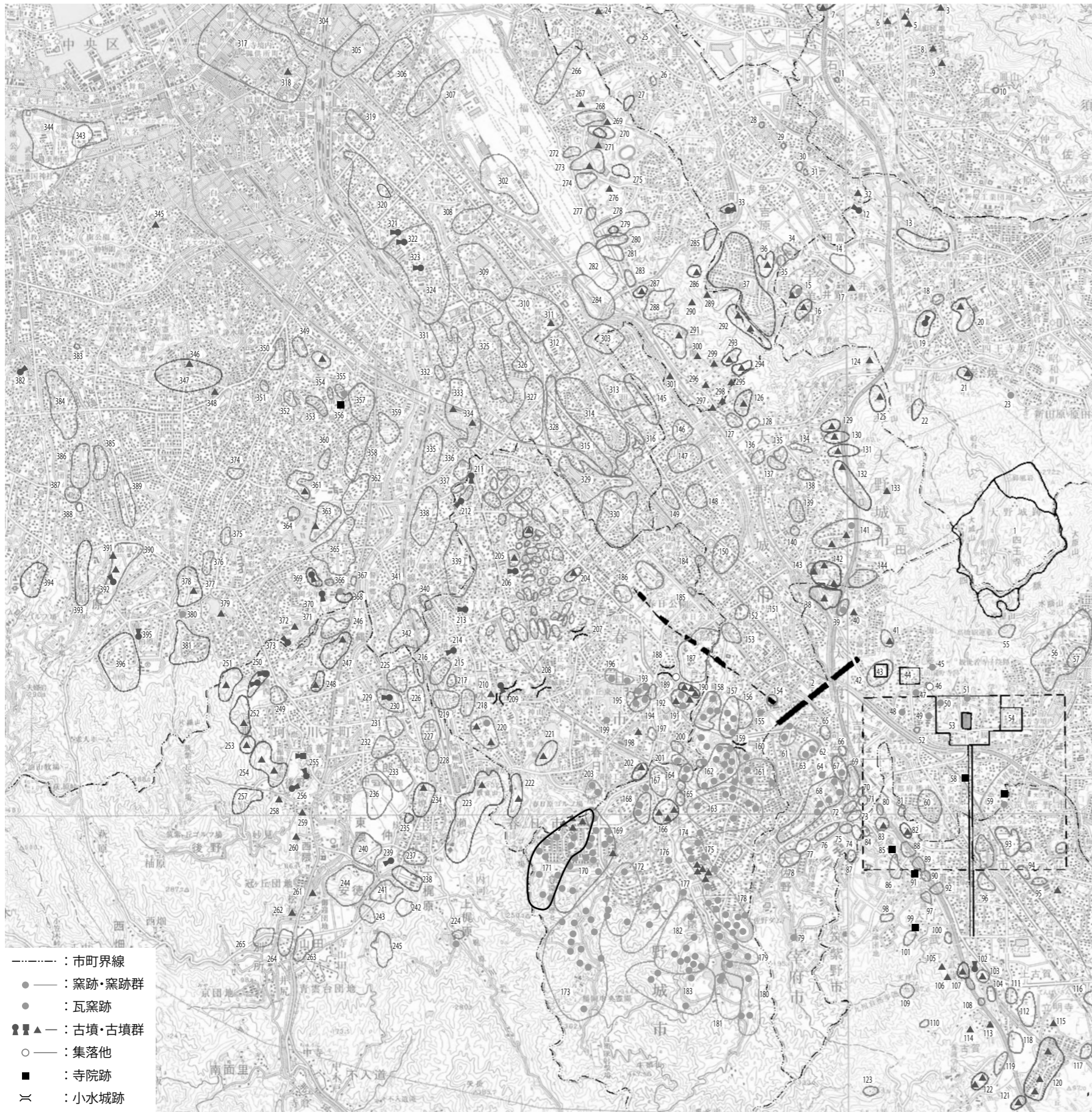
【前期】 古墳時代になると福岡平野でも前方後円墳が出現し、那珂川流域を中心に首長墓級の前方後円墳が分布する。福岡平野最古式の前方後円墳として、三角縁神獸鏡が出土した那珂八幡古墳(全長75m)がある。これに後続する盟主墳として安徳大塚古墳(全長62m)や三角縁神獸鏡が出土したとされる卯内尺古墳がある。市域において明確な前方後円墳は確認されていないが、御陵古墳群周辺にはかつて前方後円墳があったという指摘があるほか、江戸時代には三角縁神獸鏡が出土しており、有力な在地勢力が存在したと考える。

集落では、福岡平野の拠点集落として博多湾沿岸の西新町遺跡、博多遺跡群や那珂・比恵遺跡群がある。市域では仲島遺跡、石勺遺跡、村下遺跡が弥生時代後期から継続し、瑞穂遺跡、原ノ畑遺跡などでも集落が出現する。この他、森園遺跡や本堂遺跡でも再び集落の形成が認められる。

【中期】 福岡平野の盟主墳として初期横穴式石室を導入した老司古墳(全長76m)があり、博多遺跡群でも博多1号墳(全長56m)が築造される。また剣塚北古墳、井尻B1号墳、野藤1号墳、貝徳寺古墳など中規模の前方後円墳・円墳がある。市域では5世紀前半の笹原古墳(円墳：30m)があり、隣接して5世紀後半の成屋形古墳(帆立貝式前方後円墳：32m、太宰府市)が築造され、御笠川流域の盟主墳と考えられている。5世紀後半には牛頸塚原古墳群や古野古墳群で群集墳の形成が始まる。このうち古野古墳群では、鏡・鈴・鉄剣・農工具類といった豊富な副葬品を有する古墳もあり、成屋形古墳につぐような有力な人物がいたことを示す。

集落遺跡は福岡平野全域で非常に希薄で、前代までの拠点集落である那珂・比恵遺跡群や西新町遺跡は消滅する。周辺では高畑遺跡、立花寺B遺跡などで滑石製品の生産を伴う集落が展開する。市域では石勺遺跡が弥生終末から継続する大規模な集落で、初期のカマドや朝鮮半島系の軟質系土器が出土し、滑石製品の生産も伴うことから拠点集落と位置づけられよう。このほか仲島遺跡、中・寺尾遺跡、森園遺跡、金山遺跡、原田遺跡、上園遺跡などで集落が展開する。

【後期】 福岡平野の盟主墳として6世紀中頃築造の東光寺剣塚古墳(75m)や日拝塚古墳(46m)といった前方後円墳がある。6世紀後半には大型前方後円墳は姿を消し、これに代わり6世紀後半以降、福岡平野一帯の丘陵上には直径10mほどの小円墳を主体とした群集墳が爆発的に増加する。市域では月隈丘陵から乙金山・四王寺山麓にかけて大規模な群集墳が展開し、善一田古墳群・王城山古墳群をはじめとする乙金山古墳群がこれに該当する。善一田古墳群は朝鮮半島系資料や鉄器生産に関わる資料が豊富であり、王城山古墳群では7世紀を中心とした新羅土器が集中することが特徴である。このうち、善一田18号墳が最古・最大(6世紀後半築造・直径約25mの円墳)で、豊富



- | | | | |
|---|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 大野城跡 2 水城跡 | <ul style="list-style-type: none"> 103 鷺田山遺跡 104 大刀町遺跡 105 八咫山古墳 106 八咫山古墳 107 八咫山古墳 108 山ノ口遺跡 109 天判山城 110 飯盛城跡 111 若八幡神社遺跡 112 立明寺地区遺跡 113 扇形古墳群 114 江永浦古墳 115 蔵島神社古墳群 116 徳明院跡 117 大牟田西遺跡 118 貝元遺跡 119 トドキ遺跡 120 上の山古墳群 121 萩原古墳群 122 吉賀古墳群 123 博多見城跡 | <ul style="list-style-type: none"> 208 大土居水城跡 209 天神山水城跡 210 天神山水城跡 211 御陵遺跡群 (古墳他) 212 野藤1号墳 213 下白水大塚古墳 214 日拝塚古墳 215 辻田遺跡 216 柏田遺跡 217 上白水西遺跡 218 天神の木遺跡 219 門田遺跡 220 ウツグチ遺跡群 (古墳・瓦窯跡) 221 白水池古墳群 222 西浦古墳群 | <ul style="list-style-type: none"> 313 井相田 C 遺跡 314 麦野 A 遺跡 315 麦野 B 遺跡 316 麦野 C 遺跡 317 博多遺跡群 318 博多1号墳 319 駅東遺跡 320 比恵古墳群 321 剣塚北古墳 322 東光寺剣塚古墳 323 那珂八幡古墳 324 比恵・那珂遺跡群 325 諸岡 A 遺跡 326 諸岡 B 遺跡 327 笹原遺跡群 328 三筑遺跡 329 南八幡遺跡群 330 雑形遺跡群 331 五十川遺跡群 332 井尻 A 遺跡 333 井尻 B 遺跡 334 井尻 B-1号墳 335 横手遺跡群 336 寺島遺跡 337 笠取遺跡 338 日在遺跡群 339 弥永原遺跡群 340 弥永原遺跡群 341 警赤郷 A 遺跡 342 警赤郷 B 遺跡 343 鴻巣館跡 344 福岡城跡 345 平尾古墳 346 穴宮古墳 347 ヒケシマ遺跡 348 中・寺尾遺跡 349 野間 A・B 遺跡 350 中村町遺跡 351 若入 A 遺跡 352 若入 B 遺跡 353 大橋 C 遺跡 354 大橋 C 遺跡 355 大橋 C 遺跡・三宅瓦窯跡 356 三宅 A 遺跡・三宅庵寺 357 大橋 E 遺跡 358 三宅 B 遺跡 359 三宅 C 遺跡 360 和田 A 遺跡群 361 和田 B 遺跡群 362 野多目 B 遺跡 363 野多目 A 遺跡・古墳群 364 野多目浦池遺跡 365 野多目 C 遺跡群 366 老司 B 遺跡 367 老司 B 遺跡 368 老松神社古墳群・老司瓦窯跡 369 卯内尺古墳・古墳群 370 老司古墳 371 老司 A・B 遺跡群 372 中尾遺跡 373 浦ノ田古墳群 374 屋形原遺跡 375 中尾遺跡群 376 花畑 B 遺跡 377 花畑 A 遺跡 378 三田古墳 379 箱池古墳 380 中島遺跡 381 四十塚・大牟田古墳群 382 神松寺御陵古墳 383 小宮遺跡 384 長尾遺跡 385 樋井川 A 遺跡群 386 宝台遺跡群 387 丸尾遺跡群 388 笹原遺跡群 389 樋井川 B 遺跡群 390 松原遺跡群 391 松原古墳群 392 松原2号墳 393 東山古墳群 394 瀬戸口古墳群 395 柏原古墳群1号墳 396 柏原古墳群 |
|---|---|---|---|

第2図 周辺遺跡分布図 (1 / 62,500)

な副葬品を有することから当地域の盟主的な墳墓に位置づけられる。また市域南部では須恵器工人の墓と考えられる牛頸中通・後田・小田浦古墳群や、6世紀後半の大型円墳である日ノ浦1号墳がある。また、特殊な墳墓として梅頭窯跡では窯跡を転用した墳墓があり象嵌大刀を副葬する。これらの横穴式石室を主体部とする古墳や群集墳は6世紀後半～7世紀にかけて築造し、8世紀代まで追葬を行うものもある。

集落は6世紀中頃以降、福岡平野の各地で再び増加する。比恵遺跡群では6世紀後半に大型建物群が出現し、「那津官家」の可能性が指摘される。市域では仲島遺跡、塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡、梅頭遺跡、本堂遺跡、薬師の森遺跡などで集落が展開し、7世紀代まで継続するものが多い。仲島遺跡は集落規模が大きく、多数の掘立柱建物の存在や多量の馬骨・子持ち勾玉などの存在から、拠点的な集落と考えられる。牛頸窯跡群周辺の塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡、梅頭遺跡、本堂遺跡などは須恵器工人集落と位置づけられる。薬師の森遺跡は一部に渡来人が居住し、鉄器生産・須恵器生産に関わる集落であることが明らかになっており、先述の乙金古墳群との対応関係が確認できる。

なお、牛頸窯跡群の開始は6世紀中頃に求められ、乙金・四王寺山麓の乙金窯跡・雉子ヶ尾窯跡もこれに近接した時期に須恵器生産を開始する。

飛鳥時代 7世紀前半代は集落・墳墓ともに古墳時代後期の様相を踏襲する。墳墓で注目すべきは大野城市と福岡市博多区の境界に位置する今里不動古墳で、7世紀前半前後の大型円墳（直径約30m）とされ、御笠川右岸地域の盟主墳である。また6世紀後半の比恵遺跡群に展開した大型建物群は那珂遺跡群に移動する。この時期、牛頸窯跡群の須恵器生産はひとつのピークを迎える。また野添窯や月ノ浦窯などでは初期瓦を生産しており、那津官家比定地の那珂遺跡に供給されたことが知られる。牛頸窯跡群周辺では集落の数や住居の数が飛躍的に増加し、牛頸塚原遺跡、日ノ浦遺跡、上園遺跡などは前代から継続する須恵器工人集落と考えられている。

7世紀中頃～後半には、中国・朝鮮半島を含む東アジア世界が激動の時代をむかえる。日本も白村江の戦（663年）で敗戦を経験し、日本史上初の国際的な危機に直面する。これに伴い664～665年にかけて水城・大野城が相次いで築造される。国内情勢でも壬申の乱（672年）が起り、これを機に律令体制に基づく本格的な中央集権国家を形成していくことになる。また大宰府では第I期政庁が成立する。

このような時代背景の中で、市域全体で遺構・遺物の減少が認められる。例えば、薬師の森遺跡では7世紀中頃～後半段階に一時的に遺構・遺物が希薄となる。乙金古墳群では6世紀末～7世紀初頭前後に古墳築造のピークを迎え、7世紀後半にかけて順次築造数が減少していく。また、牛頸窯跡群における窯の数も減少し、一時的に須恵器生産も停滞期を迎える。

奈良時代 奈良時代になると律令国家が成立し、九州も大宰府を中心とした支配体制が整い、各地に官衙が設置される。またこの時期には官道も整備され、井相田C遺跡、板付遺跡、那珂久平遺跡や谷川遺跡、先ノ原・春日公園内遺跡などで道路状遺構が確認されている。集落遺跡として市域では仲島遺跡や隣接する井相田C遺跡で掘立柱建物を中心とした集落が展開する。周辺の高畑遺跡は「高畑廃寺」あるいは那珂郡衙の可能性が指摘され、麦野遺跡・南八幡遺跡で大規模な村落が成立し、

御笠川中流域の官道沿いに官衙や村落が展開している景観が復元できる。牛頸窯跡群では8世紀前半に窯の数が増加し、供膳具を中心に大量生産がおこなわれる。この他、本堂遺跡群では村落内寺院と考えられる遺構が確認されている。また、薬師の森遺跡では集落の経営を再開し、鈔帯金具・ヘラ書き須恵器・越州窯系青磁・製塩土器などの特殊遺物が分布する。鍛冶炉に加え、須恵器窯に関連する遺構もあり、古墳時代に引き続き手工業生産に関わる集落と考えられる。

なお、水城では8世紀前半に門の建て替えがあり、東西門や欠堤部周辺を中心に水城に関わる遺構・遺物が展開する。

平安時代 平安時代前半の9・10世紀代は福岡平野全域で遺跡数が減少する。牛頸窯跡群も規模が縮小し、9世紀中頃には操業を停止する。市域の遺跡も減少し、前代に見られた仲島遺跡、井相田C遺跡や麦野遺跡の集落も9世紀代に消滅する。9～10世紀代では牛頸月ノ浦窯跡、本堂遺跡、塚口遺跡、中・寺尾遺跡で土坑墓、薬師の森遺跡で土坑墓や掘立柱建物が展開する。

なお、9世紀前半に改称した鴻臚館は対外交渉の窓口として機能し、9世紀後半以降は中国商人の滞在・交易施設となり、初期貿易陶磁器が大量に出土している。

平安時代後半になると、11世紀中頃～後半に大宰府政庁・鴻臚館が廃絶し、かわって博多遺跡群において中世都市「博多」が成立する。律令制は完全に崩壊し、各地で武士が活躍する時代を迎える。市域においては塚口遺跡、森園遺跡、松葉園遺跡で輸入陶磁器を埋納する土坑墓が確認されており、有力者の存在を示す。集落は松葉園遺跡、御笠の森遺跡、宝松遺跡・上園遺跡で確認されている。なお、水城の外濠は平安時代末頃ではほぼ埋没し、西門周辺では経塚の形成や棒状土製品など土器生産に関わる遺物が集中することから、律令制の弛緩とともに本来的な役割が終焉を迎えていくこととなる。なお、土師器・瓦器焼成に関わる棒状土製品は、水城西門周辺～上園遺跡・本堂遺跡周辺にかけて濃密に分布し、牛頸窯跡群終焉以降の土器生産の再開を示す。

鎌倉時代～戦国時代 市域では御笠の森遺跡、本堂遺跡、石勺遺跡、川原遺跡、薬師の森遺跡などで当該期の遺構が確認されている。薬師の森遺跡では12世紀後半～14世紀にかけての中世墓が多数営まれているほか、集落を囲むと考えられる区画溝やピット群が広範囲に広がっており、比較的有力な集団が存在していたと考えられる。御笠の森遺跡は11世紀後半以降継続して集落が営まれる。16世紀後半～17世紀中頃に多数の方形区画溝が展開し、有力農民層の集落跡と考えられている。

なお、市域には戦国期の山城として乙金の唐山城、牛頸の不動城があるが、未調査のため詳細は不明である。

近世 後原遺跡、御笠の森遺跡、雑餉隈遺跡、村下遺跡、川原遺跡、屏風田遺跡などで遺構・遺物が確認されるが、当該期の遺跡の多くは現在の集落域と重複していると考えられる。このうち、市域中央部の後原遺跡は「白木原村」の本村にあたり、屋敷地や墓地が確認されており、地祇神社を中心とした集落景観が復元できる。また、市域東北部の薬師の森遺跡・原口遺跡・古野遺跡では近世～近現代にかけての墓地が展開し、乙金村の集団墓地と位置づけられる。

近代・現代 市域東北部の王城山遺跡・古野遺跡・原口遺跡で太平洋戦争時の防空壕跡を調査しており、このうち王城山遺跡のものは規模や遺物の内容から地下疎開工場と位置づけられる。また、市域中央部の野添遺跡では、本土決戦に備え野砲を設置したと考えられる洞窟壕が確認されている。

(上田)

Ⅲ. 調査の成果

1. 68地点の調査

(1) 調査概要 (第3図、図版1)

後田窯跡群68地点は、今回の開発対象地の中でも最も東側にあり、北東側にのびる丘陵の南側斜面に位置する。既存の龍華霊園から工事予定地に入る道に面しており、丘陵北側と東側は既に削平されていた。試掘調査で灰原が確認されたA地点にあたり、発掘調査を実施した結果3基の須恵器窯跡を確認した。

窯跡は、斜面中腹に位置すると考えられるが、斜面上方が既に削平を受けて失われており、詳細は明らかにできない。調査地の東側に最も規模が大きい1号窯跡、1号窯跡と前庭部を共有するかのよう1号窯跡の西側約5mの所には小型の2号窯跡、1号窯跡の北西側約2mには3号窯跡が位置する。

発掘調査では、1号窯跡を中心に広がる灰原を確認し、A～D区に分けて掘り下げを行った。灰原の掘り下げの途中、2号窯跡の煙道と側壁を確認している。調査の結果、68地点からは須恵器が出土し、窯跡以外の遺構は確認できなかった。(石木)

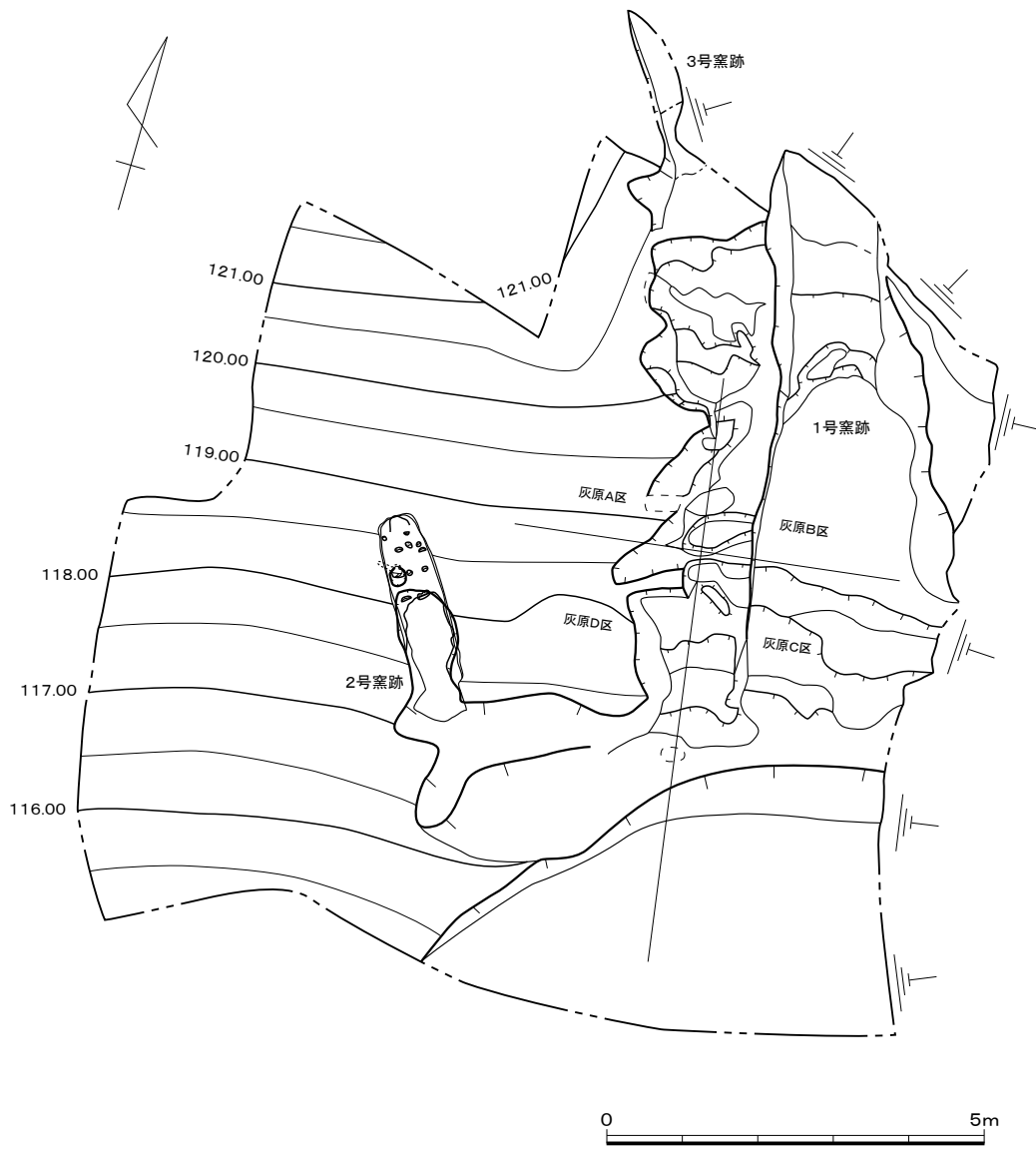
(2) 68-1号窯跡 (第4・5図、図版1・2)

1号窯跡は、調査地の東側で検出された。削平により窯体はほぼ失われており、確認できたのは焚口から燃焼部の一部のみである。窯体の残存部は、削平部から床面の傾斜が傾斜変換する地点まで、主軸上で1.5m(註1)、主軸はN-16°-Wをとる。窯体の平面プランは、左側壁の残存部が緩くふくらむことから、胴張りになると考えられる。

焚口・燃焼部 焚口部を傾斜が変換する地点ととらえると、床面幅は1.17m。燃焼部は、床面と側壁が還元または赤く酸化する範囲で、主軸上で削平部から長さ0.85mを測る。床面は、3°焼成部側にむかって下る。燃焼部の床面幅は1.25m、焼成部側は強く還元する。側壁はほぼ直立しており赤く焼ける。このことから、この部分は掘り抜きの天井はないものと考えられる。

前庭部 傾斜変換点から20°で斜面下方に下る。長さ4m、幅0.98～2.32mで斜面下方に向かって緩やかに広がっており、断面は浅い鍋底状になる。また、前庭部の西側は幅0.9～1.8mの範囲で不連続に掘り込まれ段状となり、東側も削平され、全形は不明であるが、掘り広げられている。

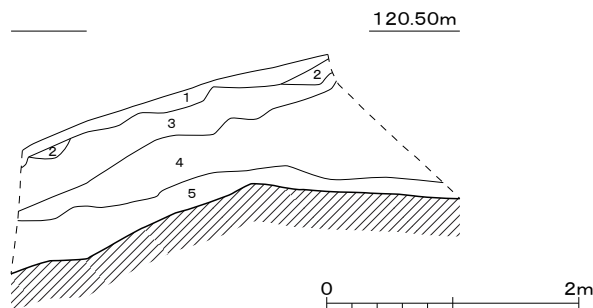
灰原 灰原は、おおむね長さ10m×幅5mの範囲で確認することができた。平面で検出した際には、1～3号窯の灰原が重複している状況は確認できなかった。1号窯跡の燃焼部から前庭部にかけて設定した土層からは、床面直上の厚さ10～40cmの灰層(第5図、5層)が確認できた。その上層には、花崗岩バイラン土の堆積が認められ、さらにその上層(第5図、3層)には厚さ20～40cmの灰層を確認した。1号窯跡に伴うものは5層と考えられるが、その上層の3層が1号窯跡の床面のかさ上げを行ったものか、3号窯跡やその他に作られた窯跡に伴うものかは調査では確認できなかった。(石木)



第3图 68地点地形测量图 (1/100)



第4图 1号窠迹实测图 (1/40)



- 1 褐色土(10YR4/4~4/6) 灰原の検出面
- 2 暗褐色土(10YR3/3)
- 3 黒褐色土(10YR2/2) 灰層 炭化物・焼土が混る
- 4 明黄褐色土(10YR6/6~6/8) 窯がつぶれた時に堆積したパイラン土
- 5 黒色土(10YR2/1) 炭化物・焼土が全体的に混る 1号窯の操業に伴う堆積
とりあげ時は1~3層=上層、4層=下層、5層=最下層

第5図 1号窯跡土層断面実測図 (1/60)

(3) 出土遺物

窯体内埋土最下層 (5層) (第6図、図版17)

杯蓋 (001~003) いずれもかえりを有する杯B蓋である。001は天井部が平らで、山形の擬宝珠様のつまみを付ける。天井部外面は回転ヘラケズリ。002・003は天井部が平坦で受部を袋状とする。001とは異形のものである。天井部外面は回転ヘラ切り。いずれも天井部を欠損しているため、つまみが付くか不明である。

小壺 (004) 頸部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに開く。体部最大径は中位よりやや上位にある。底部外面は回転ヘラ切り未調整である。

甕 (005・006) 体部のみの破片である。005は外面は平行タタキ、内面に同心円文当て具痕が残る。006は外面に擬格子タタキ、内面には同心円文当て具痕が残る。

窯体内埋土上層 (1~3層) (第7図、図版17・18)

杯蓋 (007~018) 007はかえりを有し、扁平で、天井部外面はヘラケズリを施す。中央に小突起のある擬宝珠様のつまみが付く。008~018はかえりがなく端部を下方に折り曲げる。008~013は天井部が丸味を帯び、014~016・018は天井部が扁平な形態である。017は焼け歪みが著しい。008~018は天井部外面に回転ヘラケズリを施す。008~011・015は擬宝珠様のつまみが付き、008は中央が比較的高く突出している。009~011・015は中央が低く、特に010・011・015は扁平でボタン状のつまみに近い。012~014・016~018はボタン状のつまみが付く。

杯身 (019~024) 019は杯G身で、口縁部がやや外傾し直線的に立ち上がる。体部下半外面は回転ヘラケズリ、底部はヘラ切り未調整。口縁部と底部との境がやや明瞭である。020~024は杯B身である。020・024は、体部はほぼ直線的に開く。022は口縁部がやや内湾する。023は口縁端部が外反する。020~022は、高台は外へ踏ん張り、やや低い。020・021は底部外面は回転ヘラ切り、023は回転ヘラケズリ。

皿 (025) 025は、体部はやや内湾する。口縁端部は肥厚し丸く仕上げる。底部は回転ヘラ切り、

口縁部は内外面とも回転ナデ。口縁部と底部の境は丸味をおび不明瞭である。

高杯 (026) 杯部は直線的に外方に開き、脚端部は下方に嘴状につまみ出す。

壺 (027~030) 027は口縁部のみで、口縁端部内面はわずかに窪む。口縁部外面は強い回転ナデにより段が付く。028・029は高台のみの資料で、高台はハの字状に外方に踏ん張る。030は丸味のある体部下半である。028は、高台が高くわずかに外反し、029・030は、高台はやや低く断面方形を呈する。

甕 (031) 口縁部の破片である。頸部は短く、口縁部は端部を肥厚させ、上方につまみ出す。端部は内外面ともに回転ナデにより仕上げる。

掘下時 (第8図、図版19)

杯蓋 (032~034) 032・033はかえりが付く。天井部外面は丸味をおび、受部はやや外反し接地する。032は杯G蓋。つまみが付かず、天井部外面は回転ヘラ切り後ナデ。033は杯B蓋、かえりが口縁端部より短くおさまるもので、天井部外面に回転ヘラケズリを施す。丸味のある天井部中央にボタン状のつまみが付く。034はかえりのないもので、器高が低く扁平な形状である。口縁端部は断面嘴状で下方に明確に引き出し、わずかに内傾する。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。ボタン状のつまみが付く。

杯身 (035・036) いずれも杯B身である。035は口縁部がやや外反する。高台はやや高く、端部は外方に開き、ハの字状に踏ん張る。体部外面は下半に回転ヘラケズリを施しており、口縁部と底部の境にわずかに稜がつく。036は体部が直線的に開き、高台は低く、ハの字状に踏ん張る。

穿孔土器 (037) 外面はヘラケズリ後ナデ、内面は摩滅しており調整は不明である。杯底部に焼成前に穿たれたと思われる穿孔が、現存で1ヶ所認められる。焼成は不良である。

土師器

甕 (038) 口縁部の小片である。口縁部は、大きく、くの字状に開く。口縁部内外面にハケメが残る。

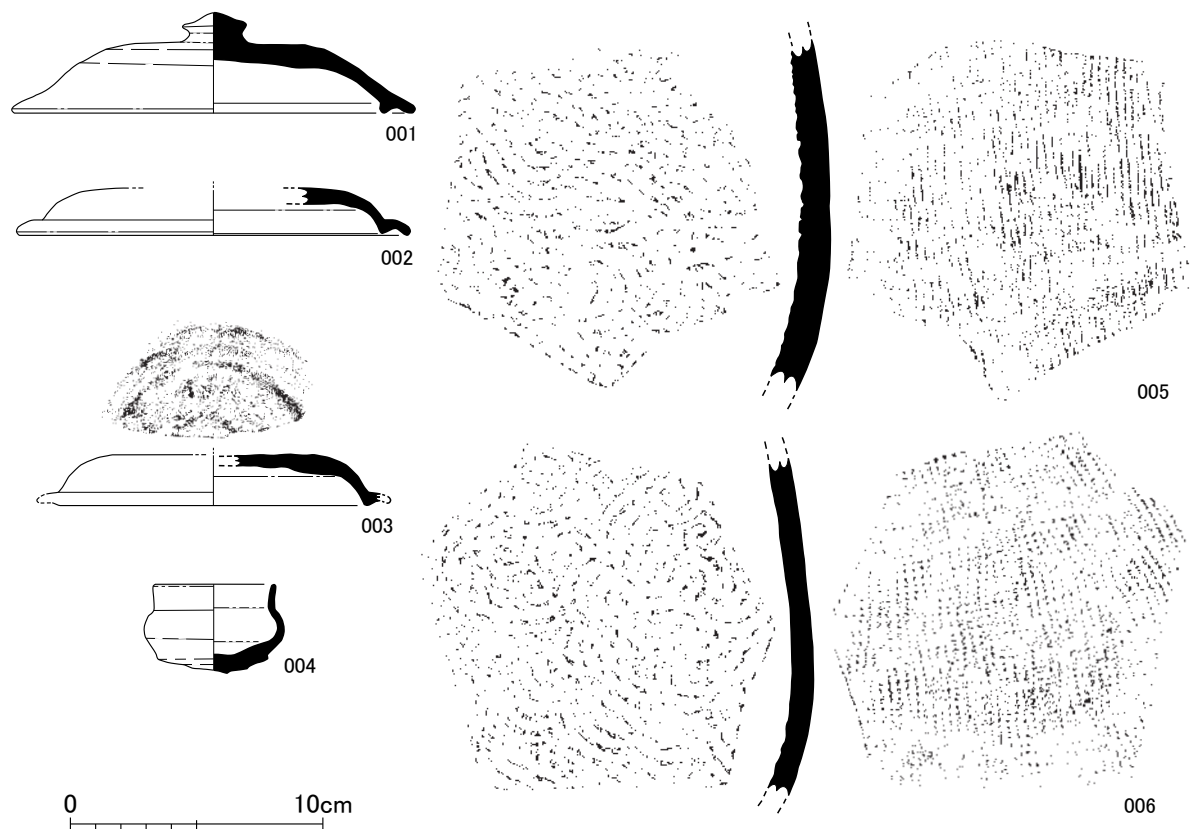
鉄製品

鉄鏃 (039) 039は方頭斧箭式鉄鏃である。覆土掘り下げ時に出土し、ほぼ完形の鏃身部の資料であるが、茎部がわずかに欠損する。関部はなく、鏃身部・茎部ともに断面方形を呈する。鏃身部長8.2cm、刃部長2.5cm、最大厚0.3cmを計る。茎付近に3本の鏃が銹着したと思われる茎片が確認される。本来は複数本あったと思われる。

灰原A区 (第9・10図、図版19・20)

杯蓋 (040~045) いずれもかえりがある蓋で、器高が低く扁平である。040は杯G蓋、他は一応杯B蓋としておく。040・042・044はかえりが受部より下方に出ており、他は焼き歪みが著しく不明瞭である。040・042は、天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、042は口縁部外面に手持ちヘラケズリが見られる。041は、天井部外面は回転ヘラ切り未調整で、板状の圧痕が残る。043~045は天井部外面に回転ヘラケズリを施し、擬宝珠様のつまみが付く。つまみは、043・044は中央が突出し、045は乳頭状を呈する。

杯身 (046~054) 046~048は杯G身である。046は口縁部をわずかに外反させ、底部は丸味をお

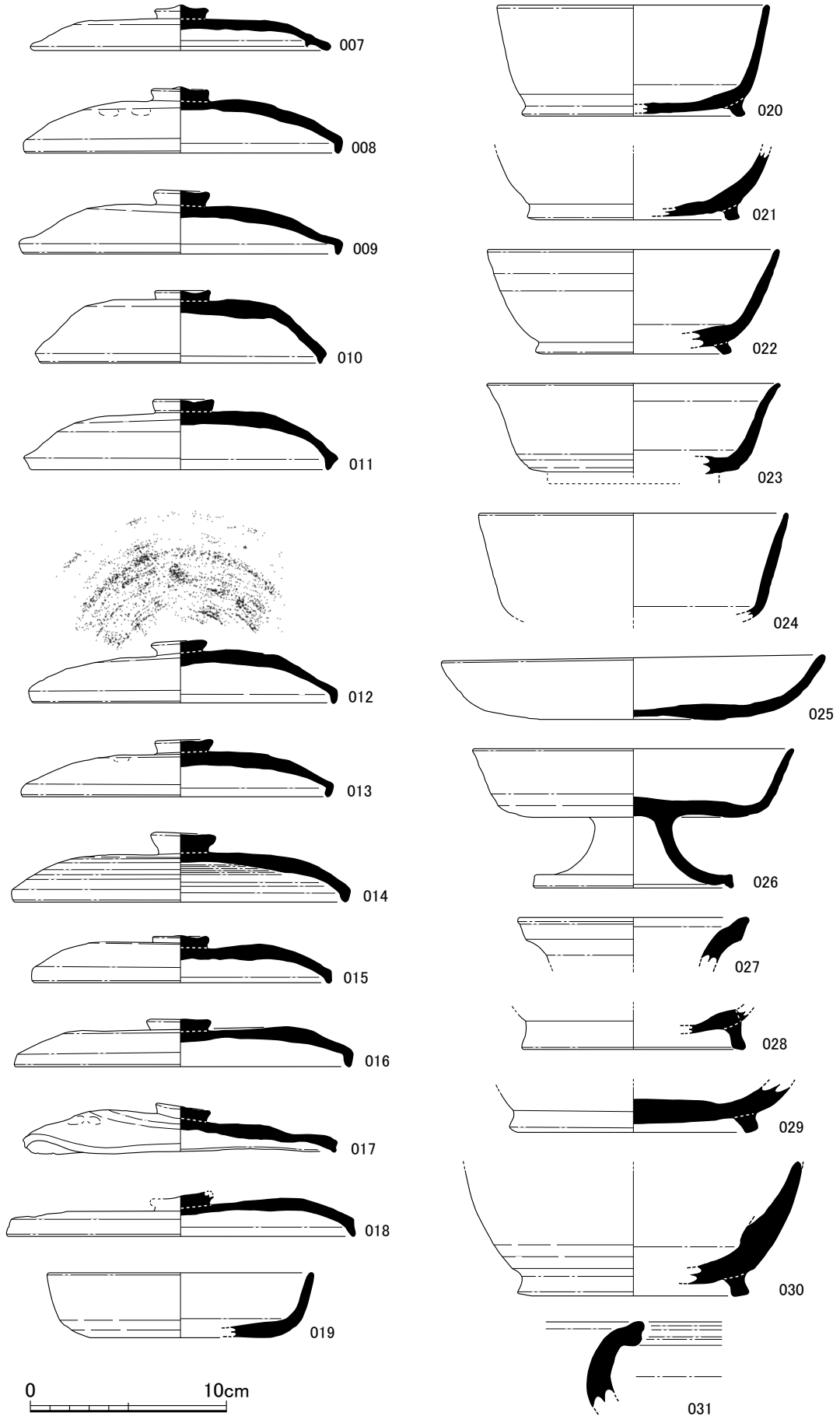


第6図 1号窯跡窯体内埋土最下層（5層）出土遺物実測図（1／3）

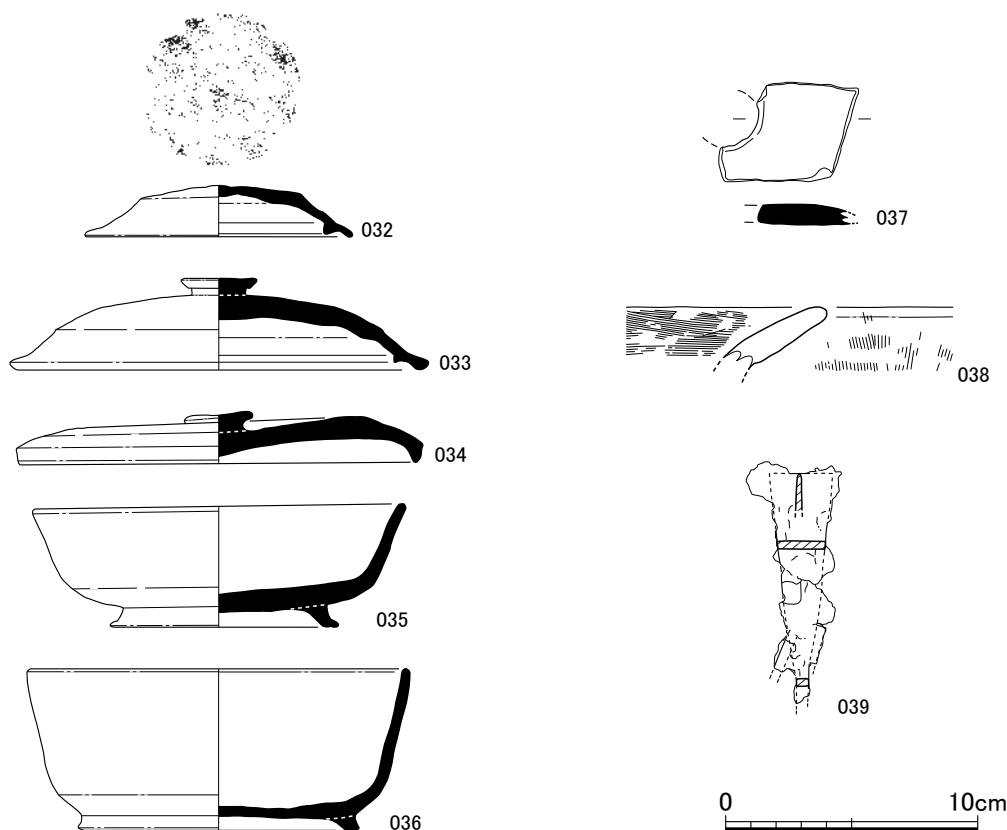
びる。体部と底部との境はやや不明瞭である。底部外面は回転ヘラ切り後、ナデを施す。底部外面にヘラ記号と思われる平行する沈線が認められ、6条確認される。047は全体的に丸味を持ち、口縁部は内湾気味に立ち上がり端部をわずかに外反させる。全体的に摩滅しており調整は不明瞭であるが、底部外面に回転ヘラ切り後ナデが見られる。体部外面上半に「×」のヘラ記号が認められる。048は底部が平坦で、体部は屈曲して内湾しながら立ち上がり、口縁部は小さく外反する。底部外面は回転ヘラ切りで、口縁部と底部との境は丸い。049～054は杯B身である。049は器高が低く比較的小型の資料である。体部と底部の境は丸く、口縁部は直線的に外方に開く。高台は尖り気味に外方に開く。050は口縁部は外反する。高台は欠損しているため形態は不明である。051は口縁部が直線的に大きく開き、口縁端部はわずかに肥厚し外傾する。高台は高くハの字状に踏ん張る。052は底部は欠損するが、高台が剥がれた痕跡が認められる。口縁部は直線的に外方に開き、端部は細くつまみ出される。053は口縁部を欠くが直線的に外方に開く。高台は高く、ハの字に開き断面方形を呈する。054は底部が穿孔される。穿孔は中央よりやや右にずれており、焼成前に穿たれている。高台はやや低くハの字状に外方に踏ん張る。摩滅が著しく、焼成は不良。050・051は口縁部外面下半まで回転ヘラケズリが施されており、体部と底部の境に稜がつく。

高杯（055） 脚部のみの破片で、裾部は水平に引き延ばした後、脚端部を下方に折り曲げ、断面嘴状を呈する。

壺（056・057） 056は口縁部のみの資料で、頸部は外方に開き、口縁端部下で内湾し、端部は直



第7图 1号窑迹窑体内埋土上層(1~3層)出土遺物実測図(1/3)



第8図 1号窯跡掘下時出土遺物実測図（1／3）

立気味に立ち上がる。瓶類の可能性もある。口縁部外面に2条の沈線を施す。口縁端部は丸く仕上げる。057はミニチュア様である。口縁部は直線的に外方に開く。全体に回転ナデを施すが、口縁端部外面を強くナデることにより段がつく。

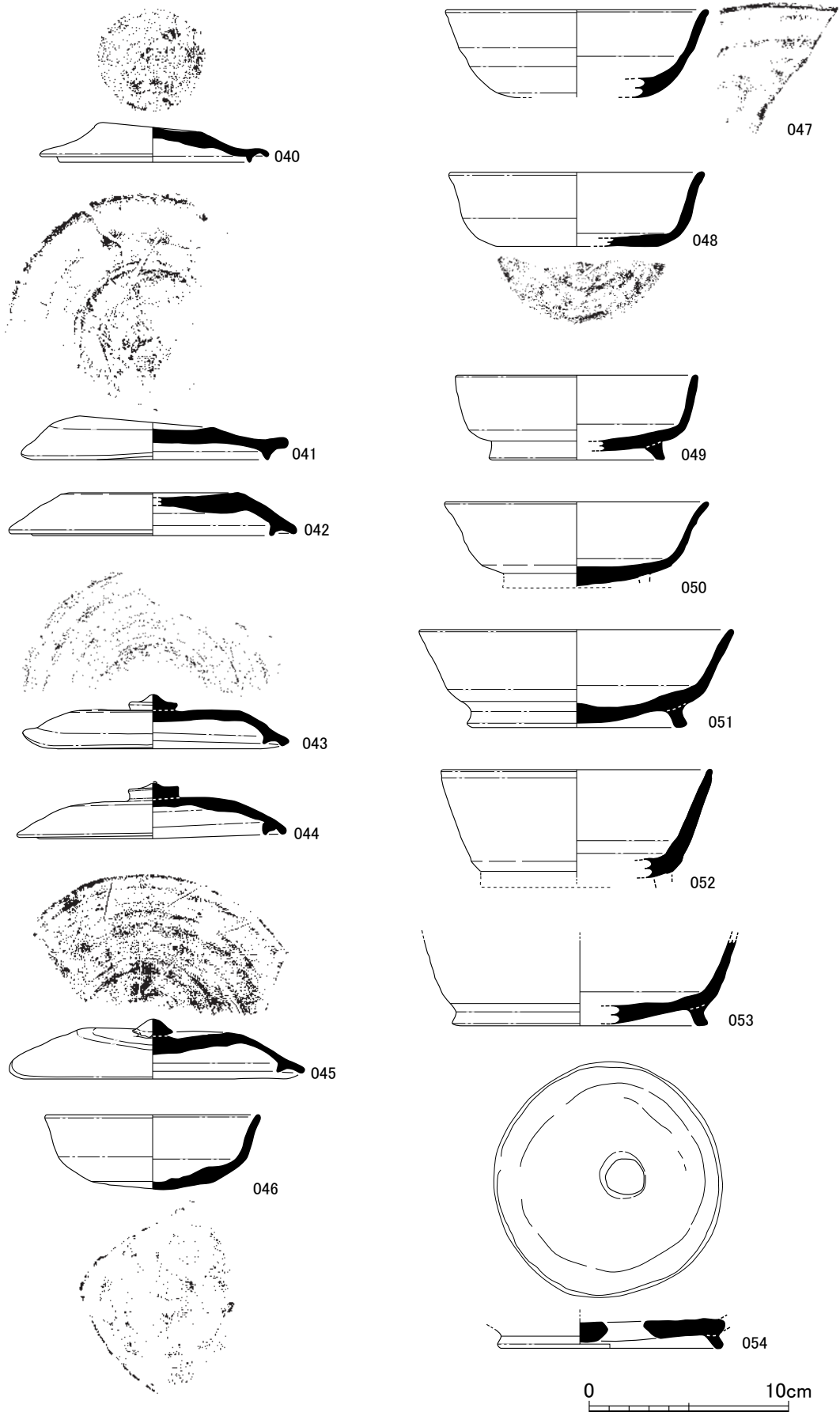
鉢 (058) 体部は内湾し、中位からさらに内湾して口縁部にいたる。口縁端部をつまみ出しわずかに外反させる。底部は丸味のある平底をなす。体部下半～底部外面にかけて回転ヘラケズリを施し、底部内面は当て具痕が残存する。口縁部外面に1条の沈線を施す。

甕 (059) 口縁部だけの破片で、口縁端部下に断面三角形の突起を1条巡らせ、沈線を口縁端部に1条、突起下に2条施す。2条の沈線下に細かい波状文が巡る。

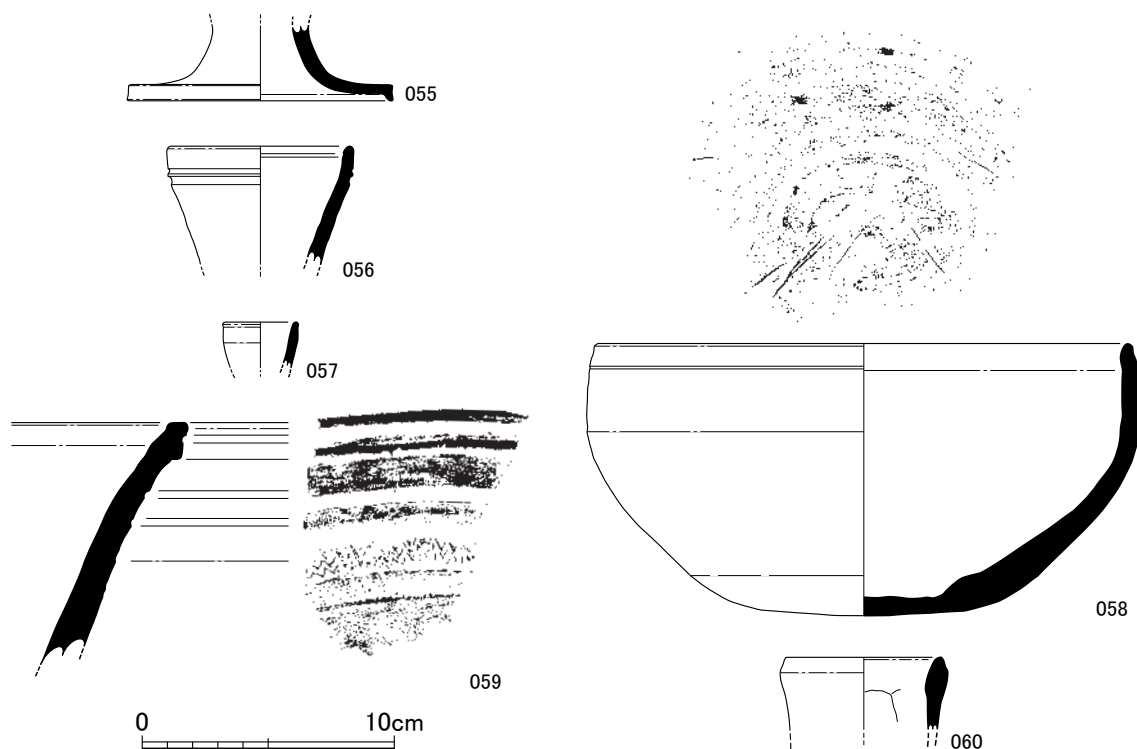
不明土器 (060) 口縁部だけの小片である。端部は肥厚し、直立する。体部外面はナデを施し、体部内面下半はユビオサエで成形する。

灰原B区（第11・12図、図版20～22）

杯蓋 (061～076) 061～063は杯G蓋、064～076は杯B蓋。062・063～066・068・071・072は天井部から口縁部にかけて丸味をおびながら下り、天井部は丸い。061は焼き歪みのせいか、中央がやや凹む。061・062は、かえりが口縁端部より下方に突出しており、063～072はかえりが口縁端部より下方に出ない。067は焼き歪みが激しく変形が著しい。小型でつまみが付く。つまみの形状は、乳頭状に近く端部を丸くおさめる。061～066は天井部外面に回転ヘラ切り後ナデが施され、067～072は天井部外面に回転ヘラケズリを施す。069・070は天井部が平坦で受部にかけて丸味をおび、



第9图 1号窑迹灰原A区出土遗物实测图① (1 / 3)



第10図 1号窯跡灰原A区出土遺物実測図②(1/3)

扁平な形態である。いずれも擬宝珠様のつまみが付く。068～071はつまみの形状はほぼ同じで、扁平で中央が少し突き出す。072のつまみは全体が山形に盛り上がる形態である。073～075はかえりのつかない蓋である。073は天井部から口縁部まで平らに近く、口縁端部を下方につまみ出し断面三角形を呈する。宝珠様のつまみが付き、やや扁平だが中央部が小さく突き出す。074は天井部と体部の境は屈曲し、端部をつまみ出し断面三角形を呈する。075は扁平な形態で口縁端部をわずかに下方に突出させ丸くおさめる。いずれも天井部外面に回転ヘラケズリを施す。076は天井部と体部の境は屈曲し天井部は平坦である。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、高さのある特徴的な宝珠様のつまみを持つ。口縁部を欠き、口縁端部の形態は不明だが、大型のもので、通常の杯B蓋とは異なるものと考えられる。

杯身 (077～093) 077～080は杯G身である。081～084は底部が突出し、体部と底部の境に稜を有するなど通常の杯G身とは異なっている。077は、底部は平らで口縁部は外反する。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。底部外面にはヘラ記号が認められる。078は、体部は内湾気味に短く立ち上がる。口縁部は肥厚し端部を丸くおさめ、体部と底部との境は丸い。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。079は平底の底部から体部は、直線的に外方へ開き口縁部にいたる。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。080は底部がやや丸みをおび、体部は大きく外方へ開き、口縁部はわずかに外方へ開く。体部と底部との境は不明瞭である。底部外面は回転ヘラ切りが施され、底部外面に簾状の圧痕が残る。081～083は径14～15cmほどのほぼ同型のものである。体部は直線的に外方へ開き、底部はやや尖り気味で丸みをおびる。口縁部と底部との境は屈曲し明瞭である。いずれも、底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。084は、口縁端部はわずかに外反する。085～092は杯

B身である。085は口縁部が大きく外反する。高台は低く断面方形を呈する。086は口縁部は外反し、端部は肥厚し丸くおさめる。高台は低く断面方形を呈する。087・090・091は底部は丸く、丸みを持って体部にいたる。口縁端部は外反する。いずれも高台は高くハの字状に踏ん張る。088は底部の丸みは少なく、体部は外方に開き、口縁部はわずかに外反する。底部には、高台が剥がれた痕が見られ、図上で復元した。089は、体部は直線的に開き、高台は低く断面方形を呈する。092は底部は丸く、体部は外反しながら開く。底部には、高台が剥がれた痕跡が見られ、図上で復元した。093は杯身の小片で、全形は不明である。底部は回転ヘラ切り後ナデ。体部と底部の境は丸くなる。

高杯 (094~097) いずれも脚部から裾部にかけて大きく外反し、ラップ状に開く。094は脚端部を下方につまみ出し、断面三角形を呈する。095~097は脚端部を下方に折り曲げ、095・096は断面嘴状を呈し、097は脚端部を折り曲げ、外面に三角形の突出を作り出すことで沈線状とする。

壺 (098~100) 098は口縁部の断片である。口縁部はゆるく外反し、強い回転ナデにより口縁部端部外面に断面三角形を呈するわずかな段を作り出す。099は頸部が直線的に外へ開き、口縁端部は短く内湾し端部を丸く仕上げる。瓶類の口縁部か。100は小型の壺か。球形に内湾する体部の端部を短く外上方へつまみ出している。内外面回転ナデで、内面は降灰のためか黒色化している。

甕 (101・102) 101は頸部が短く直立した後、ゆるく外反して口縁端部にいたる。口縁端部は外傾する小さな平坦面をなす。口縁部外面には回転ナデにより断面三角形を呈する小突起を作り出す。体部外面に擬格子タタキ、内面に同心円文当て具痕が残る。102は頸部からゆるく口縁部に向かって外反し、端部は丸くおさめる。胴部外面に擬格子タタキ、内面に同心円文当て具痕が見られる。

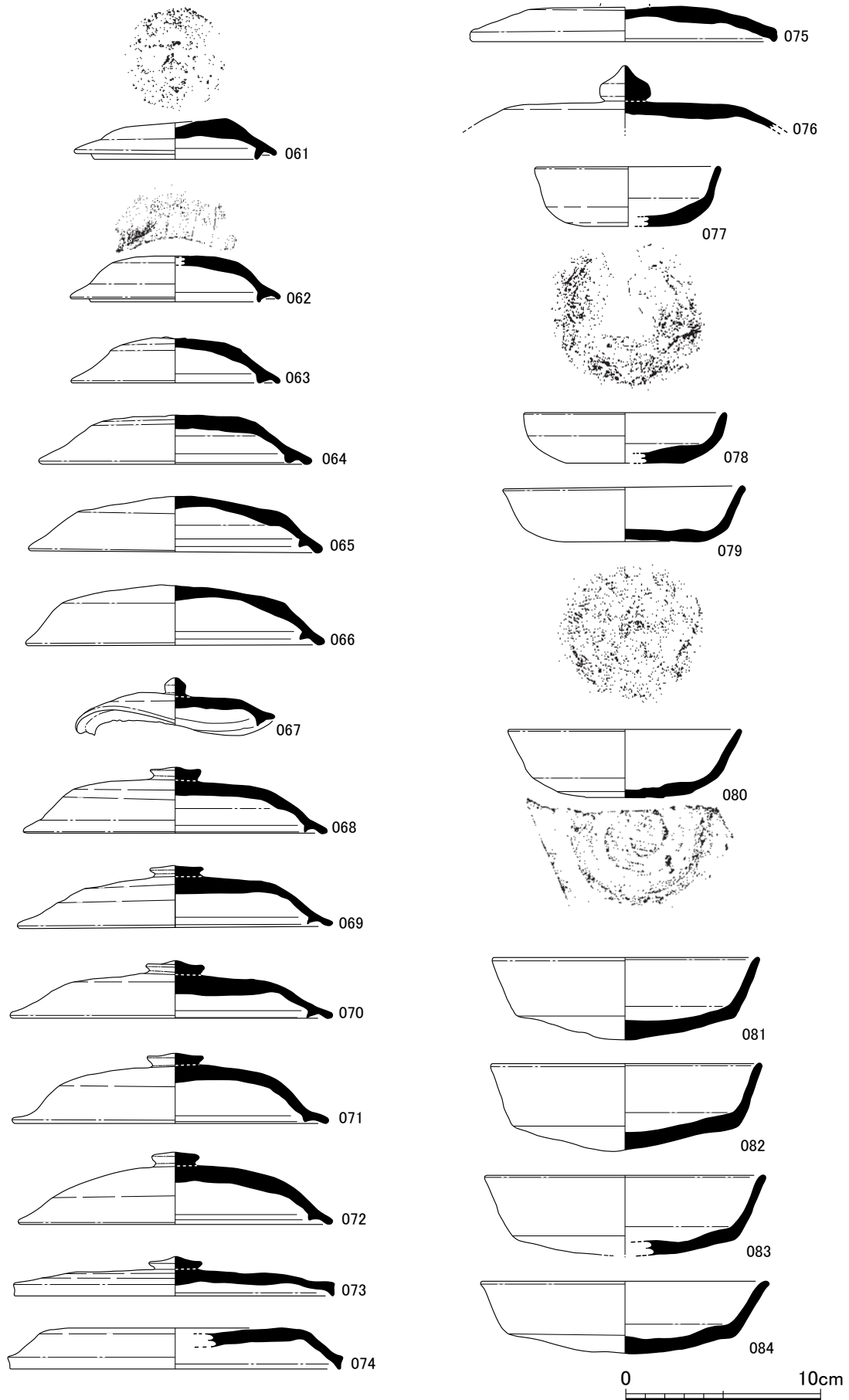
土師器

甕 (103) 口縁部から体部上半の資料で、口縁部は大きく直線的に外方に開き、端部を丸く仕上げる。体部は直線的に開く。体部内面はヘラケズリにより口縁部との境に稜がつく。口縁部内面及び体部外面にはハケメが見られる。

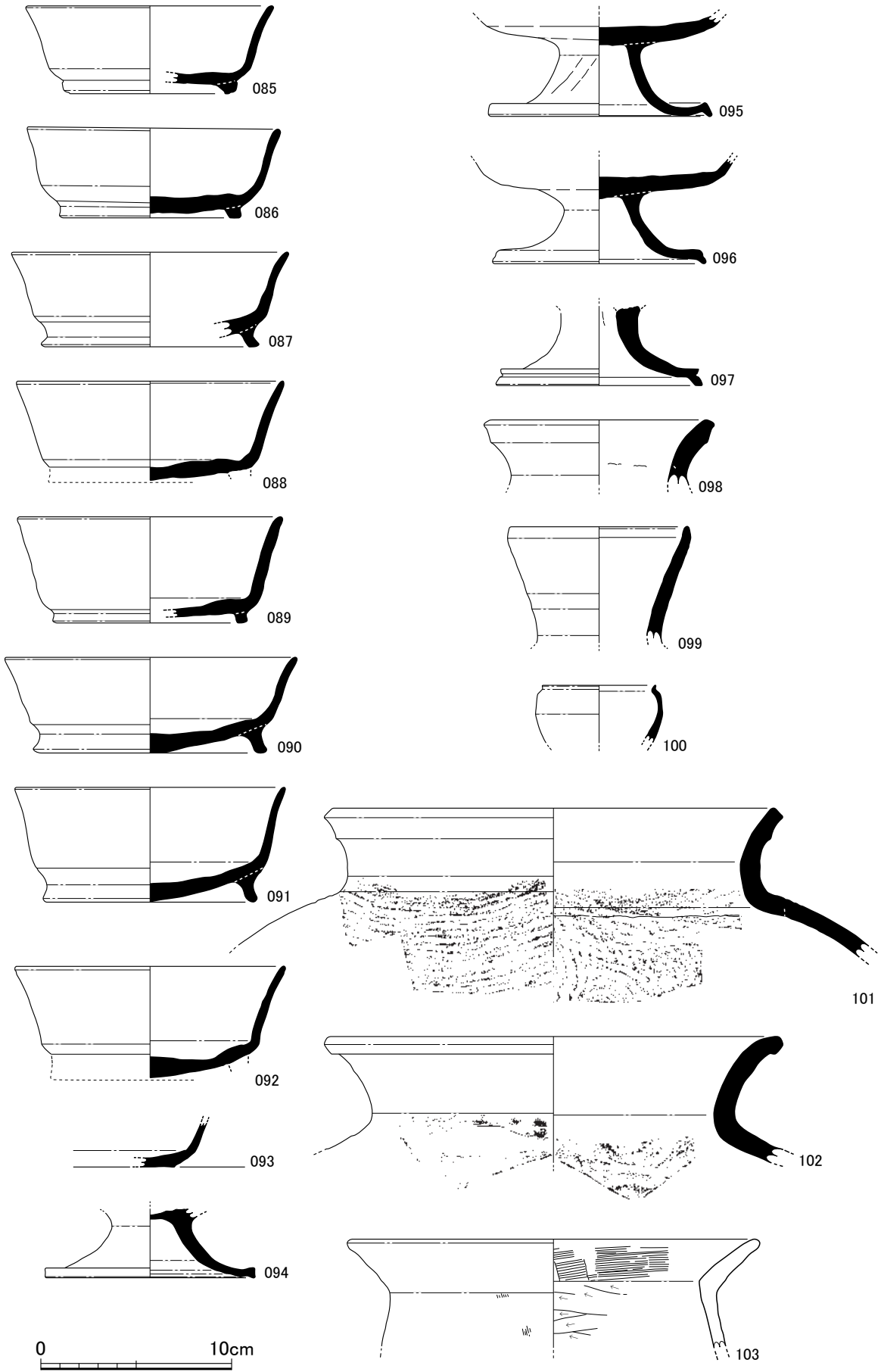
灰原C区 (第13~15図、図版22~24)

杯蓋 (104~117) 104~107は杯G蓋、108~116は杯B蓋、117は杯H蓋である。104~107・109は扁平で、天井部は平坦になる。104・110~116は天井部から受部にかけて丸味をおび、扁平に近い形状である。106・108~110・112~116はかえりが口縁端部より下方に出ており、他はかえりが短い。104~111は天井部外面は回転ヘラ切り、112~116は天井部外面に回転ヘラケズリを施す。112~115は擬宝珠様のつまみを有し、112は高い乳頭状を呈す。113~115のつまみは中央が盛り上がり、山状をなす。116は中央が凹み、低く扁平なボタン状のつまみが付く。117は天井部は丸みを持ち、口縁部はやや開く。天井部外面は、1/3ほど回転ヘラケズリし、後ナデを施す。口縁部内面は強い回転ナデにより凹線状をなす。

杯身 (118~129) 118~123は杯G身である。118・119は口縁部が外反し、口縁端部を丸くおさめる。体部と底部との境は丸く、底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。119は体部と底部の境を回転ヘラケズリする。120は体部は直立気味に立ち上がる。体部と底部との境は丸く、底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。121~123は体部は外方に開き、口縁部はやや外反し、端部を丸くおさめる。底部はやや丸味を持つ。121・122は底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施す。123の底部外



第11图 1号窑迹灰原B区出土遗物实测图①(1/3)



第12图 1号窑迹灰原B区出土遗物实测图②(1/3)

面は回転ヘラ切り後未調整である。口縁部との境を回転ヘラケズリし、わずかに稜を作り出す。124は底部の破片資料で、大型のものと考えられる。底部は丸く、比較的肉厚で、鉢と考えられる。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。125～129は杯B身である。126は体部は丸味を持って立ち上がり、口縁部は外反する。焼き歪みがあり、形状がいびつである。125・128・129は体部が直線的に外方に開く。127は体部は丸みをおびながら外方に開き、口縁端部はわずかに外反する。125は内外面に降灰があり、歪みが見られる。129は焼成不良で器面の摩耗が著しい。いずれも高台は高く、ハの字状に外に広がる形態である。

高杯 (130・131) 130は杯部は直線的に外方に開く。脚裾部は外方に開き、端部を丸くおさめる。脚部には3条の沈線が巡り、杯底部外面および脚部上半にはカキ目を施す。131は脚部下半の破片資料である。裾部は大きく外反し、端部を下方へ折り曲げ、断面嘴状を呈する。また、端部外面上半は突出し、段を有する。

壺蓋 (132) 132は杯G蓋。体部は厚く、口縁部は端部の内角を小さく引き出して、かえり風としている。天井部外面は回転ヘラ切りし、ヘラ記号を有する。

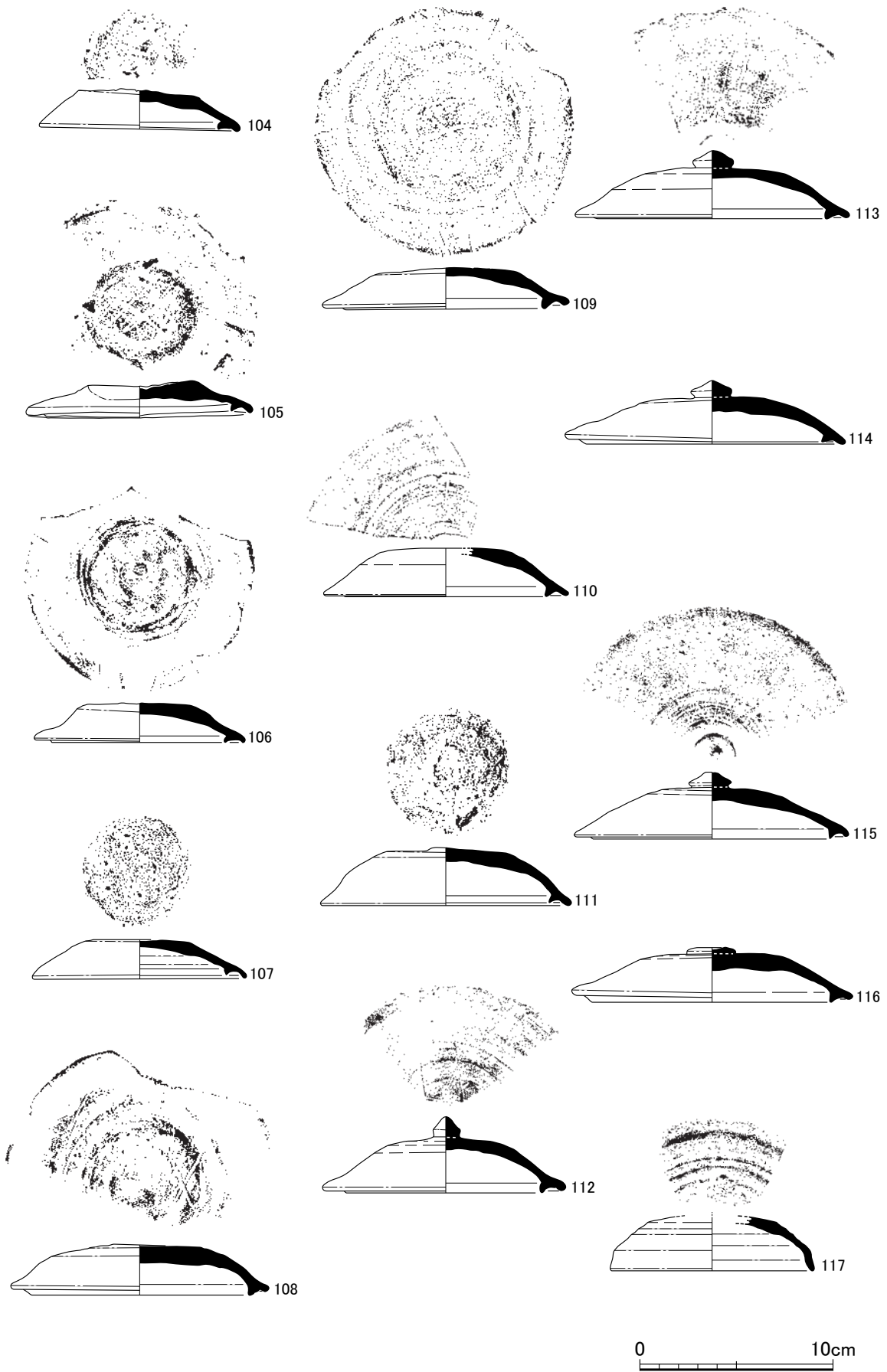
甕 (133・134) 133は大きく外方に開く。口縁端部は平坦に仕上げられ、口縁部下に断面三角形を呈する突帯を2条巡らせる。頸部外面上半はカキ目、下半は波状文を施す。134は口縁部へ向かって直線的に外方へ開き、端部を平坦に仕上げる。口縁端部下に断面三角形の突帯を貼り付ける。外面は口縁下に2段の段差をつくり、波状文を巡らせ、下位に沈線を1条巡らす。沈線の下位にはカキ目を施す。

穿孔土器 (135) 扁平な土器片で焼成前穿孔が2ヶ所認められる。表面は板状工具によるナデを施し、裏面はナデ。穿孔を囲むように丸く沈線が巡らされるが、ヘラ記号か、穿孔の目安として施したかは不明である。焼成は良好である。

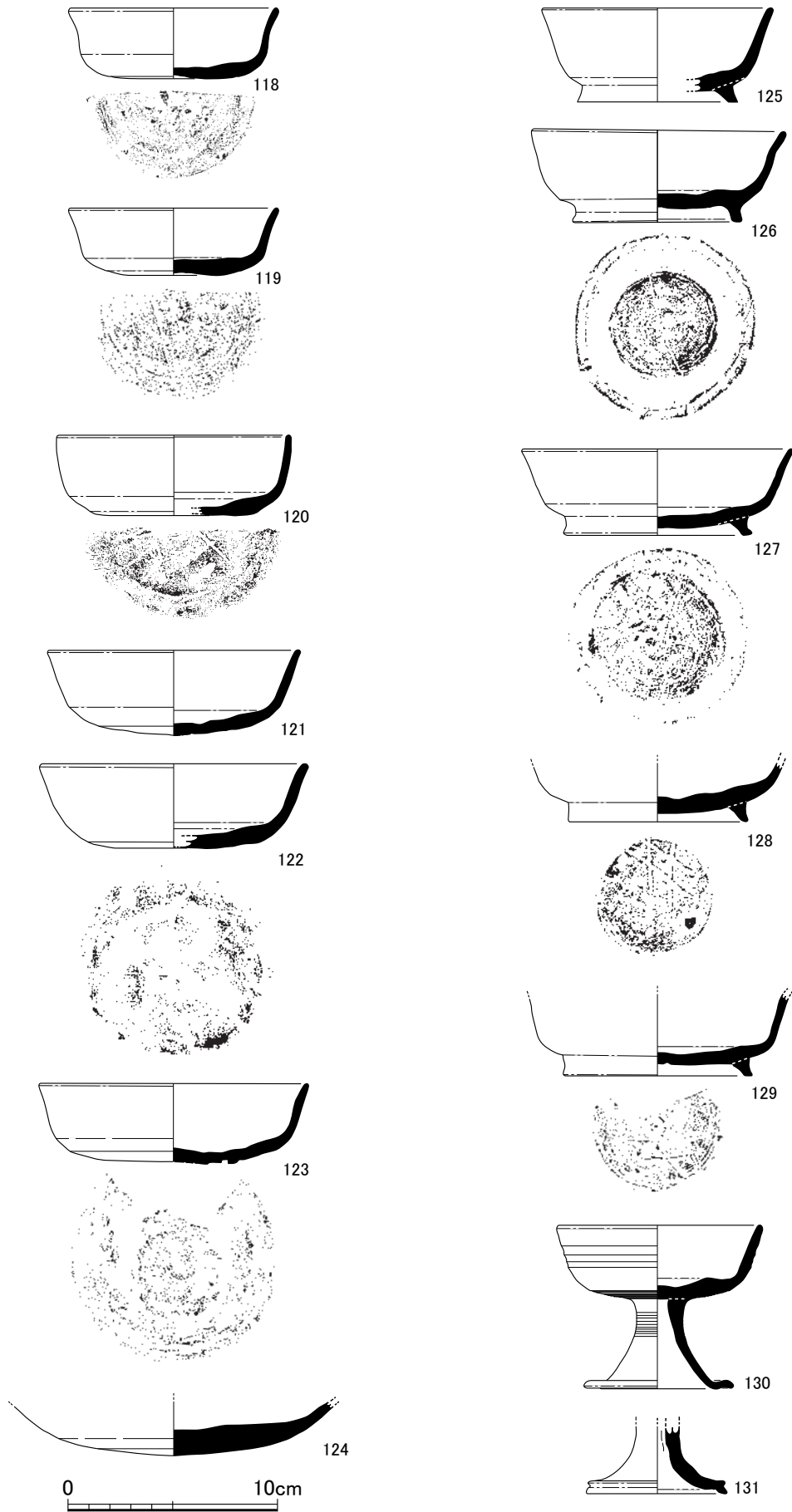
灰原D区 (第16図、図版24・25)

杯蓋 (136～142) いずれも杯B蓋でかえりを有する。136・137は扁平で、天井部はわずかに丸味をおびるが平らに近い。136はかえりが口縁端部よりわずかに下方に出ているが、137は口縁端部が受部よりも上方にある。焼き歪みによるものなのか、意図したものなのかは不明である。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデが施される。138～142は天井部が全体的に丸味をおびる。138・141は天井部から口縁部にかけて丸味をおびドーム状を呈する。139・140・142は天井部から口縁部にかけて丸味をおび、天井部は平坦である。138・142はかえりが受部よりも下方に突出し、他はかえりが受部よりも内にあり、受部が接地する。いずれも天井部外面は回転ヘラケズリ。擬宝珠様のつまみをつけるが、138・139・141・142は高く乳頭状を呈し、139はやや低く山形を呈する。140は扁平で中央部を突起させる。

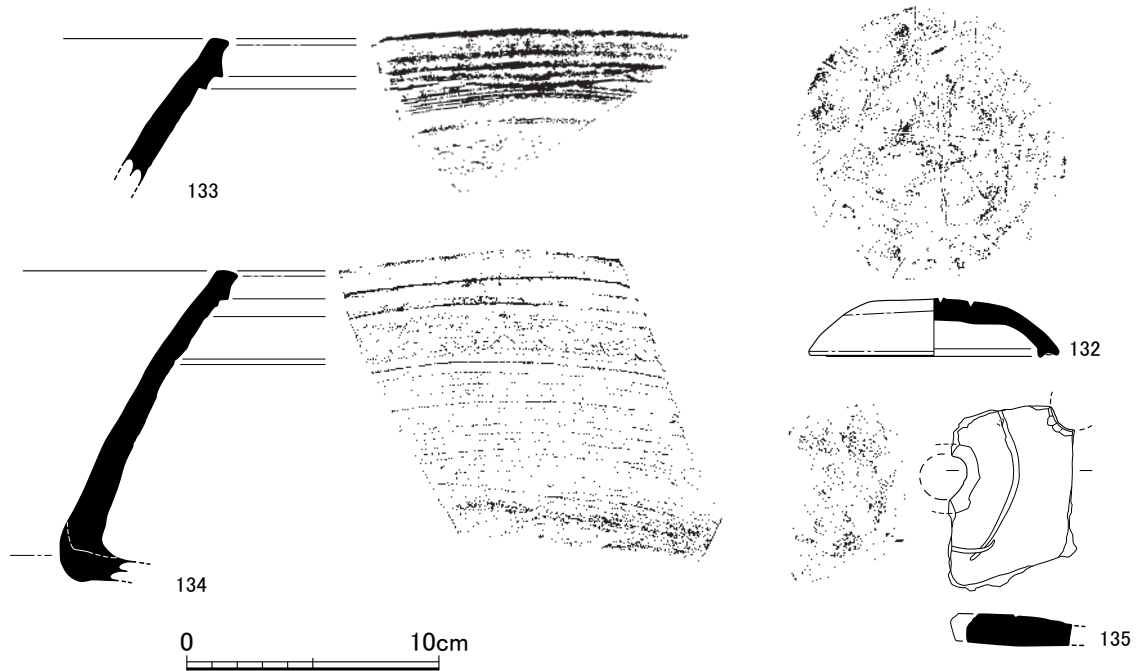
杯身 (143～148) 143～145は杯G身である。いずれも体部は直立気味に立ち上り、口縁部は外反する。144は全体の器壁が厚い。145は底部に丸味をもつ。いずれも底部外面を回転ヘラ切り後ナデしており、内面は回転ナデを施した後、一部をナデる。146～148は杯B身である。146・147は体部は大きく開いた後に口縁部は外反する。高台は高く外方に開き、ハの字状に踏ん張る。146は体部下半に回転ヘラケズリを施しているため、底部との境に稜をなし、底部は焼成前に1ヶ所穿



第13图 1号窯跡灰原C区出土遺物実測図①(1/3)



第14图 1号窯跡灰原C区出土遺物実測図② (1/3)



第15図 1号窯跡灰原C区出土遺物実測図③ (1 / 3)

孔されている。148は体部が直線的に伸び外傾する。高台は直立気味で端部を少し外方へはねる。口縁部と底部との境は回転ヘラケズリにより、稜をなす。

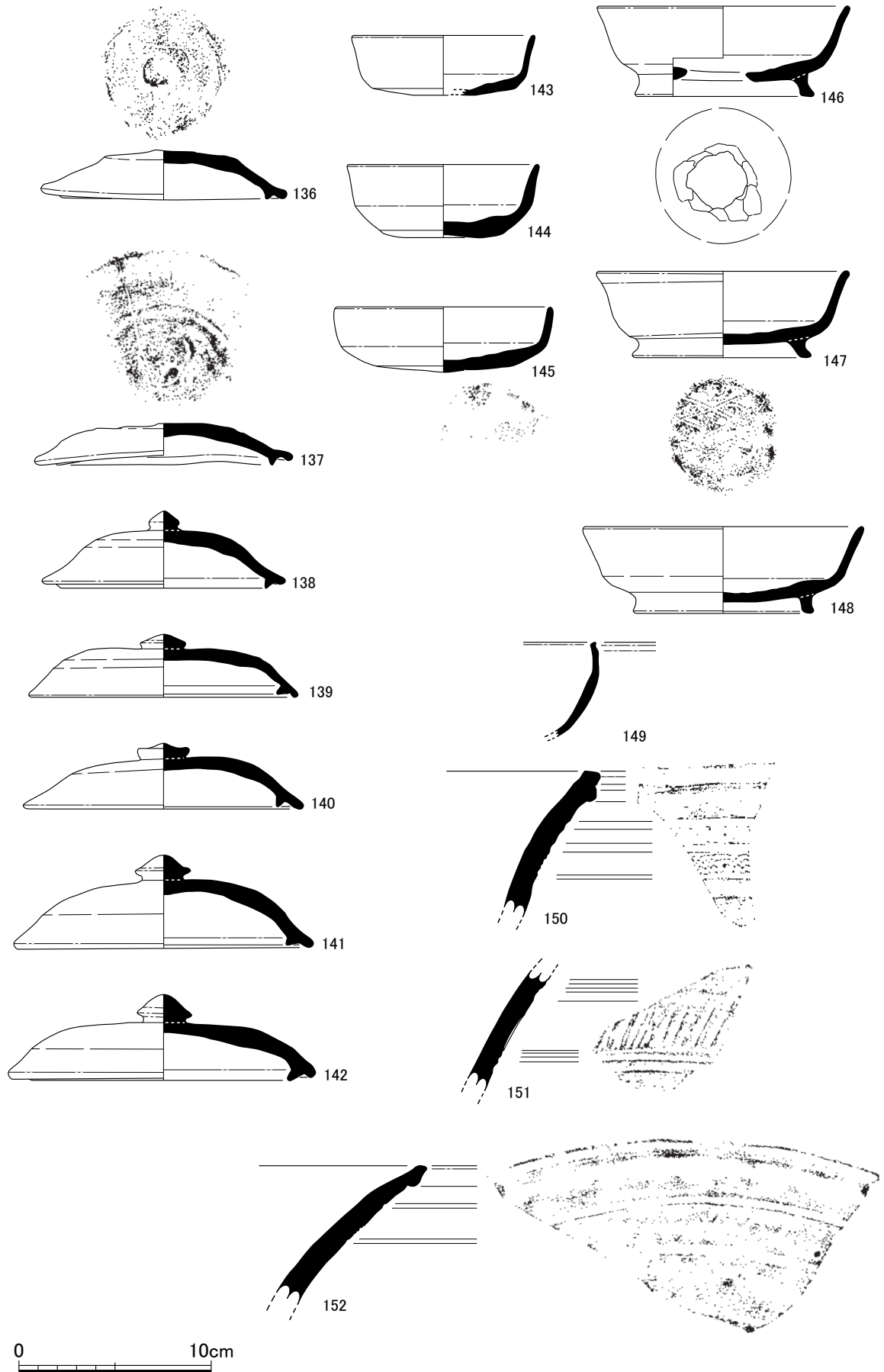
鉢 (149) 体部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部を外方に短くつまみ出す。体部下半は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデを施す。口縁部は強い回転ナデにより外面に稜が入る。全体の器壁は薄い。

甕 (150~152) いずれも口縁部のみである。150は大きく外方に開き、口縁端部上面を平らに仕上げる。口縁部下には、断面三角形の突帯を貼り付け、3条の沈線を巡らし、中・下段の沈線の間には細かい波状文を入れる。151は口縁部を欠く。外面は連続斜線文を施し、上下に2条ずつ沈線を巡らす。152は口縁部に向かって開き、口縁端部を薄く仕上げる。外面は断面三角形の突帯を施し、2条の沈線の間には粗い波状文を施す。頸部外面に擬格子タタキ痕が残る。

灰原 (第17図、図版25)

杯蓋 (153~155) いずれも杯B蓋で、かえりを有する。153はやや丸味をおびる形態で、天井部は平坦である。かえりは受部内におさまり、受部が接地する。天井部外面はヘラ切り未調整で、中央に焼成前に穿孔を1ヶ所穿つ。154・155は002・003と同様の形態を示す。天井部が平坦でかえりを大きく折り曲げ、さらに外に湾曲させ受部を袋状とする。天井部外面に回転ヘラ切り痕を残す。いずれも天井部中央を欠損しているため、つまみが付くか不明である。

杯身 (156~161) 156・157は杯G身である。156は体部は直線的に外方に開く。157は口縁部が外反する。158は杯。底部が平坦で、大きく外反し口縁部にいたる。156・158は底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、157はヘラ切り未調整である。159~161は杯B身である。159は体部をS字状に屈曲させ口縁部は外反する。高台は高く、ハの字状に踏ん張る形態をなす。160は体部中位から外反



第16图 1号窑迹灰原D区出土遗物实测图(1/3)

する。底部に高台の剥がれた痕跡が認められる。161は体部が外方に直線的に開き、杯部は深い。高台は低く、端部を外方に引き出し突出させる。

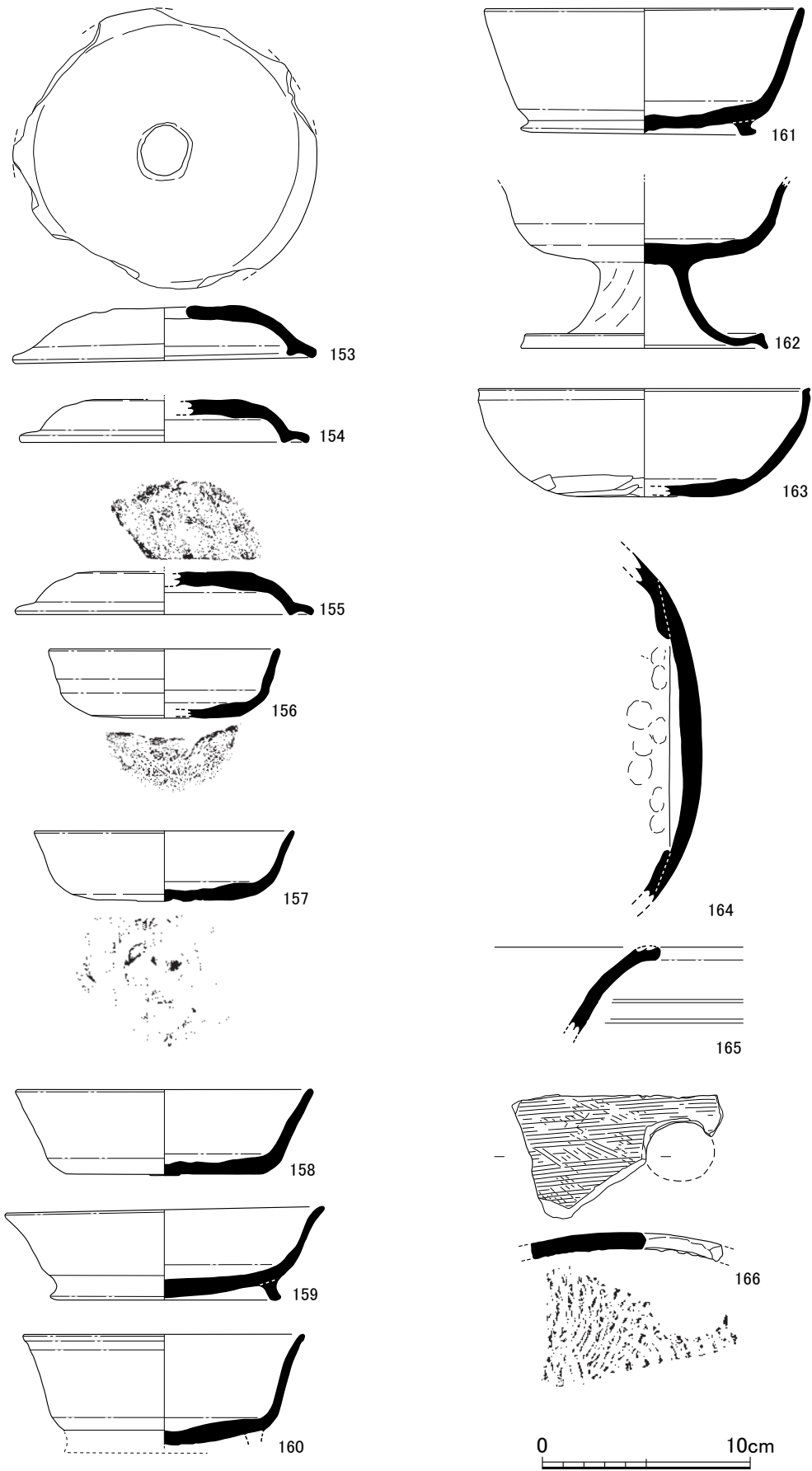
高杯 (162) 口縁端部を欠くが、杯底部から内湾気味に立ち上がり中位から外反する。脚部はラッパ状に開き、脚裾部は横方向へ引き出し、端部は下方に折り曲げ、断面嘴状を呈する。杯底部外面には回転ヘラケズリが施され、脚柱部にシボリ痕が見られる。

鉢 (163) 体部は内湾し、口縁端部近くで上方へ立ち上り、端部は内傾する。底部は平底で、外面は回転ヘラ切り後ナデ、内面は回転ナデ後不定方向のナデを施す。底部と体部との境付近は手持ちヘラケズリされる。

横瓶 (164) 体部の破片で閉塞部分の資料である。外面はナデ調整、内面貼付け部にユビオサエが残る。

甕 (165) 口縁部は大きく外反し、端部はやや肥厚し丸くおさめる。外面に2条の沈線を施す。

穿孔土器 (166) 焼成はやや不良で、甕体部片と考えられる。現存で1ヶ所穿孔が確認される。表面はハケメを施し、裏面は同心円文当て具痕が見られる。 (藤島)



第17图 1号窯跡灰原出土遺物実測図(1/3)

(4) 68-2号窯跡 (第18図、図版2)

2号窯跡は、調査地のほぼ中央で検出された。灰原を検出した際には確認できなかったが、掘り下げ中に排煙口と側壁を確認し、窯跡の存在が明らかになった。窯体は焼成部下方の天井が失われていたが、ほぼ完存に近い。窯体は右側壁の焚口部がオーバーハングしており、この部分で測ると全長2.77mである。しかし、左側壁では2.33mとなり、オーバーハングする状況は認められない。このため、どこを焚口部とするかは難しいが、とりあえず右側壁の部分とし、全長は2.77mとしておく。主軸はN-30°-Wをとり、平面プランは長方形に近く、焼成部中位でややふくらむ。排煙口は、窯体中央部のやや左側にあけられている。奥壁より直上には、径27cm、高さ10~20cmほどの円孔が上方に掘りかけられており、奥壁に沿って煙道を掘りぬこうと試みたようであるが貫通していない。窯体内はよく焼けており、燃焼部と焼成部の境にあたる傾斜変換点から焚口側では、床のかさ上げが行われている。また、焼成部下位の床面直上には、須恵器杯蓋・杯身・杯・甕が置かれていた。杯蓋・杯身が多く、隙間なく4~5段伏せて置かれている。完形品は少なく、多くは破片であることから、焼成後、集められたようである。2号窯跡に伴う灰原は確認することができなかったが、1号窯跡灰原D区の一部にあたると思われる。ただし、あまり厚くはなかったようである。

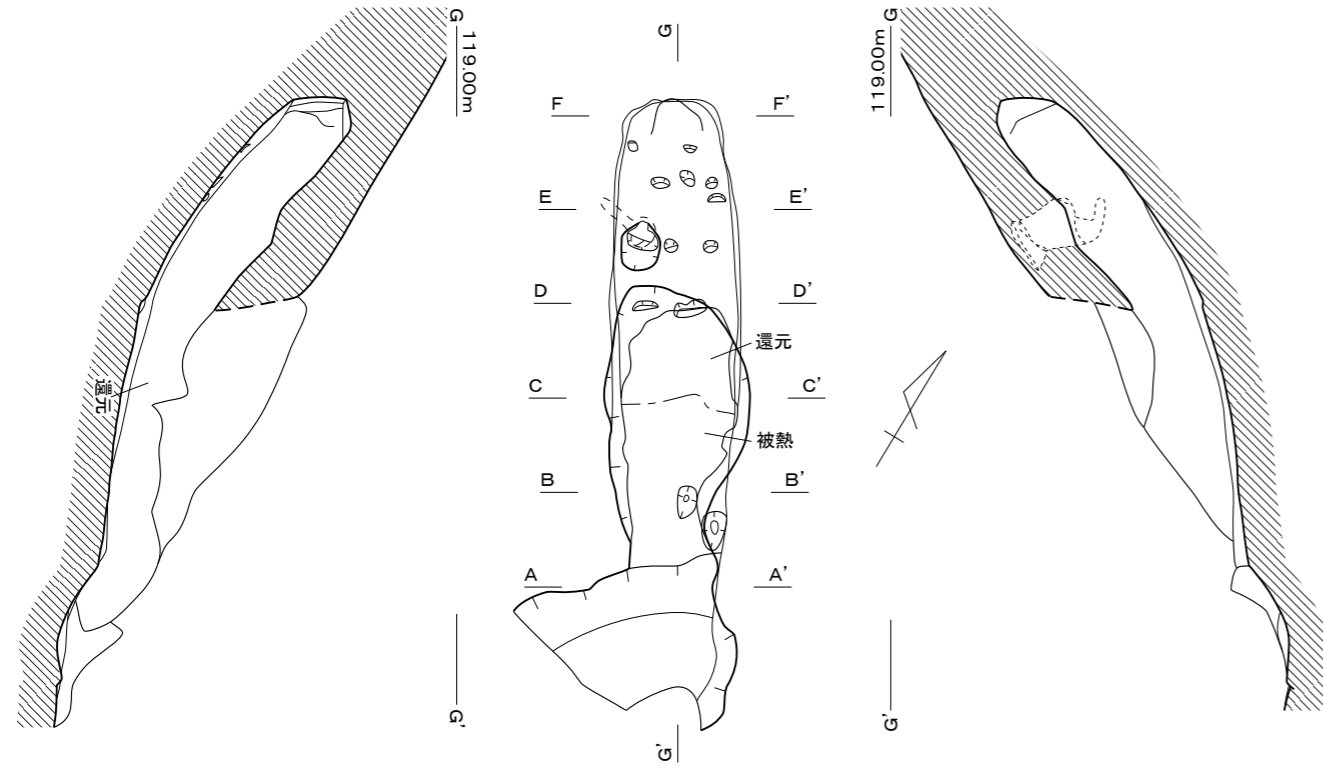
焚口・燃焼部 燃焼部の最終床面は、最も幅が狭い焚口部で48cm、焼成部との境で60cmである。長さは1.18mで、当初床面に炭や焼土を含んだ土を3~15cm程度かさ上げし、前庭部まで埋めている。最終床面の傾斜角度は4°である。当初操業時の床面は、最も幅が狭い所で48cm、焼成部との境で0.6mである。長さは0.88mで、最終床面より30cm短い。当初床面の傾斜角度は5°である。床面は被熱しており、焼成部境より奥壁側は還元している。

焼成部 焼成部の床面は中位で0.65mと最もふくらんでおり、窯尻に至ると幅45cmとなる。焼成部の長さは1.57m、床面の傾斜角度は、13~40°と窯尻に行くにしたがい急になる。床面には、長さ4~8cm、幅4~17cmのくぼみが4列9個確認できる。焼成部には、貼床は確認できなかった。窯内の高さは、煙道が開けられている所が最大で50cm、奥壁側で34cmである。

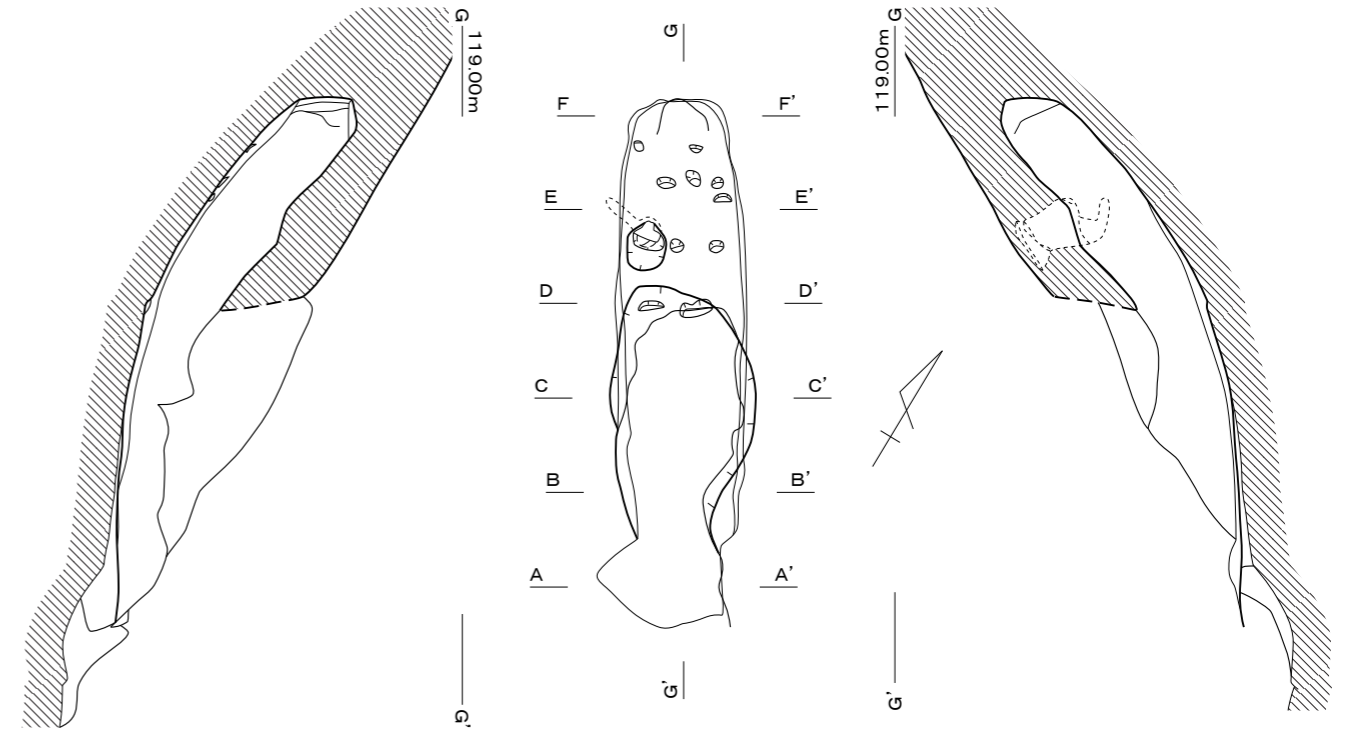
排煙部 焼成部中位やや左側に、平面プランが楕円形の排煙口をあけている。排煙口で径20~26cm、中位で径11~18cm、焼成部側の入口で径15cmである。煙出口と取り入れ口はしっかりと焼結しているが、側壁は大きくえぐれており、通常の直立煙道窯のような状況ではなかった。煙道の長さは33cm、排煙口からやや掘り下げたところからは、須恵器片が出土した。

前庭部 窯体の前面部を、長さ0.94m×幅1.1mで方形に近く掘り込んでいる部分を前庭部とした。平坦面をもち、当初の操業時には機能していたと考えられるが、最終操業時には埋められている。

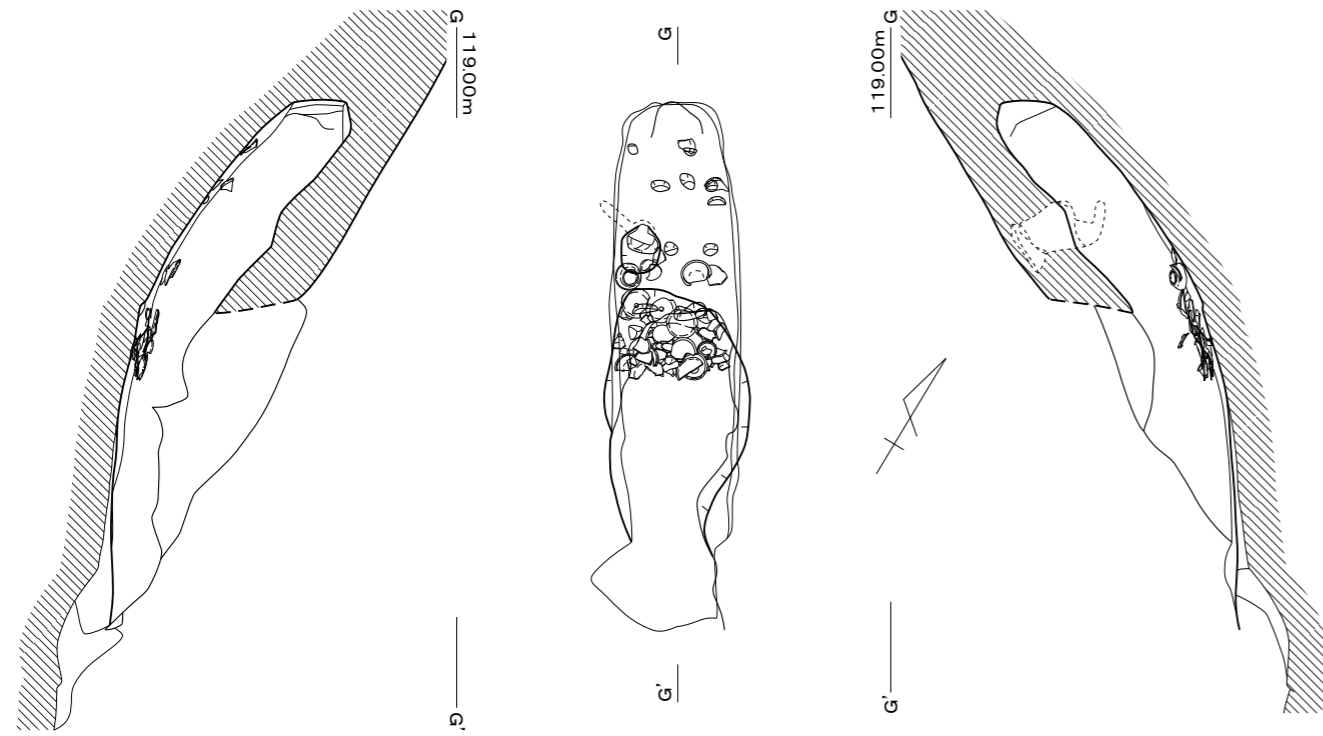
(石木)



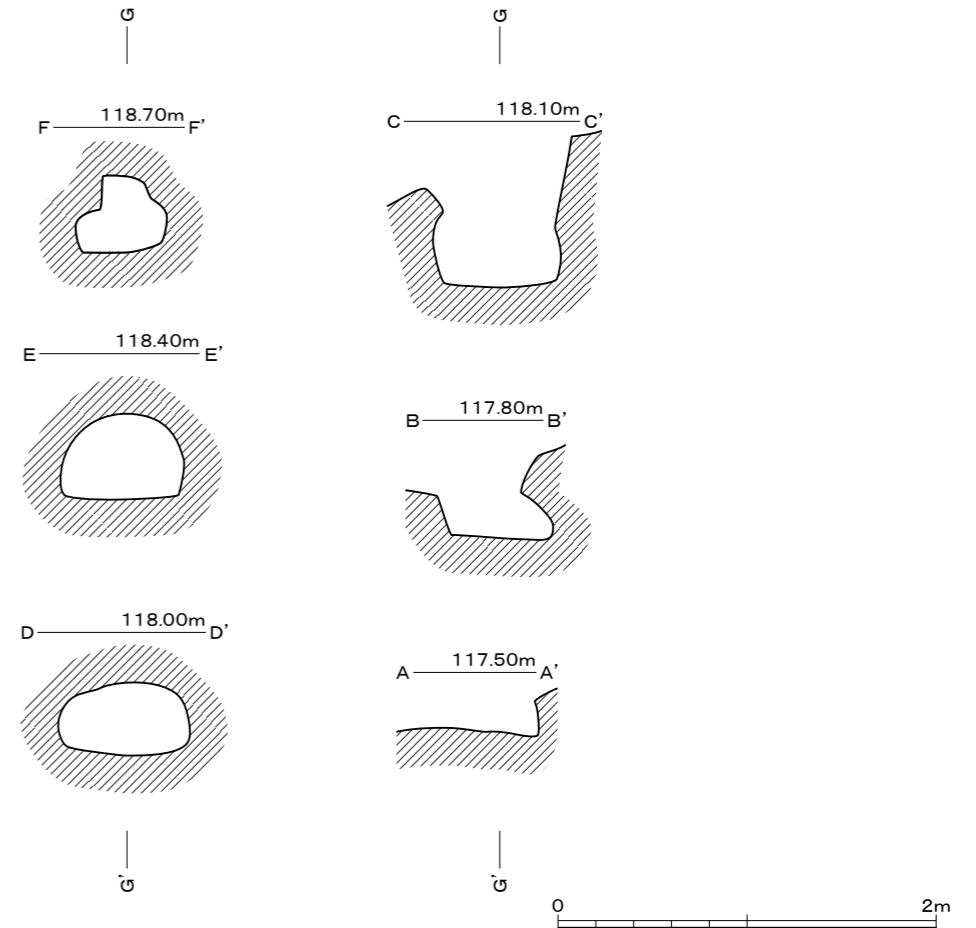
作業当初床面検出状況



最終作業床面検出状況



最終床面遺物出土状況



第18図 2号窯跡実測図 (1/40)

(5) 出土遺物

床面 (第19・20図)

杯蓋 (167～194) 183・184は口縁部を欠くので不明だが、他はかえりを有する蓋である。168・171・172・174～181・185は丸味があり、天井部はドーム状を呈する。167・169・170・173・189は扁平な形状で、天井部はやや平坦である。170はかえりが口縁端部より下方に出ており、167～169・170・172・173・175～182・185～194は口縁端部よりかえりがわずかに下方に突出する。171・174は短いかえりを有する。167～169・171～184は天井部外面に回転ヘラケズリを施し、170は天井部外面に回転ヘラ切り後回転ナデを施す。170・171・173・175・177～179・181・183・184は擬宝珠様のつまみが付き、中央が高く山形をなす。

杯身 (195～205) 195～201は杯B身である。202～205は体部下半欠損のため不明である。195は体部が丸味をおび、口縁部との境で屈曲し口縁端部はゆるく外反する。196は底部のみの資料で、外へ突き出すように開く高台である。底部外面にヘラ記号をつける。197・198も高台のみの資料だが、197の高台は厚く、198の高台は薄手である。いずれも外へ踏ん張る形状である。199～202は体部のみの資料である。丸味をおびながら、やや外反し立ち上がる。199は体部下半に回転ヘラケズリを施すため体部中位下に稜をなす。201は体部下半が内湾し、中位からゆるく外反する。202はS字状に屈曲しながら外反する。器壁が薄く、内外面とも回転ナデを施す。203・205は屈曲しながら外反する口縁部である。203は体部下半に回転ヘラケズリを施す。204は厚手で丸味をおび、内湾気味に外方に傾く口縁部である。

甕 (206) 体部下半の破片資料であり、形状から底部に近いと思われる。外面に、格子目タタキ痕が残り、内面は同心円文当て具痕が残る。

窯体内 (第20図)

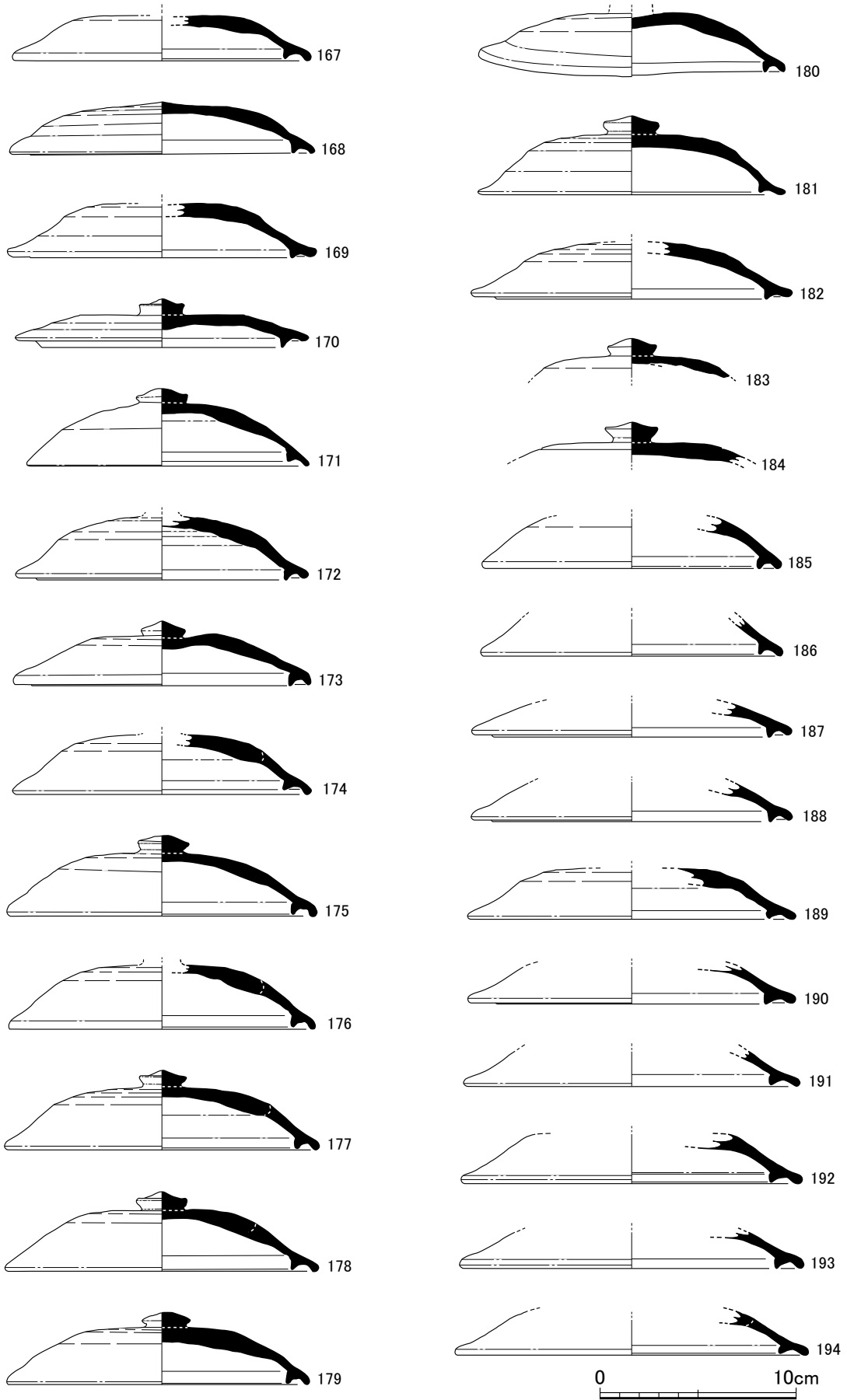
杯蓋 (207～209) かえりを有する杯B蓋である。207・208は天井部から受部にかけて丸味をおび、ドーム状を呈する。209は焼け歪みがあり、やや扁平な形態であるが、天井部は直線的である。207・208はかえりが受部より下方にわずかに出ており、209は受部が接地する。207～209は天井部外面に回転ヘラケズリを施す。208はボタン状に近い山形の花びらがつまみ付き、内面は回転ナデ後ナデを施す。207・209はやや尖り気味の擬宝珠様のつまみで、中央が高く山形を呈する。

杯身 (210～214) いずれも杯B身である。210・211は口縁部が直線的に外方に開く。212は口縁部が直線的に立ち上がり外傾する。213・214は体部中位で屈曲しながら外反する口縁部である。210・211・213・214の高台は高く、いずれも端部を屈曲させ外へ引き出し突出させる。212は断面方形の低い高台が直立する。

高杯 (216) 器壁が厚く、ゆるやかに開いて短い脚裾部にいたる。脚裾端部は回転ナデにより下方にわずかに突出させる。

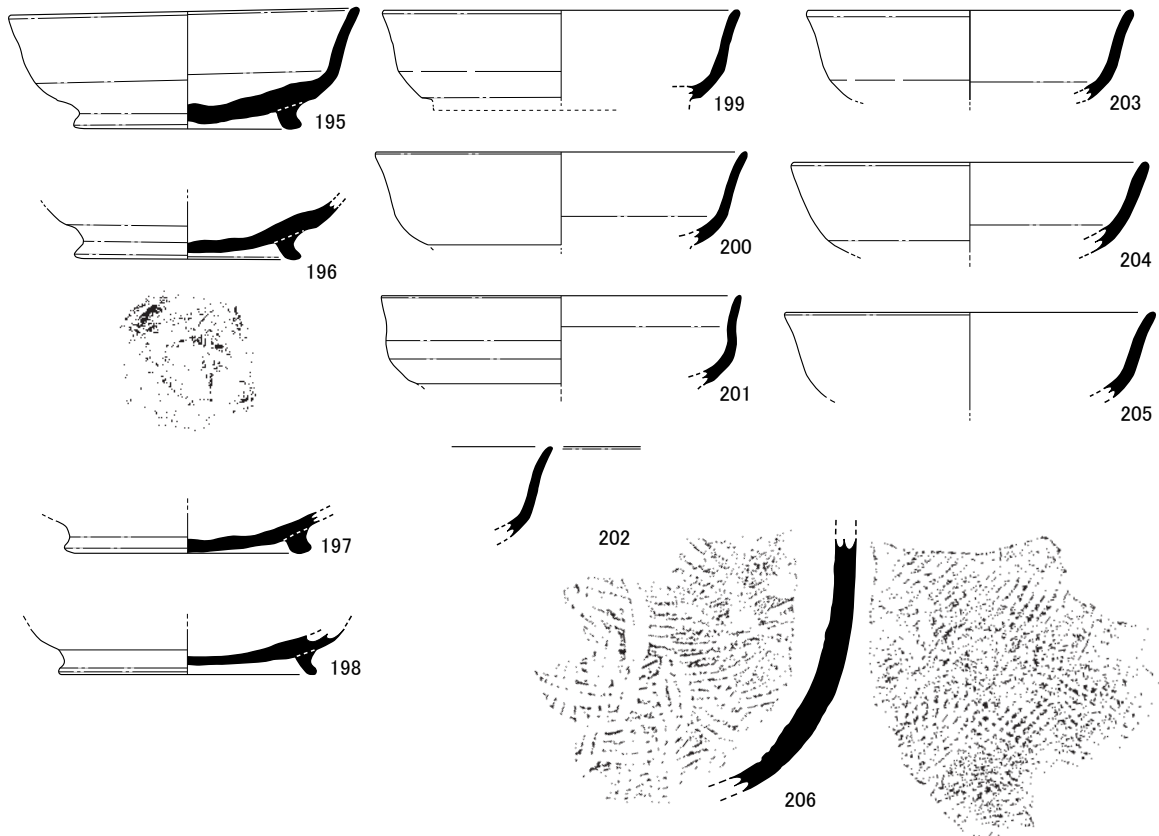
煙出奥部 (第20図)

杯身 (215) 杯B身である。高台は平坦な底部の中心付近に寄る。口縁部を欠くが、底部との境は回転ヘラ切り後回転ナデを施す。高台は端部を短く引き出し突出させる。 (藤島)

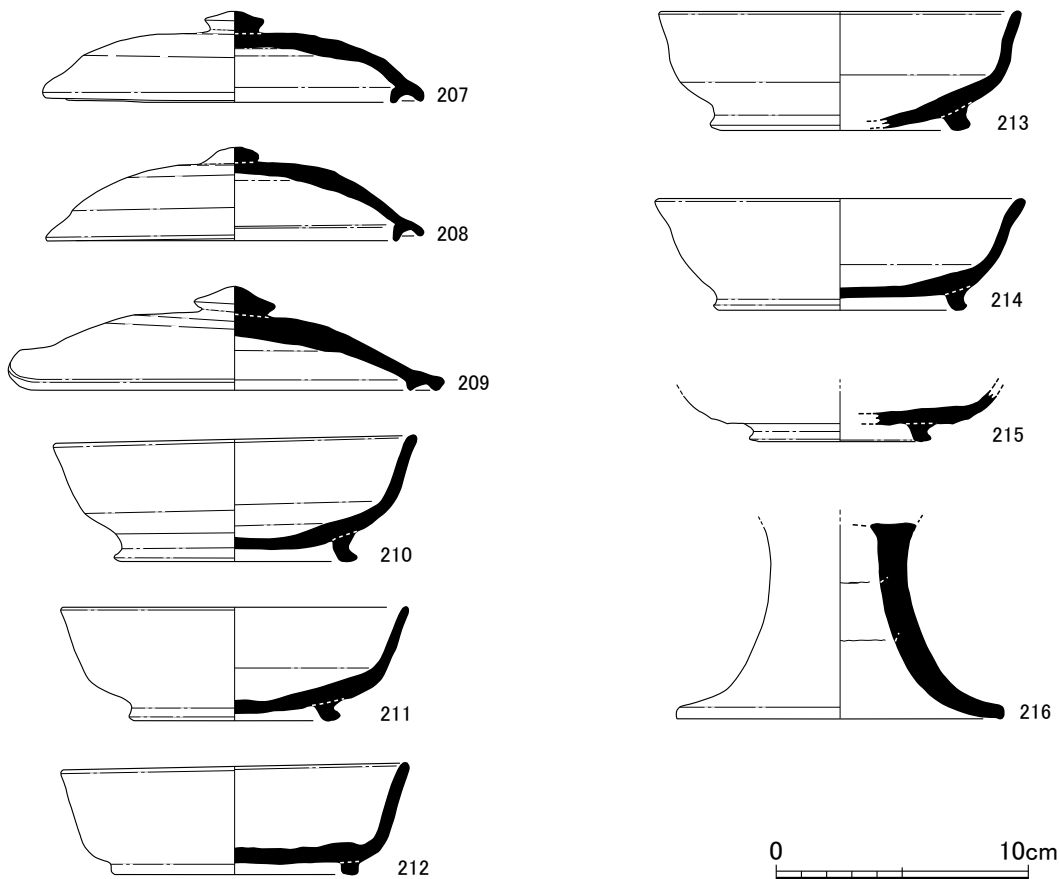


第19图 2号窑迹床面出土遗物实测图(1/3)

床面



窯体内・煙出奥部埋土



第20図 2号窯跡床面・窯体内・煙出奥部埋土出土遺物実測図(1/3)

(6) 68-3号窯跡 (第21図、図版2)

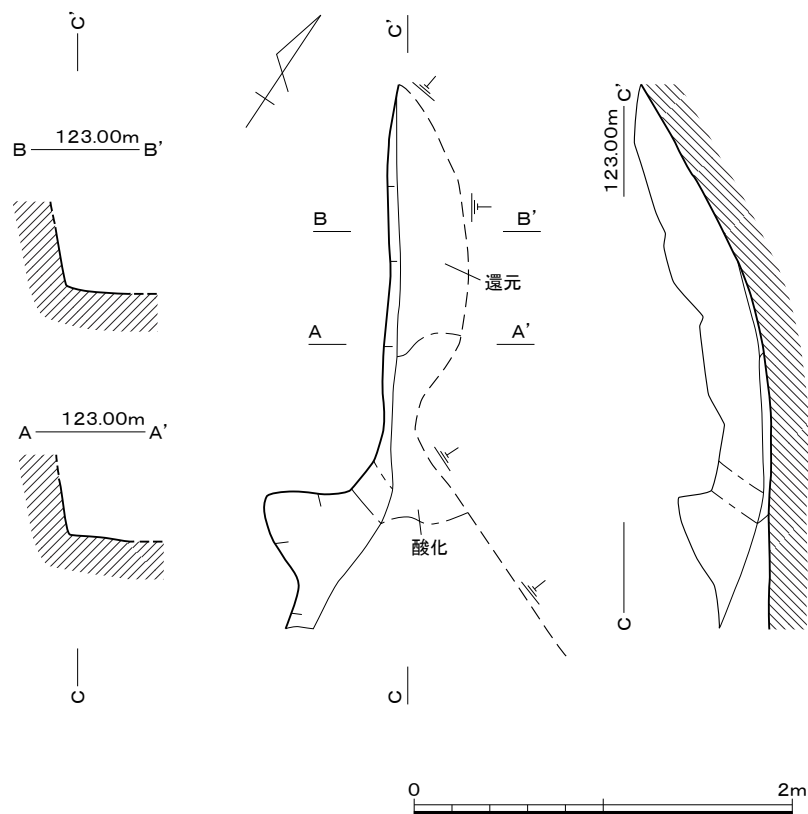
3号窯跡は、1号窯跡の窯体内の埋土除去中に確認された。前庭部から焼成部の一部が残存していたが、ほとんどは削平により失われている。窯体の残存長は、被熱部分から測って2.35m、残存幅は35cmである。主軸は正確には分からないが、左側壁の延長方向を参考にすると、 $N-33^{\circ}-W$ となり、2号窯跡と同じような方向をとる可能性が高い。窯体内は強く還元している。

燃烧部 燃烧部は、床面と側壁が還元または赤く酸化する範囲で、残存長は1mである。床面はほぼ水平で赤く酸化しているが、側壁は強く還元する。

烧成部 床面及び側壁は強く還元している。残存長は1.35m、残存幅は35cm。傾斜角度は $17\sim 28^{\circ}$ である。

前庭部 燃烧部の被熱範囲からハの字にゆるく開く部分にあたり、残存長は0.59mである。

灰原 1号窯跡の土層観察によれば、1号窯跡と重なるように他の窯が作られている。灰層の厚さは最大40cmで生産量も相当あったと考えられる。この灰層が3号窯跡に伴うかどうかは明らかにできないが、灰原の厚さを考えると複数の窯が営まれた可能性もある。(石木)



第21図 3号窯跡実測図 (1/40)

(7) 出土遺物 (第22図)

杯蓋 (217) 天井部は平坦な形態を呈する。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。口縁部を欠くため全様は知れない。わずかに中央が隆起するボタン状のつまみを有する。

杯身 (218) 杯B身である。口縁部は直線的に立ち上がりゆるやかに外へ開く。高台は低く断面方形である。焼き歪みが著しい。(藤島)



第22図 3号窯跡出土遺物実測図 (1 / 3)

(8) 出土遺物の数量

表1 68地点出土遺物重量表

※単位:g

| 地点名 | | | 須恵器 | | | | | | | | | | | | | | | | | 土師器 | | | | 鉄製品 | 合計 | | | | |
|------|------|-------|-------|--------|-----------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|------|------|------|-------|------|-------|------|--------|--------|-------|--------|-------|------|------|------|--------|--------|---------|
| | | | 杯蓋B | 杯蓋A | 蓋 (不明) | 壺蓋 | 杯A | 杯B | 杯G | 杯不明 | 椀 | 皿 | 盤 | 高杯 | 鉢 | 壺 | 短頸壺 | 長頸壺 | 甕 | 瓶 | 不明製品 | 不明脚 | 杯 | | | 杯不明 | 壺 | 不明 | |
| 68地点 | 1号窯 | 1号窯内 | 8,540 | 1,540 | 3,320 | 0 | 80 | 2,180 | 0 | 810 | 0 | 260 | 0 | 280 | 0 | 650 | 0 | 0 | 7,640 | 0 | 2,510 | 0 | 30 | 0 | 500 | 0 | 21 | 28,361 | |
| | | 1号灰原 | 3,220 | 4,440 | 4,320 | 0 | 703 | 2,780 | 87 | 1,230 | 0 | 0 | 0 | 170 | 90 | 160 | 0 | 0 | 8,720 | 310 | 1,330 | 0 | 0 | 0 | 200 | 0 | 0 | 27,760 | |
| | 2号窯 | 2号窯内 | 0 | 1,620 | 220 | 0 | 0 | 960 | 0 | 180 | 0 | 0 | 0 | 330 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 280 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,590 | |
| | | 2号煙出土 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | |
| | | 2号焼成面 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 250 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 250 | |
| | | 2号床面 | 0 | 2,672 | 220 | 0 | 0 | 790 | 0 | 94 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 340 | 0 | 700 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,838 | |
| | 3号窯 | 3号灰原 | 20 | 0 | 60 | 0 | 0 | 160 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 240 |
| | | 灰原 | 灰原A区 | 770 | 2,950 | 900 | 0 | 640 | 1,110 | 90 | 840 | 0 | 0 | 0 | 80 | 350 | 201 | 0 | 0 | 8,040 | 0 | 800 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 16,771 |
| | 灰原B区 | | 2,760 | 7,960 | 4,870 | 0 | 354 | 4,600 | 606 | 2,450 | 0 | 0 | 0 | 730 | 0 | 130 | 0 | 0 | 15,590 | 0 | 3,820 | 0 | 0 | 0 | 130 | 0 | 0 | 44,000 | |
| | 灰原C区 | | 380 | 6,820 | 1,230 | 0 | 1,004 | 2,750 | 126 | 1,070 | 0 | 0 | 0 | 280 | 0 | 250 | 0 | 0 | 24,360 | 0 | 1,040 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 39,310 | |
| | 灰原D区 | | 230 | 4,470 | 660 | 0 | 129 | 1,710 | 151 | 910 | 0 | 0 | 0 | 30 | 10 | 0 | 0 | 0 | 22,150 | 0 | 1,140 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 31,590 | |
| | | 表土 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 90 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 90 | |
| | 合計 | | | 15,920 | 32,472 | 15,800 | 0 | 2,910 | 17,320 | 1,060 | 7,584 | 0 | 260 | 0 | 1,900 | 450 | 1,411 | 0 | 0 | 86,930 | 310 | 11,620 | 0 | 30 | 0 | 830 | 0 | 21 | 196,828 |
| % | | | 8.1% | 16.5% | 8.0% | 0.0% | 1.5% | 8.8% | 0.5% | 3.9% | 0.0% | 0.1% | 0.0% | 1.0% | 0.2% | 0.7% | 0.0% | 0.0% | 44.2% | 0.2% | 5.9% | 0.0% | 0.02% | 0.0% | 0.4% | 0.0% | 0.001% | 100.0% | |

68地点の出土重量総量は196.828kgを測る。器種別にみると、甕は全体の重量比で44.2%と、半数近くを占める。次いで蓋が32.6%、杯14.7%である。このほか、皿や高杯、壺類等も出土しているが先述の3器種に比べると量は少なく、本地点では蓋・杯・甕が全体の91.5%を占め、これらの生産に特化していたものと考えられる。また、甕の1個体あたりの完存時の重量が蓋や杯に比べはるかに大きい点を考慮すると、蓋と杯の全体に占める割合から、両者の個体数が圧倒的に多かったことを物語る。さらに、杯、蓋は法量が近似することから、両者の生産時の損耗率が同じだと仮定すると、上記の割合は、そのまま個体数の割合を示していると考えられ、甕1に対し、単純に杯・蓋はこの3倍の量が生産されていたと考えられる。(稗田)

(5) 小結

68地点では3基の須恵器窯跡が確認された。削平により明らかにできないが、窯跡の数はさらに多かった可能性もある。3基の窯跡のなかで最も早く作られたのは1号窯跡である。1号窯跡に伴うと考えられるのは5層出土遺物であり、VI期にあたる。また、灰原出土遺物を見ていくと、杯Gに加え、少量ながら杯Hが含まれている。このことから、1号窯跡はV～VI期にあたり、杯蓋・

杯身・高杯に加え大甕も焼かれている。

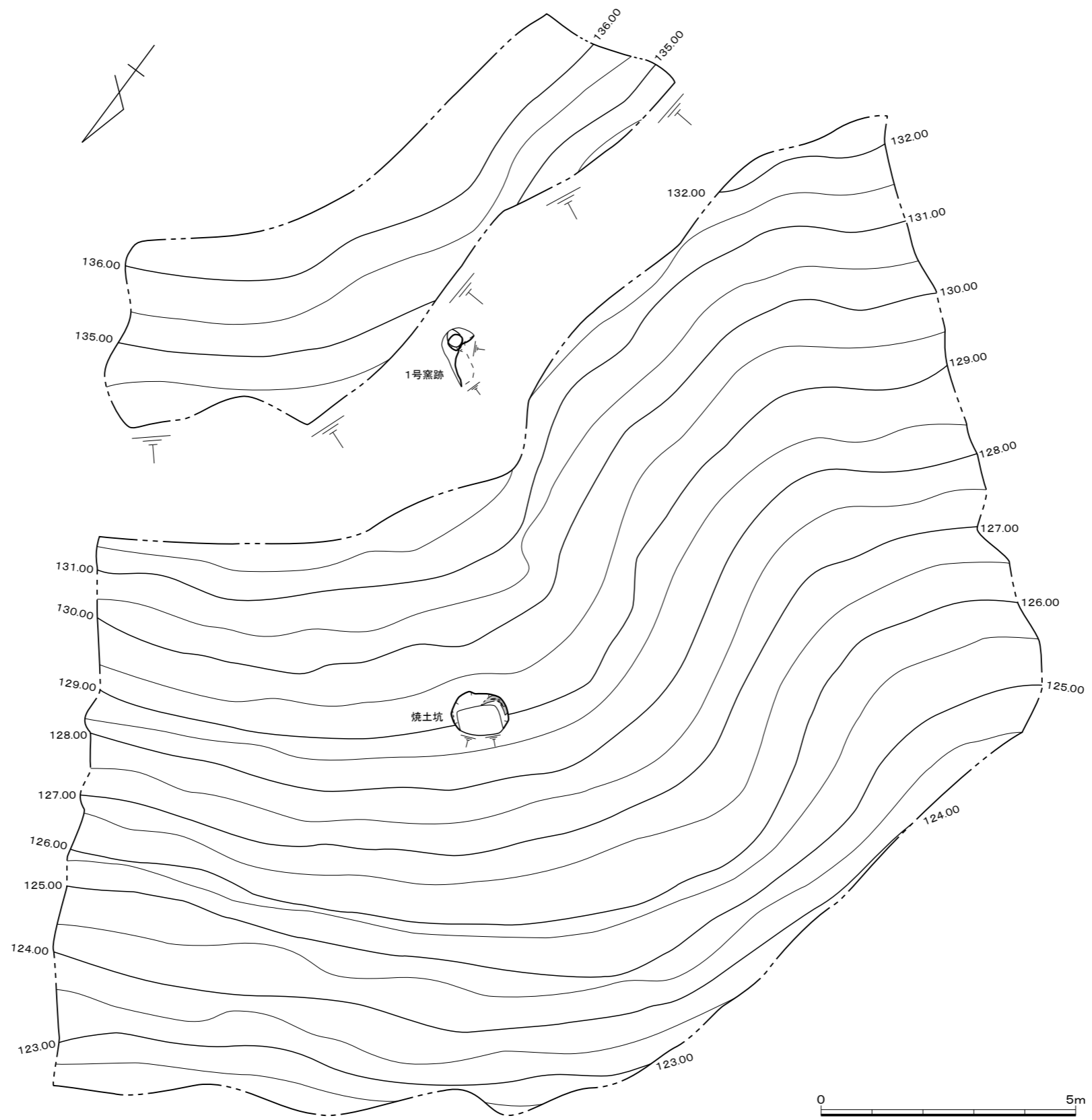
2号窯跡は、窯内の出土遺物はⅥ期にあたる。杯蓋・杯身・高杯が出土しており、窯の廃棄時に集めて置かれたものと考えられる。窯体の構築にあたっては、直立煙道を焼成部中位にあける特異な形態をとっている。こうした事例は他になく、後田61-Ⅱ号窯跡のように奥壁よりやや焚口側の窯体の最高所に煙道を開けるものがあるくらいである。排煙口が窯体の最高所にないと、火の引きが悪く、窯内の温度が十分に上がらず、効率の悪い操業になると考えられることから、長期間操業されたと考えすることはできない。

3号窯跡の出土遺物はⅦB期にあたる。しかし、1号窯跡窯体内埋土1～3層の出土遺物はⅦA期のものが主体を占めており、ⅦB期に下るものはない。窯体の残存状況が極めて悪いことからこれ以上明らかにすることはできないが、1号窯跡に後出する複数の窯があったと考えておきたい。

上記のことから、68地点ではやや規模の大きな1号窯跡が最初に操業され、後に2・3号窯跡の操業が行われる。2・3号窯跡の前後関係について、遺構からは明らかにできないが、遺物から1→2→3号窯跡の順で操業されたと考えられる。

(石木)

註1 須恵器窯跡の部位名称と計測個所と編年については、舟山良一・石川健2008『牛頸窯跡群Ⅰ』大野城市文化財調査報告書第77集に従う。



第 23 图 69 地点地形测量图 (1 / 100)

2. 69地点の調査

(1) 調査概要 (第23図、図版2)

後田窯跡群69地点は、今回の開発対象地の中央部の丘陵西側斜面に位置する。試掘調査で窯体が確認されたB地点にあたる。窯体は作業道により大きく削平されていたが、発掘調査の結果、須恵器窯跡1基と焼土坑1基を確認した。

窯跡は、斜面上方に位置しており、土坑はその斜面下方で確認された。焼土坑の側壁は、一部還元もしくは被熱を受けて赤く焼けている。発掘調査では、それぞれ掘り下げを行い、1号窯跡、焼土坑からはそれぞれ須恵器が出土した。

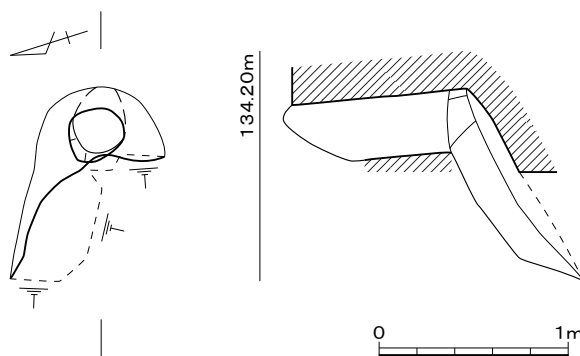
(2) 69-1号窯跡 (第24図、図版2)

1号窯跡は、調査地の上方にあたり、作業道の掘削範囲で確認された。削平により窯体はほぼ失われており、確認できたのは焼成部から奥壁・煙道部のみである。窯の構造は直立煙道窯で、主軸はN-108°-Eをとる。窯体の残存長は最大0.77m。左側壁はややふくらむことから、胴張りプランをとると考えられる。

焼成部 焼成部は、床面は奥壁側は丸く、残存部で長さ最大0.77m、幅0.7mを測り、傾斜角度は30°である。窯内は還元しており、貼床・貼壁は確認できなかった。

排煙部 焼成部奥壁からやや内傾し、直立煙道である。排煙口は径26~32cm、焼成部側の入口は27~35cmの円孔で、煙道の長さは0.5~0.72mで円筒状を呈する。

貼壁は確認できなかった。



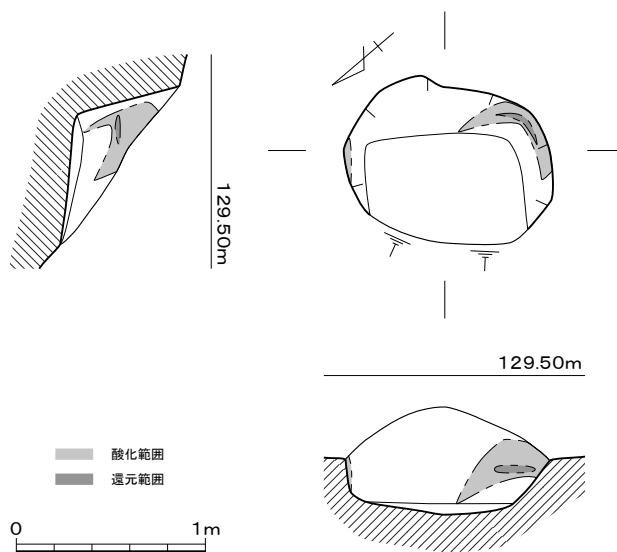
第24図 1号窯跡実測図 (1/40)

(3) 出土遺物 (第26図、図版25)

1号窯跡

杯蓋 (219・220) いずれも扁平な形態で、天井部が平坦である。口縁端部外面は強い回転ナデにより段を有し、端部は下方に引き出し丸くおさめる。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。219は天井部に、つまみが付いていたと考えられる。

杯 (221) 221は太宰府分類土師器杯dに類似する杯で、底部外面を水平に回転ヘラケズリする。口縁部は端部を欠くが内湾気味に立ち上がる。底部と体部の境は



第25図 焼土坑実測図 (1/40)

回転ヘラケズリにより明瞭である。内面は回転ナデにより、器壁を薄く仕上げる。

杯身 (222) 222は杯B身である。体部は直線的に外方に開く。高台は断面方形を呈する。

1号窯跡灰原

杯蓋 (223) 扁平な形態で、口縁端部を下方に短く折り曲げ、丸くおさめる。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。扁平で、中央がわずかに盛り上がるボタン状のつまみを付ける。

(4) 焼土坑 (第25図、図版2・3)

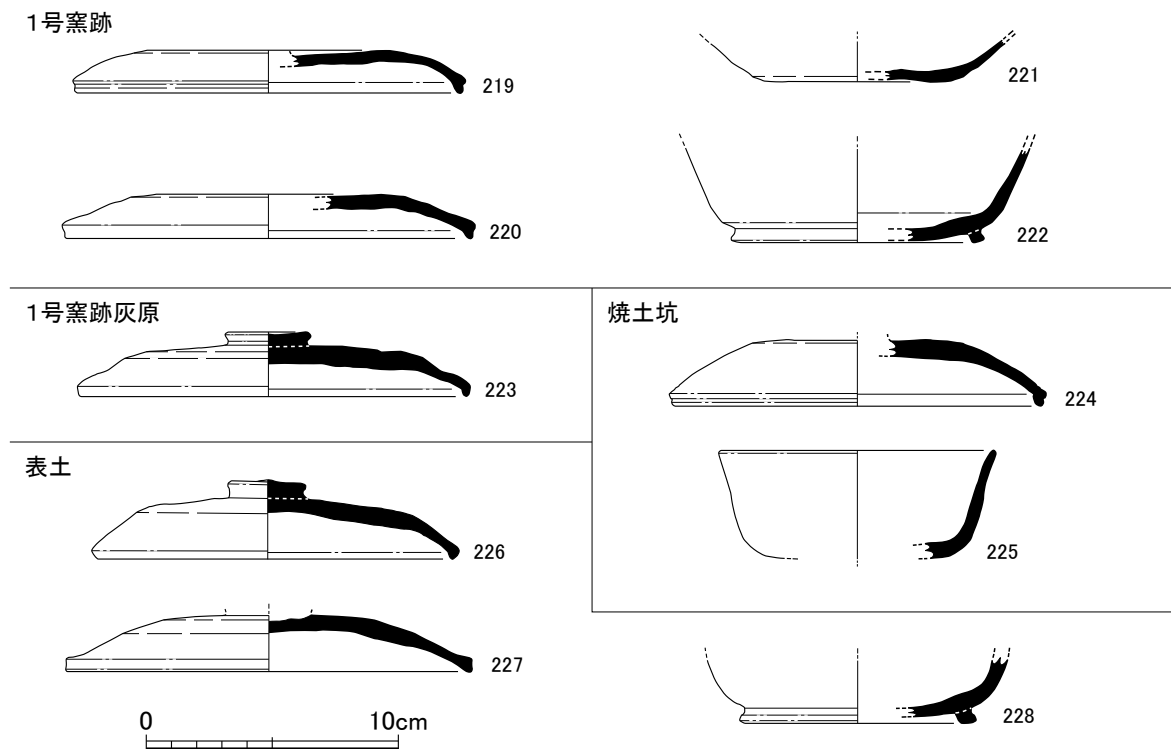
焼土坑は、1号窯跡の下方で確認された。長さ0.83m×幅1.1mで、平面プランは箱型に近く、床面は平らである。側壁は一部被熱しており、還元する部分もあるが、焼け締まりは弱い。斜面下方の埋土は褐色土であるが、著しい炭や焼土の堆積は認められなかった。 (石木)

(5) 出土遺物 (第26図、図版25)

焼土坑

杯蓋 (224) 天井部から口縁部にかけてやや丸みをおびる。口縁端部は短く下方に折り曲げ、丸くおさめる。口縁端部外面は回転ナデにより段が付き、天井部外面は回転ヘラケズリを施す。天井部外面につまみが剥がれた痕跡が残る。

杯身 (225) 口縁部はゆるく外反しながら開く。底部を欠くため、不明な点はあるが、杯B身と考えておく。



第26図 69地点出土遺物実測図 (1 / 3)

表土

杯蓋 (226・227) 226は口縁端部を下方に折り曲げ、わずかに引き出し断面三角形を呈する。227は天井部がやや丸みをおびる。口縁端部は断面三角形を呈する。天井部外面に回転ヘラケズリを施す。226は扁平な中央がわずかに高く突出する擬宝珠様のつまみが付く。227は天井部につまみが剥落している痕跡が認められる。

杯身 (228) 杯B身である。体部は直立気味に立ち上がる。高台は低く断面方形を呈するが、端部をわずかに外方へ引き出し突出させる。 (藤島)

(6) 出土遺物の数量

表2 69地点出土遺物重量表

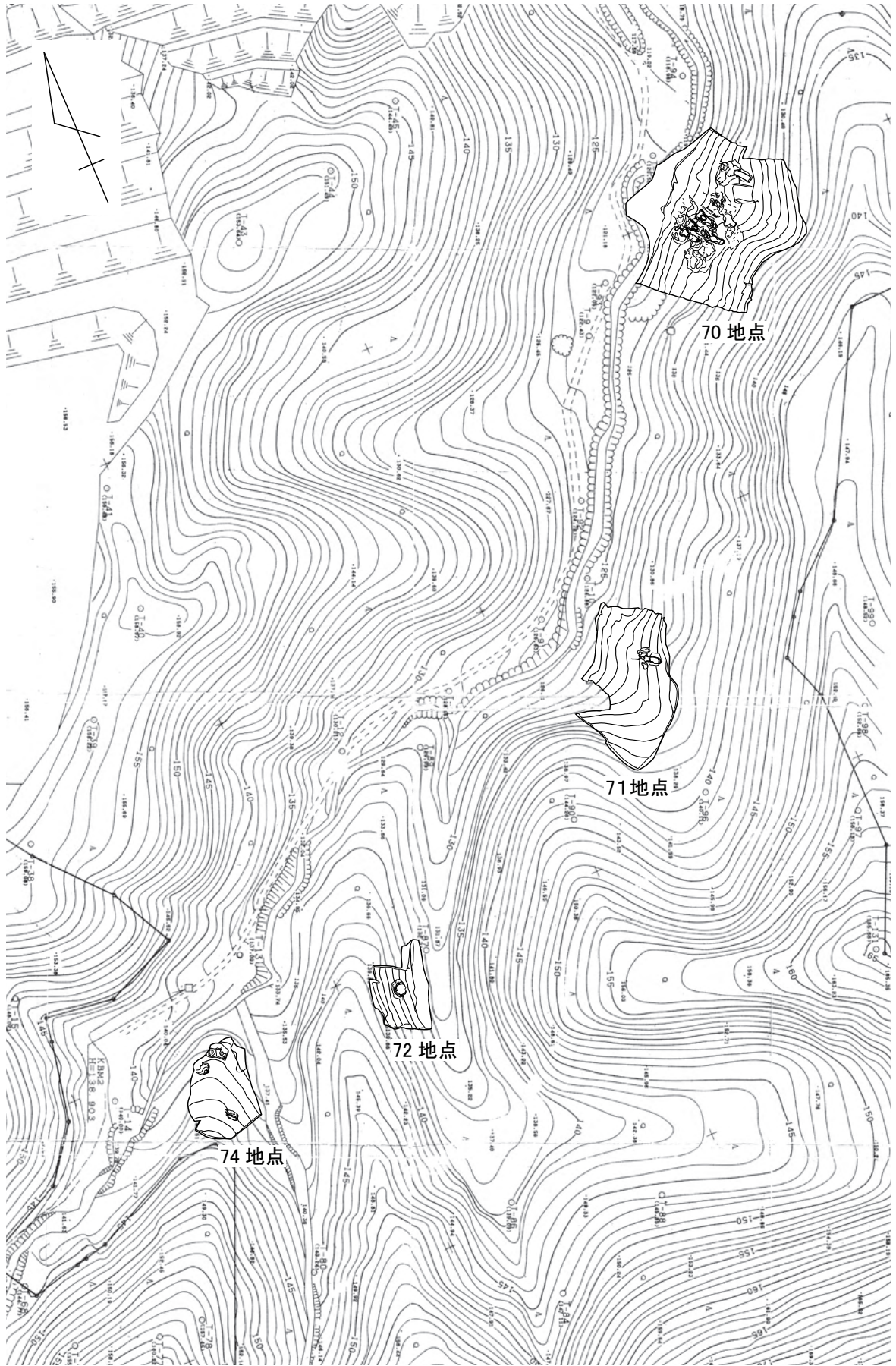
※単位:g

| 地点名 | 須恵器 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 土師器 | | | | 合計 | |
|------|-------|------|-------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|-----|
| | 杯蓋B | 杯蓋A | 蓋(不明) | 壺蓋 | 杯A | 杯B | 杯d | 杯不明 | 椀 | 皿 | 盤 | 高杯 | 鉢 | 壺 | 短頸壺 | 長頸壺 | 壺 | 瓶 | 不明製品 | 不明脚 | 杯 | 杯不明 | 壺 | | 不明 |
| 69地点 | 1号窯内 | 210 | 0 | 0 | 0 | 20 | 60 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 300 |
| | 1号灰原 | 150 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 150 |
| | 焼土坑埋土 | 40 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 80 |
| | 表土 | 240 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 320 |
| 合計 | 640 | 0 | 10 | 0 | 20 | 90 | 0 | 60 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 850 | |
| % | 75.3% | 0.0% | 1.2% | 0.0% | 2.35% | 10.6% | 0.0% | 7.1% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 3.5% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | |

69地点の出土総重量は0.85kgである。杯B蓋が全体の75.3%を占めており、ついで杯B身が10.6%であった。器種が不明な破片が3.5%あるものの、杯B蓋、杯A、杯B身以外の器種の出土は認められない。本地点は、他地点に比べ出土総量が極端に少なく、比較は難しいが、蓋や杯を主体に生産が行われていた可能性が高いと考えられる。 (稗田)

(7) 小結

69地点では、須恵器窯跡と焼土坑が1基ずつ確認された。窯跡は、ほとんど失われていたことから、直立煙道窯であること以外、規模についてはまったく不明である。また焼土坑も単独で立地しており、窯跡との関係等は不明である。出土遺物から、1号窯跡はⅦA期、焼土坑も同様の時期であり、それ以外の遺構は確認できないことから、短期間の操業であったと考えられる。 (石木)



第27図 70~72・74地点調査地配置図 (1/1,000)

3. 70地点の調査

(1) 調査概要 (第27・28図、図版3)

後田窯跡群70～74地点は、龍華霊園の霊園拡張工事第2工区の開発にともなって行われ、68・69地点の調査が行われた第1工区の南側にあたる。68地点から南側に入り込んだ谷部に灰原や須恵器の出土が認められ、北側から順に70～74地点の地区割りが行われたが、73地点は表土剥ぎを行った結果、遺構は確認されなかったことから、欠番としている。

70地点は北側にのびる丘陵西側斜面に位置する。試掘調査で灰原が確認されたG・H地点にあたり、発掘調査の結果、5基の窯跡が確認された。いずれも斜面中位に位置する。3～5号窯跡は並んで作られており、1号窯跡築造時に埋められている。なお、6号窯跡については、須恵器窯跡前庭部のような土坑が確認されたことから、調査時に窯跡の可能性を考えたが、窯体や焼土は確認できなかったことから、窯跡ではないと考えられる。

(2) 70-1号窯跡 (第29～31図、図版3・4)

1号窯跡は、調査地のほぼ中央で検出された。窯は全長2.64m、主軸はN-42°-W、焚口部は幅0.92m、焼成部の最大幅は1.12mである。窯の平面プランは、側壁が緩くふくらみ、奥壁は丸くなる。焚口部の右側には、高さ18cm、幅24cmの石が立てられている。前庭部は、床面が径0.9mほど落ち込んでいた。この落ち込みは、4号窯跡の排煙口部分にあたり、4号窯跡埋没後に1号窯跡の操業が行われ、1号窯跡の操業終了後に落ち込んだものと考えられる。前庭部の左右には土坑が掘られており、特に右側からは須恵器蓋杯などのほか粘土塊焼台が集められた状態で多数出土している。

焚口・燃焼部 焚口部は幅0.92mで、床面は10°奥壁側にむかって上がる。主軸上で1.26mの所から床面の傾斜角度が変わることから、ここが燃焼部と焼成部の境としておきたい。焼成部境の幅は1.1mである。側壁は貼壁が認められ、焚口部から約0.8mの所からオーバーハングすることから、窯体入口はこのあたりにあったと考えられる。断割の結果、床面には貼床(貼床a)が認められ、これを掘り下げると長さ0.84m×幅0.52m×深さ19cmの舟底状ピットが確認された。舟底状ピットからは須恵器杯蓋などが出土した。

焼成部 焼成部の平面プランは緩やかにふくらんでおり、最大幅は1.14m、燃焼部境から奥壁までの長さは1.38mである。床面の傾斜角度は25～35°と窯尻に行くに従い急になる。側壁は中位ほどまで貼壁が認められ、床面の貼床は色調や砂粒の状況から、a・b・c・gに分けることができた。床面に焼台のくぼみは認められなかった。奥壁は丸く掘り上げられ、高さ24cmで排煙口にいたる。天井部が失われているため、正確な高さは明らかにできないが、焼成部中位の最も残りの良い部分で高さ46cmである。

排煙部 丸い奥壁から続き、煙道は長さ0.62mが残る。煙道はやや焚口側に傾斜しており、焚口側は失われているため、排煙口の径は明らかにできない。

前庭部 窯体の前面部はハの字にひらき、長さ1m×幅2mである。床面は還元され、灰白色になる。床面で確認された径0.9mの落ち込みは、4号窯跡の煙道部に落ち込んでおり、1号窯跡の

灰原が続くことから4→1号窯跡の順で操業されたと考えられる。西側の土坑は、長さ2.53m×幅3.04mで大きく掘り広げられる。深さは約1.4mで、平坦面には須恵器と焼台が集積されていた。須恵器・焼台の集積は前庭部よりも高い位置にある。左側土坑は、長さ1.37m×幅0.75m、深さは最大1.77m掘り込まれる。

灰原 検出時、窯跡の下方長さ約11m×幅約12mの範囲に大きく広がることを確認した。直下にある3～5号窯跡を埋めており、一部は4号窯跡窯内におよぶ。灰層の状況は、3～5号窯跡の項で述べる。 (石木)

(3) 出土遺物

窯体内 (第32図、図版26)

杯蓋 (229・230) 舟底状ピットから出土した。口縁端部を短く引き出し断面三角形を呈する。天井部外面に回転ヘラケズリを施し、ボタン状のつまみを有する。230は天井部がわずかに丸味をおびる。口縁端部はわずかにつまみ出す。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。

皿 (231) 口縁部は直線的に大きく開く。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、体部と底部との境は明瞭である。

不明製品 (232) 方形を呈し、上下ともに欠損しているため詳細な形態は不明である。表・裏面はケズリ調整を施し、右左側面は面取りをしている。残存長は3.5cm、幅1.5cm、厚さ0.8cmを測り、用途は不明である。

前庭部 (第33・34図、図版26～29)

杯蓋 (233～251) 丸味をおびドーム状を呈する形態と、扁平なものの2種類に分類される。いずれも口縁端部は短く引き出し、断面三角形を呈するが、233は引き出さず、端部を丸くおさめ、240はわずかに突出させる。234・235・237～239・247・248・250は天井部外面に回転ヘラ切りし、その中でも247は回転ヘラ切り後板状工具によるナデが見られる。他は回転ヘラケズリ後ナデを施す。いずれも擬宝珠様のつまみを有する。中でも235・244・245・249は中央が高く山形で、248は菱形を呈する。その他は扁平な形状である。250は口縁端部外面に1条の沈線を施す。251は復元口径が29.4cmを測り大型で、皿の蓋と考えられる。

杯 (252～259) 杯Aである。252～258は口縁部が直線的に開き外反する。259は口縁部が丸味をおび、外方に引き出すことにより外面にわずかな段が入る。いずれも底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施す。253は底部外面に簾状の圧痕が残り、258は板状の圧痕が見られる。

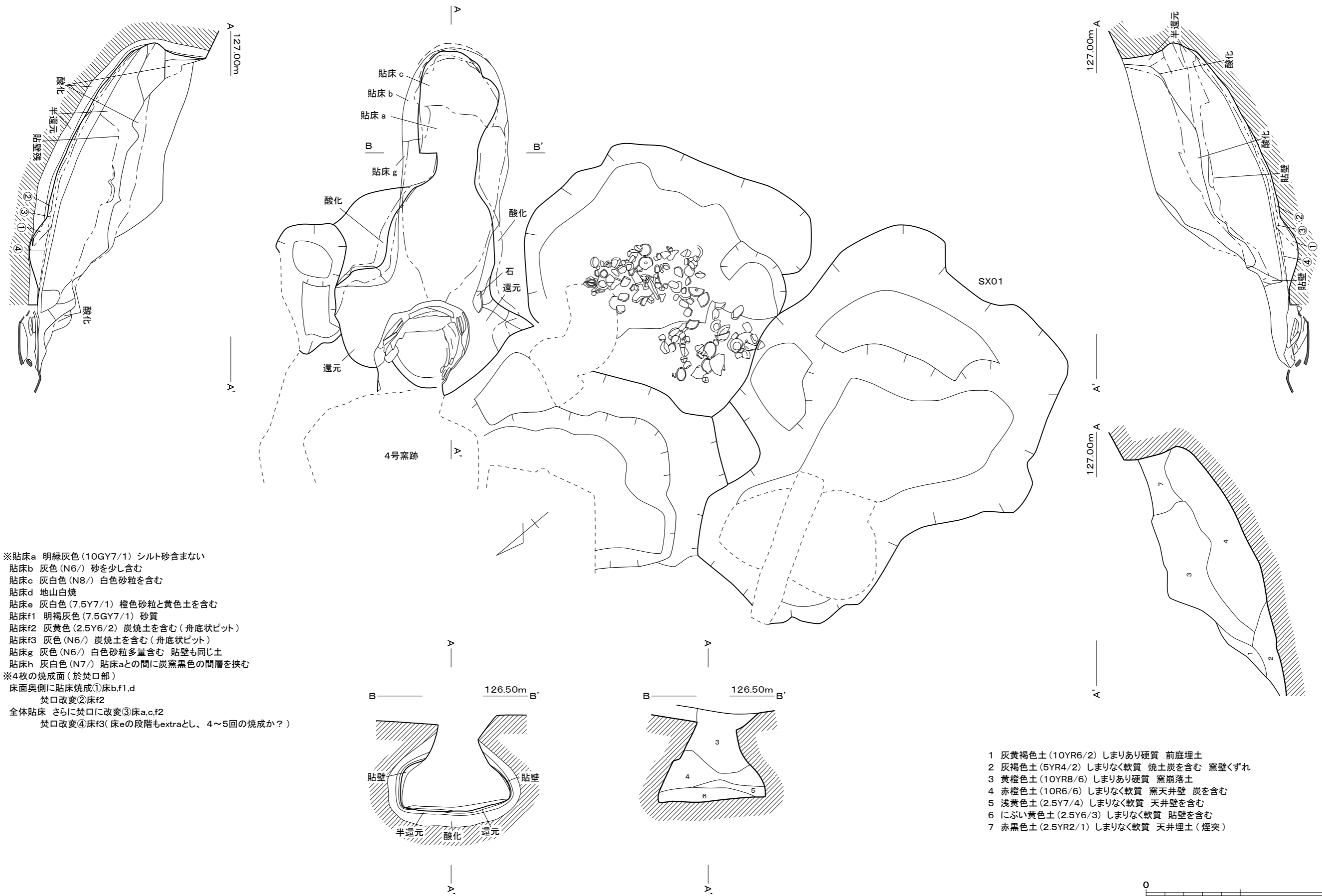
杯身 (260～270) 杯B身である。いずれも口縁部がやや直線的に開き、特に261・264・266・270は口縁部がわずかに外反し、260・262・263・265・267～269は丸くおさめる。高台は低く断面方形を呈する。262は見込みに重ね焼き痕が残る。265は底部外面に簾状の圧痕、266は板状の圧痕が見られる。267は口縁部外面に工具による回転ナデにより沈線が巡る。

皿 (271～273) いずれも体部が大きく開く。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、272は底部外面に工具痕が見られる。

高杯 (274) 杯部のみの資料である。口縁部を強く屈曲させ、やや外傾しながら口縁端部にいたる。



第28图 70地点地形测量图 (1/150)· 1~6号案迹配置图 (1/300)

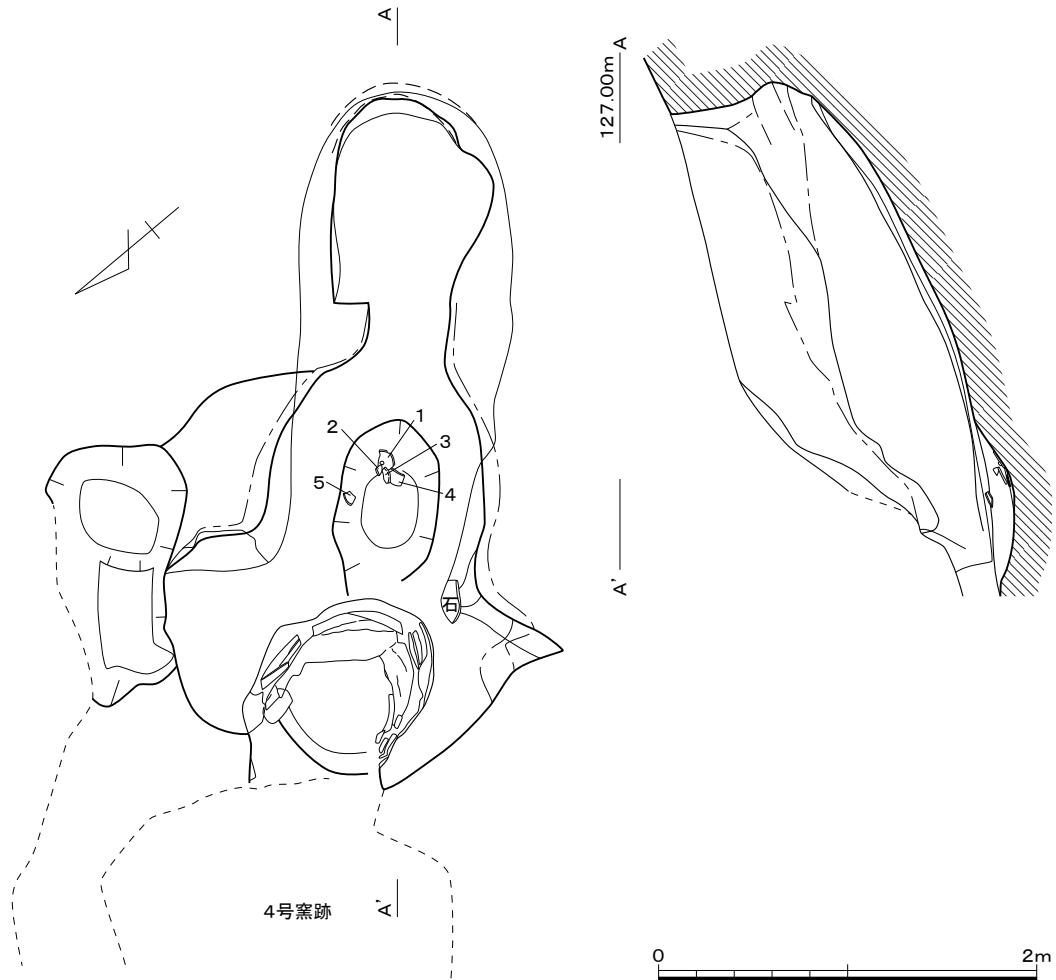


※貼床a 明緑灰色(10GY7/1)シルト砂含まない
 貼床b 灰色(N6/)砂を少し含む
 貼床c 灰白色(N8/)白色砂粒を含む
 貼床d 地山白焼
 貼床e 灰白色(7.5Y7/1)橙色砂粒と黄色土を含む
 貼床f1 明褐灰色(7.5GY7/1)砂質
 貼床f2 灰黄色(2.5Y6/2)炭焼土を含む(舟底状ピット)
 貼床f3 灰色(N6/)炭焼土を含む(舟底状ピット)
 貼床g 灰色(N6/)白色砂粒多量含む 貼壁も同じ土
 貼床h 灰白色(N7/)貼床aとの間に炭黒色の間層を挟む
 ※4枚の焼成面(於焚口部)
 床面奥側に貼床焼成①床b.f1.d
 焚口改変②床f2
 全体貼床 さらに焚口に改変③床a.c.f2
 焚口改変④床f3(床eの段階もextraとし、4~5回の焼成か?)

- 1 灰黄褐色土(10YR6/2) しまりあり硬質 前庭埋土
- 2 灰褐色土(5YR4/2) しまりなく軟質 焼土炭を含む 窯壁くずれ
- 3 黄橙色土(10YR8/6) しまりあり硬質 窯崩落土
- 4 赤橙色土(10R6/6) しまりなく軟質 窯天井壁 炭を含む
- 5 浅黄色土(2.5Y7/4) しまりなく軟質 天井壁を含む
- 6 にぶい黄色土(2.5Y6/3) しまりなく軟質 貼壁を含む
- 7 赤黒色土(2.5YR2/1) しまりなく軟質 天井埋土(煙突)



第 29 図 1号窯跡最終操業面実測図 (1 / 40)



第30図 1号窯跡貼床除去後遺物出土状況実測図 (1/40)

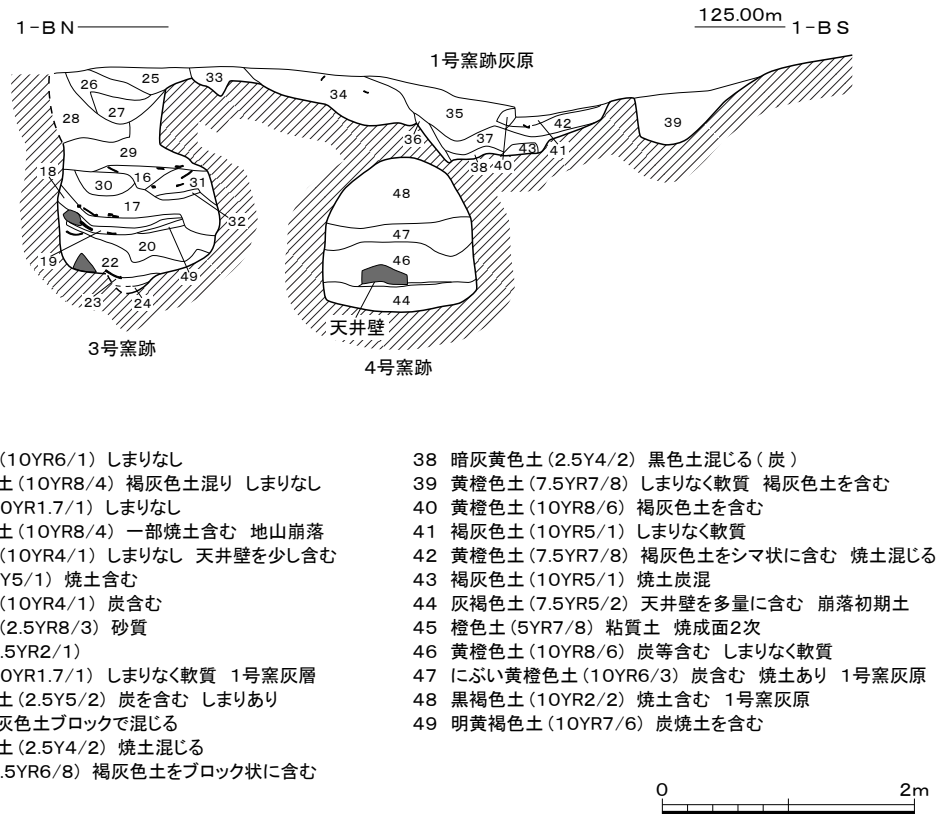
口縁端部は外方につまみ出し断面嘴状を呈する。

壺 (275・276) 275は長頸壺の体部、276は短頸壺である。275は肩部が強く張り、稜が付く。体部は回転ヘラケズリを施し、肩部に別個体の融着片が確認される。276は口縁部が直立し端部を外方にややつまみ出す。体部最大径を上半にとり、下半は外面に回転ヘラケズリを施す。

穿孔土器 (277) 平坦な形態で、焼成前に穿孔を1ヶ所施す。焼成不良で、摩滅が著しく調整不明瞭である。

灰原 (第35・36図、図版29～31)

杯蓋 (278～292) 天井部が丸みをおびる形態とドーム状を呈するものの2種類に分類される。278～282・286～290は口縁端部が下方に短く引き出し、断面三角形を呈す。283はわずかに下方に引き出し丸くおさめ、285はわずかに突出させる。278～283・285・287～289・291は天井部外面に回転ヘラ切り後ナデを施し、その他は回転ヘラケズリを施す。つまみは擬宝珠様で、他は宝珠様に分かれる。278は中心からずれて貼り付けられ、288は中央が高くわずかに乳頭状をなし丸くおさめる。290は全体が丸く、つまみと天井部との境が明瞭である。291・292は重ね焼きにより融着した資料である。



第31図 1号窯跡灰原土層断面実測図 (1/60)

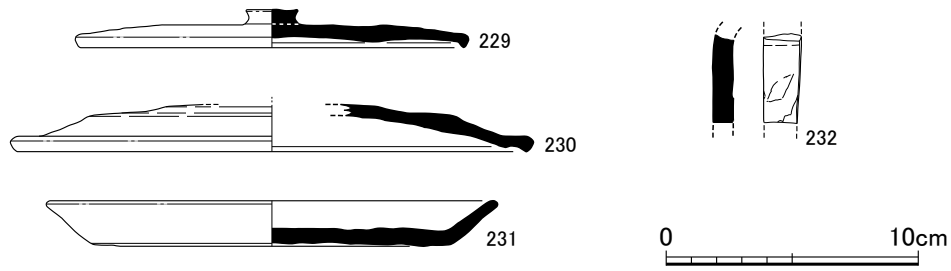
杯 (293) 杯 A で、底部は平らで体部との境は明瞭である。

杯身 (294~302) 杯 B 身である。294・297~300は体部が直線的に開く。296は口縁部が大きく外反しハの字状を呈し、底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施す。301は丸味をおび、ゆるく外反する。302は大きく外方に開き、口縁部にいたる。いずれも高台が低く断面方形を呈する。

皿 (303~306) 303は体部が直線的に外方に開き、304は直線的に外方に開き口縁部はわずかに外反する。いずれも底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。304は板状の圧痕が残る。305・306は台付き皿である。305は口縁部が丸味をおび、やや外反する。306は体部が直線的に大きく外方に開き、逆ハの字状を呈する。いずれも高台が低く断面方形を呈する。306は見込みに重ね焼きの痕跡が見られる。

壺 (307~311) 307~309は短頸壺の蓋である。307は体部が垂直気味にのび、端部を外方につまみ引き出す。308は体部が垂直気味にのび、天井部は平坦でやや凹む。口縁端部は外方につまみ出し屈曲させ、強い回転ナデにより外面に稜が付く。内面はやや丸味をおびて肥厚し、端部には段が付く。天井部外面に回転ヘラケズリを施す。309は体部が垂直気味にのび、口縁端部は平坦に仕上げる。310は長頸壺で、311は短頸壺である。310は胴部下半の破片資料で、肩部が大きく張り断面くの字状を呈する。肩部外面に簾状の圧痕が残る。311は体部上半の破片資料で、口縁部は直立して立ち上がり、端部を強い回転ナデにより仕上げる。最大径は体部上半に位置すると思われる。

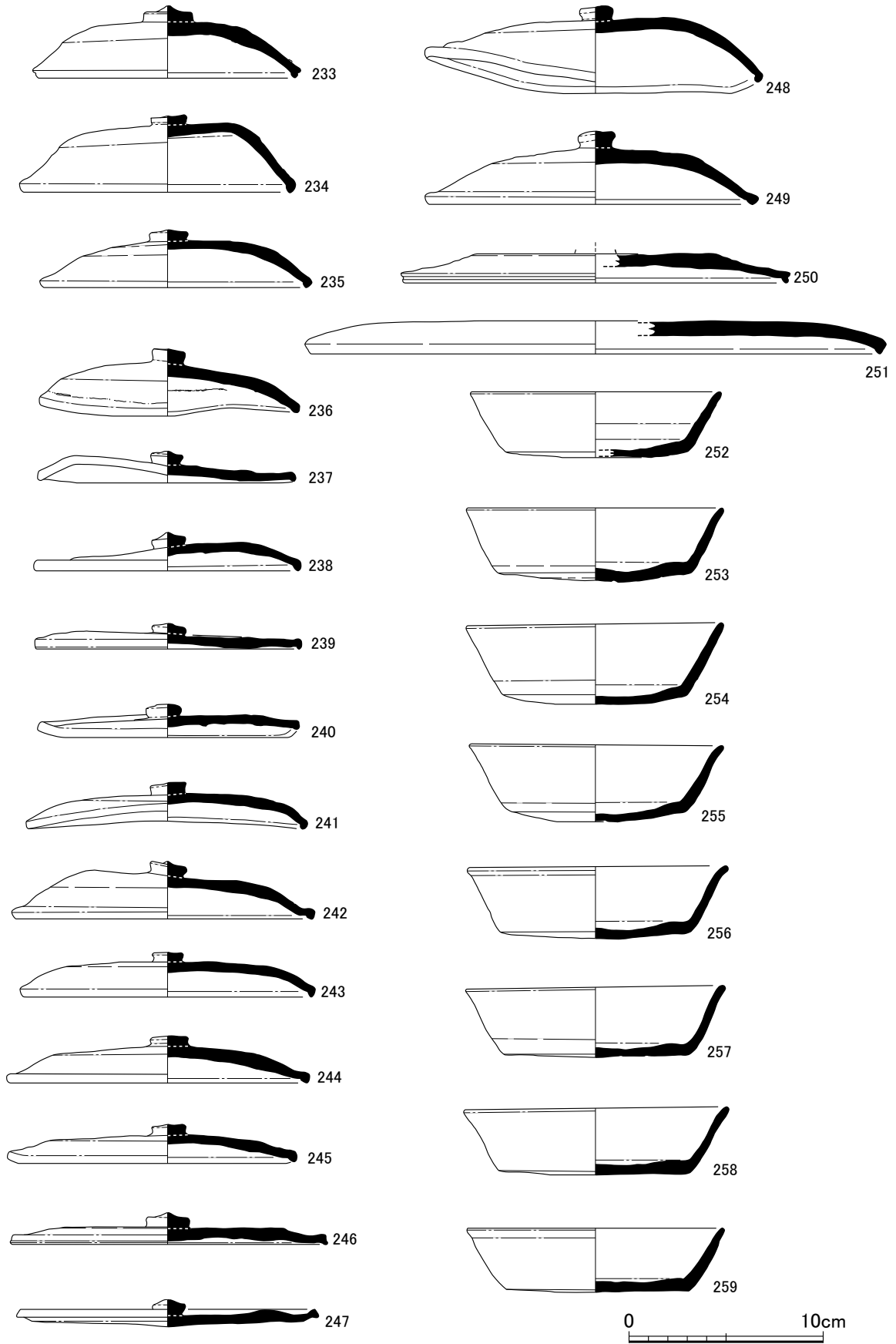
瓶 (312~316) 312は平瓶、313は瓶子、314は双耳瓶である。312は口縁部から頸部の資料である。頸部はやや外反しながらラッパ状に開き、口縁端部を外方につまみ出し大きく外反する。313は口



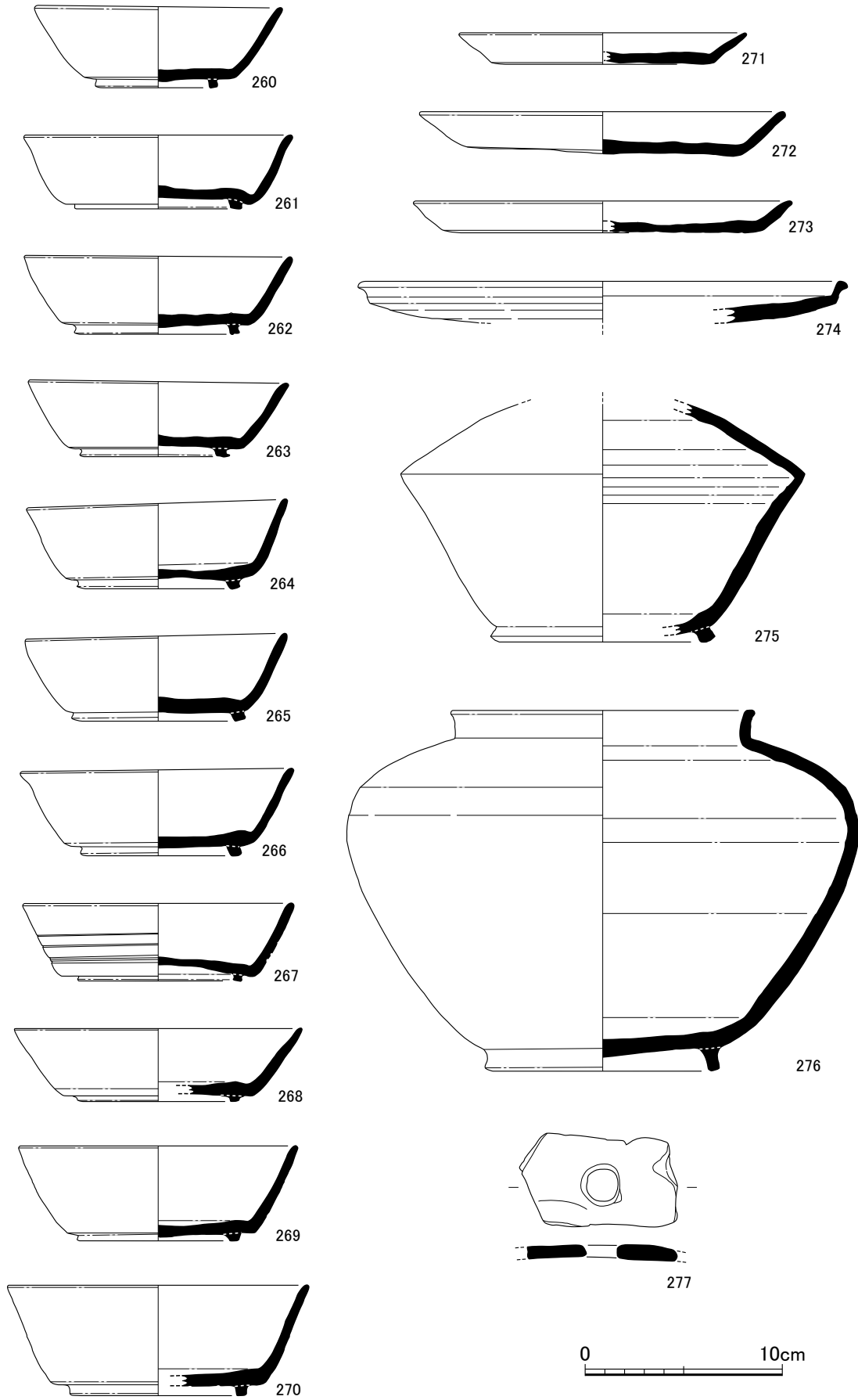
第32図 1号窯跡窯体内出土遺物実測図(1/3)

縁部を大きく外方に引き出し、端部を上方に突出させて断面嘴状にする。体部最大径は体部上半にとる。底部外面に重ね焼き痕が残る。314は肩部に耳が付き、耳部はナデを施す。耳下端部は貼付け時に工具により切り取る。体部外面は回転ヘラケズリ後回転ナデを施す。315・316は底部のみの破片資料である。315・316は体部が直線的にやや開く。316は底部外面に、回転ヘラ切り後板状の圧痕が残る。315は底部外面に回転ヘラケズリを施す。315・316は壺の可能性もある。

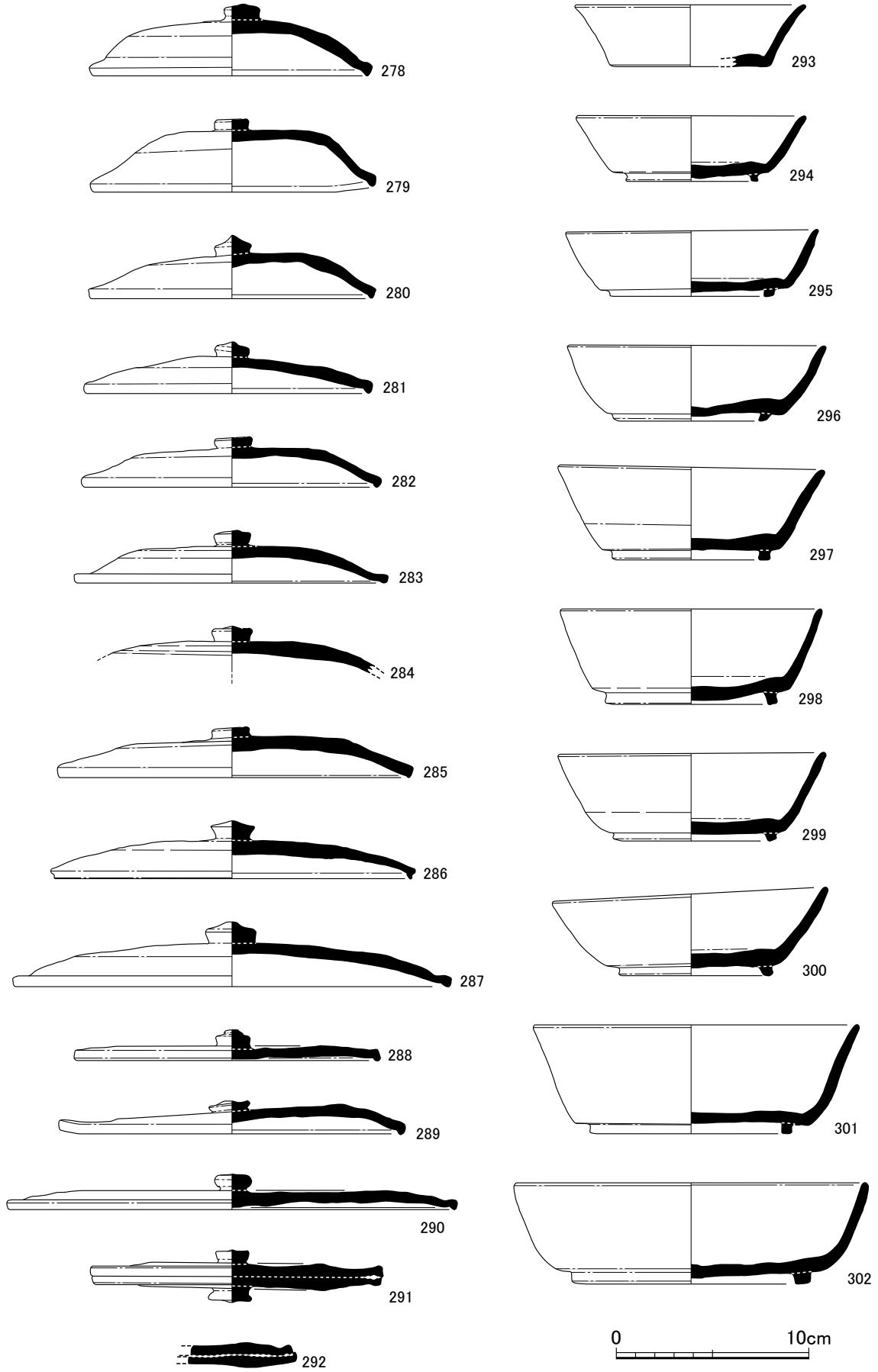
鉢(317) 口縁部から体部にかけて直線的に開き、口縁端部は内湾する。口縁端部は回転ナデにより段をなす。(藤島)



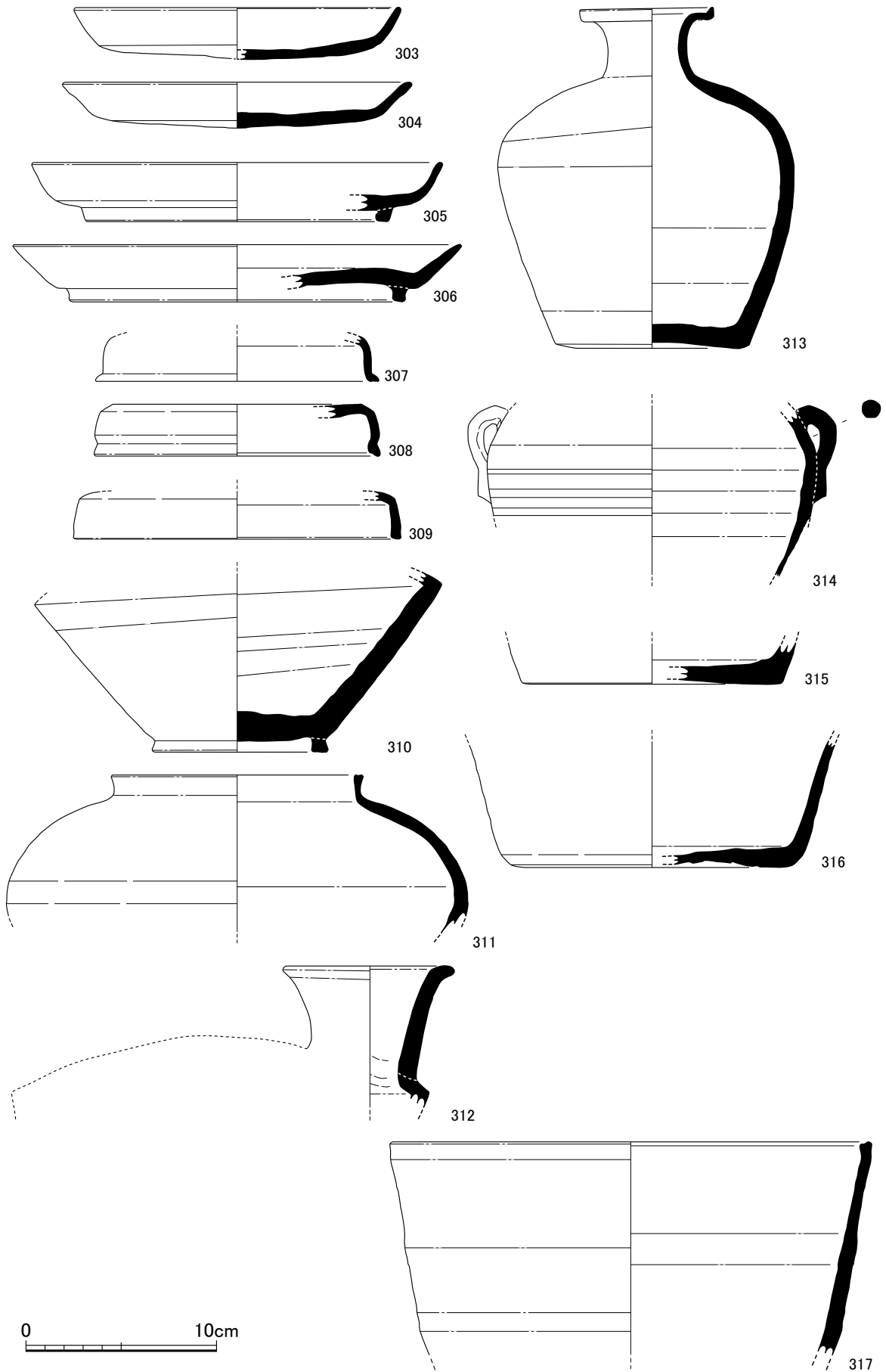
第33图 1号案迹前庭部出土遗物实测图① (1/3)



第34图 1号窑迹前庭部出土遗物实测图② (1 / 3)



第35图 1号窯跡灰原出土遺物実測図① (1/3)



第36图 1号窑迹灰原出土遗物实测图②(1/3)

(4) 70-2号窯跡 (第37・38図、図版4・5)

2号窯跡は、調査地の東側に単独で位置する。窯は全長2.42m、主軸はN-29°-W、焚口部の幅は0.83m、窯の平面プランは長方形に近いプランをとる。土層の観察より、窯は焼成後まもなく一気に崩落したようであり、奥壁は地山ごと窯内に倒れこんでおり、完全に失われ、煙道部も確認できない。

焚口・燃烧部 焚口部は幅0.83mで、焼成部との境は明確ではないが、焚口部から0.74mでやや傾斜が急になることから、このあたりと考えられる。この場合、燃烧部の床面傾斜角度は12°である。焼成部境の床面幅は0.88mである。両側壁とも貼壁が認められるが、床面の貼床は確認できなかった。窯体の入口は、側壁の還元面の範囲より、焚口部から約40cm奥壁側にあると考えられるが明らかにできない。

焼成部 焼成部は長さ1.59mで、ほぼまっすぐ奥壁にむかってのびており、奥壁側の幅は0.82mである。床面の傾斜角度は14~35°で、側壁は貼壁が残る。床面に貼床は認められず、奥壁も失われているが矩形になるようである。窯内の土層から、床面直上に天井壁の崩落土が認められ、奥壁と考えられる層が倒れ込んでおり、一気に窯が壊れたようである。

排煙部 完全に失われており確認できないが、土層観察からは奥壁床面から約1m直立する煙道部があったようである。

前庭部 窯体の前面部にハの字に開く。焚口部に長さ1.35m、幅は最大5.05mで平坦面を持ち、斜面下方は階段状に土坑が連続して掘られている。床面は焚口部より前庭部側も約0.5m還元している。

灰原 2号窯跡の斜面下方に、長さ約7m×幅約6mの範囲で確認された。厚さは0.2~0.5mで、他の遺構との切り合いは認められなかった。(石木)

(5) 出土遺物

窯体内埋土 (第39図)

杯蓋 (318) 焼き歪みが激しく詳細な形態は不明である。口縁端部は下方に折り曲げ、断面嘴状を呈する。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。宝珠様のつまみを有し、中央が突出する。

杯身 (319) 杯B身である。体部は直線的に外方へ開き、高台は低く断面方形を呈する。

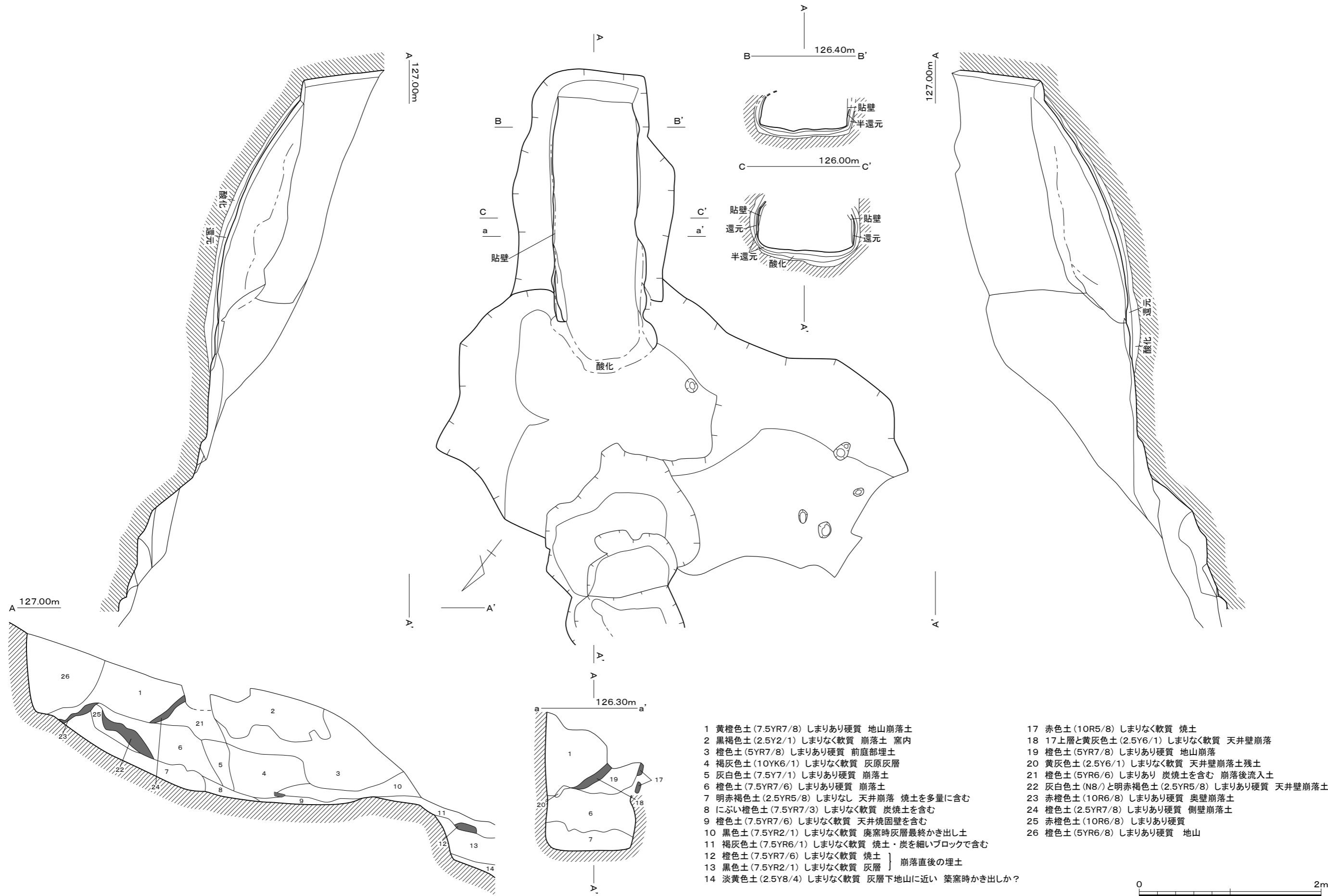
皿 (320) 体部は直線的に外方へ開きハの字状に開く。底部は丸みをおび突出する。底部外面は回転ヘラ切り後板状工具によるナデを施し、体部と底部との境はやや不明瞭である。

壺 (321) 長頸壺の口縁部から頸部にかけての資料である。口縁端部を外方に突出させ、頸部中位に沈線を2条巡らせる。

前庭部 (第40図、図版32・33)

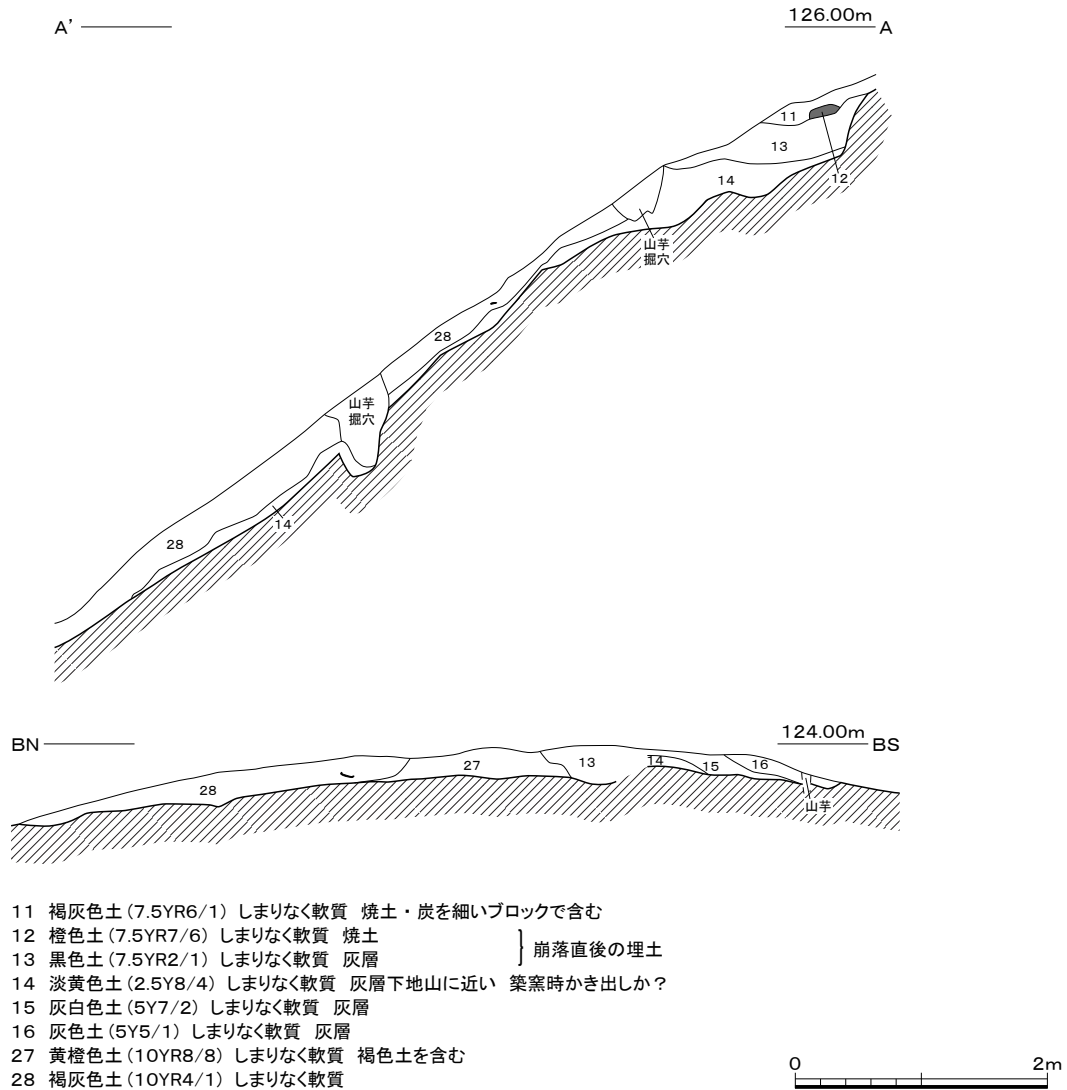
杯蓋(322~325) 322は扁平な形態で器高が低い。口縁端部は下方に引き出し断面三角形を呈する。323は天井部から口縁部にかけて丸みをおびる。324・325は口縁部が丸みをおび、天井部が平坦である。いずれも口縁端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈する。322~325は天井部外面に回転ヘラケズリを施す。323~325は扁平なボタン状のつまみを有し、323・325は中央がわずかに突出する。

杯(326) 杯Aである。口縁部が直線的にハの字状に開く。底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施し、



- 1 黄橙色土 (7.5YR7/8) しまりあり硬質 地山崩落土
- 2 黒褐色土 (2.5Y2/1) しまりなく軟質 崩落土 案内
- 3 橙色土 (5YR7/8) しまりあり硬質 前庭部埋土
- 4 褐灰色土 (10YK6/1) しまりなく軟質 灰原灰層
- 5 灰白色土 (7.5Y7/1) しまりあり硬質 崩落土
- 6 橙色土 (7.5YR7/6) しまりあり硬質 崩落土
- 7 明赤褐色土 (2.5YR5/8) しまりなし 天井崩落 焼土を多量に含む
- 8 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) しまりなく軟質 炭焼土を含む
- 9 橙色土 (7.5YR7/6) しまりなく軟質 天井焼固壁を含む
- 10 黒色土 (7.5YR2/1) しまりなく軟質 廃棄時灰層最終かき出し土
- 11 褐灰色土 (7.5YR6/1) しまりなく軟質 焼土・炭を細いブロックで含む
- 12 橙色土 (7.5YR7/6) しまりなく軟質 焼土
- 13 黒色土 (7.5YR2/1) しまりなく軟質 灰層 } 崩落直後の埋土
- 14 淡黄色土 (2.5Y8/4) しまりなく軟質 灰層下地山に近い 築窯時かき出しか?
- 17 赤色土 (10R5/8) しまりなく軟質 焼土
- 18 17上層と黄灰色土 (2.5Y6/1) しまりなく軟質 天井壁崩落
- 19 橙色土 (5YR7/8) しまりあり硬質 地山崩落
- 20 黄灰色土 (2.5Y6/1) しまりなく軟質 天井壁崩落土残土
- 21 橙色土 (5YR6/6) しまりあり 炭焼土を含む 崩落後流入土
- 22 灰白色土 (N8/)と明赤褐色土 (2.5YR5/8) しまりあり硬質 天井壁崩落土
- 23 赤橙色土 (10R6/8) しまりあり硬質 奥壁崩落土
- 24 橙色土 (2.5YR7/8) しまりあり硬質 側壁崩落土
- 25 赤橙色土 (10R6/8) しまりあり硬質
- 26 橙色土 (5YR6/8) しまりあり硬質 地山

第37図 2号窯跡実測図 (1/40)



第38図 2号窯跡土層断面実測図 (1/60)

口縁部と底部との境は明瞭である。

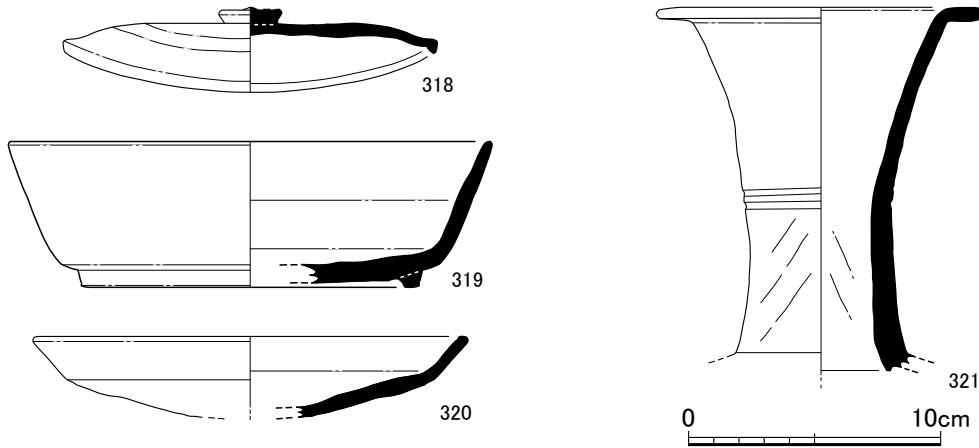
杯身 (327~330) 杯B身である。327は体部が大きく開き、体部下は回転ナデにより上半と下半の境に稜をつくる。329・330は体部が直線的に外方へ開き、328は体部から口縁部にかけてわずかに外反する。327~330は高台が低く断面方形を呈する。

高杯 (331) 杯部は浅く、口縁部は直立し端部を平坦におさめる。脚部はラッパ状に開き、脚端部は下方にわずかに突出し丸くおさめる。

壺 (332) 短頸壺の蓋である。天井部から口縁部にかけて垂直に下げる。口縁端部は外方へつまみ出し丸くおさめる。

灰原1区 (第41図、図版33)

杯蓋 (333~336) 333は天井部がやや高く、口縁部にかけて下り、端部をやや内側に折り曲げる。334は天井部から口縁部にかけて丸みをおびドーム状を呈する。口縁端部は下方へ折り曲げ、断面嘴状を呈する。天井部外面に回転ヘラケズリを施し、外面は強い回転ナデにより沈線状の稜が巡る。



第39図 2号窯跡窯体内埋土出土遺物実測図(1/3)

335は焼け歪むが、扁平で器高が低い。口縁端部を下方につまみ引き出し丸くおさめ、天井部外面に回転ヘラケズリを施す。336は扁平で器高が低く、天井部から口縁部にかけて平坦である。口縁端部は下方にわずかに突出し、回転ヘラ切り後板状工具によるナデが見られる。336は菱形の擬宝珠様のつまみを有し、334・335は扁平なボタン状のつまみが付く。

杯身(337・338) 杯B身である。337は体部が丸みをおび、口縁部はわずかに外反する。高台はやや高く断面方形を呈し、端部を外方に短くつまみ出す。338は体部が直線的に立ち上がり、わずかに内傾しながら口縁部にいたる。高台は低く断面方形を呈する。

皿(339・340) 339は体部が内湾しながら立ち上がる。底部外面は回転ヘラ切り後板状工具によるナデを施し、口縁部と底部との境は丸い。340は高台を有し大型の資料である。高台は低く断面方形を呈し、底部外面は回転ヘラ切り後板状工具によるナデを施す。

高杯(341) 杯部は浅く、体部から口縁部にかけて大きく広がる。口縁部は直立する。口縁端部外面は外方にわずかにつまみ出し平坦に仕上げる。脚部は短く、ハの字状に開きながら裾部は大きく開く。脚端部は下方につまみ出し、断面三角形状を呈する。脚部の内外面にシボリ痕が残る。

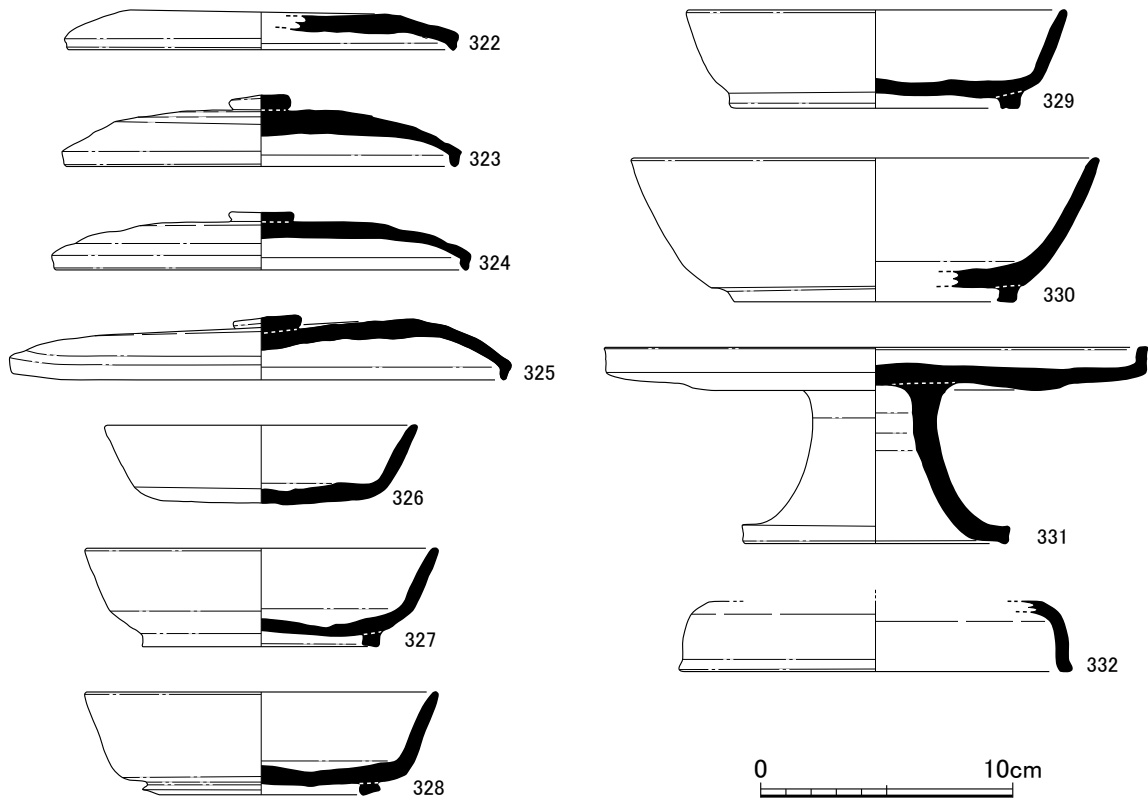
壺(342) 短頸壺である。口縁部は直立し、端部は強い回転ナデにより段を付ける。体部の最大径は上半に位置し、底部は丸く、高台よりも下方に突出する。体部下半は回転ヘラケズリを施す。

瓶(343) 双耳瓶である。肩部に対になる把手を有する。頸部は外方に開き、口縁部は外方に大きく開き、再度屈曲させ直立する。頸部下に2条、肩部に2条沈線を施す。頸部にはシボリ痕が残る。

灰原2区(第42図、図版34)

杯蓋(344~348) いずれも扁平な形態である。344~346は口縁端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈する。347・348は天井部から口縁部にかけて扁平な形状で、焼け歪み、天井部は中央が凹む。口縁端部は下方につまみ出し丸くおさめる。344~348はいずれも天井部外面に回転ヘラケズリを施す。346~348は擬宝珠様のつまみを有する。346は中央が高く山形を呈し、347・348は中央がわずかに高く突出する。344・345はボタン状のつまみが付き、344は高く、345は扁平である。

杯身(349) 杯B身である。口縁部が直線的に外傾し、口縁端部下はゆるく内湾しながら立ち上



第40図 2号窯跡前庭部出土遺物実測図(1/3)

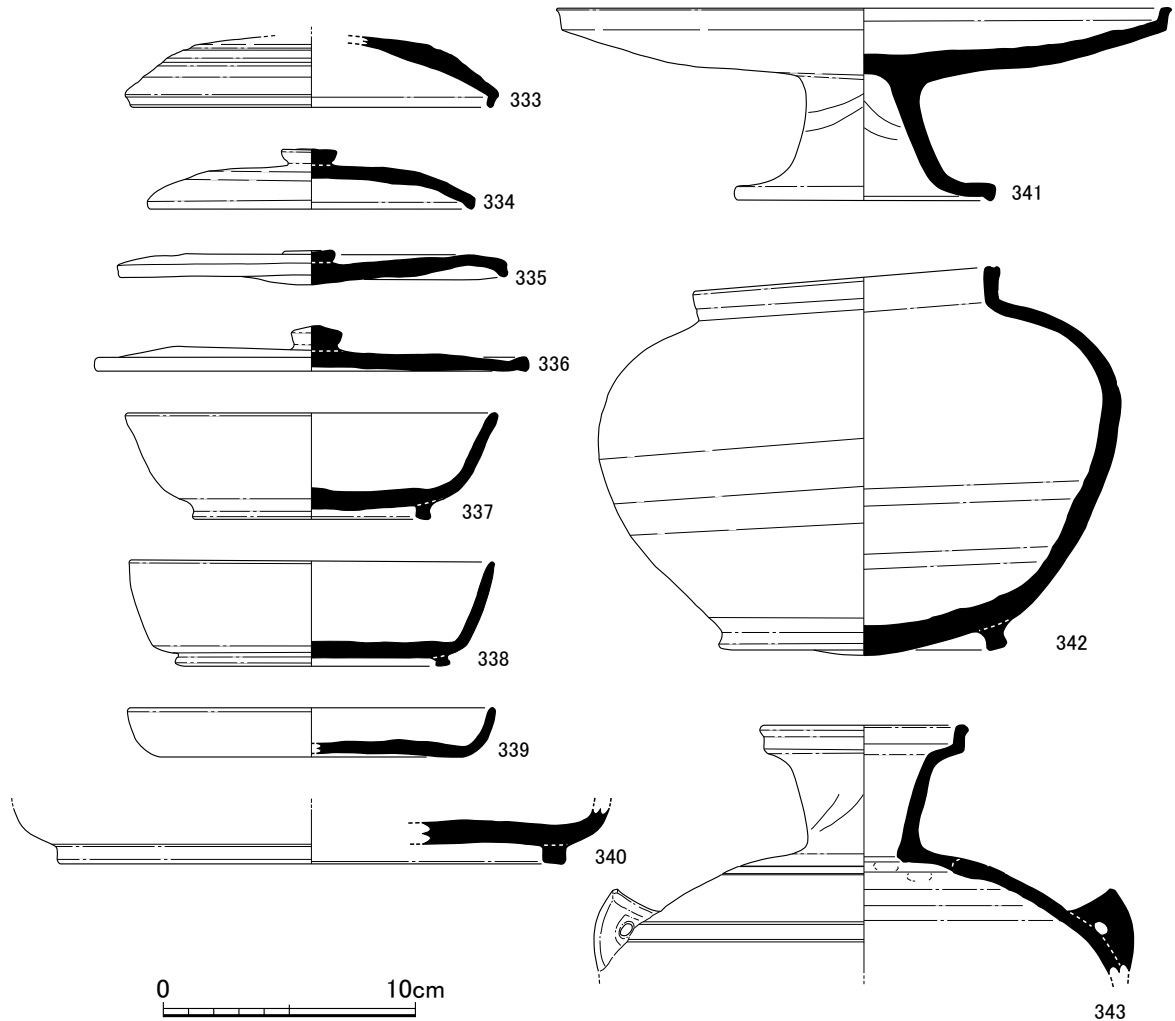
がる。高台はやや低く断面方形を呈する。

穿孔土器 (350) 平坦な形態を呈し、焼成前に穿孔を1ヶ所施す。表裏面はナデを施し、焼成は不良である。

灰原3区 (第43・44図、図版34~36)

杯蓋 (351~367) 351~353は天井部から口縁部にかけて丸味をおびる形態でドーム状を呈する。354~367は扁平な形態である。362~364・367は天井部から口縁部にかけて平坦で、器高が低い。365・366は口縁部から天井部中央にかけて大きく凹み、焼け歪んでいる。351・353・356~360・363・365~367は口縁端部を下方につまみ出し、断面三角形を呈する。352・354・355は下方につまみ出す。362・364は口縁端部をわずかに下方につまみ出す。361は下方に折り曲げ、口縁部外面に強い回転ナデを施し、段を有する。351~358・360~364・367は天井部外面に回転ヘラケズリを施し、359・365・366は回転ヘラ切りを施す。352・353・356・357・362・365~367は擬宝珠様のつまみを有する。353・362は中央が高く山形を呈する。352・365・366は中央がやや高く扁平である。356・357・367は中央がわずかに高く突出する。354・355・358~361・363・364はボタン状のつまみが付く。355・358・360・361は扁平な形態で、364は中央がわずかに膨らむ。354は天井部に焼成前穿孔が現存で1ヶ所確認される。367は天井部外面に輪状に当たる工具痕が見られる。

杯 (368) 杯Aである。2枚の杯が融着した重ね焼きの資料である。焼き歪みがあるが、口縁部から底部にかけてやや内湾させ端部を丸くおさめる。底部外面は回転ヘラ切り後板状工具によるケズリ、体部下半は板状工具による回転ナデを施す。



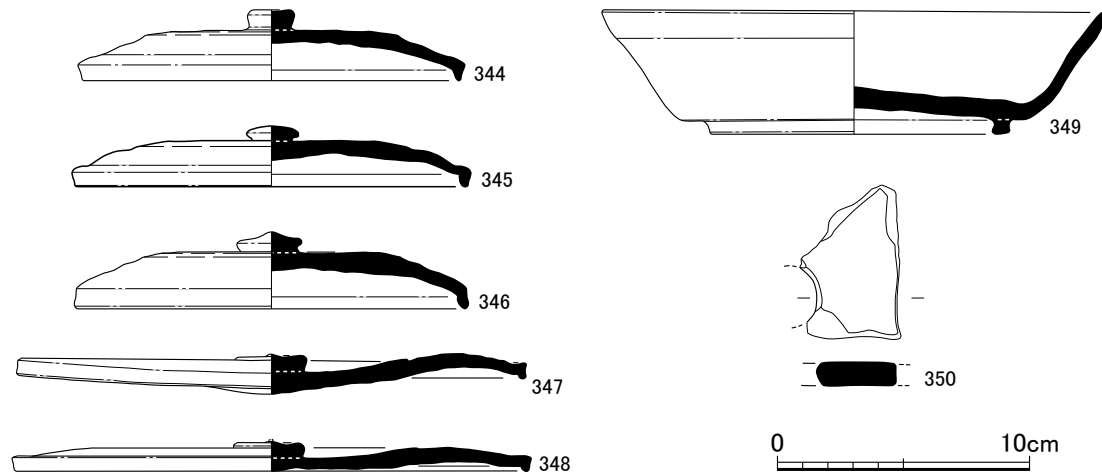
第41図 2号窯跡灰原1区出土遺物実測図(1/3)

杯身(369~376) 杯B身である。369は底部から直線的に外方に開く。高台はやや高く断面方形を呈し、杯底部端に貼り付けられる。370・371・373は体部が外方に開き、口縁端部は外反する。372・375は体部に丸みを持ち外方に開く。374・376は体部が外方に開き、口縁部にいたる。いずれも高台が低く断面方形を呈する。

皿(377) 台付皿である。高台は短く、外端面で接地する。底部外面は回転ヘラケズリを施す。

高杯(378~382) 378・379は杯部の破片資料、380~382は脚部の破片資料である。378・379はいずれも浅く、378は杯部が大きく開き、口縁部を短く直立させ、口縁端部を平坦に仕上げる。底部外面は回転ヘラケズリを施す。379は杯部が大きく開き、口縁部は短く直立する。口縁端部は強い回転ナデにより段が付く。外面の調整は降灰により不明瞭である。380~382は脚部がラッパ状に開く。380は、裾部が大きく外反し端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈する。381は裾部が大きくラッパ状に開き、端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈する。脚部内外面にシボリ痕を残す。382は脚裾部が短く、裾部は大きく開き、端部は下方に短くつまみ出す。

壺(383・384) 383は短頸壺の蓋である。体部が垂直に下り、口縁端部は外反する。天井部外面に回転ヘラケズリを施す。扁平な擬宝珠様のつまみを有する。384は短頸壺である。口縁部はやや



第42図 2号窯跡灰原2区出土遺物実測図(1/3)

外方に開き、端部を平坦に仕上げる。肩部が張り、体部最大径を上半にとる。

甕(385) 口縁部の資料で、外方に開く。口縁部下に断面三角形の突帯を2条巡らせ、口縁端部を平坦におさめる。外面に降灰が認められる。

不明製品(386・387) いずれも脚部と考えられる資料である。386は大型の資料と考えられ、外反しながら伸び、端部は外方に引き出し平坦に仕上げる。内外面回転ナデを施す。387は小型のもので、裾部は大きく屈曲し、端部をわずかに内湾気味に丸くおさめる。内外面回転ナデを施す。

穿孔土器(388) 扁平な資料で、1ヶ所焼成前穿孔が見られる。表面は回転ヘラケズリ、裏面は回転ナデ後ナデを施し、焼成は良好である。杯蓋の可能性はある。

灰原4区(第45・46図、図版36・37)

杯蓋(389~395) 389は天井部が平坦であるが高さのある資料である。口縁端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈する。390~392は扁平な形態である。393~395は丸みを持つ形態である。390・393・394は口縁端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈し、391・392・395は口縁端部を下方につまみ出し、端部は丸くおさめる。いずれも天井部外面は回転ヘラケズリを施す。391・392は扁平な擬宝珠様のつまみで、中央がわずかに突出する。その他はボタン状のつまみが付く。

杯身(396~401) 杯B身である。いずれも体部は丸みを持ち、396・397・400・401は口縁部が緩く外反し、398・399は直線的に外方に開く。いずれも高台が低く断面方形を呈する。

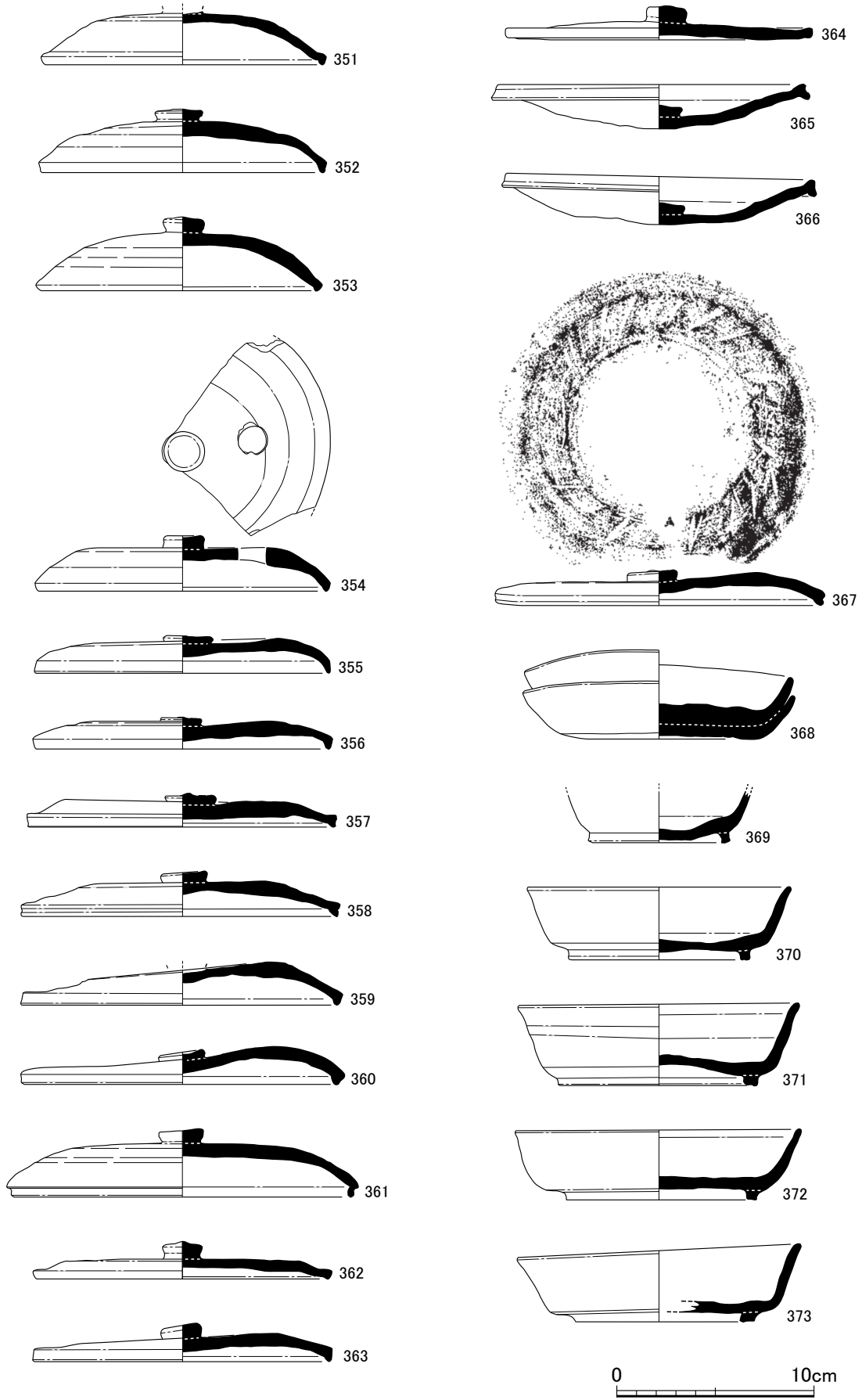
高杯(402) 脚部中位がすぼまり裾部にかけてラッパ状に開く。脚端部を下方にわずかにつまみ出し丸くおさめる。脚部内面にシボリ痕と接合痕が残る。

壺(403) 長頸壺の体部である。肩部は大きく張り、強く稜が付く。

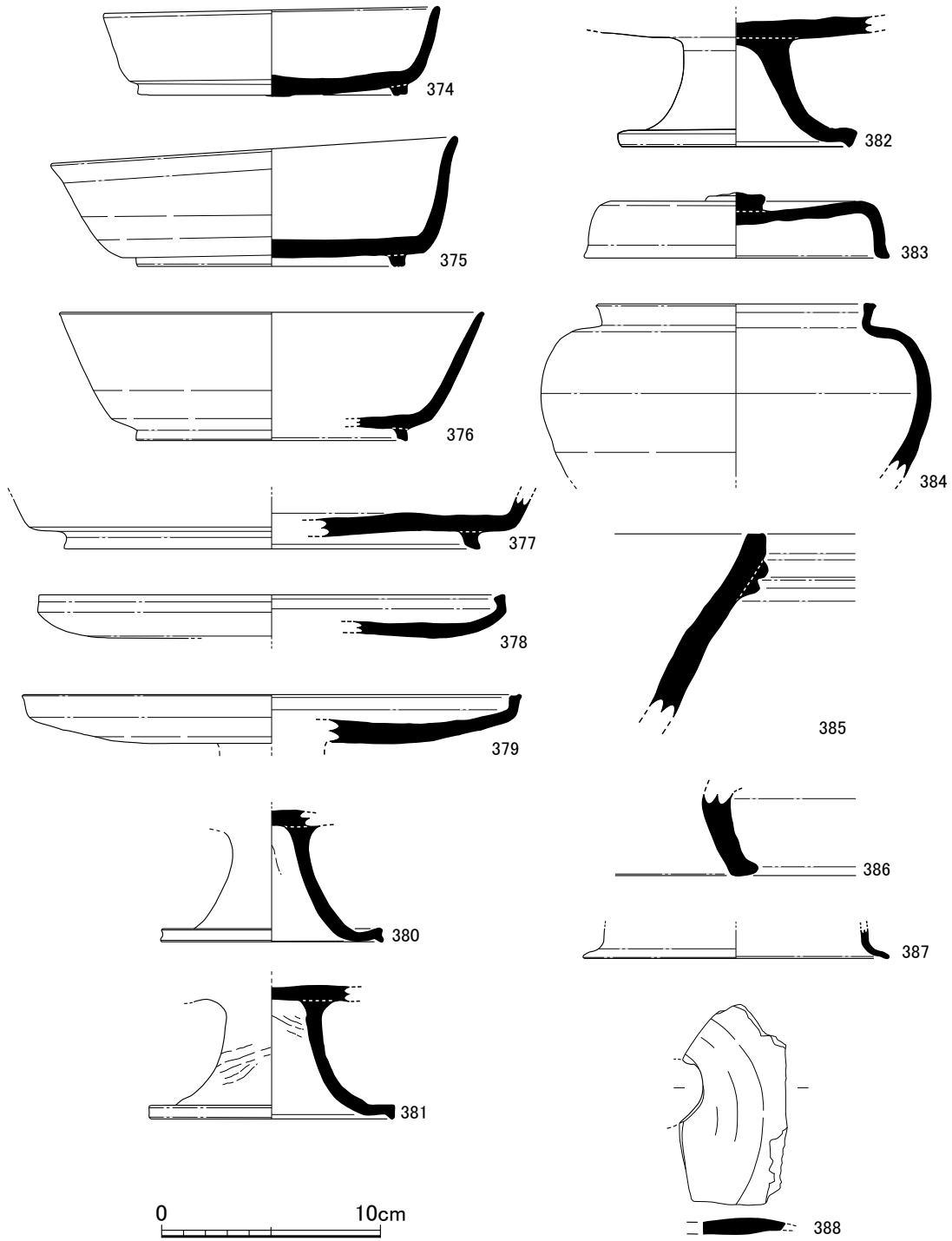
鉢(404) 鉄鉢である。口縁部から体部上半にかけて内湾し、底部は突形を呈する。口縁端部外面をわずかにつまみ出し、端部は内傾する。

焼台(405・406) 粘土を固めた粘土塊焼台である。いずれも窯の床面に貼り付けた際に、上面が平らになるように表面を平坦に成形し、ナデ・ユビオサエでの調整を施す。下面は未調整である。

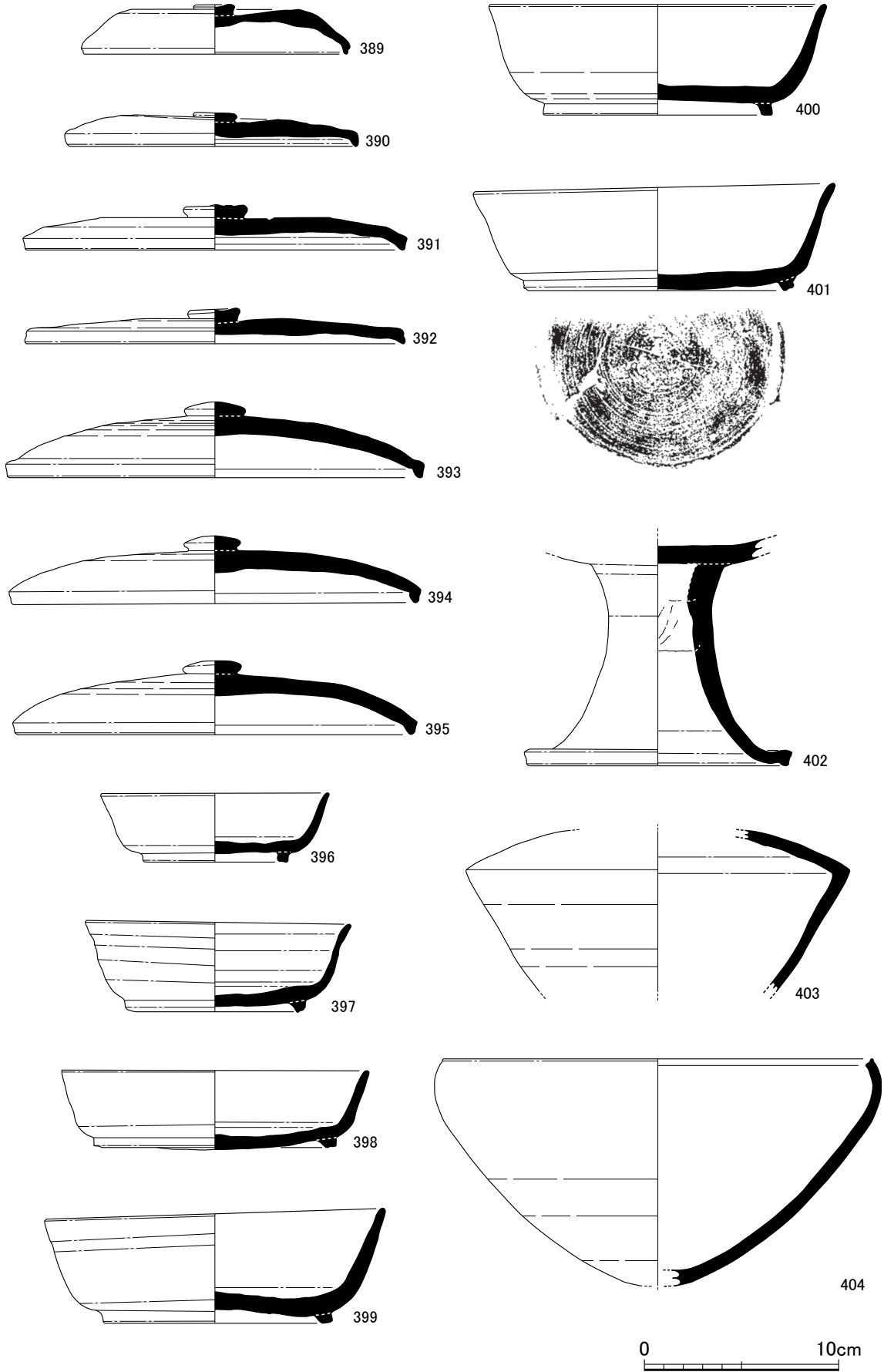
(藤島)



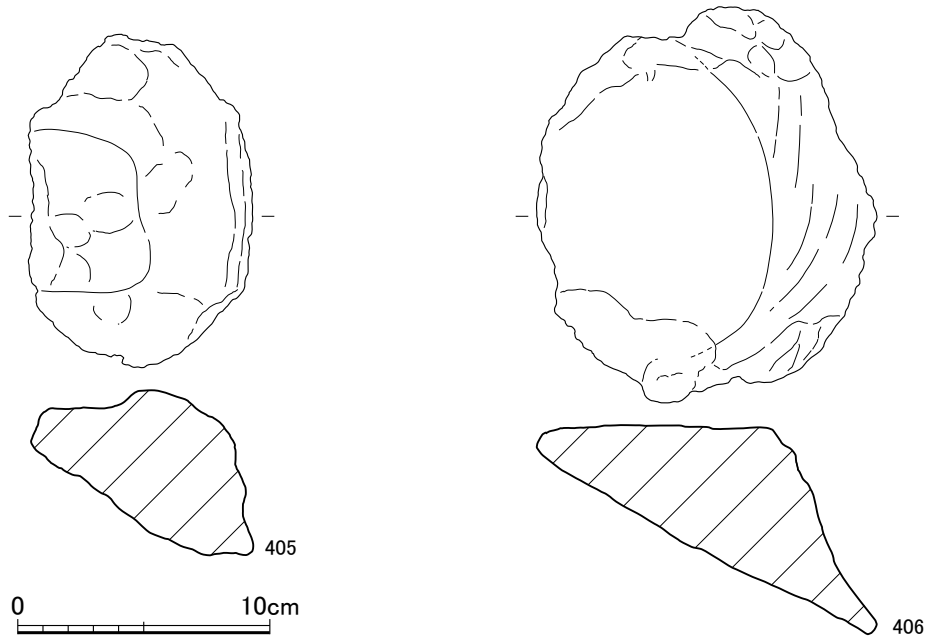
第43图 2号窑迹灰原3区出土遗物实测图① (1/3)



第44图 2号窑迹灰原3区出土遗物实测图② (1/3)



第45图 2号窯跡灰原4区出土遺物実測図① (1/3)



第46图 2号窯跡灰原4区出土遺物実測図② (1/3)

(6) 70-3号窯跡 (第47・48図、図版3・5～7)

3号窯跡は、調査地の中央で確認された。窯は全長3.66m、主軸はN-25°-W、焚口部の幅は1.13m、窯の平面プランは焼成部中位がゆるやかにふくらみ、奥壁は丸くなる。焚口部には両側壁に石が立てられている。窯は1号窯跡の灰層に覆われていた。掘り下げを進めていくと、床面から約30cmの所で、黄色粘土が確認された。黄色粘土は、焼成部の主に右半部で確認され、上面からは多くの遺物が出土した。粘土は最大10cmの厚さがあり、意図的に敷かれたものと考えられ、あるいは床面のかさ上げが行われ、未焼成で終わったものである可能性もあるが詳細は不明である。床面には舟底状ピットが確認されており、操業時は一部(24層)埋めていたと考えられる。

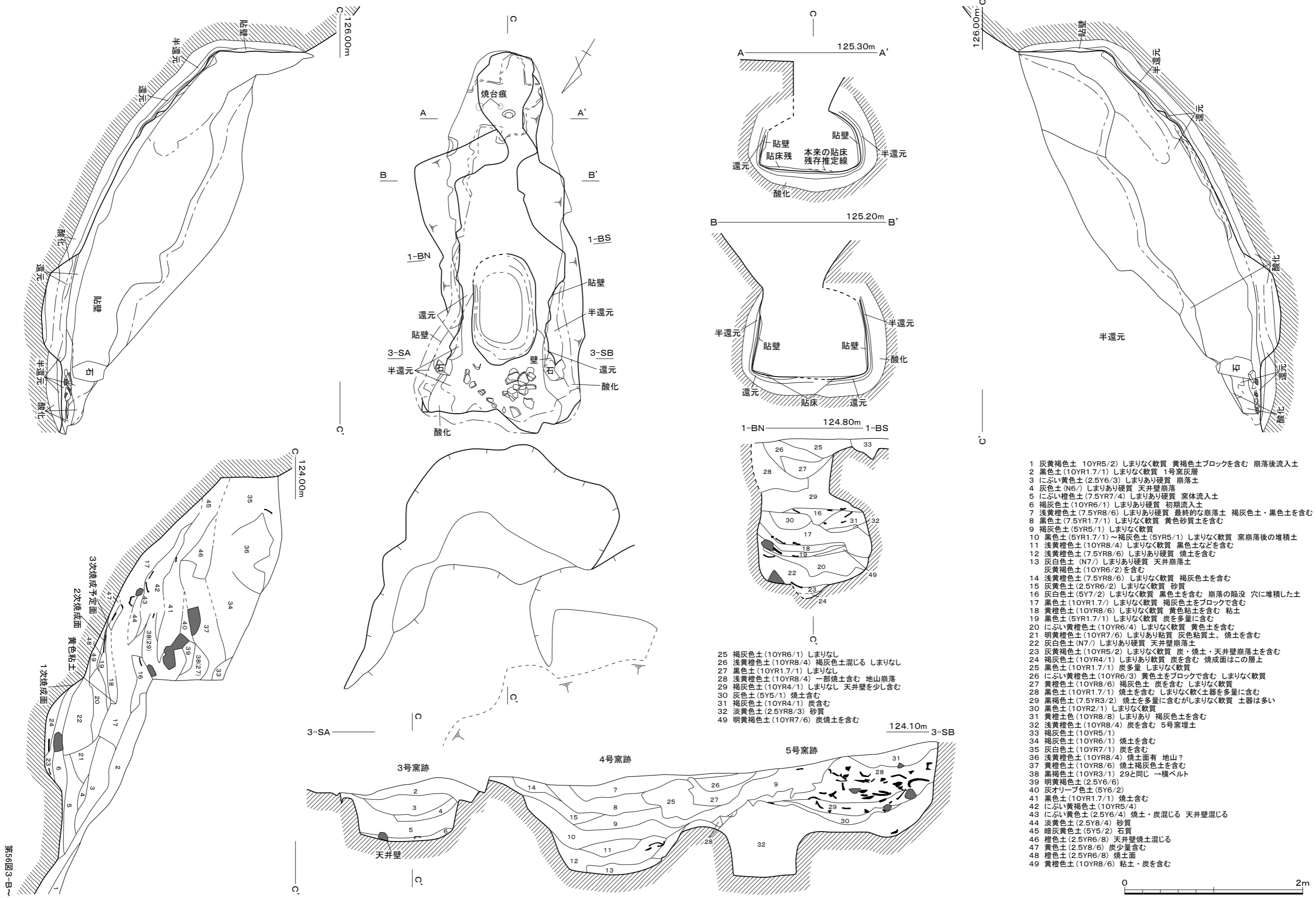
焚口・燃烧部 焚口部は幅1.13mで、焼成部との境は舟底状ピットの奥壁側にあたると思われる。焚口部から舟底状ピットまでの傾斜角度は1°、舟底状ピット上端の傾斜角度は8°である。燃烧部の長さは1.4m、焼成部境の幅は1.26mである。舟底状ピットは、長さ1.18m×幅0.7m、深さ約30cm。調査時に一部掘りすぎたが、楕円形プランを呈する。側壁・床面からは、貼壁・貼床が確認された。

焼成部 焼成部は長さ2.26mで、奥壁にむかってゆるくすぼまっている。奥壁の幅は0.68m。床面の傾斜角度は22～44°で、側壁・床面には貼壁・貼床が施される。右半部で確認された黄色粘土は舟底状ピット付近から奥壁にかけて確認され、窯内の掘り下げを行った時はまだやわらかい状態であった。黄色粘土の上面からは、須恵器蓋杯・粘土塊焼台が出土したが、粘土を敷いた後に置かれたものである。なお、須恵器蓋杯はすでに焼成されたものであり、焼成部全体に置かれていた。無造作に置かれたようであり、規則性はない。また、奥壁側の貼床上からは、径10cm弱の粘土塊焼台の痕跡が認められた。焼成部の高さは明らかにできないが、残存部で0.6～0.83mである。

排煙部 奥壁から直立しており、床面からの残存高は0.96mである。煙道部から排煙口は失われており、明らかにできない。

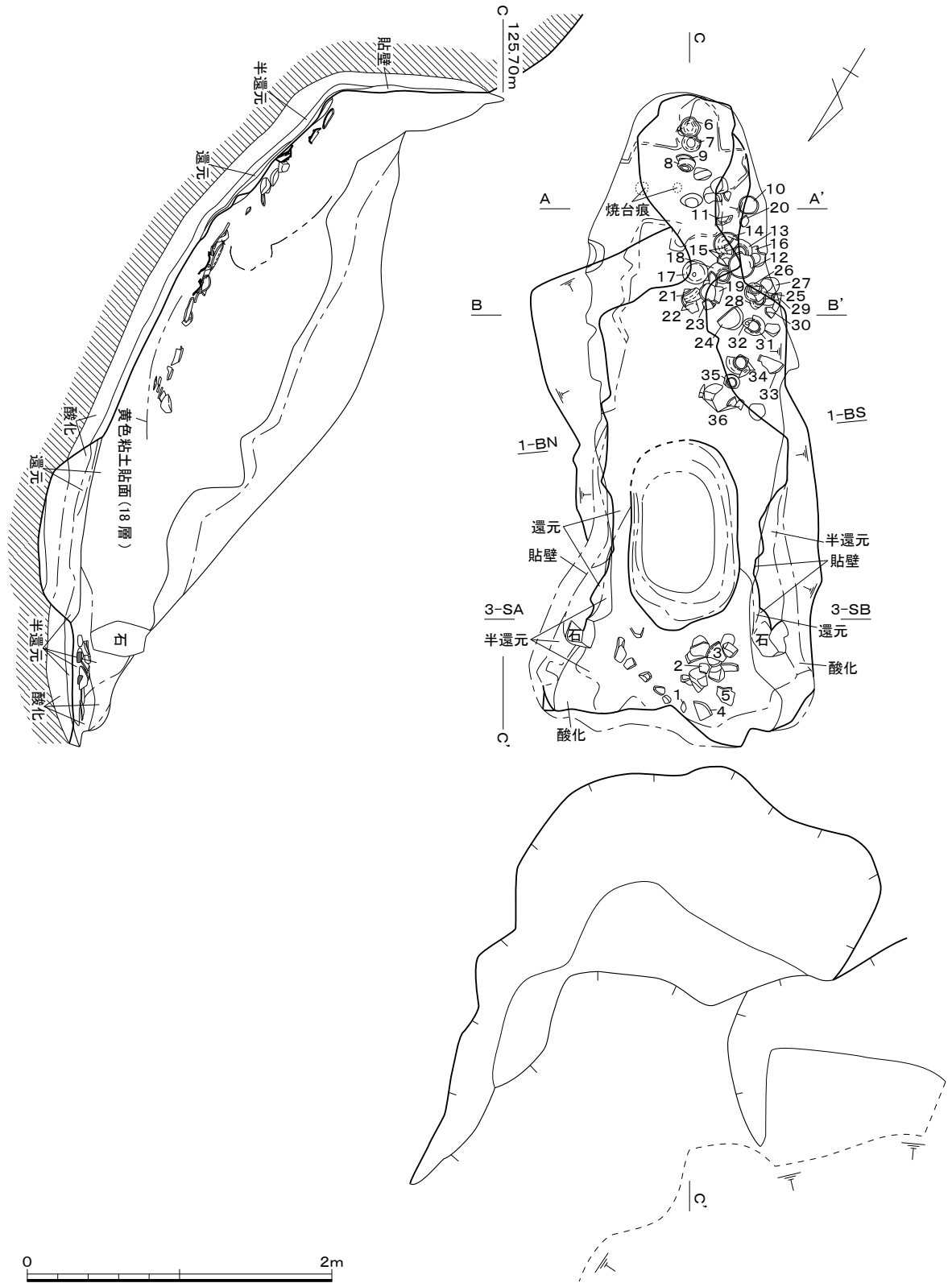
前庭部 焚口部から続く床面は還元している。この部分はハの字に開き、長さ0.6m×幅1.43mである。床面からは、須恵器蓋杯や粘土塊焼台が出土している。焼成部に置かれていたものと一連のものかは、調査では明らかにできなかった。下方には長さ約2.5m×幅3.05mの掘り込みがあり、平坦面を作らず、ゆるく下っていく。

灰原 3号窯跡窯体内縦断土層の観察からは、3号窯跡に伴う天井崩落土(C-C'3層)を覆うように1号窯跡に伴うと考えられる灰層(C-C'2層)が確認された。この層は3号窯跡前庭部で厚さ10cm程度であるが、斜面下方に行くと淡黄色土(第56図3-B・D断面6層)上に止まっているので、ここまでが1号窯跡に伴う灰層である可能性が高い。淡黄色土(第56図3-B・D断面6層)の下層で確認される黒褐色土(第56図3-B・D断面9層)からが3号窯跡に伴う灰層と考えられる。なお、谷部には約0.7mの厚さで黒色土(第56図3-B・D断面24層)を中心とする灰層が確認できるが、縦断土層(第56図1-D～E・3-B～D)の観察からは、1号窯跡、3～5号窯跡のいずれに伴うかは明らかにできない。また、横断土層(第56図3-SA～SB、1-DN～DS)からは4号窯跡との切り合いは明らかにできなかった。(石木)



第47図 3号窯跡実測図 (1/40)

第56図3-B~に継ぐ



第48图 3号窠迹遺物出土状况实测图 (1/40)

(7) 出土遺物 (第49～52図、図版38～41)

杯蓋 (407～434) 丸味をおびドーム状を呈する形態と扁平な形態の2種類に分かれる。407～417・419～423・425・427・429・430・433・434は、口縁端部を下方につまみ出し断面三角形を呈し、418・426・428・431・432は下方にわずかに突出する。天井部外面は、407～412・414・416・417・426～429・431・433は回転ヘラ切り後ナデをし、その他は回転ヘラケズリを施し、中でも434は回転ヘラ切り後板状工具によるナデ、432は回転ヘラ切り後ナデ後板状工具によるナデを施す。いずれも擬宝珠様のつまみが付き、407・422・424・429は中央が高く山形を呈する。413・416は重ね焼きの痕跡が見られ、425は外面に降灰、433は外面に板状の圧痕が認められる。

杯 (435～442) 杯Aである。435は体部は直線的に外方へ開く。底部外面は回転ヘラ切り未調整。436～441は体部が直線的に外方へ開き、442は直線的に開いた後口縁端部をわずかに外反させる。いずれも底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施すが、441は全体摩滅により調整不明瞭である。438は内外面に火襷が認められる。440は底部外面に簾状の圧痕が残る。

杯身 (443～464) 杯B身である。いずれも体部は直線的に外方に開き、中でも445・449・451・453・454・461～464は口縁部がゆるやかに外反し、452は内湾する。447は焼け歪みが著しいため詳細な形態は不明である。高台はいずれも低く断面方形を呈するが、453は端部外面を外方に短くつまみ出す。451は高台端部に板状の圧痕、453は口縁部内面に火襷が認められ、460は底部に簾状の圧痕が残る。464は重ね焼き。杯蓋を逆さにして、杯身を重ねる。

皿 (465～479) いずれも体部は直線的に外方に開き、口縁端部は外方にわずかに外反するが、477は口縁端部を大きく外反させる。465～475は底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施し、その他は回転ヘラケズリを施す。474は外面に火襷が認められ、477は底部に1ヶ所、焼成前穿孔が確認される。478・479は台付き皿である。478は高台が低く端部外面をつまみ出し外反させる。479は高台が低く断面方形を呈する。

高杯 (480) 杯部のみの資料である。口縁部を強く屈曲させ、やや外傾しながら口縁端部に至る。口縁端部は外方につまみ出し、底部に回転ヘラケズリ後ナデを施す。

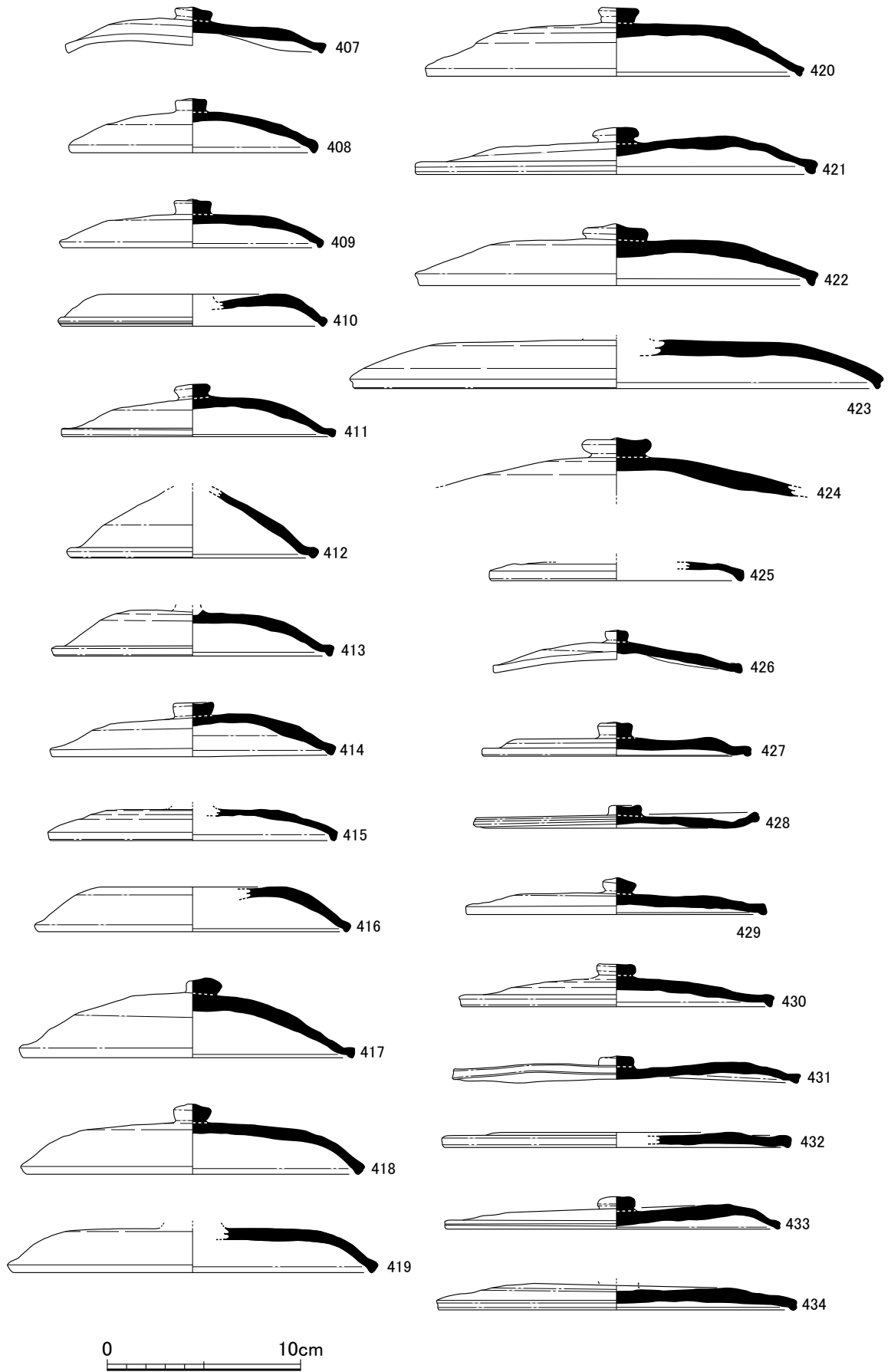
鉢 (481・482) いずれも頸部から口縁部にかけて外方に開き、体部最大径は上半に位置する鉢である。体部下半に回転ヘラケズリを施し、481は胴部中位にハケ状のアタリ、底部にハケ状の圧痕が認められる。また、内面に火襷状の色変が見られる。

甕 (483) 頸部から口縁部にかけて大きく開く。口縁端部外面に断面三角形の小突帯が3条巡る。頸部割れ目に粘土が剥がれた痕跡が認められる。口径は47cmを超える。

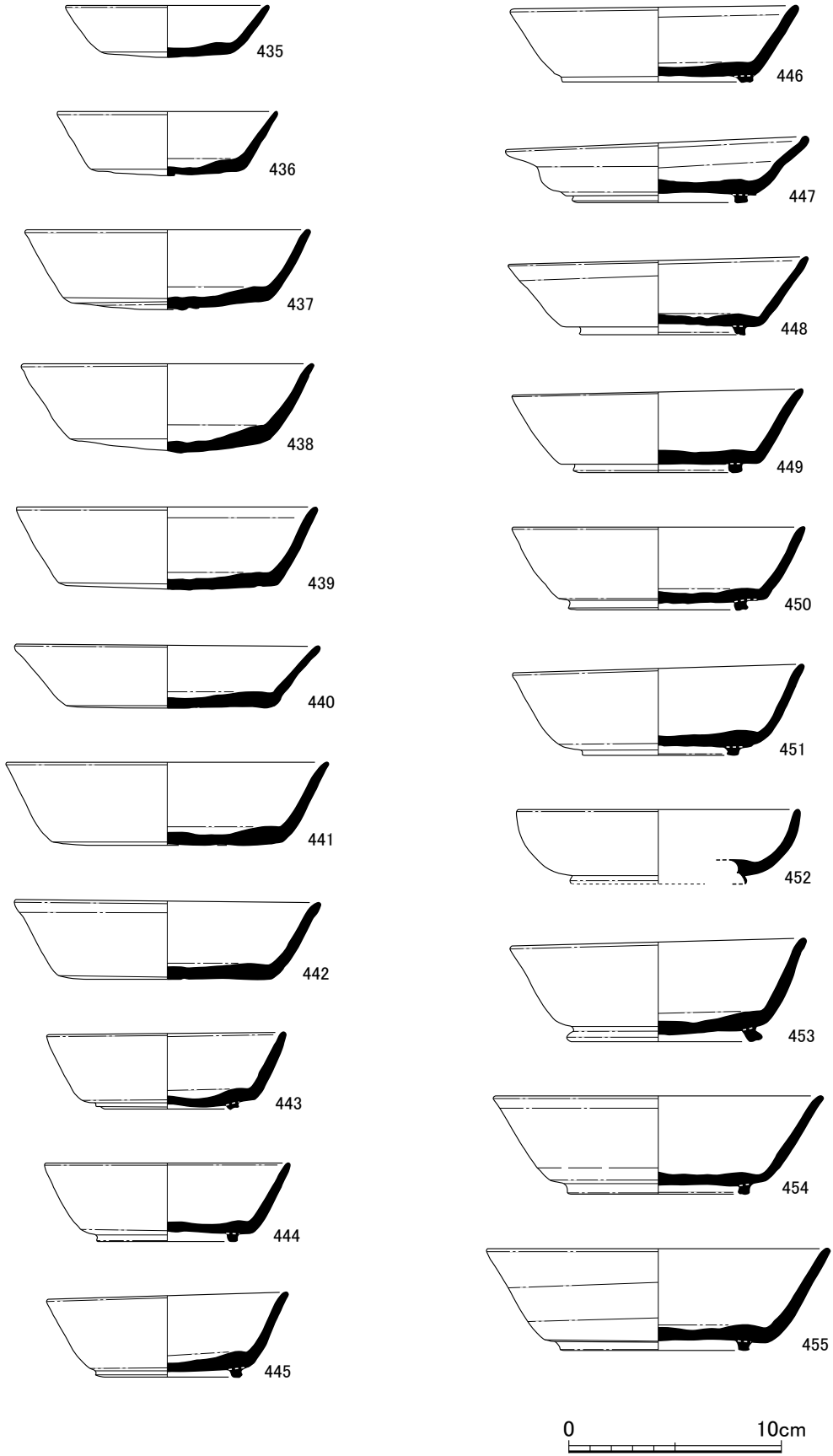
穿孔土器 (484) 杯蓋で、口縁部はやや丸みを帯び、天井部はやや平坦である。天井部外面に回転ヘラケズリを施し、天井部に焼成前に1ヶ所孔を穿つ。焼成はやや不良である。(藤島)

(8) 70-4号窯跡 (第53・54図、図版3・8～10)

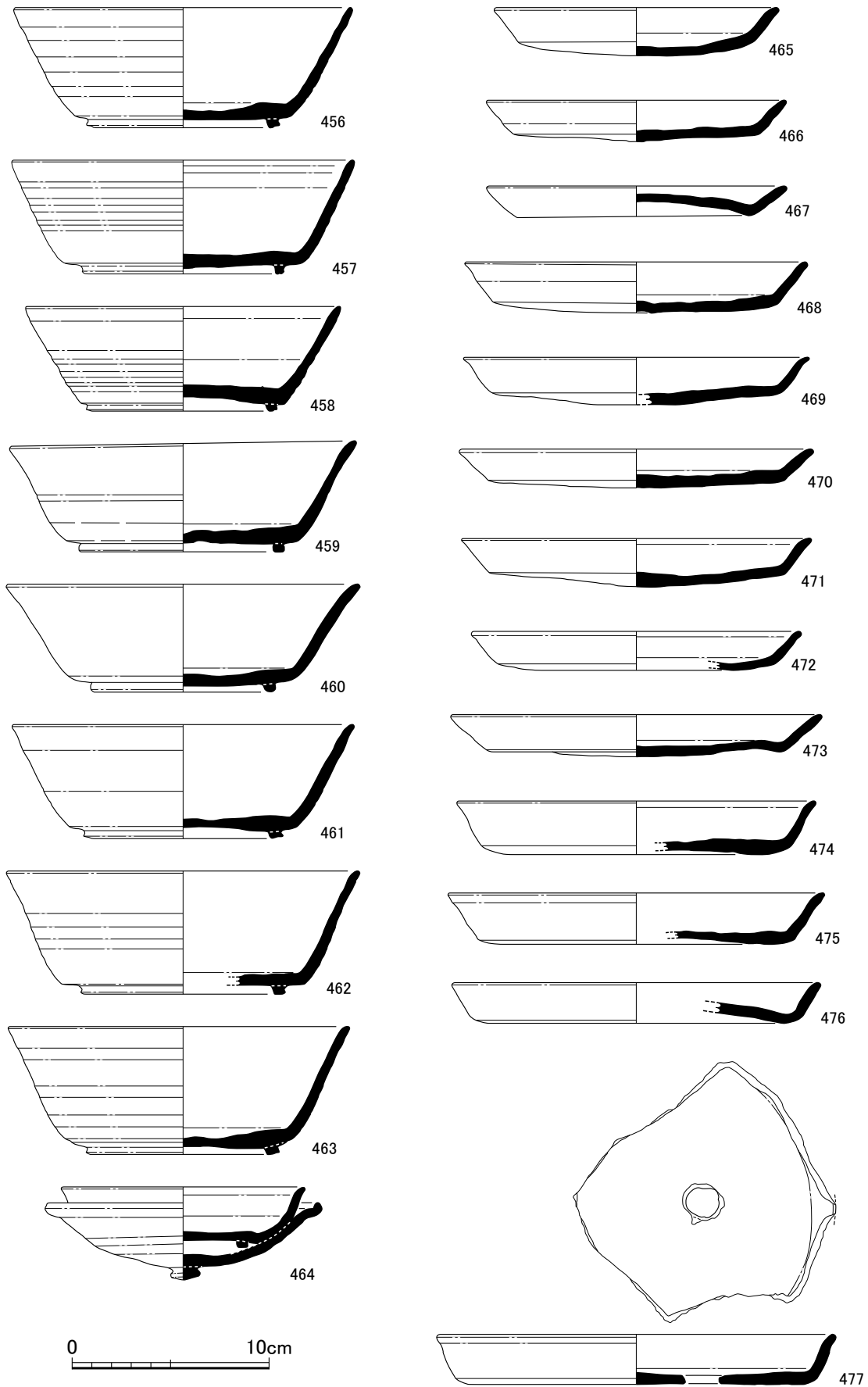
4号窯跡は、調査地の中央で確認され、3・5号窯跡の間に作られる。窯は全長3.91m、主軸はN-31°-W、焚口部の幅は0.95m、窯の平面プランは焼成部中位がゆるやかにふくらみ、奥壁は丸くなる。一部崩落しているが、焼成部の天井が残っており、焼成部上位で床面からの高さは0.85m、



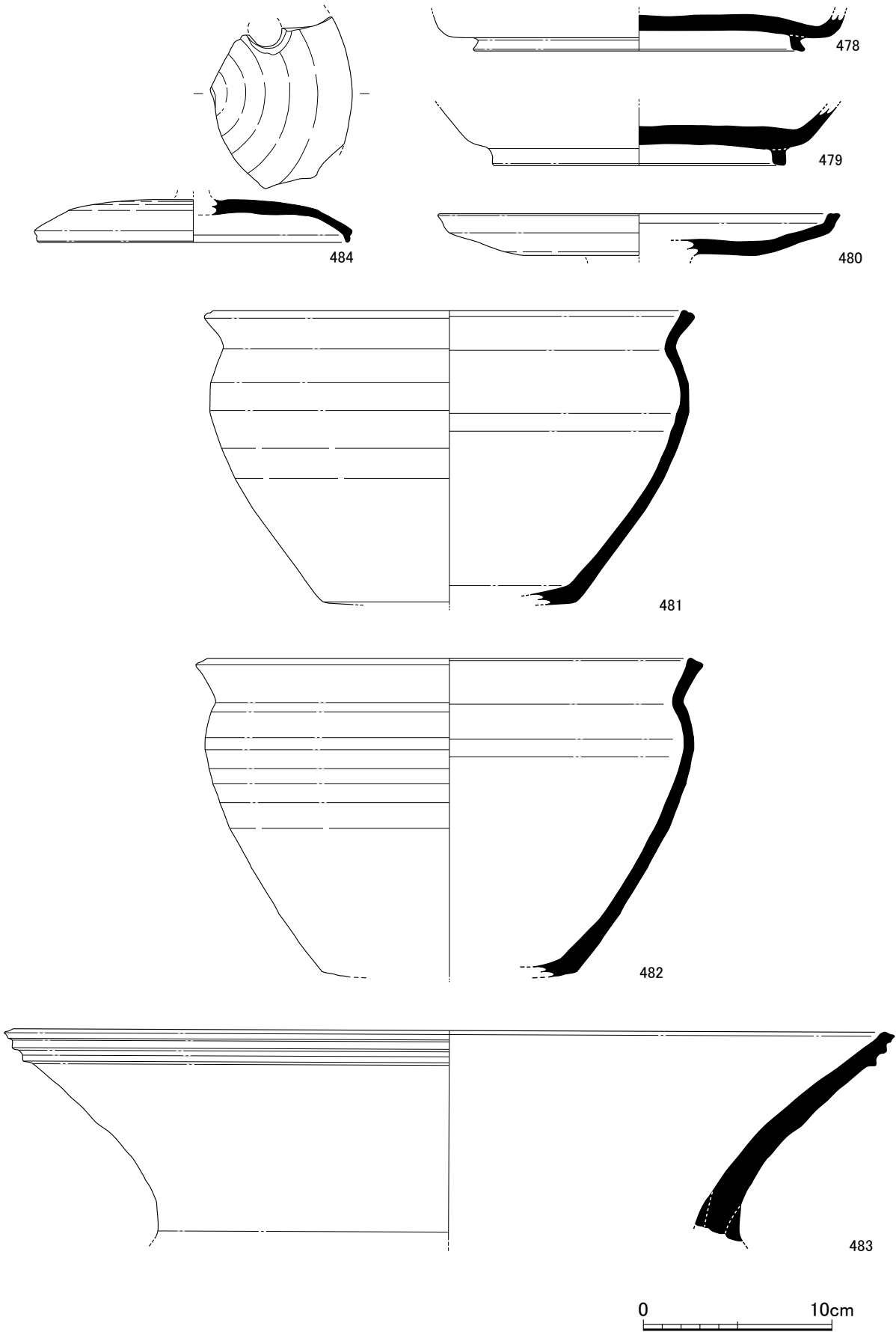
第49图 3号窟迹出土遗物实测图① (1 / 3)



第50图 3号窑迹出土遗物实测图② (1/3)



第51图 3号窑迹出土遗物实测图③ (1/3)



第52图 3号窑迹出土遗物实测图④ (1/3)

焼成部下位で高さ1.22mである。1号窯跡の項で述べたように、4号窯跡の排煙口を埋めて1号窯跡前庭部としていたようで、焼けしまった床面が4号窯跡の焼成部奥側に落ち込んでいる。このため、4号窯跡の崩落土(D-D'44層)上に間層(D-D'46層)を挟んで1号窯跡の灰層(D-D'48層)が流れ込んでいる。燃焼部の崩落土(D-D'44層)上面からは、遺物の出土が見られた。また、燃焼部床面には舟底状ピットが確認されており、褐灰色土(A-A'面45層)上で最終操業が行われている。

焚口・燃焼部 焚口部は幅0.95mで、焼成部との境は舟底状ピットを埋める褐色土(A-A'面45層)が傾斜を変える部分と考えられる。この傾斜変換は舟底状ピット内左側の還元面にも表れている。舟底状ピットの上層に灰層の堆積は認められないため心もとない点はあるが、還元面の傾斜変換点を参考にすると、燃焼部の長さは1.12m、床面の傾斜角度は4°、焼成部との境は幅1.02mである。舟底状ピットは、長さ1.2m×幅0.67m、深さ約33cmで楕円形プランを呈し、最終操業時には埋められている。側壁・床面からは、貼壁・貼床が確認された。

焼成部 焼成部は長さ2.79mで、中位で最大幅1.3mをとり、奥壁にむかってゆるくすぼまり奥壁は丸くなる。床面の傾斜角度は19~50°で、特に焼成部上位は非常に傾斜がきつく、登ることができない。焼成部上位には、貼床を施したのちに粘土塊焼台を設置している。3段分が確認され、一番上の段で3個、2段目で粘土塊焼台と痕跡を合わせて3個確認され、貼床が失われている部分を合わせると4個設置されたと考えられる。設置状況から、貼床の上に直接粘土塊焼台を置き、高さが足りなかったのか、更に粘土塊焼台を設置したものもある。床面の傾斜が急であることから、設置は大変難しかったのではなかろうか。焼成部の高さは0.85~1.22mで奥壁にむかうに従い低くなっており、煙道部あたりでは50cmくらいと考えられる。側壁は、貼壁が認められる。なお、焼成部と舟底状ピットにおいて、まとまった遺物の出土が認められた。28・44層上にあたり、赤く焼けた面であったことから二次焼成を受けたと考えたが、床面のかさ上げを行ったもので4号窯廃絶に伴う何らかの祭祀と考えられる。

排煙部 奥壁から直立するが、煙道部・排煙口は1号窯跡前庭部が作られた際に削平されている。左側壁の還元面の立ち上がりから、煙道部の径は15cm以上と考えられる。排煙部と焼成部上位に1号窯跡の前庭部床面が落ち込んでいる。

前庭部 焚口部から続く床面は還元しており、ハの字に開く。長さ0.86m×幅1.85m。下方には、長さ約1.7m×幅約3.2mの掘り込みがあり、ゆるく下っていく。窯跡の左側には、窯体に接するように長さ0.9m×幅0.66mの掘り込みがあり、深さは燃焼部側壁の中位あたりまでで、床面から約20cm浮いた状態で須恵器杯蓋などが出土した。

灰原 先に述べたように、4号窯跡内部には1号窯跡灰層が流入しており、4号窯跡に伴う灰層は前庭部下の掘り込みで確認された黒色土(A-A'41~43層)と考えられる。41層の上層(A-A'39層)は、1号窯跡の掘削もしくは4号窯跡廃絶時に伴うものと考えられ、下層の第56図1-D~E43・52層は4号窯跡に伴うもので、厚さは最大1mを超え、多量の遺物が出土した。

(石木)

(9) 出土遺物**窯体内 (第55図、図版42・43)**

489は貼床面からの出土である。第54図の窯体内にある遺物番号、No. 2は494、No. 3は505、No. 4は496、No. 5は486、No. 6は492・497、No. 7は493・503、No. 8は490・500と対応しており、いずれも二次焼成面とした28・44層上からの出土である。また、第54図の焚口部から煙道部に向かって左側にある土坑から出土した遺物は、No. 1は501、No. 2は487、No. 3は506、No. 4は495と対応している。

杯蓋 (485～497) 485・488・493・496は扁平で天井部は平坦である。486・487は焼き歪みが著しく天井部の形態の詳細は不明であるが、490は天井部が平坦である。492・494・495は天井部から口縁部にかけて平坦である。485～488・490～496は口縁端部を下方につまみ出し断面三角形を呈する。489は下方にわずかに突出し丸くおさめる。485・487・488・493は、天井部外面は回転ヘラ切り後ナデ、または回転ナデを施す。486・489～492・494～497は天井部外面に回転ヘラケズリを施し、494は外面一部に工具痕が残る。486・487・492～494・497は擬宝珠様のつまみが付く。487は中央が高くやや山形を呈する。486・493は中央がやや高く扁平である。494・497は中央が高く山形を呈する。492は中央が高いが形骸化している。485・488・495・496はボタン状のつまみを有する。487・488・495に重ね焼きの痕跡が見られ、490・493は火襷が残る。

杯 (498・499) 498は体部が直線的に外方に立ち上がり、口縁部はやや外反する。499は体部が直線的に外方に開く。499は通常の杯と異なっており、鉢の可能性もある。498・499は底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施し、499は口縁部と底部の境に回転ヘラケズリが見られる。

杯身 (500～502) いずれも体部は直線的に外方に立ち上がり、口縁部は外反する。高台は低く断面方形を呈する。

皿 (503～506) いずれも体部は外反しながら外方に開く。503は底部外面に回転ヘラ切り後板状工具によるナデを施し、簾状の圧痕が残る。504・505は底部外面に回転ヘラ切り後ナデを施し、506は回転ヘラケズリが見られる。504は口縁部内面に火襷が残る。

灰原 (第55図、図版43)

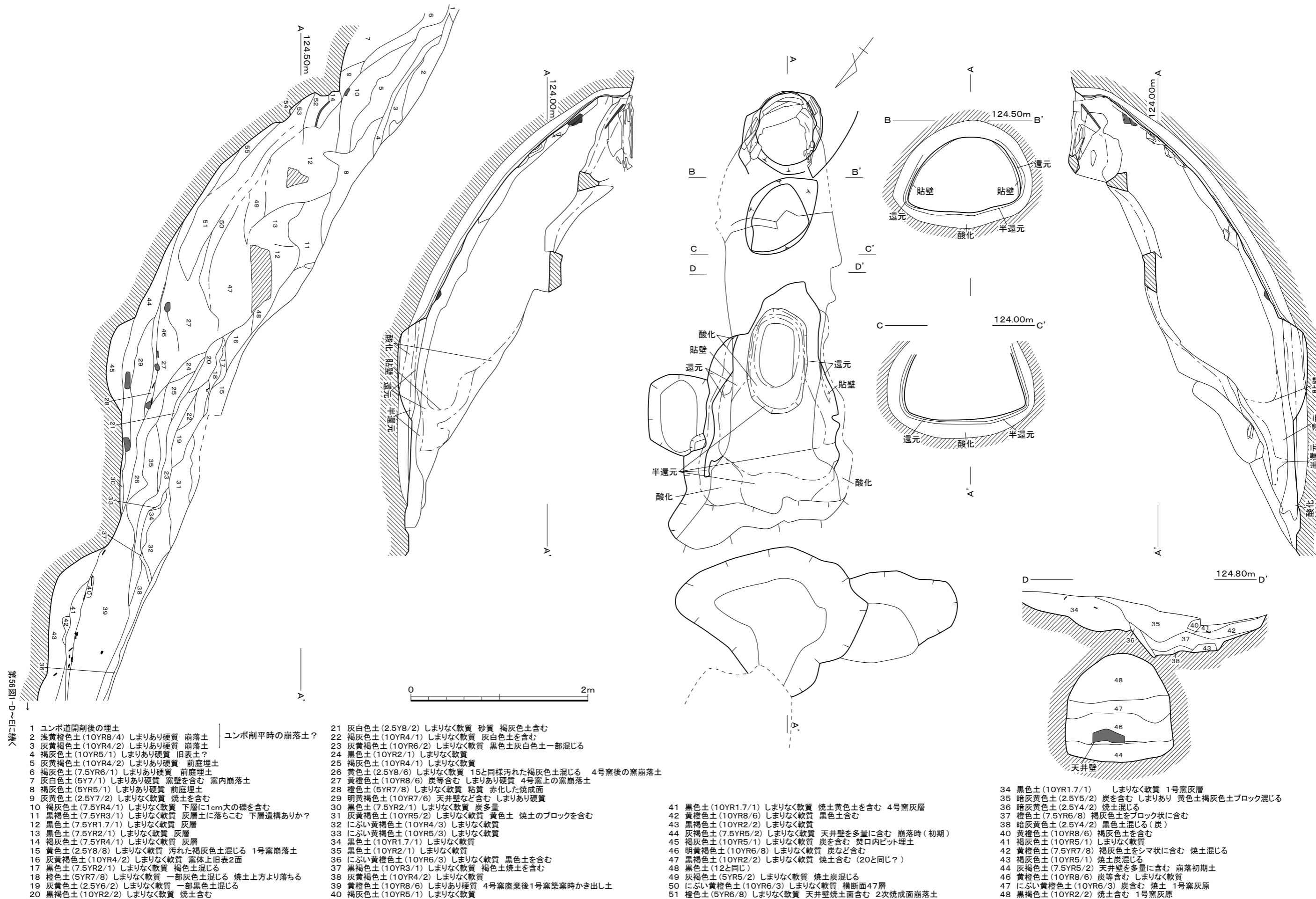
いずれも灰原6区からの出土である。

杯 (507) 杯Aである。6枚ほど重ね焼きをし融着した資料である。体部は直線的に外方に立ち上がり、わずかに外反しながら口縁部に至る。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、付着物が見られる。

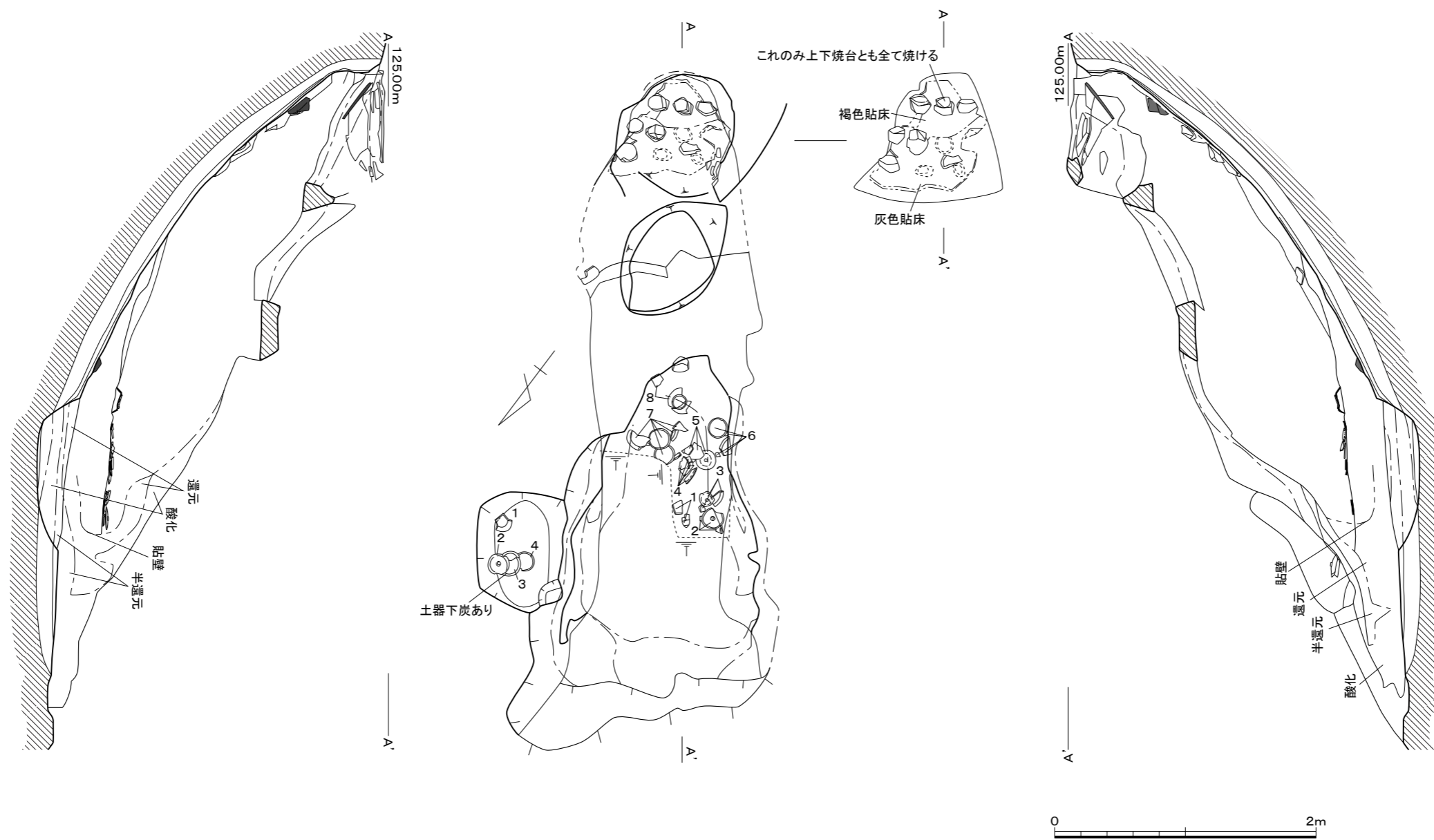
壺 (508) 口縁部から頸部のみの破片資料である。頸部から口縁部にかけて直線的に外方に開く。口縁端部外面を回転ナデにより突出させ、強い稜が入る。広口壺か。 (藤島)

(10) 3・4号窯跡灰原出土遺物**1区 (第57・58図、図版43～46)**

杯蓋 (509～524) 天井部は丸味を持ちドーム状を呈する形態と、扁平な形態の2種類がある。509・517・518・521は口縁端部を下方に折り曲げ、断面嘴状を呈する。511・512・514～516・

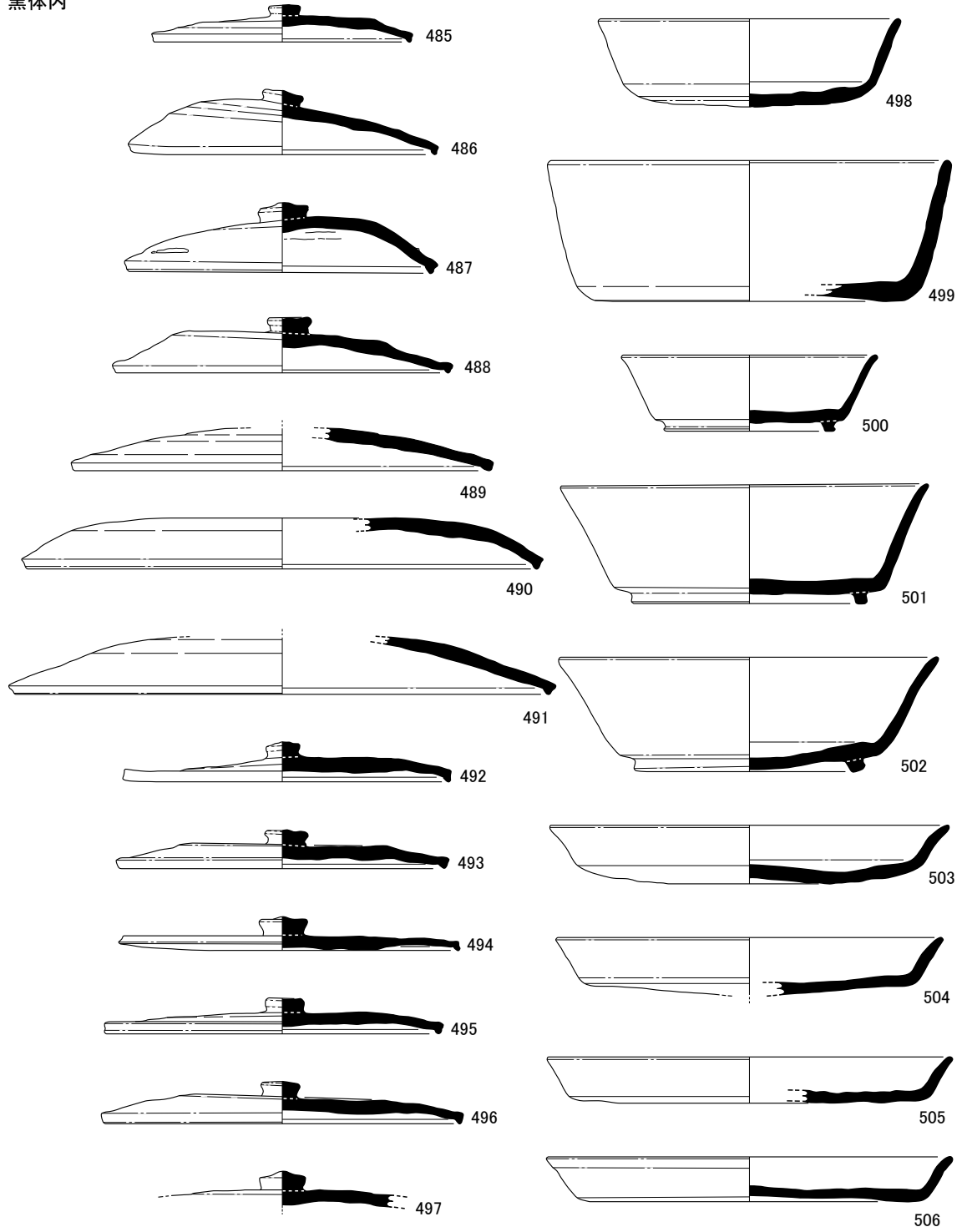


第53図 4号窯跡実測図 (1/40)

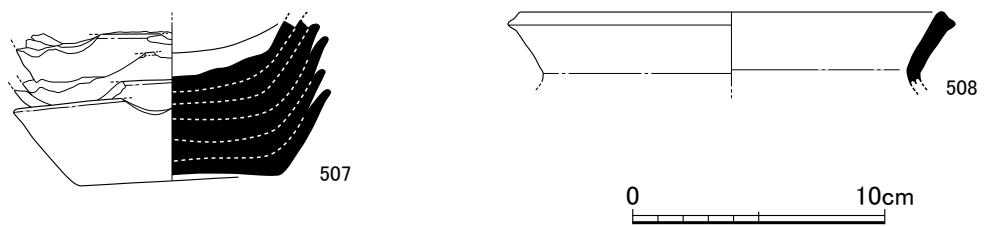


第54図 4号窯跡遺物出土状況実測図 (1/40)

窯体内



灰原



第55図 4号窯跡出土遺物実測図 (1/3)

520・522・523は天井部外面に回転ヘラ切りを施し、522は回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。その他は回転ヘラケズリを施す。焼き歪みの著しい519はナデ後板状工具によるナデ。つまみは扁平な擬宝珠様の形態のものとボタン状があるが、524は宝珠様のつまみが付く。512・513・515・516は重ね焼きの痕跡が見られ、特に512は外面に別個体の破片が付着している。519・521・524は焼き歪みが著しい。

杯 (525～531) 525は体部が内湾しながら立ち上がり、口縁端部を丸くおさめる。底部外面は回転ヘラケズリを施す。526～530は体部が直線的に外方へ立ち上がり、底部外面は回転ヘラ切りを施す。525・526・528は降灰が見られ、528は内面に重ね焼き痕が残る。531は太宰府分類土師器杯dに類似する杯で、底部外面はヘラケズリを施す。体部は内湾気味に立ち上がり、底部と口縁部の境は明瞭である。内面は回転ナデで、器壁を薄く仕上げる。内面に重ね焼きの痕跡が見られ、内外面に火襷が残る。

杯身 (532～536) 杯B身である。532は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部をわずかに外反させる。533～536は直線的に外方に開く。高台はいずれも低く断面方形を呈するが、533・534は端部を外方に小さくつまみ出す。532は高台端部に工具痕が見られ、535は圧痕が残る。536は底部外面に工具痕と板状圧痕が認められる。

皿 (537～542) 537・540は口縁部が大きく外反しながら開き、底部は突出する。538・539は口縁部が直線的に外方に開き、底部は丸味をおびる。541は口縁部が直線的に大きく外に開く。いずれも底部外面は回転ヘラ切りを施す。火襷は、537は内外面に、538は外面に、539・540は内面に残る。また、540は内面に繊維状の付着物が見られる。542は台付皿である。高台はやや高く断面方形を呈するが、焼き歪みのため内傾する。

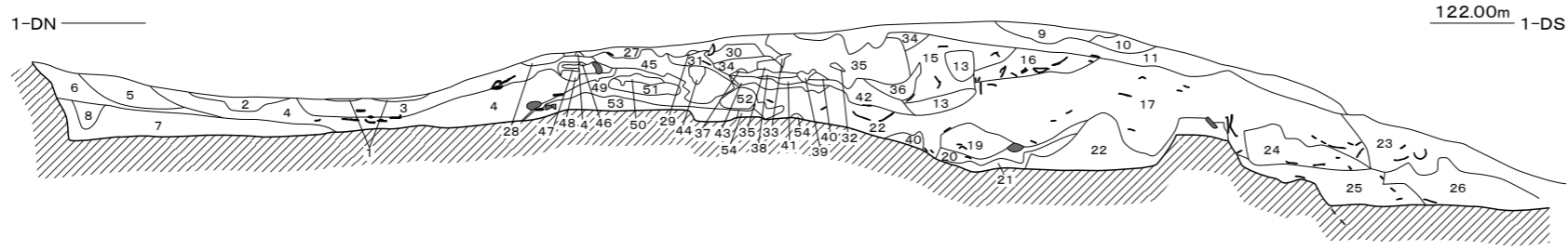
高杯 (543～545) 543・544は杯部の資料である。543は口縁端部外面に小突起を巡らせる。544は口縁部は短く直立し、端部を平坦におさめる。545は脚部の資料で、脚部は長く、脚裾端部にかけてラッパ状に開き、端部を下方に折り曲げ断面嘴状を呈する。

壺 (546～551) 546は短頸壺の蓋である。天井部は平坦で、口縁部へ向かって垂直に下り、端部外面をわずかに外に引き出す。高さのあるつまみが付き、上面がわずかに突出する。547～549は口縁部の資料である。547は大きく外反し、口縁端部を上方に屈曲させる。内面にシボリ痕が見られる。548は直線的な頸部から口縁端部を横方向に引き出し、端部を丸くおさめる。外面に降灰が見られる。549・550は長頸壺。549は口縁端部を外方に突出させる。外面にシボリ痕が残る。550は底・体部で、肩が強く張り稜が入る。肩部上半は丸味を持ち、肩部下半は回転ヘラケズリを施す。底部内面に付着物が残る。551は短頸壺である。口縁部は短く立ち上がり、端部は平坦面になる。最大径は上半にあり、下半は回転ヘラケズリを施す。

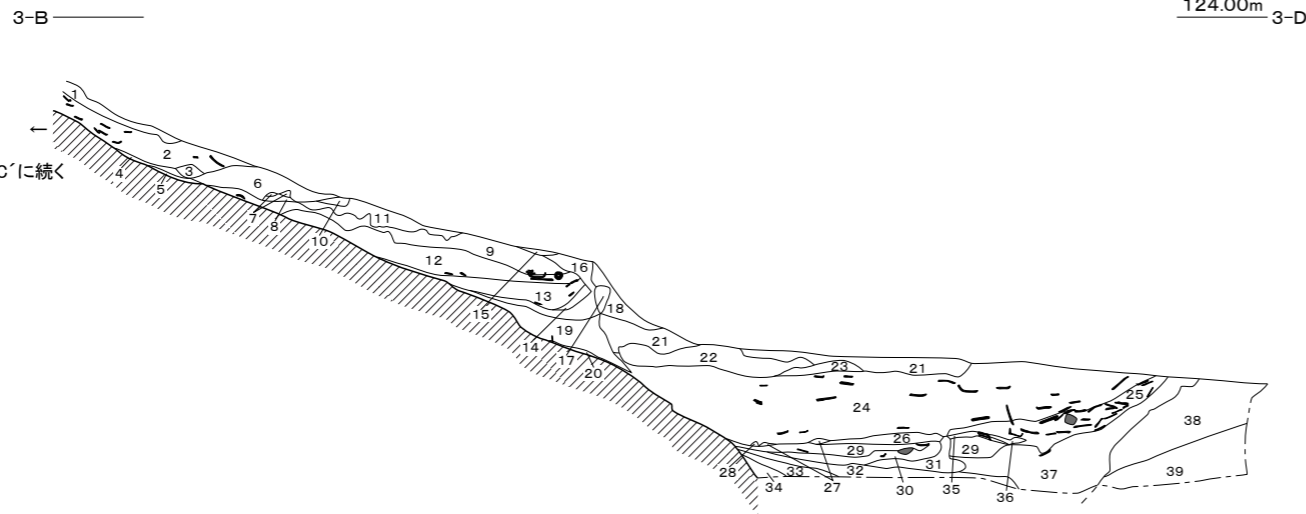
瓶 (552) 体部の資料である。長胴で内湾気味に立ち上がり、外面に沈線を5条施す。

鉢 (553) 体部下半から底部の資料で、内湾しながら立ち上がる。底部外面は回転ヘラ切り後ナデにより平坦に仕上げられ、爪形状の圧痕が残る。内面一部に棒状工具によるナデを施す。

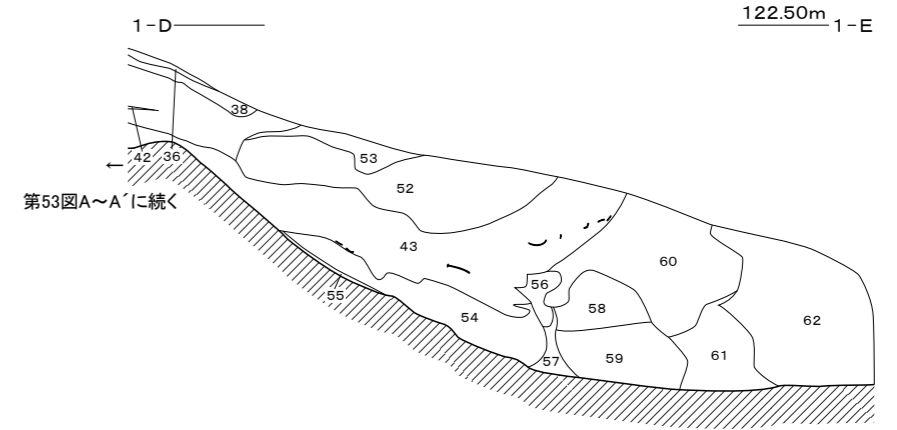
焼土塊 (554) 葉脈痕が残る資料で、裏面にはスサの圧痕が確認される。器壁は薄く、破片のため詳細な形態は不明である。



- | | | | |
|---|---|---|---|
| <p>1 黄色土(2.5Y8/8) しまりあり硬質 谷の流入土 2 にぶい黄橙色土(10YR8/6) 谷の流入土 3 黒色土(10YR1.7/1) 灰層 4 にぶい黄橙色土(10YR6/4)～褐灰色土 汚れた黄褐色土 炭を含む 5 明黄褐色土(10YR7/6) しまりあり硬質 6 浅黄橙色土(10YR8/4) 地山に近い しまりあり硬質 7 明黄褐色土(10YR6/6) 礫が混じる 8 褐灰色土(10YR5/1) ビット? 9 褐灰色土(10YR4/1) 黄色土ブロックを混じる 10 黒褐色土(7.5YR3/1) 11 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 汚れた感じ 旧表土上に堆積か?(もしくは灰層上) 12 黒褐色土(2.5Y3/1) 13 明黄褐色土(2.5YR6/8) 黒褐色土で汚れる 一部焼土混じる</p> | <p>14 灰オリーブ色土(5Y5/2) 砂質 15 黒色土(10YR1.7/1) 焼土・黄色土ブロック多く含む(何らかの落込あり) 16 黒色土(10YR2/1) 15よりうすい 焼土・黄色土とも含まない 17 黒色土(10YR1.7/1) 焼土・黄色土含むが15より少ない 18 黄橙色土(10YR8/8) 汚れる 19 赤褐色土(2.5YR4/6) 黒色土含む(焼土) 20 黄色土(2.5Y8/8) 黒色土にて汚れる 21 黒色土(10YR1.7/1) 炭を多量に含む 汚れる 22 明黄褐色土(10YR7/6) 黒色土を含む 地山の汚れた土 23 灰黄褐色土(10YR4/2) 24 黄色土(5Y8/6) 黒色土にて汚れる 石も含む 25 黒褐色土(7.5YR2/1) 白黄色土(砂質26層)を含み沢の影響をうける? 26 淡黄色土(2.5Y8/3) 砂質 沢の影響による堆積土か</p> | <p>27 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 黄褐色土混じる 28 浅黄色土(2.5Y7/3) 白色土混り 29 暗黄褐色土(2.5Y6/8) ブロック 30 暗黄褐色土(2.5Y6/8) 31 灰白色土(10YR7/1) 砂質土(黒混じる) 32 灰色土(5Y5/1) だんご 33 暗灰黄褐色土(2.5Y5/2) 黒色土混じる 34 明黄褐色土(10YR6/6) 黒色土混じる 35 黒褐色土(7.5YR3/1) 黄褐色土混じる 36 明黄褐色土(10YR6/6) 37 黒褐色土(7.5YR3/1) 38 明赤褐色土(5YR5/6) 焼土混じる 39 灰白色土(10Y7/1)</p> | <p>40 黄褐色土(2.5Y5/4) 41 黒褐色土(7.5YR3/1) 42 黒褐色土(7.5YR3/1) 焼土混じる 43 黄褐色土(2.5Y5/4) 44 灰オリーブ色土(5Y6/2) 45 淡黄色土(5Y8/3) 砂質土 46 浅黄色土(2.5Y7/4) ブロック 47 にぶい黄色土(2.5Y6/4) 48 黒褐色土(7.5YR3/1) 15と同一 49 黄灰色土(2.5Y4/1) 50 暗灰黄色土(2.5Y5/2) 51 淡黄色土(5Y6/2) 砂質土 25と同一 52 黄褐色土(2.5Y5/4) 22と同一 53 明黄褐色土(10YR6/6) 礫をとまう 地山系 54 にぶい黄橙色土(10YR6/4) 地山系</p> |
|---|---|---|---|



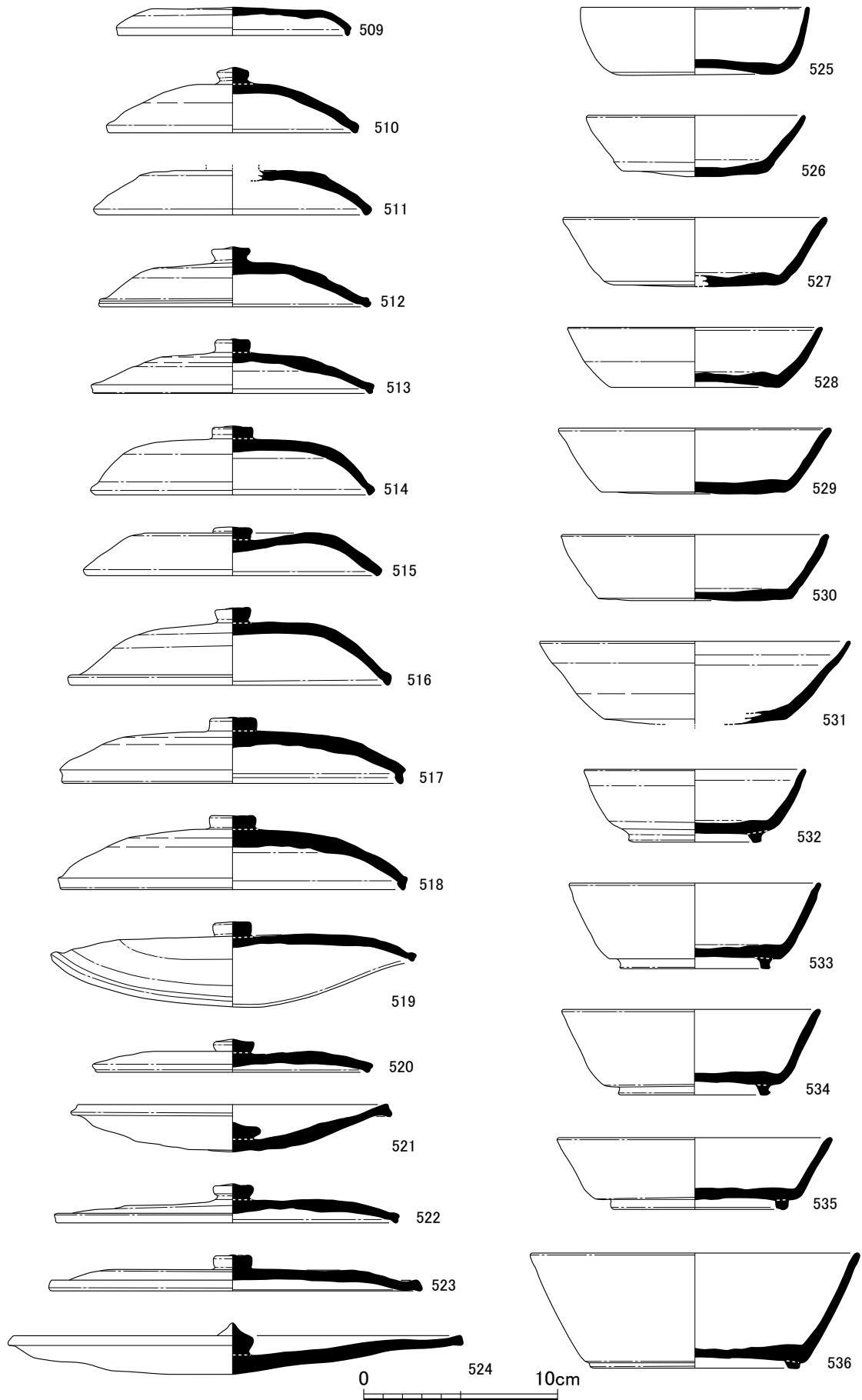
- | | | |
|---|--|---|
| <p>1 灰黄褐色土(10YR5/2) 3号窯体セクと同じ 焼土を含む 2 黒色土(10YR1.7/1) 3号窯体セクと同じ 焼土を含む 3 黄橙色土(10YR8/8) 地山の崩落ブロック 4 灰黄色土(2.5Y7/2) 炭・焼土混じる 5 黒色土(5YR1.7/1) 灰層 3号窯のものか? 6 淡黄色土(2.5Y8/4) 砂質 谷からの流出土 7 褐灰色土(10YR5/1) 6層にブロックで入る腐食土 8 黄橙色土(10YR8/6) しまる土6層と異なる地山が流れたような土 9 黒褐色土(10YR3/1) 灰黄褐色土混り汚れる 5層続き3号窯灰層? 10 黄灰色土(2.5Y6/1) 6層下堆積土腐食土層 11 黄橙色土(10YR8/8) しまりあり硬質 地山流出土 12 黄褐色土(10YR7/8) 炭混り しまりあり硬質 地山崩落流入土 13 灰黄褐色土(10YR6/2) しまりあり硬質 炭混じる</p> | <p>14 浅黄橙色土(7.5YR8/4) しまりあり 炭混じる 15 黄灰色土(2.5Y6/1) 黄色土混じる 16 黄橙色土(10YR8/8) 炭混じる しまりあり硬質 17 黄褐色土(10YR8/8) しまりあり硬質 18 灰白色土(10YR8/2) 砂質 谷に流れた土 19 褐灰色土(10YR6/1) 焼土混じる 20 黒褐色土(10YR3/1) しまりなし 下層灰原の先端 21 灰黄褐色土(10YR6/2) 炭一部混じる 22 黄褐色土(10YR8/6) 地山の崩落土 23 灰黄褐色土(10YR5/2) 24 黒色土(7.5YR1.7/1) 20層から続く灰層と2枚あるか? 土器多量 25 橙褐色土(5YR6/8) 焼土 26 浅黄色土(2.5Y7/3) 炭・黒色土等混り汚れる</p> | <p>27 淡黄色土(2.5Y8/4) 地山くずれの一部 28 灰白色土(N8/) 天井壁の一部 29 黒褐色土(5YR3/1) 炭・焼土を含む 30 黄色土(2.5Y8/6) 炭含む 31 黄色土(2.5Y8/6) 焼土 32 灰色土(N6/) 粘質 灰原として最下層炭一部含む 33 灰白色土(7.5Y8/1) 砂質 沢の堆積土 一部遺物あり 34 黄灰色土(2.5Y4/1) 粘質がかかる 沢の下層へ 35 黄色土(2.5Y8/6) 粘質 36 灰白色土(10Y8/1) 硬くしまる 天井壁か? 37 黒褐色土(7.5YR3/1) 炭を含む 38 黄色土(2.5Y8/8) しまりあり硬質 39 黄灰色土(2.5Y6/1) 砂質</p> |
|---|--|---|



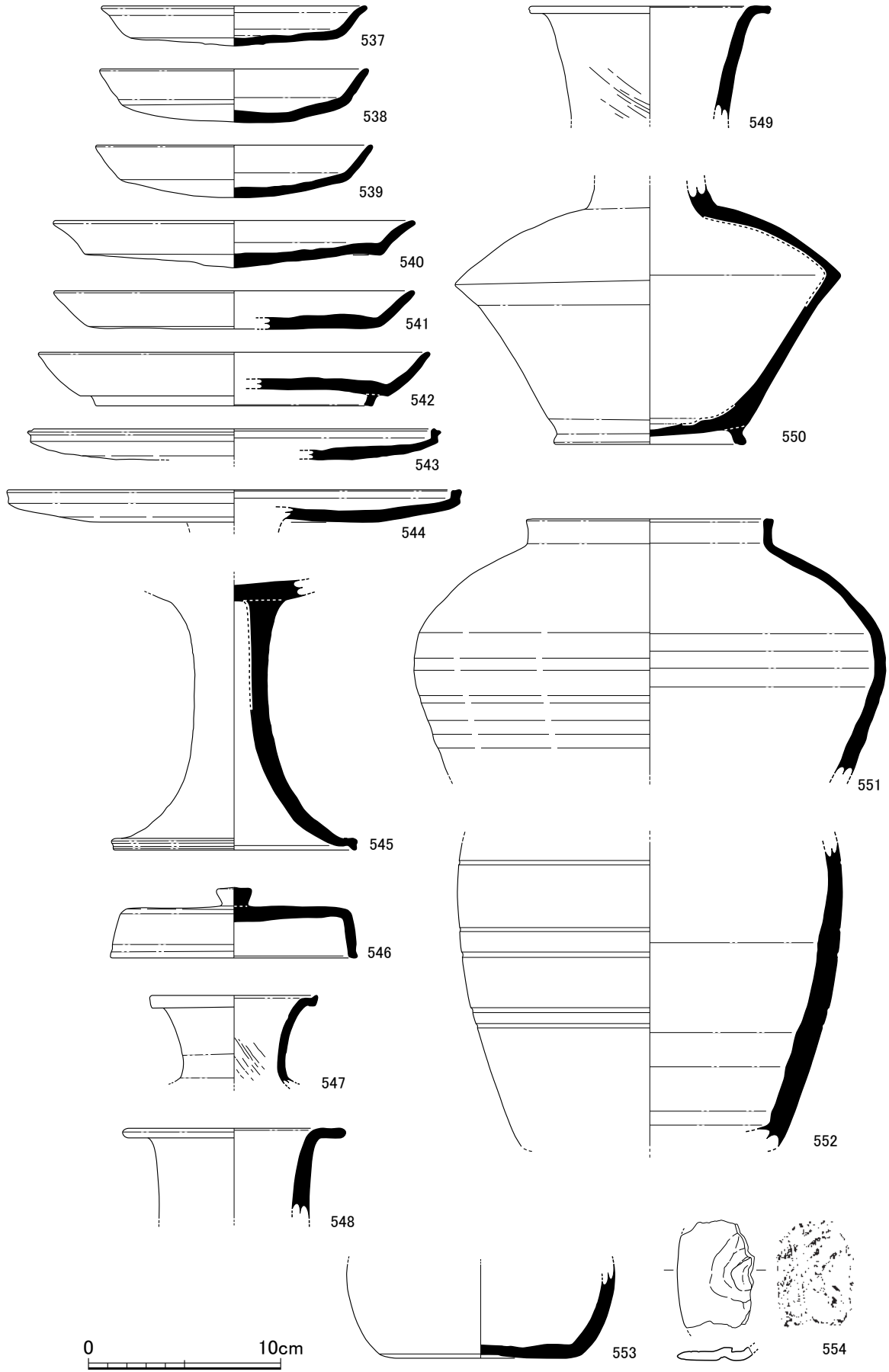
- | |
|---|
| <p>36 にぶい黄褐色土(10YR6/3) しまりなく軟質 黒色土を含む 38 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりなく軟質 42 黄褐色土(10YR8/6) しまりなく軟質 黒色土含む 43 黒褐色土(10YR2/2) しまりなく軟質 52 灰褐色土(7.5YR4/2) しまりなく軟質 53 浅黄褐色土(7.5YR8/3) しまりなく軟質 砂質 54 明黄褐色土(10YR7/6) しまりあり硬い 55 にぶい黄褐色土(10YR7/2) しまりなく軟質 砂質 56 明黄褐色土(10YR7/6) しまりなく軟質 炭・焼土含み水が動いた形跡あり 57 黒色土(10YR2/1) しまりなく軟質 58 にぶい褐色土(7.5YR6/3) しまりなく軟質 水性堆積 59 灰白色土(7.5YR8/2) しまりなく軟質 砂系 60 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりなく軟質 焼土含む 61 褐灰色土(7.5YR5/1) しまりなく軟質 水の動いた土60層が水の影響をうける 62 浅黄褐色土(7.5YR8/3) しまりなく軟質 砂質 現在の沢の影響か</p> |
|---|



第56図 3・4号窯跡灰原土層断面実測図 (1/60)



第57图 3·4号窯跡灰原1区出土遺物実測図①(1/3)



第58图 3·4号窑迹灰原1区出土遗物实测图②(1/3)

2・3区 (第59図)

皿 (555) 底部はわずかに丸味をおびる。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。

3区 (第59図、図版46)

杯蓋 (556) 天井部から口縁部にかけて丸味を持ちドーム状を呈する。口縁端部を外方に引き出し下方にゆるく折り曲げ丸くおさめる。天井部外面はナデを施す。

杯 (557) 口縁部はわずかに外反する。底部外面は回転ヘラ切りを施す。小型の資料である。

高杯 (558) 焼き歪みの激しい資料で杯部の形態は不明確である。脚部は大きくラッパ状に開く。杯部外面は降灰が見られ、脚部内面にシボリ痕が認められる。

壺 (559) 体部は丸く内湾しながら立ち上がる。高台は断面方形で、体部外面は回転ヘラケズリを施し、底部外面に回転ヘラ切りを施す。

4・5区 (第59図)

甕 (560) 体部の破片資料で、外面は擬格子タタキ、内面は格子状の当て具痕の痕跡が認められる。上半は被熱による膨張が見られ、下欠損部分には接合痕が残る。

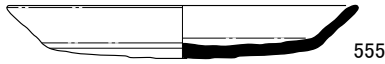
4区 (第60～65図、図版46～48)

杯蓋 (561～590) 丸味を持ちドーム状を呈する形態と扁平な形態の2種類に分かれる。576・579・581・587は口縁端部を下方に折り曲げ、断面嘴状を呈する。その他は下方に短く突出させる。562・563・565～572・574・577・578・580～583・585・586・588・590は天井部外面に回転ヘラ切りを施し、562は工具痕が、578・583は回転ヘラ切り後板状工具によるナデを施す。焼き歪みが著しい580は内外面ともに回転ナデ後、板状工具によるナデを施す。その他は回転ヘラケズリ。つまみは擬宝珠様とボタン状に分かれ、562・588は中央が隆起し山形を呈する。中でも589のつまみは中央が凹む特殊な形態をなす。重ね焼きの痕跡は、内外面に565・568に見られ、外面のみは571・573・575・583、内面のみは572に認められる。583は外面に火襷が見られる。585は天井部外面にヘラ記号が認められる。588は内面に「大」のヘラ書き文字が刻まれる。

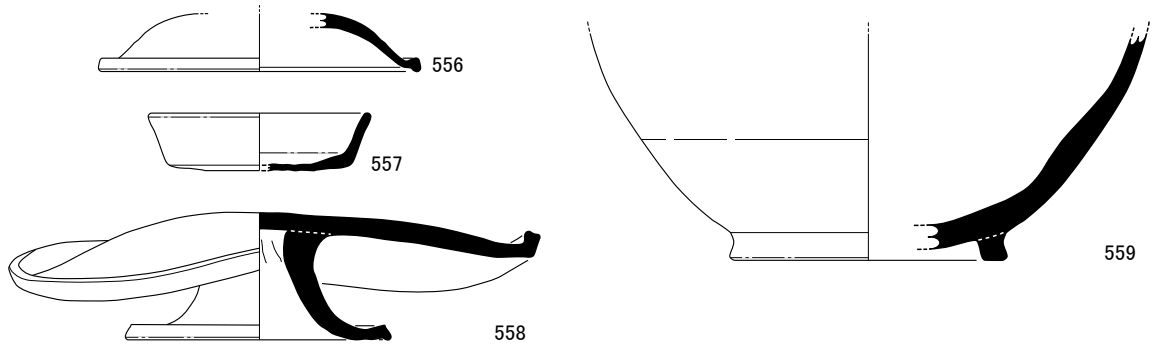
杯 (591～611) 591～607は杯Aである。591～595・598～601・603～607は体部が直線的に外方に開く。596・597・602は体部が外方へ開くが、内湾気味で、口縁端部を外反させる。597・603は内面に火襷が、604は外面に見られる。605は底部に焼成前穿孔が1ヶ所認められる。608～611は太宰府分類土師器杯dに類似する。608・609・611は底部外面を回転ヘラケズリし、口縁部との境は明瞭である。内面は回転ナデを施し、器壁は薄い。いずれも火襷が内面に見られる。608は底部外面に重ね焼きの痕が残る。

杯身 (612～633) 612・613・621・622・624・628・631は体部が外方に開くが、内湾気味で、口縁端部は外反する。その他は直線的に外方に開く。いずれも高台は低く断面方形を呈する。613・614は内面に重ね焼きの痕跡が残り、特に614は口縁部内面に棒状のアタリが見られる。633は重ね焼きの資料で、杯身にひっくり返した杯蓋が重なっている。焼き歪みが著しく、杯身底部外面には

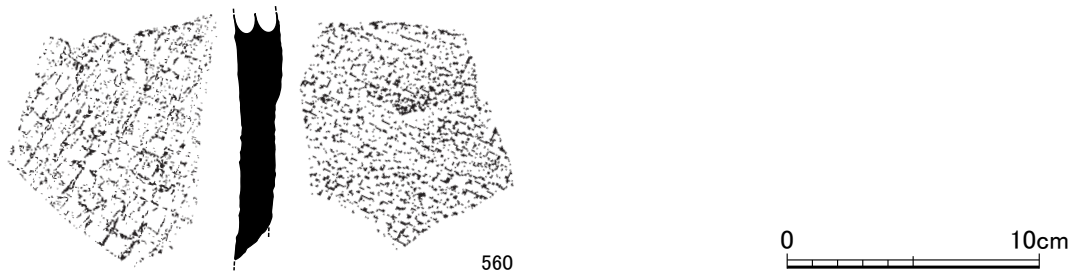
灰原2・3区



灰原3区



灰原4・5区



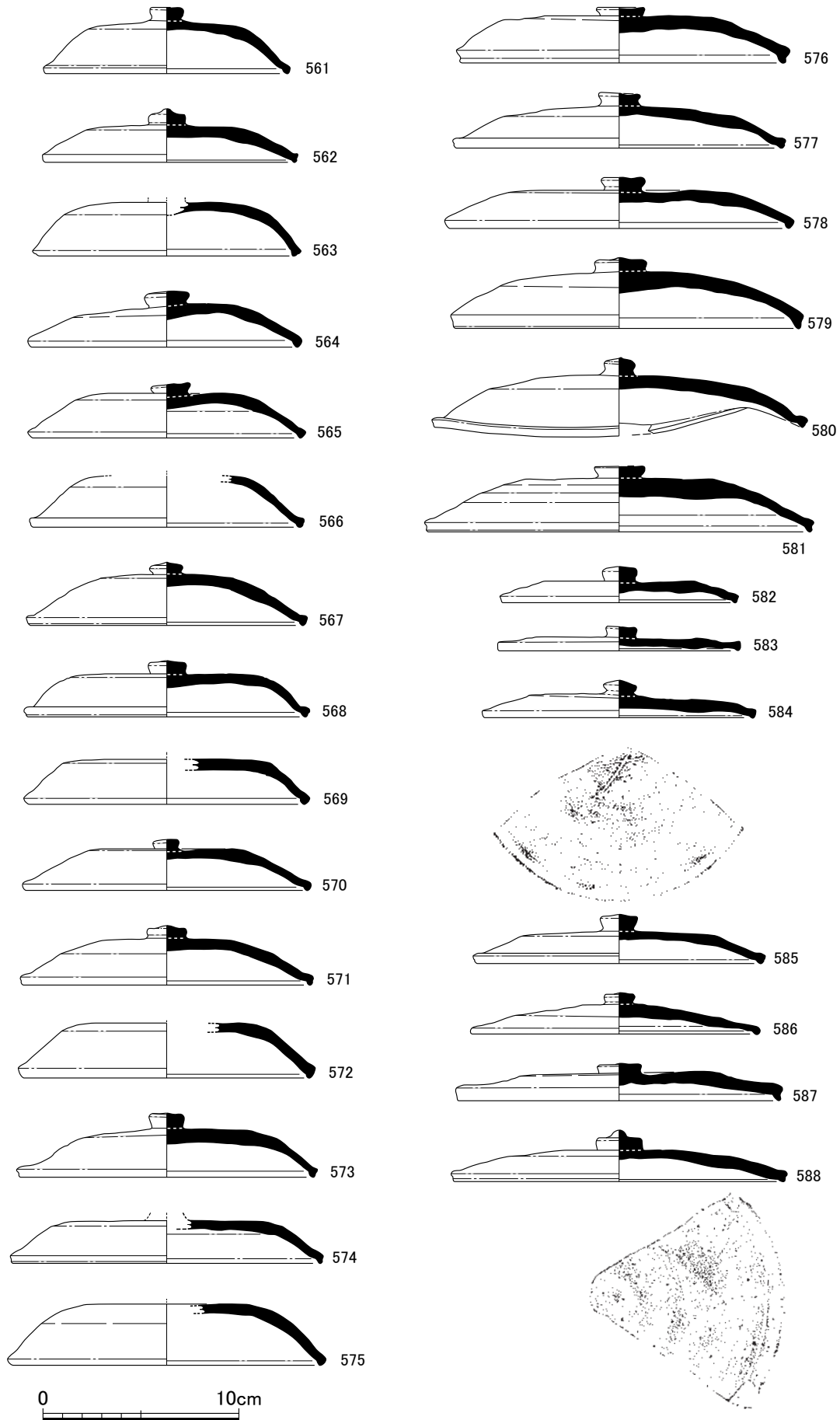
第59図 3・4号窯跡灰原2・3区、3区、4・5区出土遺物実測図(1/3)

簾状の圧痕が残る。

不明製品 (634~636) 器種不明なものである。634は体部が内湾しながら外方へ開き、口縁端部は外反する。635は口径9.6cmを測る小型の資料で、口縁部外面に6条の沈線状が巡る。636は体部から口縁部にかけて外反しながら開き、口径22cmを測る大型の資料である。底部内面にユビオサエが残る。

皿 (637~645) 637・639~642・644は体部が直線的に外方に開き、638は体部が内湾気味に立ち上がり、643は外反する。642~644は底部が丸みを持つ。639は重ね焼きの資料で、2枚の皿が融着する。640は内外面に火襻が見られ、644は底部外面一部に棒状のアタリが残る。645は台付皿で、内湾しながら立ち上がり、口縁端部がわずかに外反する。高台は低く断面方形を呈する。外面に別個体の破片が付着する。

高杯 (646~648) 646は杯部の資料で、口縁部はやや外に開き端部は平坦になる。端部外面は小さくつまみ出し突出させる。647は口縁部が直立し、端部を平坦に仕上げる。脚基部は太く、大きく開く。脚端部は下方につまみ出し、断面三角形を呈する。脚部外面は降灰し、脚部内面にシボリ痕が見られる。648は焼き歪みが著しく全様は不明。杯部内面に重ね焼きの痕跡と、「一」のヘラ



第60图 3·4号窑迹灰原4区出土遗物实测图①(1/3)

記号が見られる。脚部内外面ともにシボリ痕が残る。

壺 (649～656・658) 649～651は短頸壺の蓋である。649は口縁部が内傾し、端部外面を外方につまみ出す。650は口縁部がやや外方に下り、端部を小さくつまみ出し突出させる。つまみはボタン状を呈する。651は口縁部が外に開き端部にいたる。中央がわずかに突出する擬宝珠様のつまみが付く。いずれも天井部外面は回転ヘラケズリを施す。651は外面に火襷が残る。652・653は口縁部の資料で、652は頸部が直立気味に立ち上がり、端部を外方に屈曲させた後上方につまみ出す。内面は回転ナデ。653は口縁部をわずかに外反させ、端部をやや突出させる。内外面回転ナデを施す。654・655は短頸壺である。654は口縁部が直立気味に立ち上がり、端部はやや丸くおさめる。体部最大径は上半に位置し、口径11.4cm、体部最大径14cmを測る小型の資料である。655は口縁部が直立し端部上面を凹線状に仕上げる。体部下半を欠くため詳細は不明だが、最大径は上半に位置すると思われる。656は短頸壺の体部の破片で、体部中位付近が張る資料である。下半外面は回転ヘラケズリを施す。658は突帯付長頸壺の体部の資料である。内外面とも回転ナデを施し、肩部と体部の境に断面三角形の突帯を巡らせる。

鉢 (657・659・662) 657は低い高台を有し、バケツ形の鉢の底部の資料で、体部下半は直線的に外方に開く。底部は回転ヘラケズリを施す。659は体部下半から底部の資料である。体部は直線的にやや外方に開き、外面に回転ヘラケズリを施す。662は小型のものである。鉢としてよいか迷うが、一応形態的特徴から、猪口形の鉢と考えた。

瓶 (660・661) 660は体部片で、把手が付く資料である。全面回転ナデで、把手はユビオサエとナデで成形する。661は平瓶の把手か。全面面取りをし、内面は手持ちヘラケズリを施す。

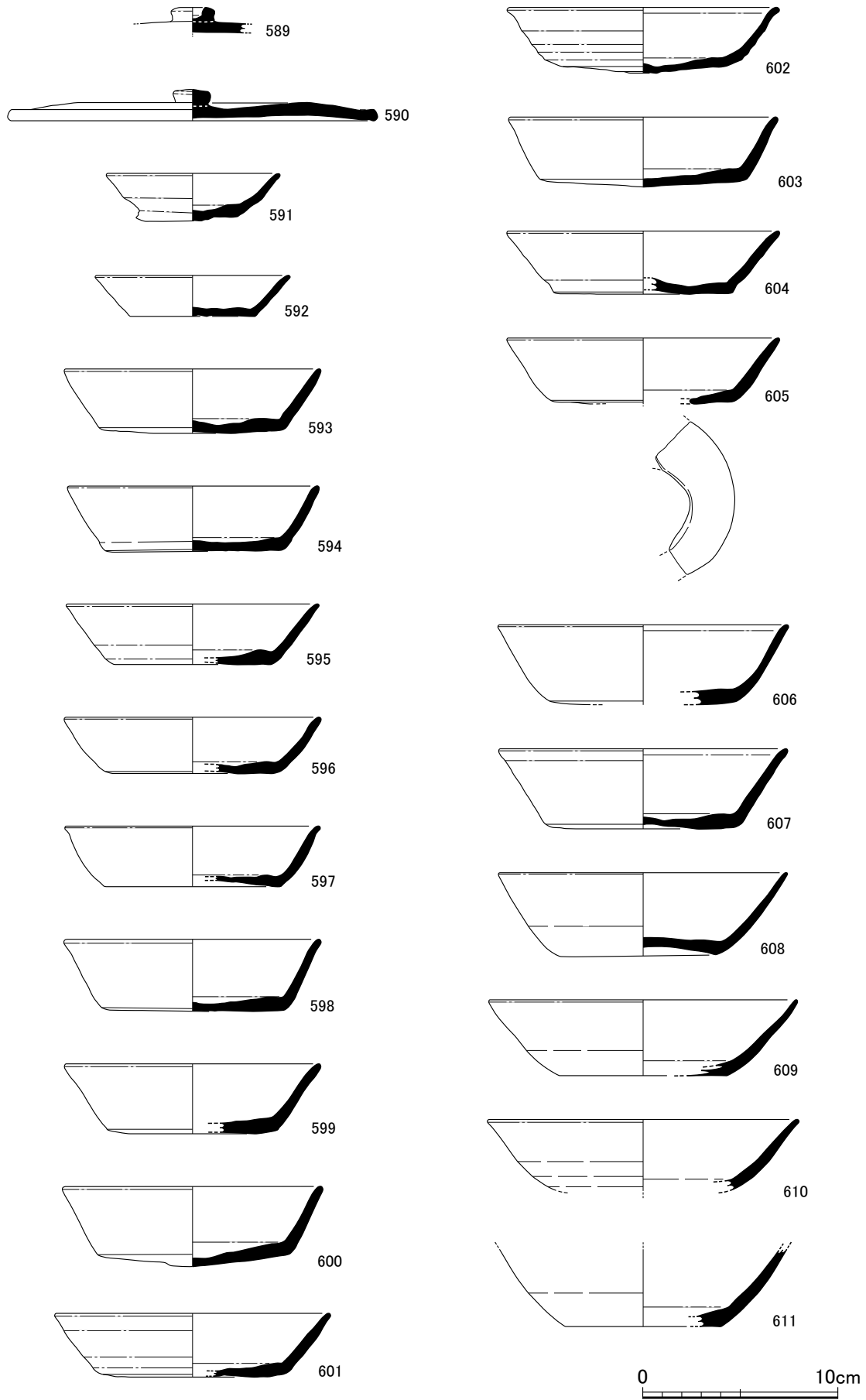
甕 (663～665) 663は頸部が直線的に外方に開く。体部外面に擬格子タタキをし、内面に同心円文当て具痕が残る。664は頸部の資料で、外反しながら口縁端部を平坦に仕上げる。端部外面に突帯を3条作り出し、内外面の一部に付着物が見られる。内面には別個体の破片が付着する。665は口縁部の資料で、口縁端部は断面方形状になる。端部内面はユビオサエを施す。

穿孔土器 (666～668) 666は杯蓋に穿孔したものである。やや扁平な形態で、口縁端部は下方につまみ出し丸くおさめ、上方を小突起状に巡らせる。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、つまみが剥落した痕跡が見られる。天井部に焼成前に穿った孔が1ヶ所認められる。667は杯身に穿孔したものである。口縁部を欠く資料で、高台は低く断面方形を呈する。高台端部は板状圧痕が残る。底部に焼成前の穿孔が1ヶ所見られる。668は高杯の杯部で脚部を欠く。口縁部が直立し、端部を平坦に仕上げる。底部に焼成後の穿孔が1ヶ所見られる。

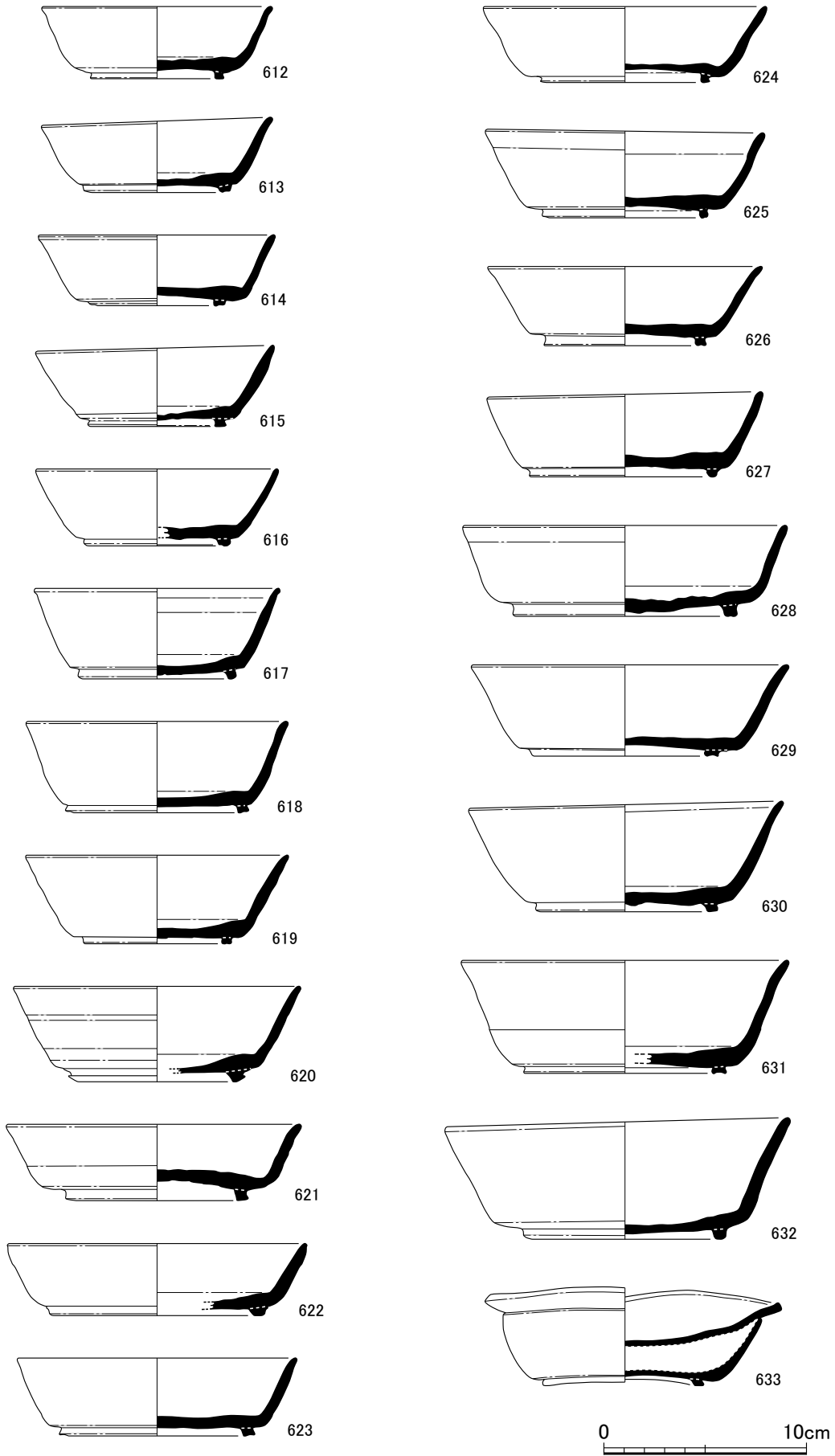
焼土塊 (669) 下層黒色土から出土した。裏表面にスサ痕が残り、長さ4.8cm、幅3.4cm、厚さ1.8cmを測る。

5区 (第66～68図、図版48)

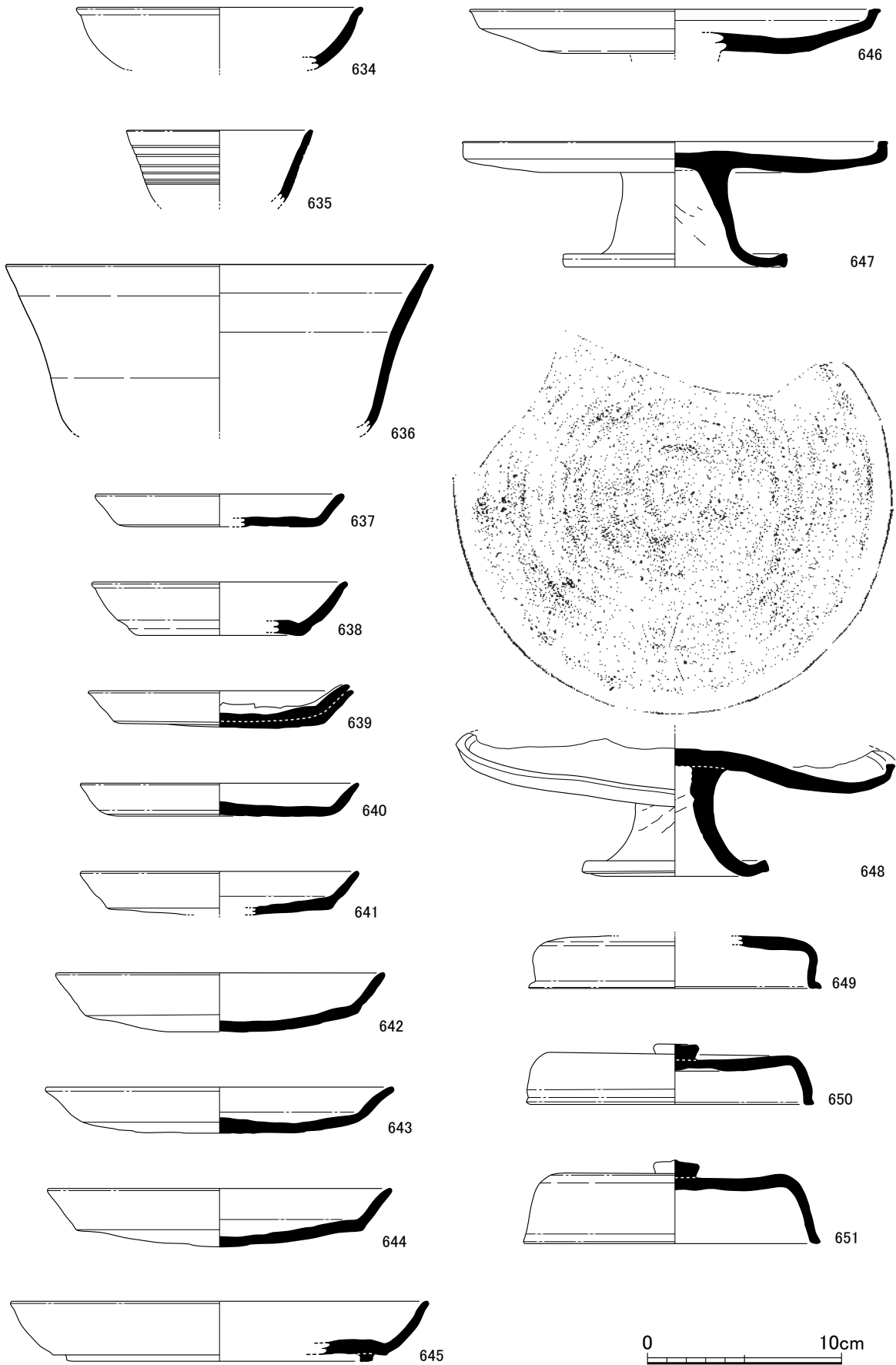
杯蓋 (670～682) 丸味を持ち、ドーム状を呈する形態と扁平な形態の2種類に分かれる。672・674～677は口縁端部が下方に引き出し断面嘴状を呈する。その他は、下方に突出し丸くおさめるものが多い。670～680・682は天井部外面に回転ヘラ切りを施し、678はさらに板状工具によるナデ。



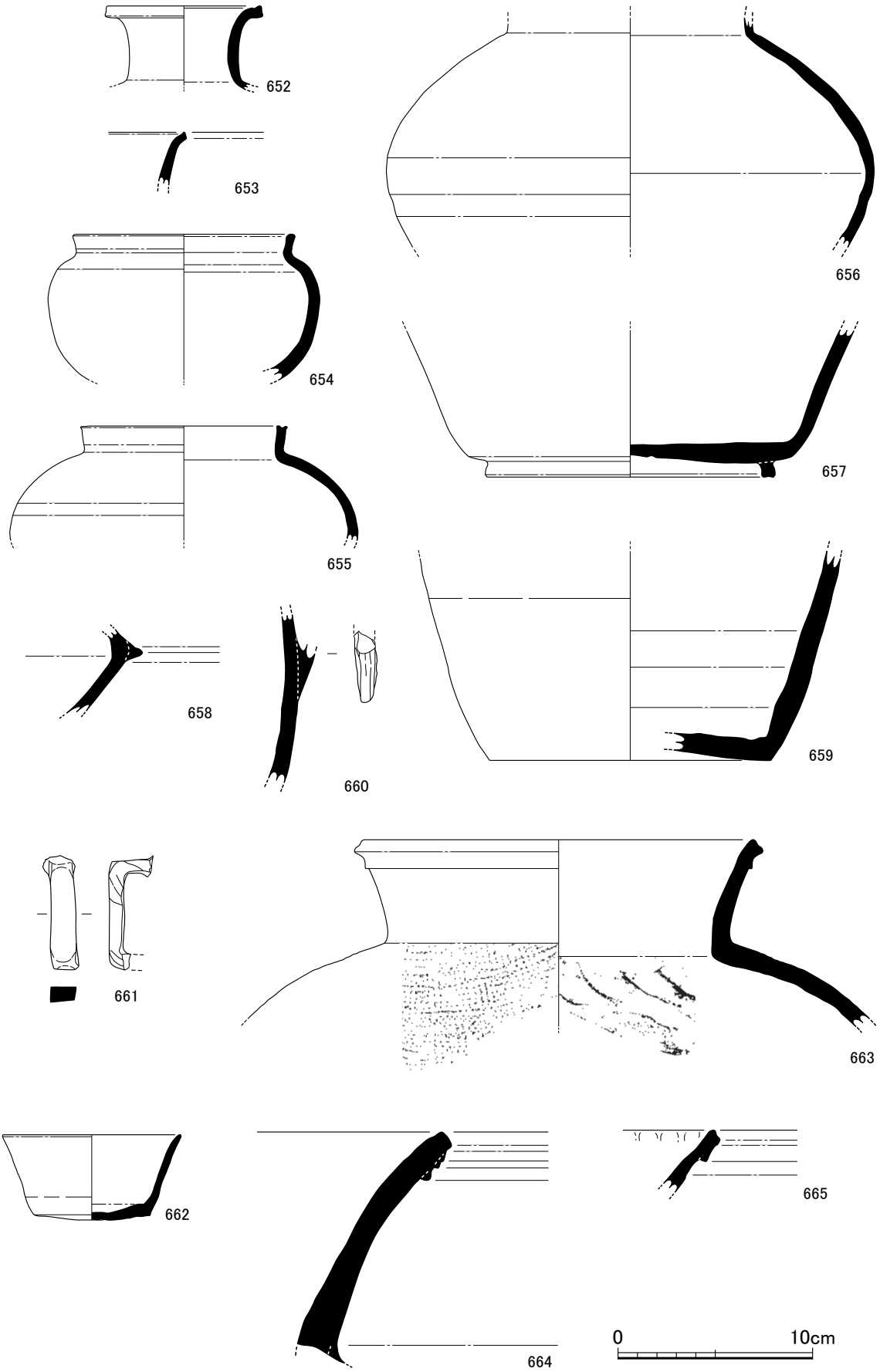
第61图 3·4号窑迹灰原4区出土遗物实测图② (1/3)



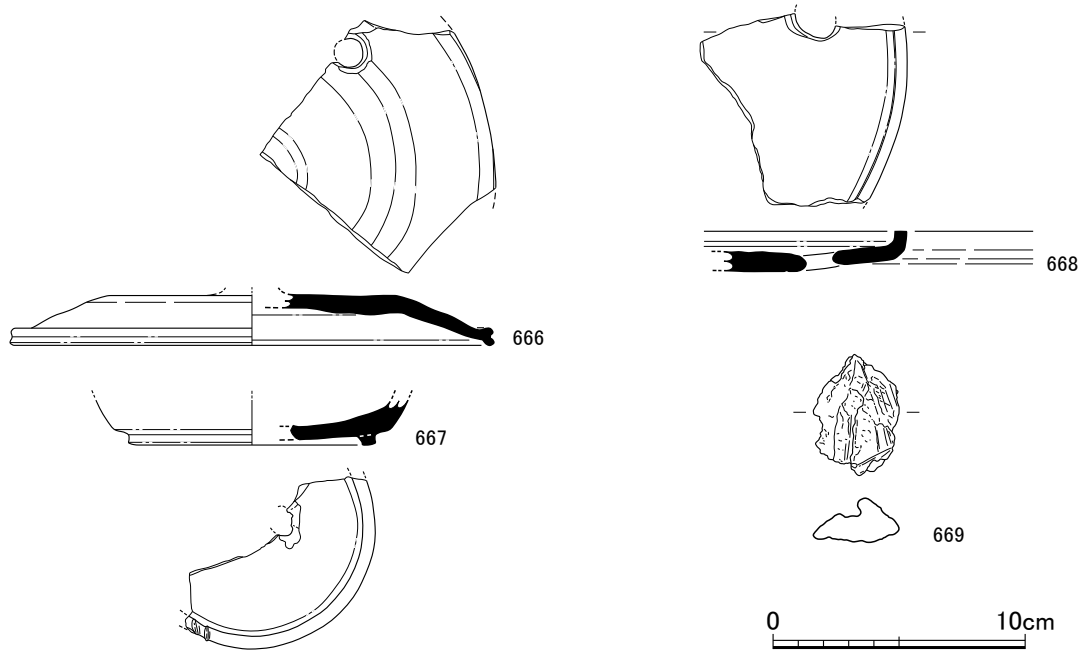
第62图 3·4号窯跡灰原4区出土遺物実測図③(1/3)



第63图 3·4号窯跡灰原4区出土遺物実測図④(1/3)



第64图 3·4号窯跡灰原4区出土遺物実測図⑤ (1/3)



第65図 3・4号窯跡灰原4区出土遺物実測図⑥（1／3）

681は回転ヘラケズリを施す。つまみは擬宝珠様とボタン状に分かれ、679は宝珠形を呈する。重ね焼きの痕跡は、673・674・681は外面、670は内面、671・677は内外面に認められる。672は外面に別個体の破片が付着する。681は外面に火襷が残る。

杯（683～689） 683～688は杯Aである。683は口縁部が内傾し立ち上がる。684～687は体部が外方に開き、口縁部は外反する。688は直線的に外方に開き、口縁部はわずかに外反する。いずれも底部外面は回転ヘラ切り、687は板状工具によるケズリが見られる。689は太宰府編年土師器杯d類に類似する。体部は内湾気味に外方に開き、底部は回転ヘラケズリを施し、口縁部との境は明瞭である。内面は回転ナデ。器壁は薄い。外面に火襷が見られる。

杯身（690～698） 690は口縁部を欠くが、高台径4.4cmを測る小型のものである。691～693・695・697は体部が外方に直線的に開き、694はやや内湾気味に外方に開き、698は直線的に外方へ開き、口縁部は外反する。696は焼き歪みが著しいため、詳細な形態は不明である。いずれも高台は低く断面方形を呈する。692は外面に重ね焼きの痕跡が残り、降灰が見られる。696は内面に重ね焼きの痕跡が認められる。

皿（699） 口縁部は外反し、底部は丸味を持つ。底部外面に簾状の圧痕が残る。

高杯（700～702） 700は杯部から脚部の資料である。口縁部は短く直立し、端部は平坦面を作り、脚部は外反する。脚部外面から杯部外面にかけて降灰する。701は脚部の破片で、脚部は外反しながら裾部は大きく広がる。脚端部は下方に折り曲げ、断面嘴状を呈する。脚部外面にシボリ痕が見られる。702は杯部から脚部の資料である。脚部は大きく外方へ開きながら、脚裾部は外方につまみ出す。脚端部は下方につまみ出し丸くおさめる。脚部内面にはシボリ痕が残る。

壺（703～706） 703は短頸壺の蓋である。天井部からやや外方に開きながら口縁部にいたり、口縁端部は外反する。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。704は口縁部の資料で、頸部は直立気味

に立ち上がり、端部を外方へ開き、上方に短く引き出す。内面をハケ状工具により回転ナデを施す。瓶の口縁部の可能性がある。705は短頸壺の体部下半の資料で、高台を欠く。肩部は丸く張る。体部外面は回転ヘラケズリを施し、体部内面下半はタテ方向のナデを施す。706は短頸壺の体部下半から高台にかけての資料で、肩部は丸く張り、体部下半は直線的に外方に開く。

瓶 (707) 双耳瓶である。頸部は外方に直線的に開き、口縁部は外方に開き、端部は屈曲し上方につまみ出す。胴部最大径は上半に位置し、肩部から底部外面にかけて回転ヘラケズリを施す。把手はナデとユビオサエで成形する。

甕 (708) 体部下半の破片で、外面は擬格子タタキを施し、内面は上半に同心円文当て具痕、下半に格子目状の当て具痕が残り、同心円文当て具痕が格子目状当て具痕を切る。外面は降灰が見られる。

6区 (第69~72図、図版49・50)

杯蓋 (709~724) 丸味を持ちドーム状を呈する形態と扁平な形態の2種類に分かれる。709は口縁端部を下方に折り曲げ丸くおさめる。その他は短く引き出し突出させる。711~716・719~722・724は回転ヘラ切りを施し、711・724はその後板状工具によるナデを施す。他は回転ヘラケズリ。つまみは擬宝珠様とボタン状を呈する2種類に分かれるが、709は口径8.1cm、器高2.4cmを測る小型の製品で、つまみは高さ1.3cm、径1.2cmと大きめのつまみを付ける。712・714・718は内外面に、711は内面に、713は外面に重ね焼きの痕跡が見られる。715は内面に火襷が残る。

杯 (725~730) 杯Aである。725は体部が直線的に外方に開き、体部中位で屈曲し外反しながら端部にいたる。底部外面はヘラ切り未調整。726~730は体部が直線的に外方に開き、口縁端部はわずかに外反する。726は底部が丸味を持ち、その他は平坦である。重ね焼きの痕跡が、725・730の内面に残る。

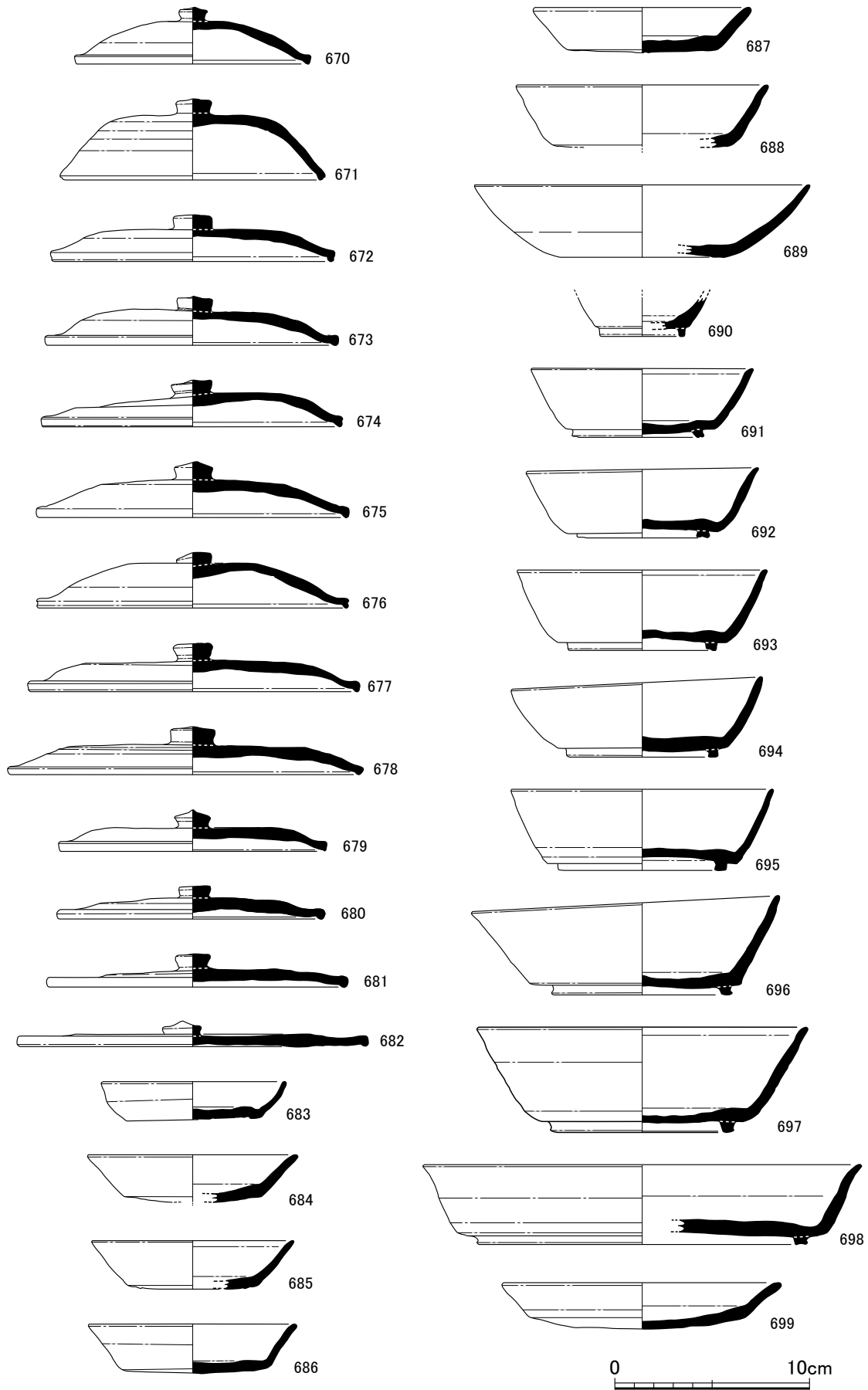
杯身 (731~735) 731・732は体部が直線的に外方に開き、口縁端部は外反する。733は体部が直線的に外方に開く。735は内湾しながら立ち上がる。いずれも高台は低く断面方形を呈する。732は底部外面に板状の圧痕が残る。734は焼き歪みが著しいが、全体の調整は丁寧で、底部外面にわずかに重ね焼き痕が残る。口縁部内面は火襷が残る。

皿 (736) 台付皿である。口縁部は大きく外方へ開く。高台は低く断面方形を呈する。

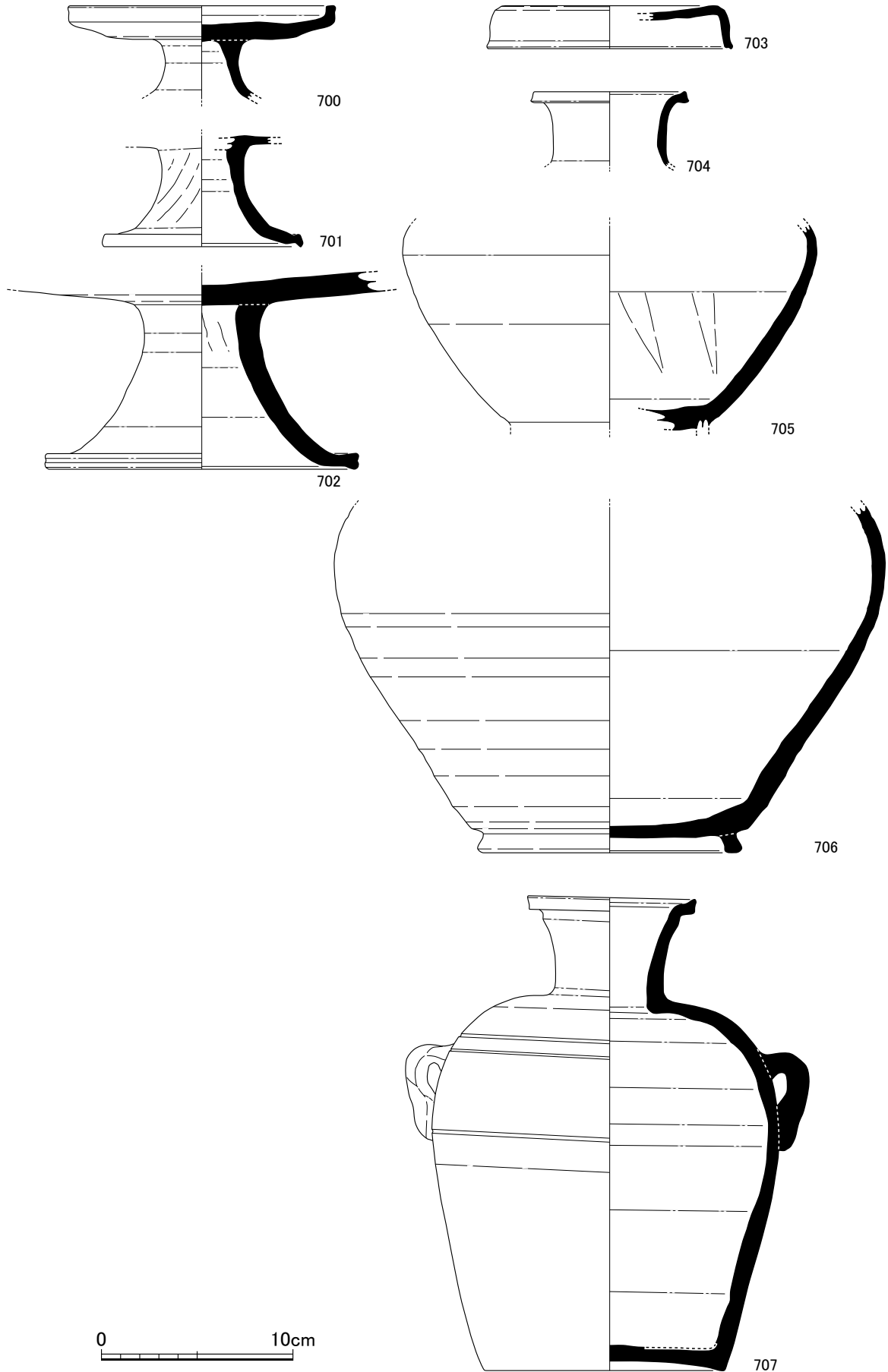
壺 (737~742) 737・738は短頸壺の蓋である。いずれも口縁端部は外反する。737は中央がやや突出する擬宝珠様のつまみが付く。738は中央がわずかに突出する。739~741は頸部のみの資料である。739は口縁部が外反し、口縁端部を上方に引き出す。内面にシボリ痕が見られる。740は頸部が外反しながら開き、口縁端部は短く外方に突出した後上方につまみ出す。741は頸部が直立し口縁端部を屈曲させ上方につまみ出す。頸部に2条、沈線を巡らせる。742は短頸壺で体部下半を欠く。口縁部は直立し、端部を平坦に仕上げる。体部最大径は上半に位置する。

瓶 (743) 双耳瓶で体部上半を欠く。把手は体部下半に付けられ、器壁は厚い。ナデとユビオサエで成形する。

鉢 (744・745) 744は口径12cm、底径10.4cm、器高5.3cmを測る箱型の鉢である。体部が直立しな



第66图 3·4号窑迹灰原5区出土遗物实测图①(1/3)



第67图 3·4号窑迹灰原5区出土遗物实测图②(1/3)



第68图 3·4号窯跡灰原5区出土遺物実測図③(1/3)

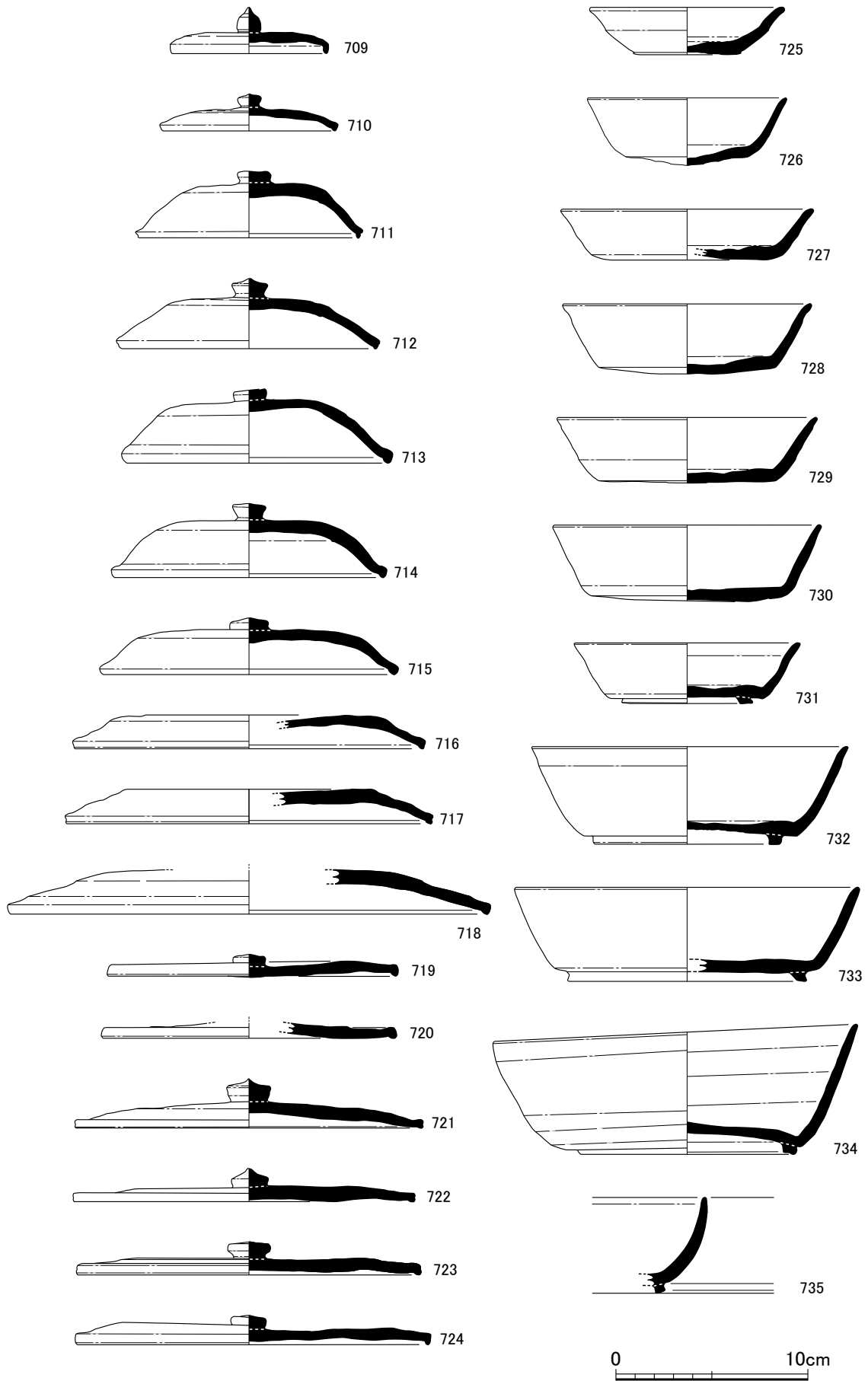
がら立ち上がり、口縁端部は外方につまみ出す。底部外面は回転ヘラケズリ。745はバケツ形の鉢でラッパ状に開き、口縁端部に平坦面を作る。体部下半から底部外面にかけて回転ヘラケズリを施す。

甕 (746~749) 746・747は口縁部の資料である。746は体部が直線的に外方に開き、端部は断面方形を呈する。頸部内面に接合痕が見られる。747は頸部が外反しながら立ち上がる。口縁端部外面に断面三角形の貼付突帯を3条巡らせる。748は底部を欠くが、全形を知ることができる資料である。頸部は外反しながら端部に至る。口縁端部下に小突起を巡らせる。体部最大径は上半に位置し、やや肩が張る形態である。体部外面は格子目タタキを施し、内面は同心円文当て具痕が残る。749は体部の資料である。体部最大径は上半に位置するが、748と比べると肩部の張りがゆるやかである。体部外面は格子目タタキを施し、内面に同心円文当て具痕が残る。

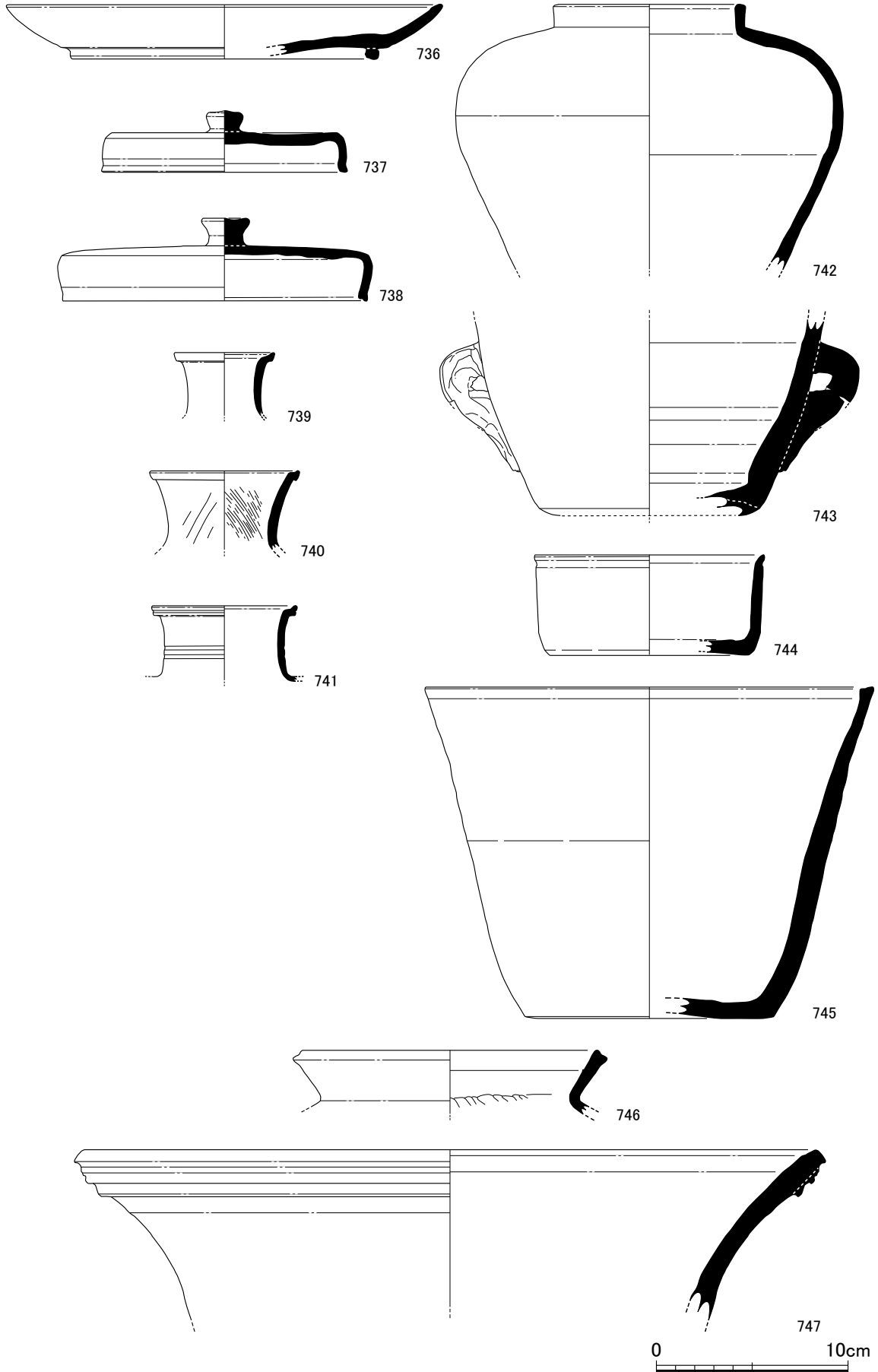
蓋 (750) 天井部は丸味を持ち、口縁部は屈曲し外方へ大きく引き出す。内外面とも回転ナデ。焼き歪みがある。小田浦38-I号窯跡で同様の蓋があるが、IV A期にあたる資料であり、本資料の由来には検討が必要である。

硯 (751) 脚部の資料である。直線的に外に開き、口縁端部に断面方形の突帯を巡らせる。脚部には沈線2条を施し、おそらく透かしが入るものと考えられる。

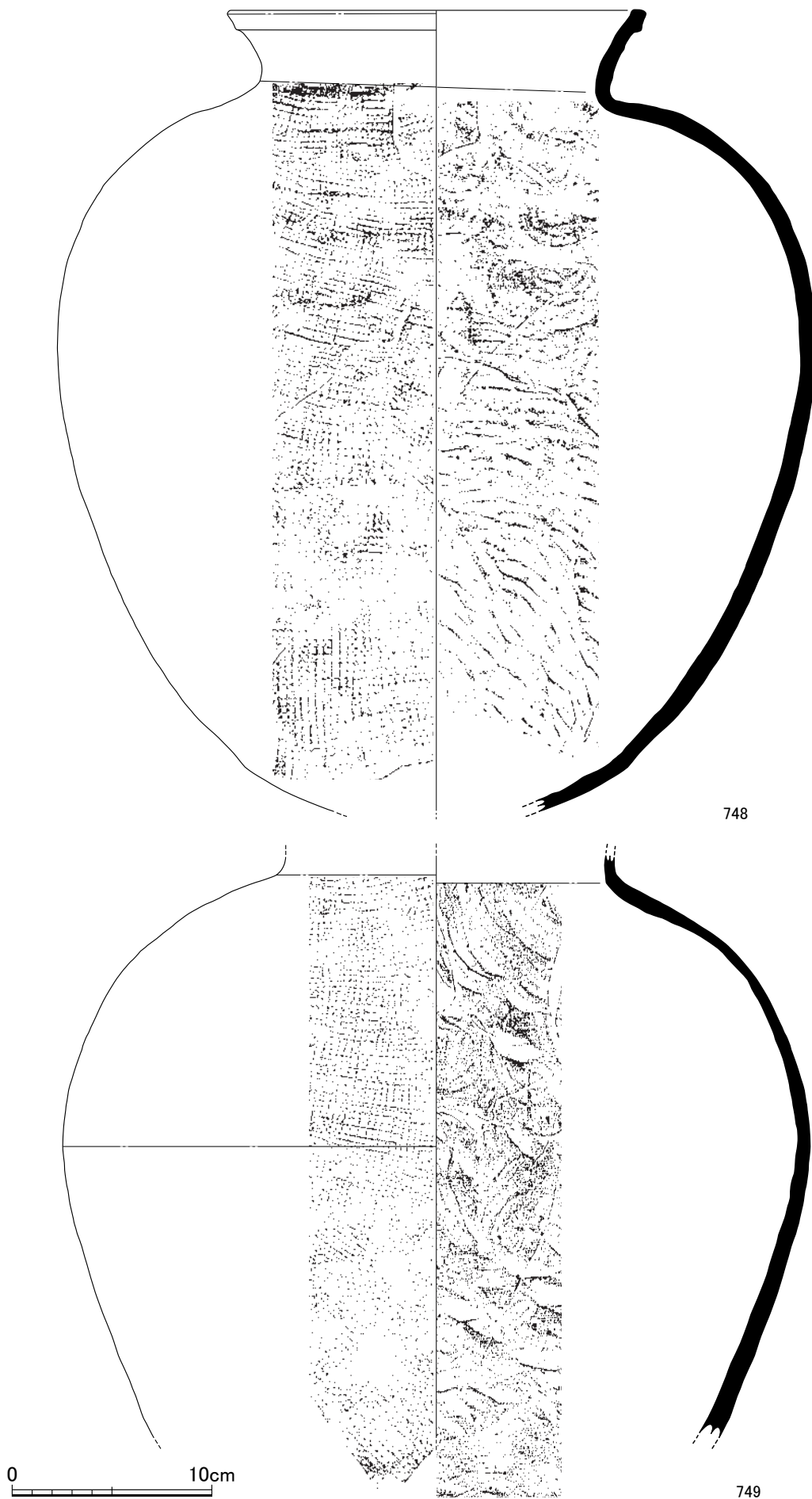
土製品 (752) 鳥形を呈する資料である。残存する長さ6.6cm、幅3.7cm、厚さ6.4cmを測り、ナデで成形する。頸部の欠損部分は擬口縁を呈する。頭部上にタテガミに似た突帯を貼り付けており、馬形の可能性も考えられる。壺の把手などか。 (藤島)



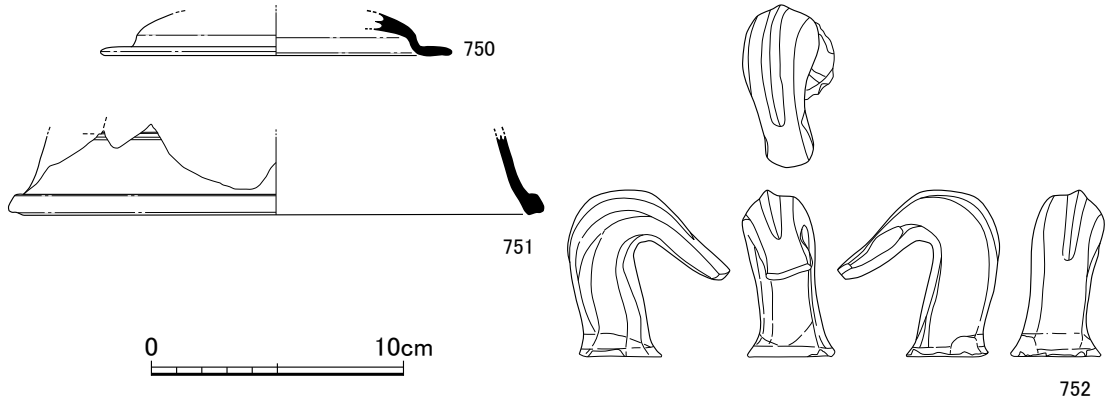
第69图 3・4号窯跡灰原6区出土遺物実測図①(1/3)



第70图 3·4号窑迹灰原6区出土遺物実測図②(1/3)



第71图 3・4号窯跡灰原6区出土遺物実測图③ (1/3)



第72图 3·4号窑迹灰原6区出土遗物实测图④(1/3)

(11) 70-5号窯跡 (第73・74図、図版3・9~11)

5号窯跡は、調査地の中央で確認され、4号窯跡の西側に隣接する。窯の全長は3.18m、主軸はN-30°-W、焚口部の幅は0.82m、窯の平面プランは焼成部中位がゆるやかにふくらみ、奥壁は丸くなる。遺構検出時にはまったく分かっておらず、1号窯跡灰原3区の掘り下げ中に窯体の入口を検出した。このため、前庭部から灰原の土層を確認できなかったが、地山に近い土が堆積しており、灰層は残されていなかったようである。窯は、窯体の入口から排煙部まですべて完存しており、窯内の高さは煙道部下で最も絞り込まれている。両側壁の還元面は、窯体入口の天井部に続き、入口部の被熱痕跡は窯内のみで、前壁には及ばない。仮設天井は確認できなかった。燃焼部から焼成部までの床面からは須恵器蓋杯が出土しており、床面は貼床を除去すると舟底状ピットが確認された。

焚口・燃焼部 焚口部は幅0.82m。焼成部との境を床面の傾斜変換点に求めると、舟底状ピットより前底部側にとることになり、窯体入口の外側で火を焚くことになる。燃焼部の長さは42cm、焼成部との境は幅0.68m、床面の傾斜角度は前庭部側から2°で奥壁側に下ったのち、奥壁にむかって4°上がる。

焼成部 焼成部は長さ2.4mで、最大幅1.03mを中位にとり、奥壁にむかって緩く窄まり奥壁は丸くなる。床面の傾斜角度は12~38°で、燃焼部から焼成部床面からは須恵器が出土した。舟底状ピットは、長さ0.55m×幅0.45m、深さ8cm程度と浅い。窯の高さは、窯体入口で0.55m、煙道部下で47cmと最も絞り込まれている。

排煙部 奥壁から直立し、横断面で見るとやや左側に傾いている。高さは、奥壁床面から0.88mで排煙口にいたる。長さは0.52m、径は25cmで、円筒状に直立する。

前庭部 焚口から続く床面は還元しており、ハの字に開く前庭部全体に被熱がおよぶ。長さ0.78m×幅1.42mで、床面は焚口部にむかって緩く下がっており、浅い皿形になる。このためか、前庭部の最も下がった面に接続するように、長さ0.77m、幅21~23cmの溝が掘られており、排水の役割を果たしたと考えられる。前庭部右側は大きく掘り広げられている。

灰原 先に述べたように、5号窯跡に伴う灰原は確認できなかった。 (石木)

(12) 出土遺物

窯体内・焚口手前 (第75・76図、図版50~53)

第74図の取り上げ番号は、観察表に記載している。

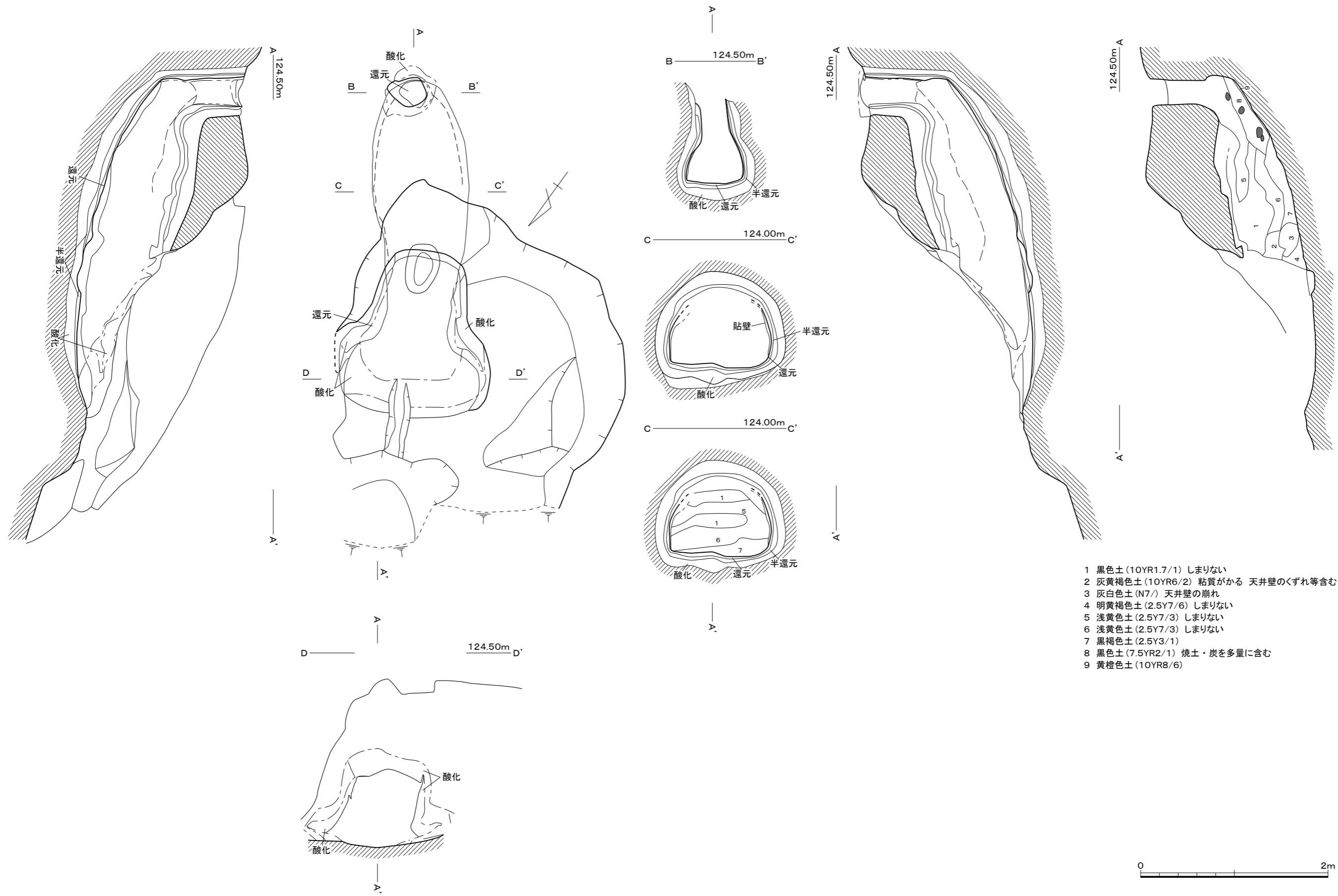
杯蓋 (753~787) 丸味をおびドーム状を呈する形態と扁平な形態の2種類に分類される。754~756・758~762は口縁端部を下方につまみ出し、断面三角形を呈す。753・757・763はわずかに突出する。753・755~758・760・761・764~766・771・772・782は天井部外面は回転ヘラ切りし、765・782は板状の工具でナデる。その他は天井部外面に回転ヘラケズリを施す。753・761は内面の一部に重ね焼きの痕跡が認められる。766は天井部外面に板状の圧痕が残る。

杯 (788~790) 杯Aである。いずれも体部は直線的に外方へ開き、口縁端部は外反する。底部外面は回転ヘラ切りで、788・789は板状の工具によるナデを施す。

杯身 (791～795) 杯B身である。791～793は体部が直線的に外方へ開き、791・792は口縁端部を外反させる。いずれも高台が低く断面方形を呈する。793は端部をわずかに外方に突出す。792・794・795は底部外面に簾状の圧痕が認められ、793は板状の圧痕が残る。

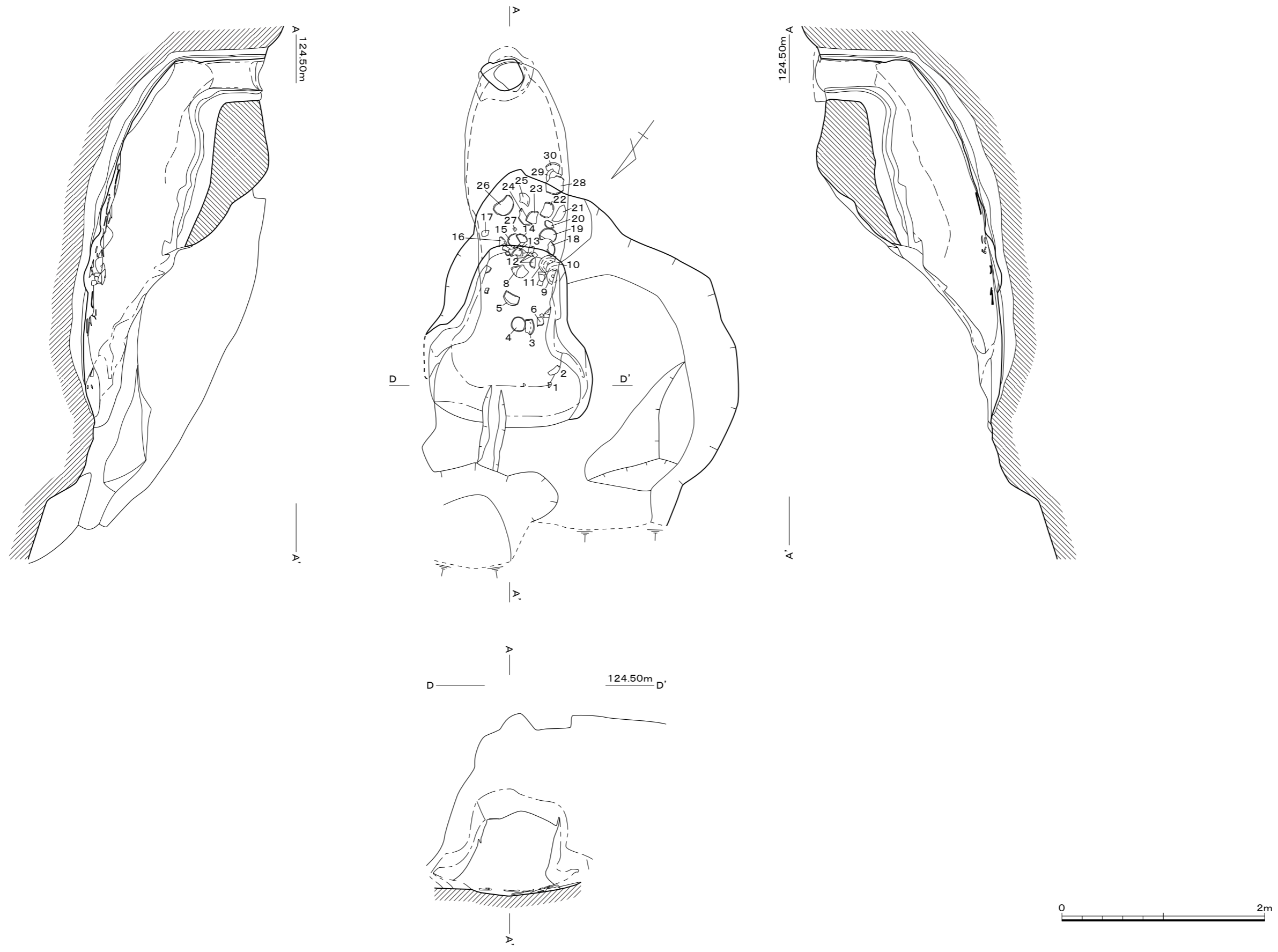
皿 (796～803) いずれも体部は外方へ開き、端部は外反する。797・798・800・801は底部が丸味を持ち、799は尖り気味の形態をなす。796～803は底部外面に回転ヘラ切りが施され、796はヘラ切り後未調整であるが、799・801は板状の工具によりナデを施す。799は底部外面端に重ね焼き痕が認められ、800は底部外面に板状の圧痕が残る。803は内面全体に火襻が確認される。

(藤島)

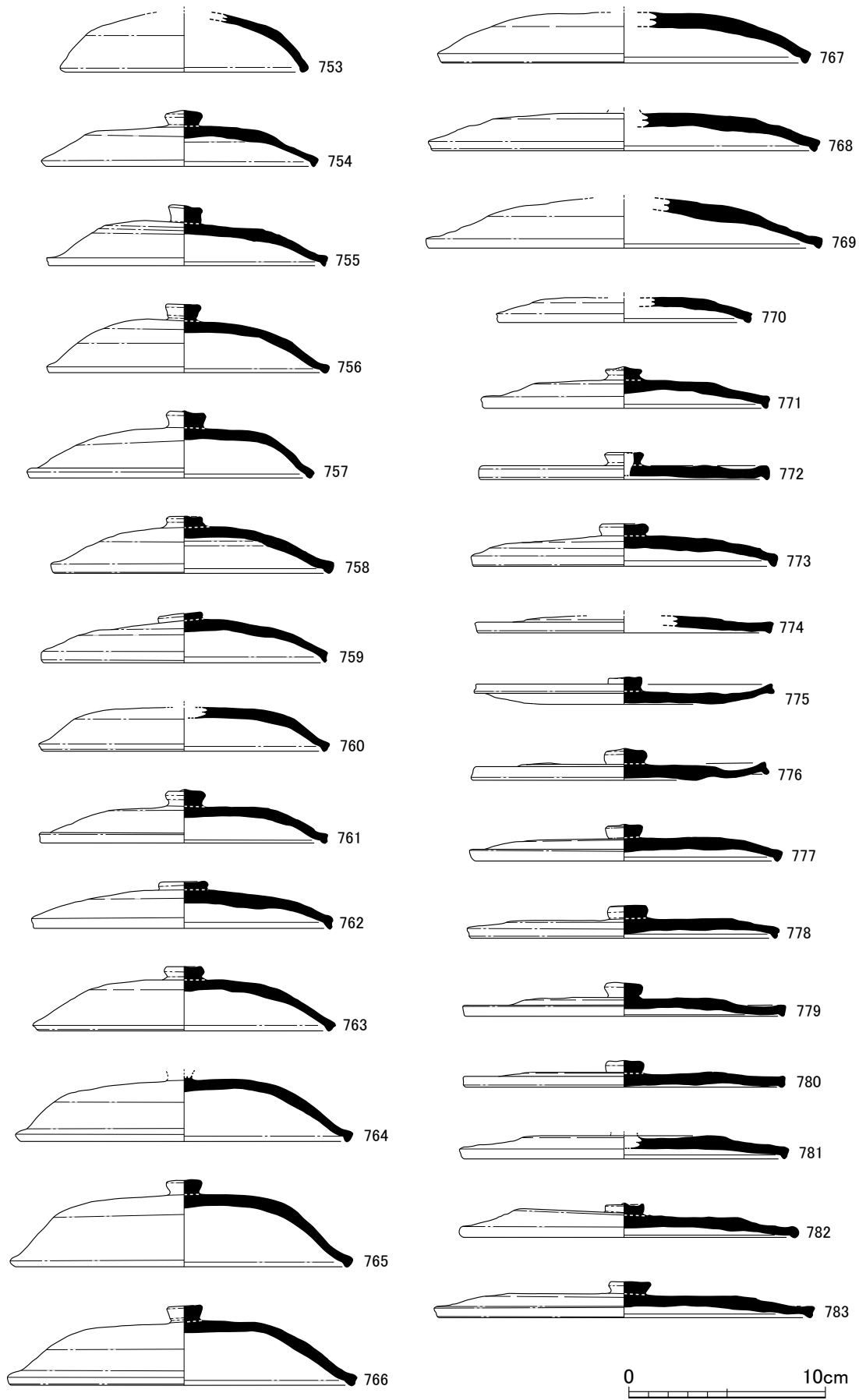


- 1 黒色土(10YR1.7/1) しまりない
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2) 粘質がかかる 天井壁のくずれ等含む
- 3 灰白色土(N7/) 天井壁の崩れ
- 4 明黄褐色土(2.5Y7/6) しまりない
- 5 浅黄色土(2.5Y7/3) しまりない
- 6 浅黄色土(2.5Y7/3) しまりない
- 7 黒褐色土(2.5Y3/1)
- 8 黒色土(7.5YR2/1) 焼土・炭を多量に含む
- 9 黄橙色土(10YR8/6)

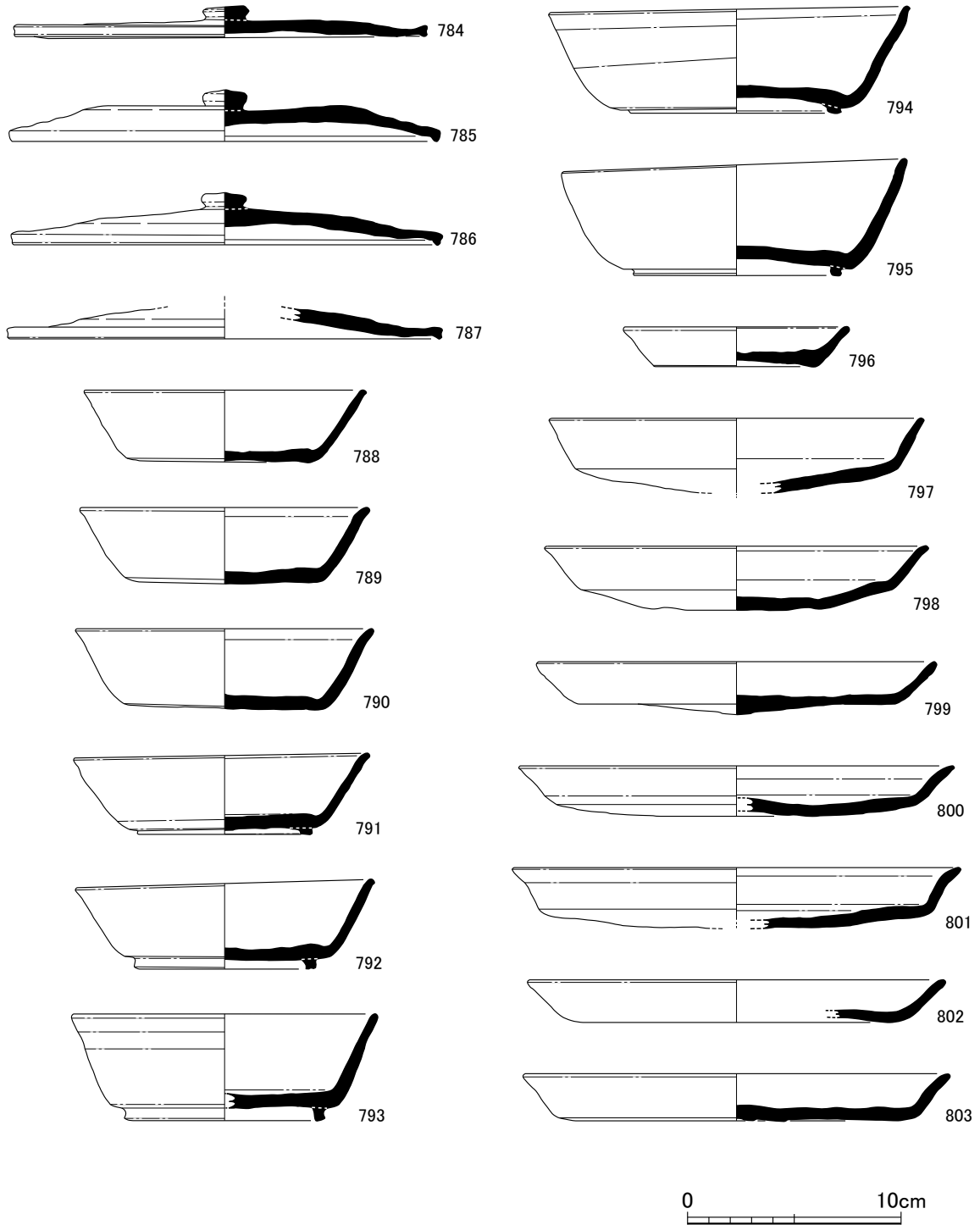
第73図 5号窯跡実測図 (1/40)



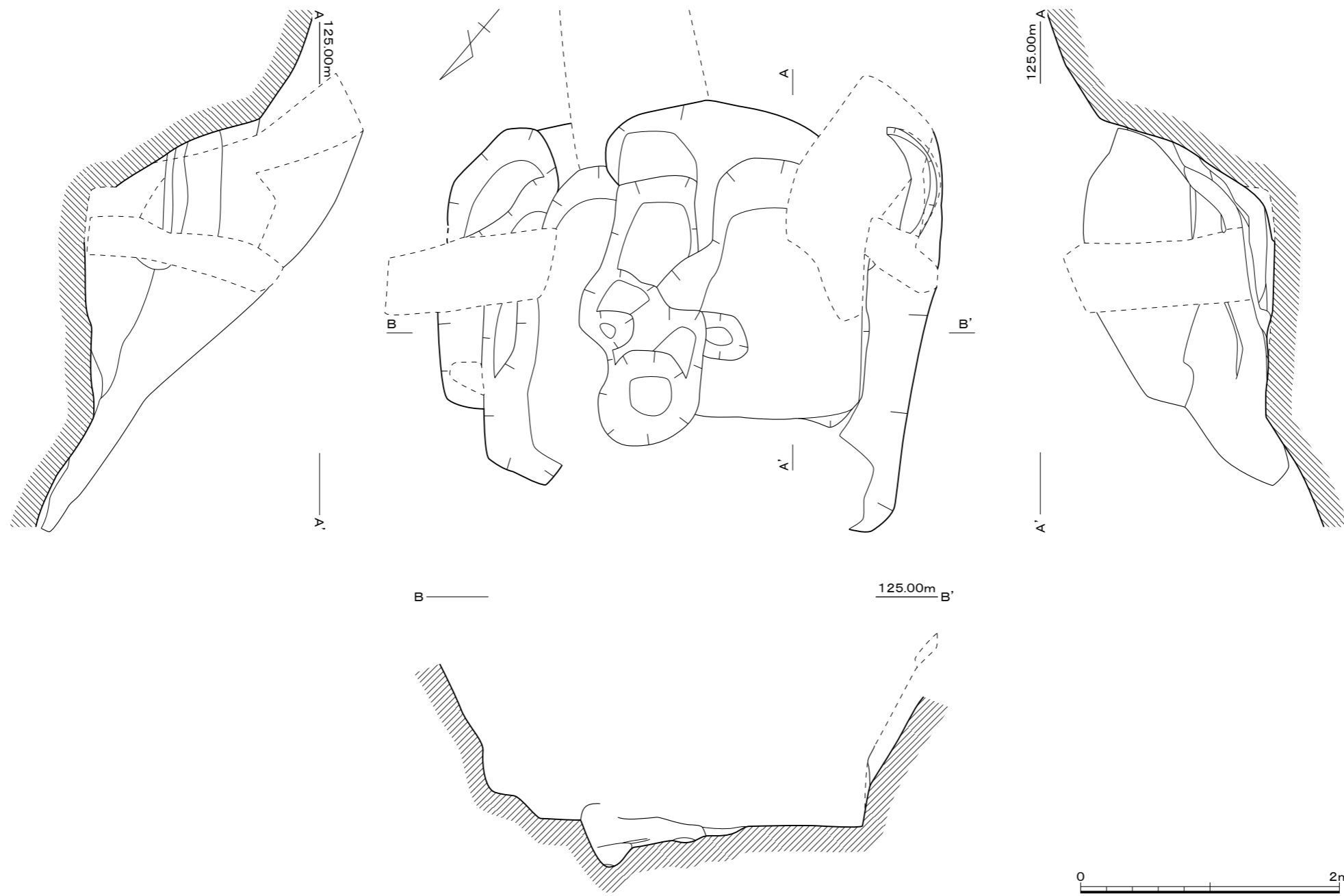
第74图 5号窑迹遗物出土状况 (1/40)



第75图 5号窯跡窯体内・焚口手前出土遺物実測図①(1/3)



第76图 5号窯跡窯体内・焚口手前出土遺物実測図②(1/3)



第77图 6号窠迹实测图 (1/40)

(13) 70-6号窯跡 (第77図、図版11)

6号窯跡は、調査地の中央で確認され、1・2号窯跡の間に位置する。調査時に、長さ2.45m × 幅3.8m の方形に掘り下げられた箇所があり、床面が平らに近かったことから、前庭部を掘りかけて終わった窯跡の可能性を考えた。掘り込みの深さは約1.2m におよぶが、焼けた痕跡などはないことから、窯跡ではないと判断される。また、作業時に工人が起居した工房の可能性も考えられるが、柱穴などは確認できず、性格は不明である。(石木)

(14) 出土遺物**窯体内・前庭部 (第78図)**

窯体内から804、焚口から煙道部に向かって左側前庭部から805～807が出土している。

杯蓋 (804) 扁平な形態をなす。口縁端部は下方につまみ出し断面三角形を呈する。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。

杯身 (805・806) 805は杯B身である。高台が低く断面方形を呈する。806は底部を欠くため杯身であるかは不明だが、体部は直線的に外方に開き、口縁端部下を強くナデており、稜をなす。

皿 (807) 体部は内湾気味に外方へ開き、口縁端部を丸くおさめる。底部外面は回転ヘラケズリ後ナデ。(藤島)

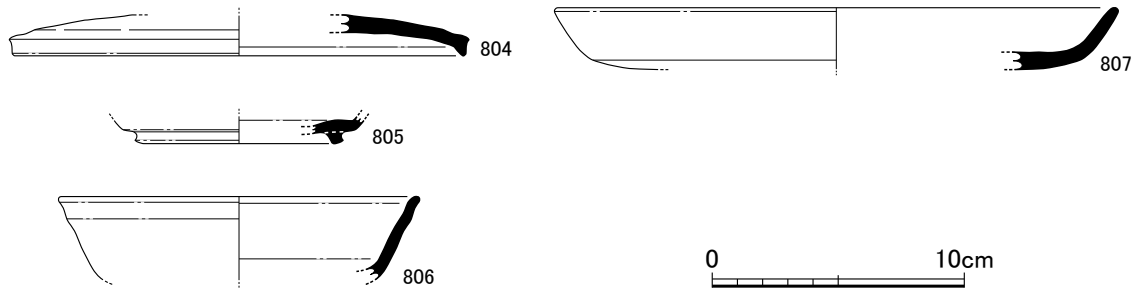
(15) 70-SX01 (第29図、図版3)

1号窯跡の右側に隣接する土坑のうち、最も右側のものにあたる。長さ4.5m × 幅3.0m の大きさで段を成して大きく掘り広げられる。比高差は1.8m を測る。土坑の性格は不明だが、大量の須恵器が出土した。(澤田)

(16) 出土遺物 (第79～83図、図版53～57)

杯蓋 (808～834) 丸味を持ちドーム状を呈する形態と扁平な形態の2種類に分かれる。808～810・813～815・817～829・831～834は口縁端部を下方につまみ出し、断面三角形を呈する。その他はわずかに突出させる。822・823・827・832は天井部外面に回転ヘラケズリを施し、他は回転ヘラ切り。重ね焼きの痕跡は、814・816・817・820は内外面に、811・826・834は外面に、808・813は内面に残る。823は口縁部外面から内面全体にかけて火襻が認められ、832は天井部外面に簾状の圧痕が見られる。811は杯身との重ね焼きの資料で、杯身を逆にしてその上に蓋を重ねる。杯身の底部内面には「×」のヘラ記号が認められる。834は焼き歪みが著しく、詳細な形態は不明である。

杯 (835～847) 835～842は杯Aである。835は、体部は内湾気味に外方に開き、底部外面は回転ヘラ切り未調整である。836～842は、体部は直線的に外方に開き、838～840・842は、口縁部は外反する。839・840は底部外面に簾状の圧痕が見られる。火襻は、836は口縁部内外面に、838は外面全体に、841は口縁部内面に残る。843～847は太宰府分類土師器杯dに類似する杯で、底部外面をヘラケズリを施す。いずれも口縁部は内湾気味に立ち上がり、846は口縁端部が外反する。底部



第78図 6号窯跡出土遺物実測図(1/3)

と体部の境はヘラケズリにより明瞭である。内面は回転ナデを施し、器壁は薄い。843は杯Aを重ね焼きした資料で、外面の一部と内面全体に火襷が見られる。火襷は、844は内外面全体に、845は外面全体と口縁部内面に、846は口縁部内外面に、847は底部外面の一部に認められる。

杯身(848~873) 848~871は、体部は直線的に外方に開き、849・851・865~869は口縁部が外反する。872は体部は内湾気味に立ち上がり、端部を丸くおさめる。いずれも高台は低く断面方形を呈し、855は高台内面を小突起状にする。851は内面に重ね焼きの痕跡が認められる。853・857・870は高台端部に圧痕が残り、857は棒状を呈する。867は底部外面に簾状の圧痕が見られる。873は体部が内湾気味に立ち上がり端部を丸くおさめ、高台は低く断面方形を呈する。土師質である。内外面全体にミガキのような回転ナデを施す。口径21.2cm、器高6cm、高台径14.6cmを測る大型の資料である。

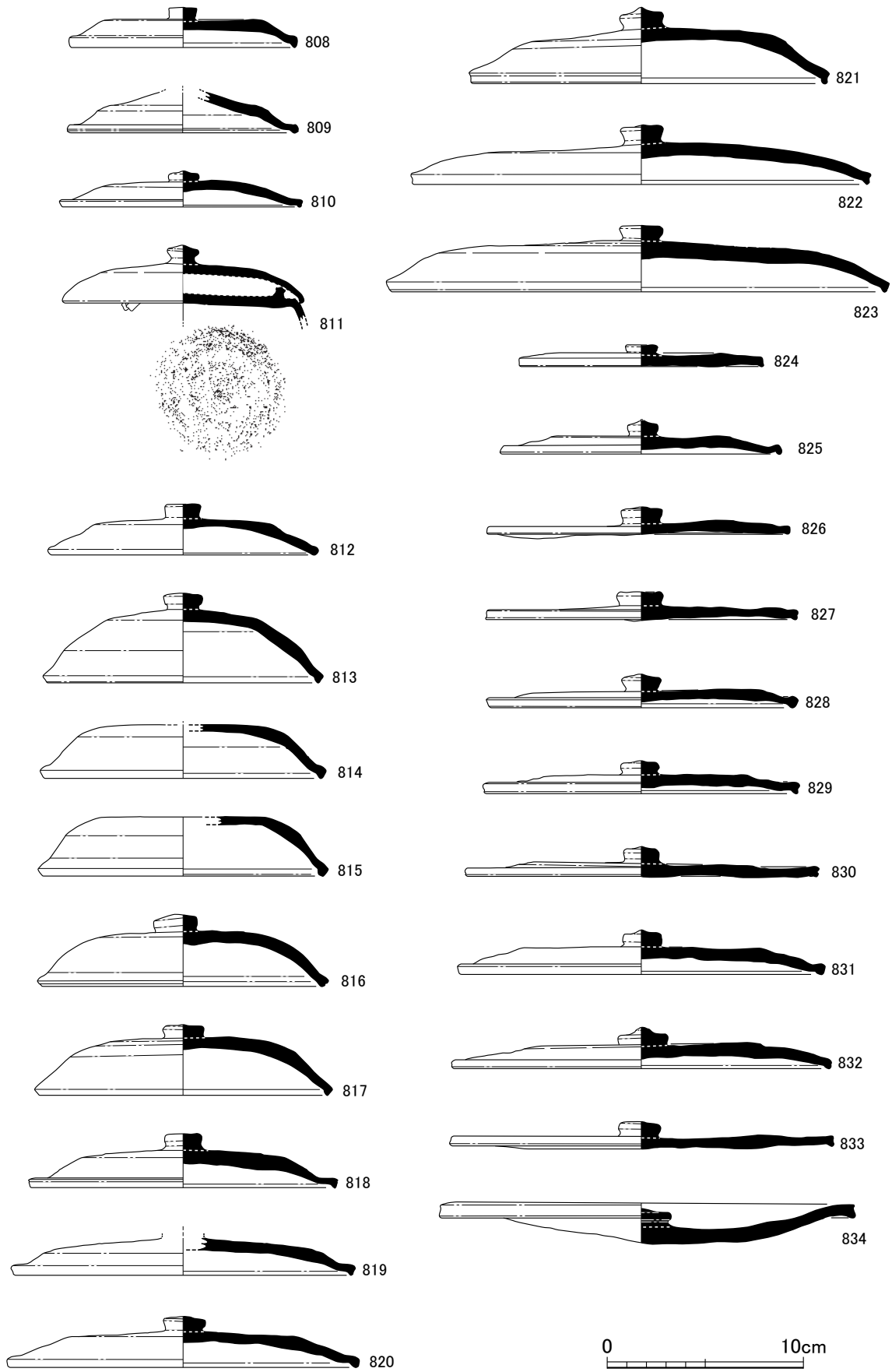
皿(874~889) 874・875・877~881・883・885~888は体部が外反しながら開く。876は体部が直線的に外方に開き、底部は丸みをおびる。882は体部は外反しており、底部は丸味を持つ。884は体部は直線的に開き、端部を短く外方に突出する。底部外面は回転ヘラケズリ。874は底部内外面に火襷が見られる。889は台付皿である。体部は内湾気味に外方に開く。高台は低く、端部外面を外方に小さく突き出す形態である。

高杯(890・891) 890は脚部が長く、裾部にむかってラッパ状に開く。脚端部は下方に短く折り曲げ、断面嘴状を呈する。脚部内外面にシボリ痕が見られる。891は脚部は長く、裾部にむかってラッパ状に開く。脚裾端部は下方につまみ出し断面三角形を呈する。脚部外面にシボリ痕が見られる。

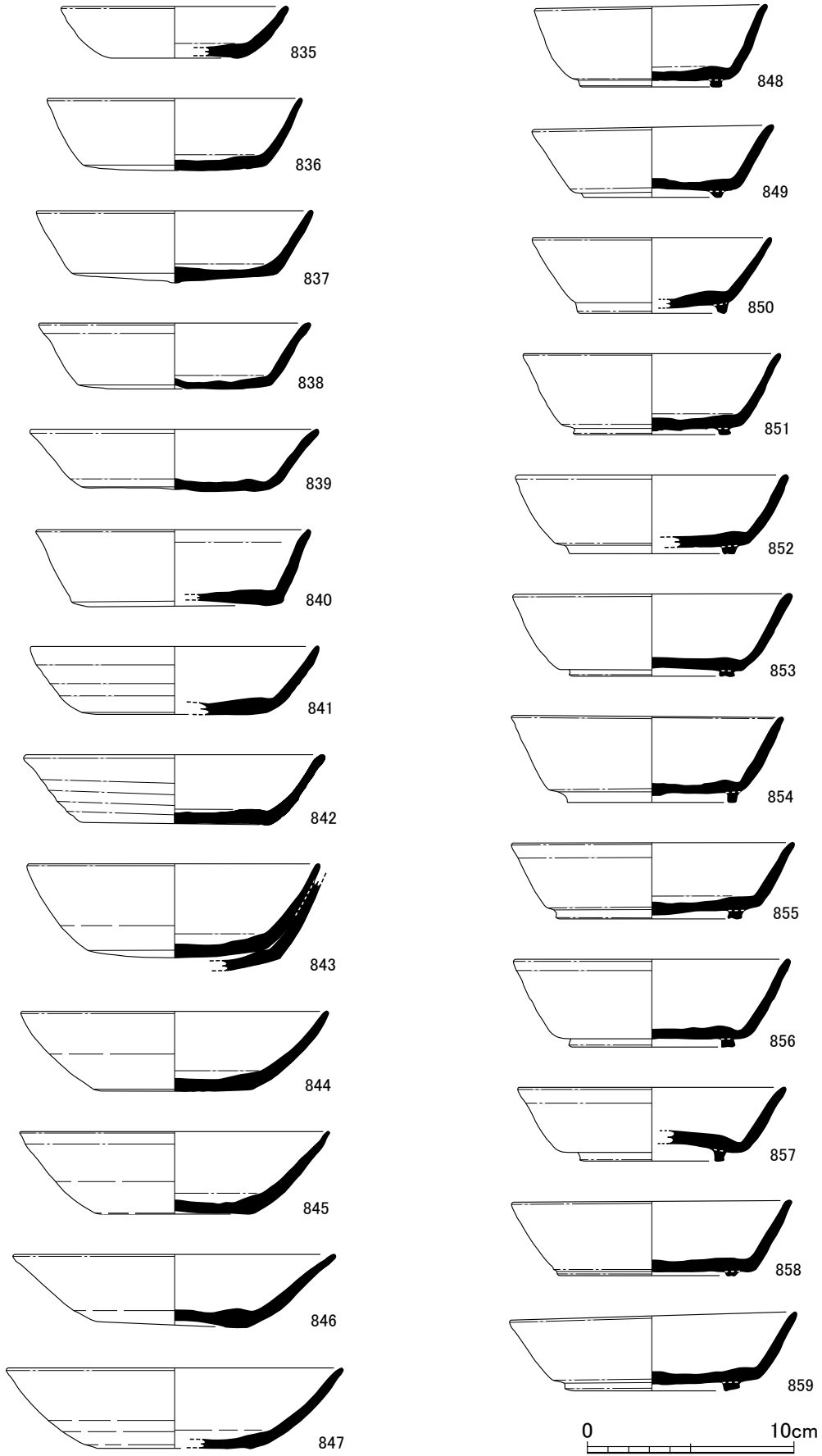
壺(892・893・897) 892・893・897は短頸壺である。892は口縁部が直立し、端部は平坦面を作る。体部最大径は上半に位置し、体部下半は回転ヘラケズリを施す。893は体部の資料で、やや肩が張る形態をなす。体部最大径は上半に位置する。897は口縁部から肩部を欠く資料で、体部は外方に開き、肩部は丸味を持つ。高台はやや高い。体部下半内面は回転ナデ後タテ方向の指ナデを施す。高台端部に簾状の圧痕が残る。

瓶(894~896) 894・895は頸部のみの資料である。894は口縁部は大きく外方に開き、口縁端部は外反する。895は頸部が直立気味に立ち上がり、端部を外方に屈曲させる。口縁端部に降灰が見られる。896は体部のみ。肩部は丸味を持ち、底部内面はユビオサエをする。

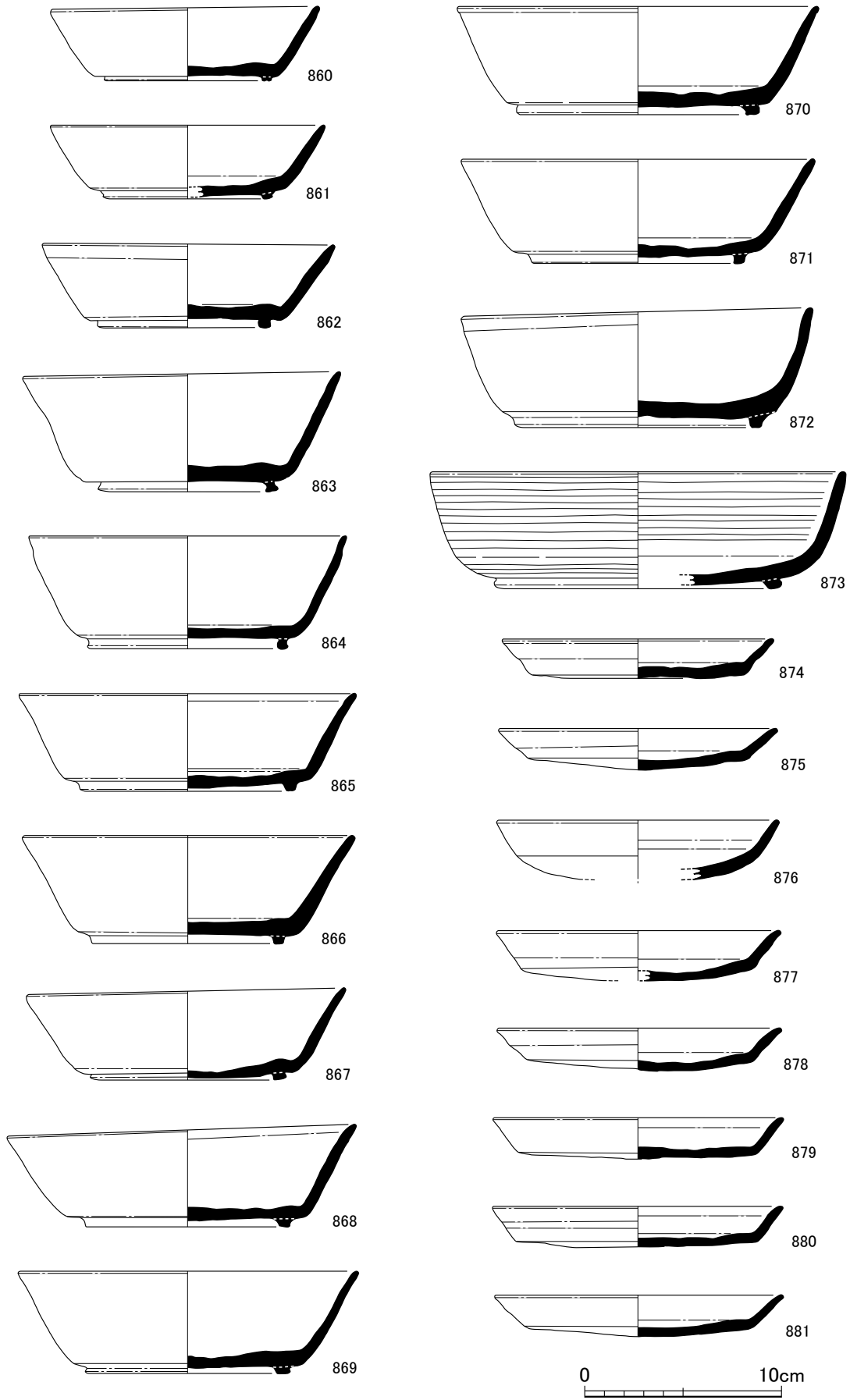
鉢(898) バケツ形の鉢で、口縁部を欠く。体部は直立気味に立ち上がる。体部下半から底部外



第79图 SX01出土遺物実測图① (1/3)



第80图 SX01出土遺物実測図② (1 / 3)



第81图 SX01出土遺物実測図③ (1/3)

面にかけて回転ヘラケズリを施し、体部内面下半は回転ナデ後タテ方向のナデを施す。

甕 (899) 体部下半を欠く資料である。頸部は外反し、口縁端部外面に断面三角形の突帯が巡る。体部最大径は上半に位置し、肩がやや張る。体部外面は格子目タタキ、内面に同心円文当て具痕が残る。
(藤島)

(17) 70-SX02 (第84図、図版11)

SX02は、6号窯跡上で確認された土坑である。長さ5.72m × 最大幅2.75m で不整形に広がる。埋土は褐色土～黒色土で、厚さは最大0.55m で斜面に沿って堆積している。須恵器が出土したことから遺構としたが、丘陵斜面の凹地に堆積したもので、遺構の性格は明らかにできない。

(石木)

(18) 出土遺物 (第85図、図版58)

杯蓋 (900～904) 900は口径6.3cmを測る小型の資料である。扁平な形態で、天井部は回転ナデを施す。高さのある断面方形のつまみが付く。口縁部外面に重ね焼き痕が残る。901・902・904は丸味を持ち、ドーム状を呈する。口縁端部はいずれも下方にわずかにつまみ出し断面三角形を呈する。901は天井部外面は回転ヘラケズリ後回転ナデを施し、902・904は回転ヘラ切り後ナデを施し、焼け歪みが著しい。903は全体的に扁平で、口縁端部を下方に引き出し、丸くおさめる。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。901・903のつまみは中央が高い扁平な菱形を呈する。902・904は扁平なボタン状のつまみを有する。

杯身 (905～910) 905・909は体部が直線的に外方に開き、906～908・910は口縁端部がゆるく外反する。905・906は高台に板状の圧痕が見られ、906の底部外面には輪状に爪が当たった様な痕跡が認められる。910は大型の杯身で、底部内面に回転ナデ後板状工具によるナデを施し、底部外面には簾状の圧痕が認められる。

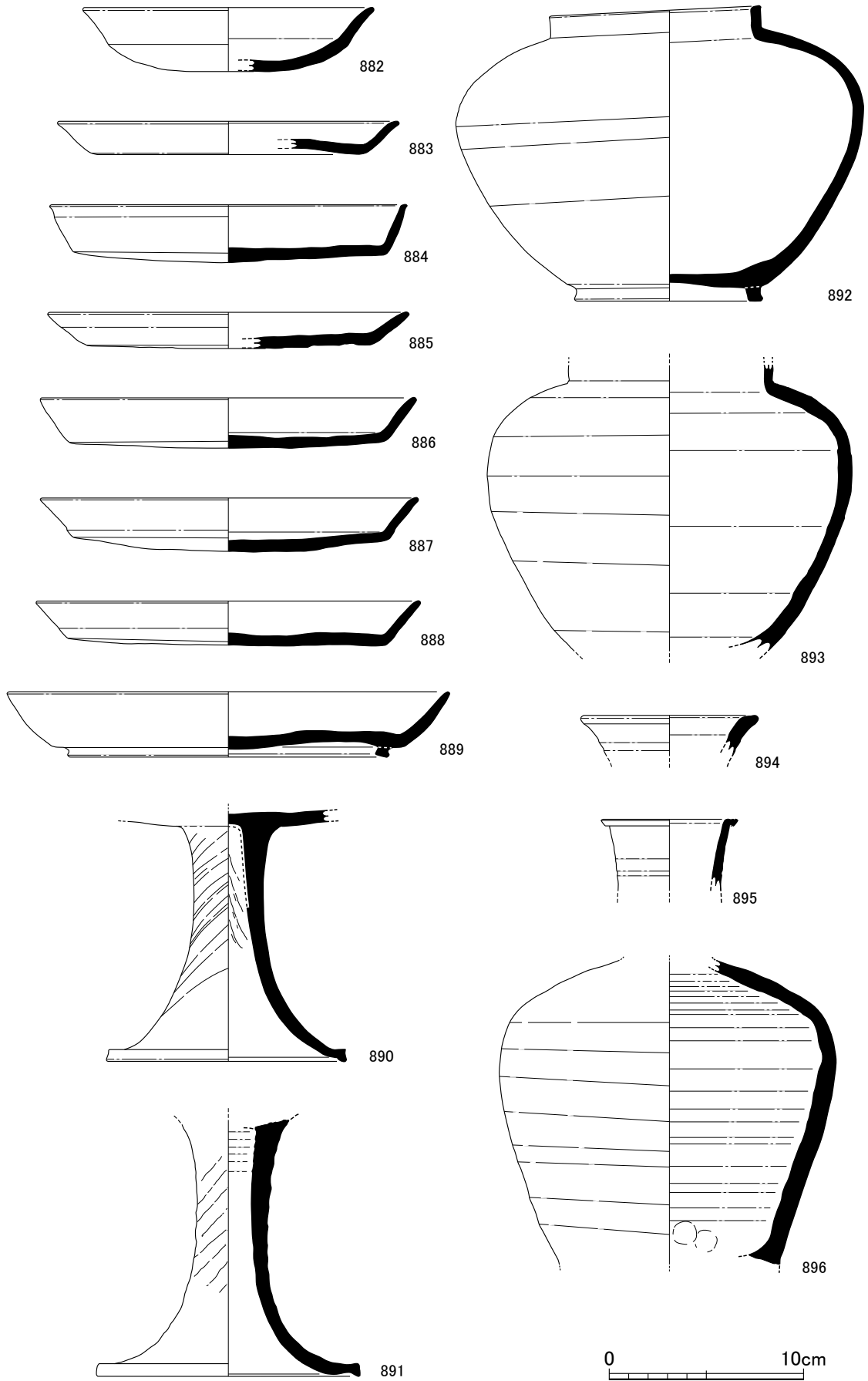
皿 (911) 体部は大きく外方に開き、底部は丸味を持つ。底部内面は回転ナデ後、板状工具によるナデを施し、底部外面は回転ヘラ切り後、板状工具によるナデを施す。

高杯 (912) 脚部の資料である。脚部は長く、直立気味にのび、裾部は大きく外反し、端部は下方につまみ出し断面三角形状を呈する。脚部上面には、接合痕が認められ、脚部内外面にシボリ痕が残る。

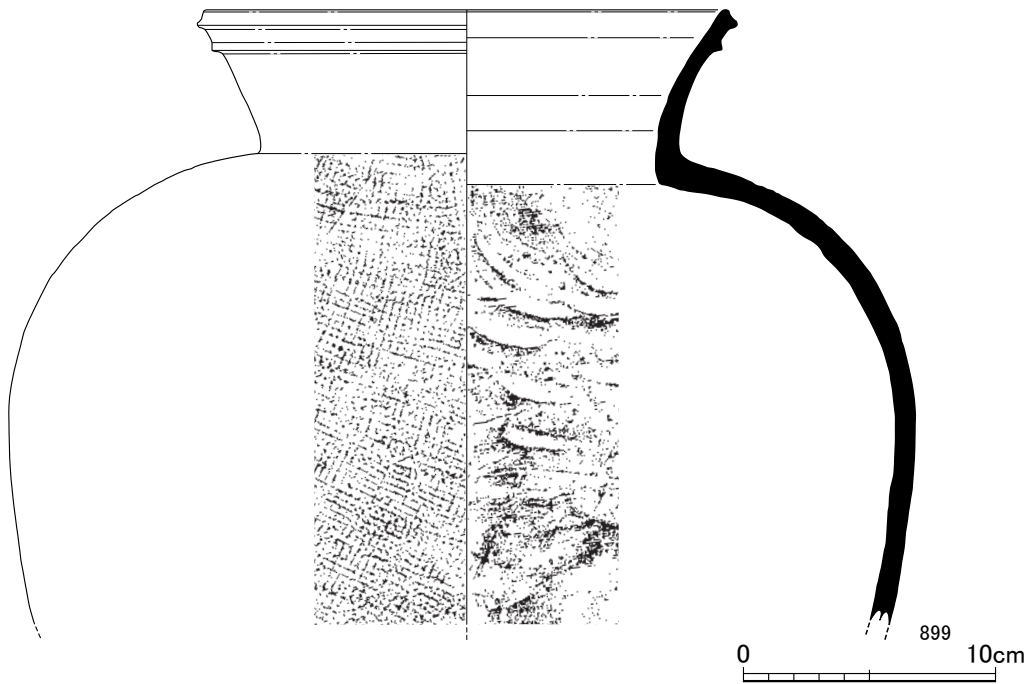
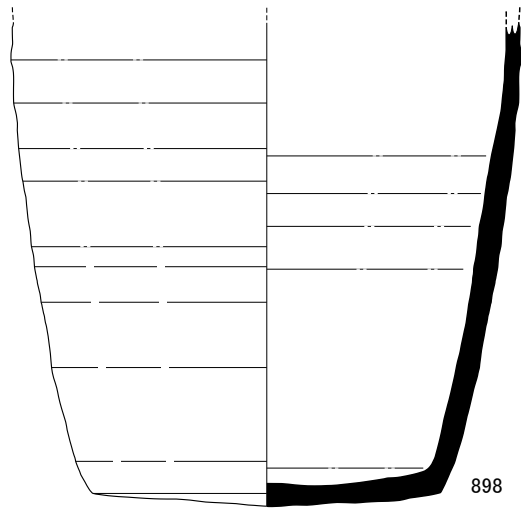
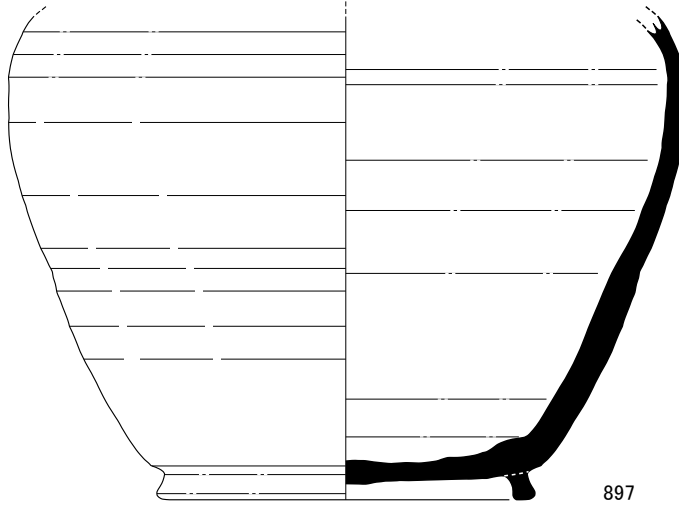
壺 (913) 短頸壺の蓋か。口縁部のみの破片で、外方に直線的に下る。口縁端部は段がつく。

瓶 (914) 底部から体部下半の資料で、体部はゆるやかに外方に開き、外面は回転ヘラケズリを施す。底部外面は板状工具によるナデを施す。

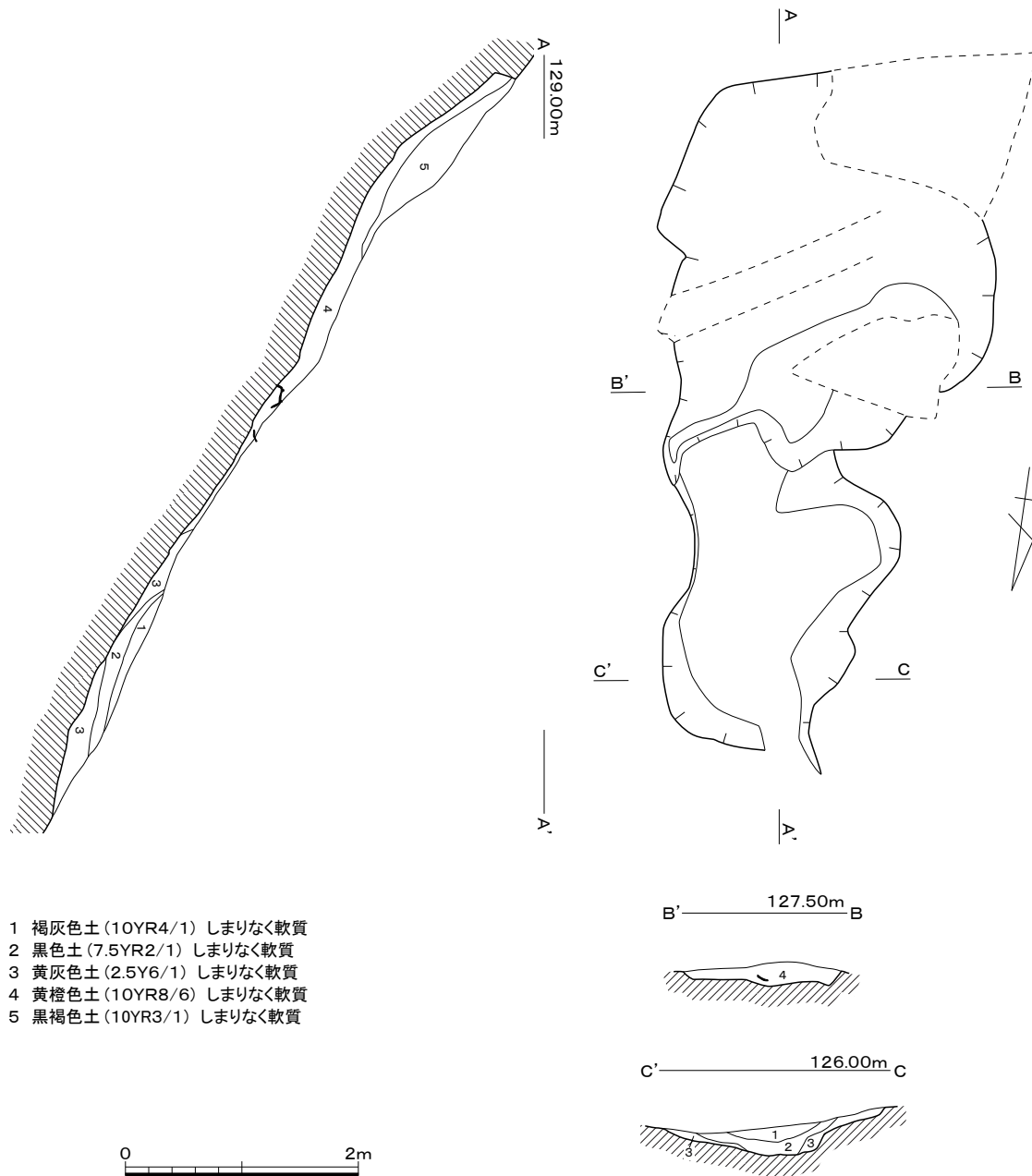
甕 (915) 頸部は外方に開き、端部は断面方形になる。体部外面は格子目タタキ、内面には同心円文当て具痕が残る。
(藤島)



第82图 SX01出土遺物実測图④ (1/3)



第83图 SX01出土遺物実測图⑤ (1/3)



第84図 SX02実測図 (1/60)

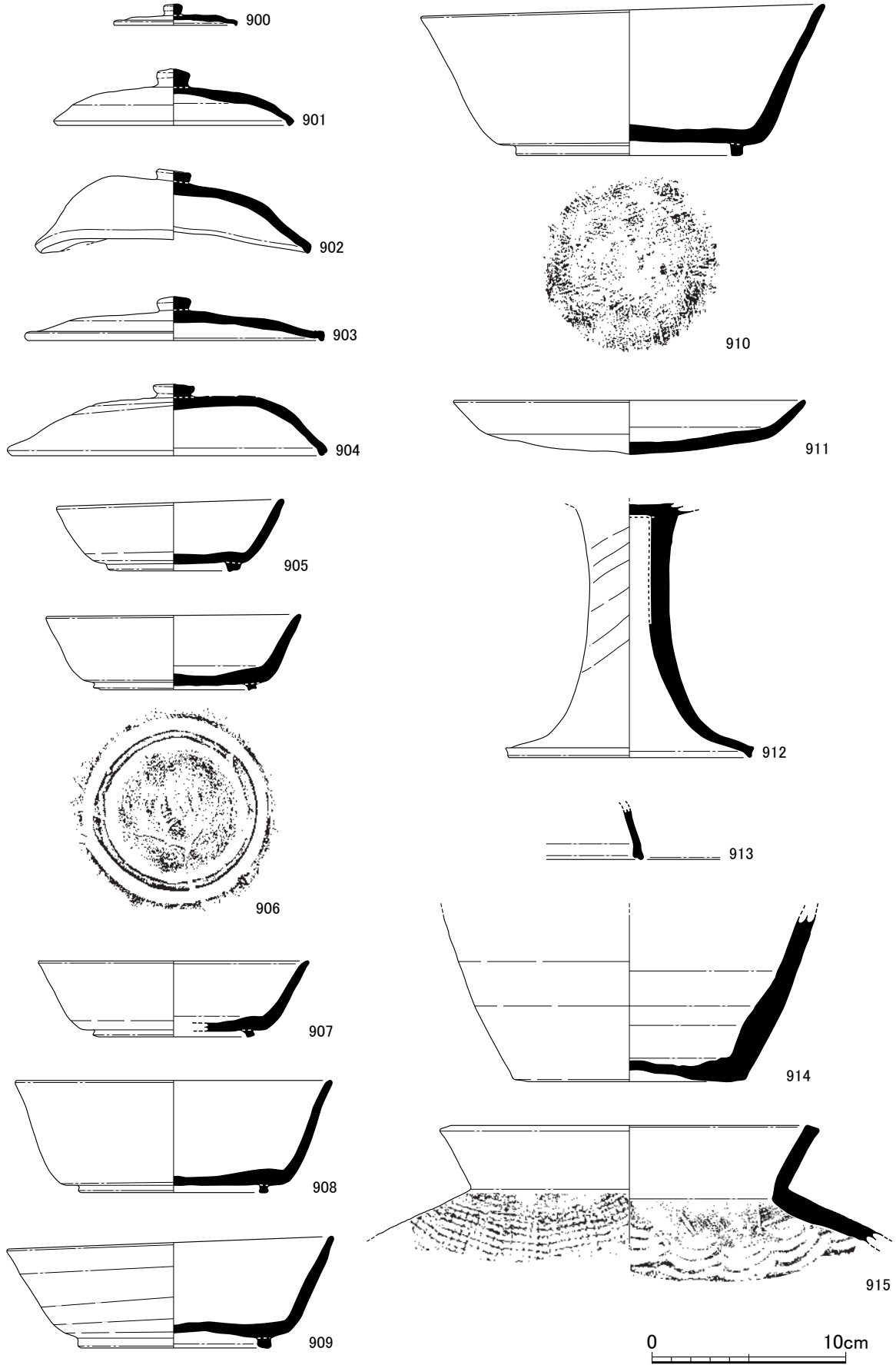
(19) 出土遺物

SP03 (第86図)

杯 (916) 体部はやや内湾しながら外方に開く。底部外面は回転ヘラ切り後、ナデを施す。

杯身 (917) 体部はわずかに内湾しながら外方へ開き、口縁端部は外反する。高台は低く断面方形を呈する。

壺 (918) 長頸壺の体部である。肩部は強く張る。高台は端部内面で接地し、断面方形を呈する。体部下半は回転ヘラケズリを施す。



第85图 SX02出土遺物実測図 (1 / 3)

SP04 (第86図)

杯身 (919) 体部は直線的に外方に開き、端部はわずかに外反する。高台は低く、断面方形を呈する。

SP06 (第86図、図版58)

杯蓋 (920) 天井部は平坦で、端部は下方にわずかにつまみ出す。天井部外面は、回転ヘラケズリ後回転ナデを施す。つまみは扁平なボタン状で、上面は板状の工具痕が残る。

杯 (921) 体部は内湾気味に開く。底部外面は、回転ヘラ切り後ナデを施す。

皿 (922) 体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部は外反し、端部を丸くおさめる。底部外面は回転ヘラケズリを施し、内面には火襷が認められる。

高杯 (923) 脚裾部の破片である。裾部はラップ状に大きく開き、端部はわずかに下方につまみ出す。外面は降灰が見られる。

壺 (924・925) 924は口縁部の資料である。直線的に外方に開き、端部は外方にのびる。内外面とも回転ナデ。925は長頸壺の肩部である。肩部は強く張り、稜が入る。肩部には接合痕が見られる。

谷部下層 (第86図、図版58)

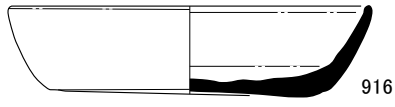
高杯 (926) 脚部の資料である。脚柱部は長く、裾部にむかって大きくラップ状に開き、端部にいたる。脚端部は下方につまみ出される。脚部内外面にシボリ痕が残る。

瓶 (927) 双耳瓶である。体部は直線的に外方に開き、把手の上半は欠損するが、孔が認められる。体部外面は回転ヘラケズリ、底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。

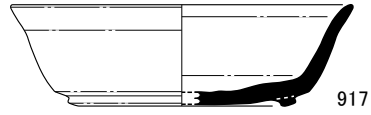
70地点1・2号窯跡 (第86図)

甕 (928) 頸部から体部上半にかけての資料である。頸部は直線的にやや外方に開く。体部外面は格子目タタキを施し、内面は同心円文当て具痕が残る。また、頸部内面には、工具痕が認められる。
(藤島)

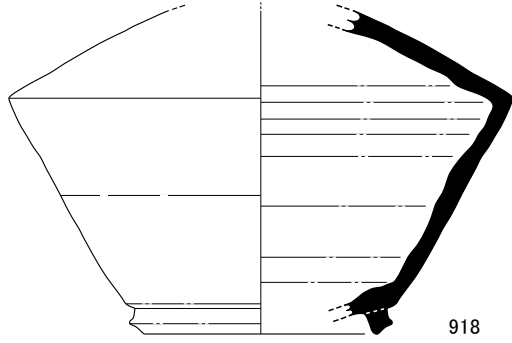
SP03



916

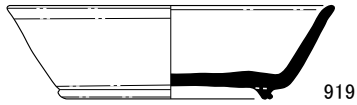


917



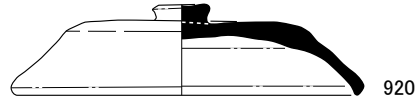
918

SP04

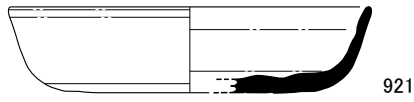


919

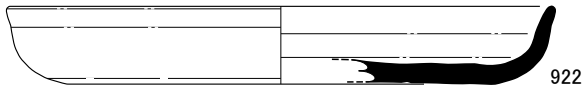
SP06



920



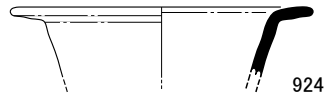
921



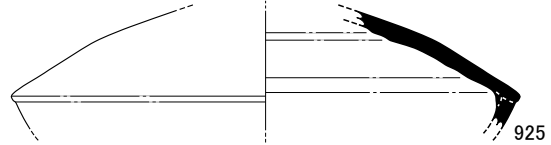
922



923

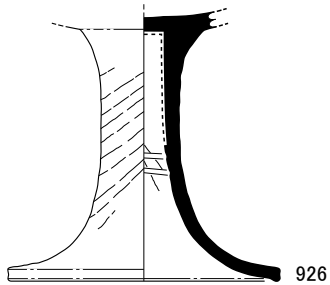


924

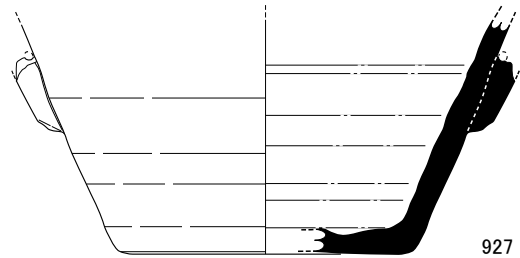


925

谷部下層

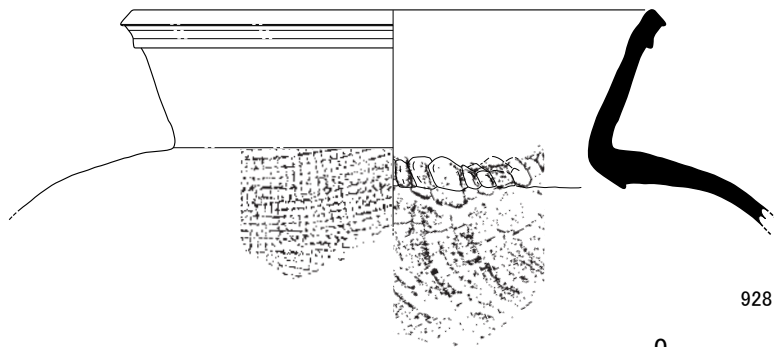


926



927

1・2号窯



928



第86図 SP、谷部下層、1・2号窯跡出土遺物実測図（1／3）

(20) 出土遺物の数量

表3 70地点出土遺物重量表

※単位: g

| 地点名 | 須磨器 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 土師器 | | | | 合計 | | | |
|-----------------|---------------|---------|-------|-------|--------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|---------|------|------|--------|--------|-----------|--------|
| | 杯蓋B | 杯蓋A | 蓋(不明) | 壺蓋 | 杯A | 杯B | 杯d | 杯不明 | 碗 | 皿 | 盤 | 高杯 | 鉢 | 壺 | 短頸壺 | 長頸壺 | 壺 | 瓶 | 不明製品 | 不明脚 | 杯 | 杯不明 | | 壺 | 不明 | |
| 1号室 | 1号室内 | 300 | 0 | 60 | 0 | 30 | 40 | 0 | 60 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 540 | |
| | 1号焚口部 | 50 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 70 | |
| | 1号煙出埋土 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 120 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 120 | |
| | 1号前庭埋土 | 250 | 0 | 40 | 0 | 0 | 270 | 0 | 140 | 0 | 270 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 90 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,060 | |
| | 1号灰原1区 | 19,080 | 0 | 50 | 0 | 2,940 | 5,610 | 0 | 2,250 | 0 | 3,740 | 0 | 100 | 150 | 210 | 0 | 1,200 | 800 | 0 | 3,730 | 0 | 0 | 0 | 0 | 39,860 | |
| | 1号灰原2区 | 6,960 | 0 | 110 | 0 | 210 | 1,520 | 0 | 1,630 | 0 | 1,450 | 0 | 50 | 0 | 180 | 0 | 0 | 80 | 0 | 2,240 | 0 | 0 | 40 | 0 | 14,470 | |
| | 1号灰原3区 | 1,060 | 0 | 840 | 0 | 70 | 1,290 | 0 | 600 | 0 | 560 | 0 | 0 | 0 | 30 | 130 | 0 | 0 | 0 | 590 | 0 | 0 | 0 | 10 | 5,180 | |
| | 1号灰原4区 | 1,690 | 0 | 0 | 0 | 0 | 160 | 0 | 100 | 0 | 80 | 0 | 0 | 40 | 0 | 0 | 0 | 50 | 0 | 420 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,540 | |
| | 1号灰原1-2区 | 300 | 0 | 0 | 0 | 0 | 190 | 0 | 60 | 0 | 50 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 90 | 0 | 0 | 0 | 0 | 730 | |
| | 1号灰原 | 760 | 0 | 120 | 0 | 80 | 40 | 0 | 210 | 0 | 110 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 480 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,810 | |
| | 1号灰原最下部 | 1,230 | 0 | 0 | 0 | 100 | 240 | 0 | 150 | 0 | 120 | 0 | 0 | 0 | 70 | 0 | 0 | 100 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,110 | |
| | 1号灰原検出 | 3,840 | 0 | 0 | 0 | 210 | 900 | 0 | 500 | 0 | 510 | 0 | 0 | 0 | 50 | 0 | 0 | 150 | 0 | 910 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7,070 | |
| | 1号灰原表採・表土 | 6,140 | 0 | 290 | 0 | 190 | 2,260 | 0 | 670 | 0 | 1,730 | 0 | 50 | 0 | 1,150 | 60 | 0 | 170 | 0 | 1,740 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14,450 | |
| | 1号排土 | 120 | 0 | 0 | 0 | 30 | 60 | 0 | 130 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 340 | |
| 2号室 | 2号室内 | 520 | 0 | 590 | 0 | 520 | 510 | 0 | 160 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 0 | 430 | 360 | 0 | 60 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,190 | | |
| | 2号焚口部 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 50 | |
| | 2号前庭部 | 19,310 | 0 | 180 | 50 | 1,730 | 3,110 | 0 | 160 | 0 | 70 | 0 | 670 | 0 | 190 | 0 | 0 | 4,910 | 0 | 3,750 | 0 | 0 | 0 | 0 | 34,130 | |
| | 2号灰原1区 | 1,720 | 0 | 150 | 0 | 0 | 550 | 0 | 140 | 0 | 170 | 0 | 680 | 0 | 1,580 | 0 | 0 | 280 | 0 | 320 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5,600 | |
| | 2号灰原2区 | 7,080 | 0 | 2,730 | 30 | 0 | 2,020 | 0 | 350 | 0 | 280 | 0 | 490 | 0 | 30 | 0 | 30 | 200 | 0 | 1,060 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14,300 | |
| | 2号灰原3区 | 12,340 | 0 | 280 | 0 | 660 | 3,590 | 0 | 730 | 0 | 650 | 0 | 1,640 | 50 | 180 | 0 | 420 | 1,920 | 0 | 2,160 | 0 | 0 | 0 | 0 | 25,220 | |
| | 2号灰原4区 | 7,870 | 0 | 460 | 0 | 200 | 4,980 | 0 | 700 | 0 | 80 | 0 | 710 | 250 | 390 | 0 | 360 | 590 | 0 | 1,440 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18,030 | |
| | 2号灰原3-4区 | 300 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 410 | |
| | 2号灰原 | 440 | 0 | 0 | 0 | 0 | 130 | 0 | 270 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 84 | 0 | 0 | 0 | 0 | 944 | |
| | 2号灰原表採・表土 | 3,660 | 0 | 0 | 0 | 20 | 1,280 | 0 | 110 | 0 | 280 | 0 | 360 | 0 | 40 | 0 | 0 | 390 | 0 | 670 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6,810 | |
| 3号室 | 3号室内 | 33,724 | 0 | 0 | 0 | 6,490 | 17,750 | 0 | 4,220 | 0 | 10,210 | 0 | 240 | 980 | 500 | 0 | 0 | 4,370 | 0 | 3,460 | 0 | 10 | 0 | 0 | 81,954 | |
| | 3号焚口部 | 70 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 150 | |
| | 3号煙道部 | 130 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 200 | |
| | 3号灰原 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 80 | 0 | 0 | 0 | 0 | 80 | |
| | 3号表採・表土 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 70 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 130 | |
| 3-4号室 | 3-4号灰原1区 | 75,370 | 0 | 10 | 1,300 | 4,580 | 24,040 | 40 | 16,390 | 0 | 13,840 | 0 | 1,110 | 270 | 2,880 | 0 | 0 | 1,720 | 0 | 21,970 | 0 | 0 | 0 | 0 | 163,520 | |
| | 3-4号灰原2区 | 7,810 | 0 | 0 | 0 | 230 | 1,700 | 0 | 1,100 | 0 | 1,900 | 0 | 320 | 0 | 90 | 0 | 0 | 1,000 | 0 | 2,990 | 0 | 0 | 0 | 0 | 17,140 | |
| | 3-4号灰原3区 | 3,560 | 0 | 0 | 70 | 500 | 870 | 0 | 820 | 0 | 920 | 0 | 720 | 0 | 380 | 0 | 0 | 50 | 0 | 1,260 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9,150 | |
| | 3-4号灰原4区 | 176,128 | 0 | 400 | 730 | 13,740 | 68,840 | 230 | 45,250 | 0 | 35,851 | 0 | 3,252 | 180 | 6,600 | 0 | 20 | 5,280 | 10 | 48,390 | 0 | 0 | 0 | 0 | 404,901 | |
| | 3-4号灰原5区 | 158,520 | 0 | 60 | 8,370 | 45,770 | 50 | 18,700 | 0 | 35,760 | 0 | 2,510 | 1,020 | 4,220 | 0 | 0 | 4,890 | 0 | 56,650 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 336,520 | |
| | 3-4号灰原6区 | 127,960 | 0 | 490 | 12,612 | 67,630 | 0 | 35,290 | 0 | 28,150 | 0 | 1,390 | 400 | 1,270 | 230 | 380 | 15,995 | 0 | 38,760 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 330,557 | |
| | 3-4号灰原1-2区間 | 2,130 | 0 | 0 | 0 | 120 | 570 | 0 | 250 | 0 | 390 | 0 | 50 | 0 | 50 | 0 | 0 | 110 | 0 | 450 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,120 | |
| | 3-4号灰原2-3区間 | 1,830 | 0 | 0 | 0 | 100 | 240 | 0 | 320 | 0 | 660 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 510 | 0 | 240 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,900 | |
| | 3-4号灰原4-5区間 | 23,470 | 0 | 0 | 0 | 1,610 | 5,920 | 0 | 4,220 | 0 | 4,030 | 0 | 30 | 0 | 510 | 0 | 0 | 570 | 0 | 5,480 | 0 | 0 | 0 | 0 | 45,840 | |
| | 3-4号灰原5-6区間 | 960 | 0 | 0 | 0 | 0 | 240 | 0 | 120 | 0 | 180 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 50 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,550 | |
| 3-4号灰原5-6区間 表採 | 910 | 0 | 0 | 0 | 50 | 40 | 0 | 110 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 160 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,400 | | |
| 3-4号土器集中層 下層黑色土 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 4号室 | 4号室内 | 9,610 | 0 | 30 | 410 | 1,980 | 0 | 1,190 | 0 | 2,080 | 0 | 190 | 0 | 30 | 0 | 0 | 2,320 | 0 | 3,910 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 21,750 | |
| | 4号煙道部 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 90 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 130 | |
| | 4号灰原1区 | 550 | 0 | 0 | 0 | 0 | 120 | 0 | 120 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 260 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,150 | |
| | 4号灰原6区 | 2,750 | 0 | 0 | 0 | 1,130 | 870 | 0 | 650 | 0 | 770 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 80 | 0 | 860 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7,110 | |
| 5号室 | 5号室内 | 10,166 | 0 | 120 | 0 | 640 | 1,370 | 0 | 970 | 0 | 1,520 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 970 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 15,756 | |
| | 5号焚口部 | 210 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 220 | |
| | 5号煙道部 | 40 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 80 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 190 | |
| 6号室 | 6号室内 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | |
| | 6号焚口部 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | |
| | 6号前庭部 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 10 | 0 | 40 | 0 | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 140 | |
| 1-2号室 | 1-2号谷部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 510 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 510 | | |
| 2-3-4号室 | 2-3-4号灰原4区混 | 4,480 | 0 | 0 | 0 | 250 | 1,040 | 0 | 400 | 0 | 520 | 0 | 700 | 0 | 20 | 0 | 50 | 90 | 0 | 670 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8,220 | |
| SX | SX01 | 35,476 | 0 | 1,050 | 0 | 4,390 | 30,275 | 640 | 12,520 | 0 | 11,000 | 0 | 1,030 | 970 | 4,510 | 1,410 | 370 | 6,507 | 0 | 11,610 | 0 | 0 | 0 | 0 | 121,758 | |
| | SX02 | 1,110 | 0 | 0 | 10 | 0 | 3,570 | 0 | 280 | 0 | 700 | 0 | 350 | 79 | 600 | 0 | 0 | 1,260 | 0 | 160 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8,119 | |
| | SX03 | 70 | 0 | 0 | 0 | 0 | 90 | 0 | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 140 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 350 | |
| SP | SP01~15・19・20 | 590 | 0 | 0 | 0 | 470 | 810 | 0 | 220 | 0 | 590 | 0 | 220 | 0 | 720 | 0 | 0 | 80 | 0 | 43 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,743 | |
| 谷部 | 谷部下層 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 160 | 0 | 270 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 430 | |
| 合計 | | 773,314 | 0 | 7,540 | 2,770 | 62,682 | 302,635 | 960 | 152,540 | 0 | 159,611 | 0 | 17,082 | 4,479 | 26,820 | 1,830 | 3,260 | 55,512 | 10 | 218,667 | 0 | 0 | 50 | 10 | 1,789,772 | |
| % | | 43.2% | 0.0% | 0.4% | 0.2% | 3.5% | 16.9% | 0.1% | 8.5% | 0.0% | 8.9% | 0.0% | 1.0% | 0.3% | 1.5% | 0.1% | 0.2% | 3.1% | 0.001% | 12.2% | 0.0% | 0.0% | 0.003% | 0.000% | 0.001% | 100.0% |

70地点

70地点では、窯跡が5基確認されており、それに伴う灰原も広範囲に及ぶ。出土遺物の総重量は1.7トンにのぼる。量的な差異はあるものの、蓋や杯といった供膳具や、壺や甕といった貯蔵具など、ほぼ全ての器種が出土している。

総重量に対する各器種の割合を具体的にみてみると、供膳具にあたる杯蓋は43.2%、次いで杯身が16.9%、皿8.9%であり、これら3器種の合計は69%である。一方、貯蔵具では、甕が2号窯跡、3号窯跡、4号窯跡の窯体内から出土している。ただし、全体の重量比から見れば甕は3.1%と僅少である。が、3・4号窯跡や灰原の出土量が多く、重量比は52%となり、大半を占める。これは、ごく一部の限られた窯で甕の焼成が行われていた事を示唆するものであり、窯の大きさが焼く対象の大きさに関わることを示すものと考えられる。(稗田)

(21) 小結

70地点では5基の須恵器窯跡が確認された。特に1・3～5号窯跡は密集しており、調査時には1基と考えていた窯跡が灰原の下から次々と確認され、調査工程を次々と見直さなければならなかった。ところで、このような窯跡が密集することは、奈良時代の牛頸窯跡群では通有の事例である。調査では、谷部まで灰原の掘削を試み、全量を調査できたわけではなかったが、非常に多量の須恵器が出土し、その生産量はどれほどのものであったのだろうか。

さて、遺構の上からは、3～5号窯跡の後に1号窯跡が作られたが、3～5号窯跡の前後関係については、4号窯跡の前庭部を埋める土が5号窯跡を埋めることから、5→4号窯跡の順に作られたと考えられる。また、3・4号窯跡は土層の切り合いはないが、3号窯跡が4号窯跡よりやや高い位置に掘られることを考えると、4号窯跡が先行するのではないか。そう考えるならば、4基の窯跡は5→4→3→1号窯跡の順となる。この変遷はⅦB期の間に行われたものであった。

また、3号窯跡で確認された黄色粘土の役割については明らかにはできなかった。床面のかさ上げにしては、精良な粘土が用いられており、直上に須恵器を置く事例もない。自然堆積かとも考えたが、その他の窯跡でそうした粘土は検出されていない。明らかに窯内に持ち込まれたものであるが、その性格・機能については、今後の調査事例の増加を待つこととしたい。(石木)

4. 71地点の調査

(1) 調査概要 (第88図、図版12)

71地点は北側にのびる丘陵の西側斜面に位置する。試掘調査で灰原が確認されたA地点にあたり、発掘調査の結果、1基の窯跡を確認し、谷部より須恵器長頸壺が出土した。窯跡は、斜面中位に位置する。灰原は窯跡の下方に広がっていたが、検出時、谷部埋土との違いはよく分からなかった。長頸壺は、谷部の掘り下げを行っている際に出土したものである。谷部の埋土は20cm程度であったが、長頸壺を埋納するような掘り込みは認められなかった。また、谷部埋土を除くと、長さ25cm×幅10cm、深さ20~40cmで、平面プランは長方形を呈するピットを多数確認したが、おそらく山芋などの掘り穴と考えられる。その他、遺物が出土し、土坑状に大きく掘り広げられたものをSXとしたが、いずれも不整形であったことから遺構とは判断できなかった。(石木)

(2) 71-1号窯跡 (第87・89・90図、図版12~14)

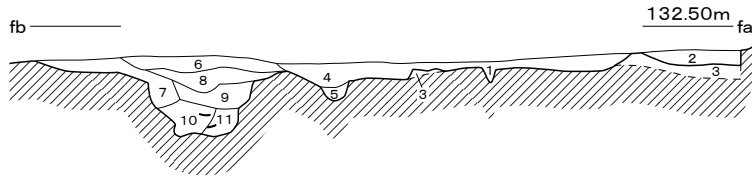
1号窯跡は、調査地の北側で検出された。窯は全長2.54m、主軸はN-46°-W、焚口部は幅0.75m、焼成部の最大幅は0.97mである。窯の平面プランは、側壁がゆるくふくらみ、奥壁はやや平らになる。燃焼部と焼成部の境には溝が掘られており、こうした事例は牛頸窯跡群では確認できない。この溝の左側壁には高さ44cm×幅15cmの石が立てられており、貼壁に塗りこめられていた。窯内の右側壁床面には、粘土塊焼台が寄せ集められており、燃焼部床面には、須恵器杯蓋と皿が置かれていた。窯の操業を終える際の、何らかの祭祀行為と考えられる。前庭部の左右には土坑が掘られており、須恵器が出土した。

焚口・燃焼部 焚口部は幅0.75mで、床面は5°奥壁側にむかって上がる。焚口部から38cmの所に溝が掘られており、溝より奥側を焼成部と考えた。溝は焚口側にゆるく湾曲しており、長さ0.88m×幅は12~23cm、深さ14cmで右側壁側は細くなる。窯内の縦断土層の観察からは、最終操業時には埋められていなかったようである。また、灰層は確認できないことから、床面上で確認された須恵器は、窯内や灰層の片づけ後に置かれたと考えられる。焼成部境の幅は0.74mである。

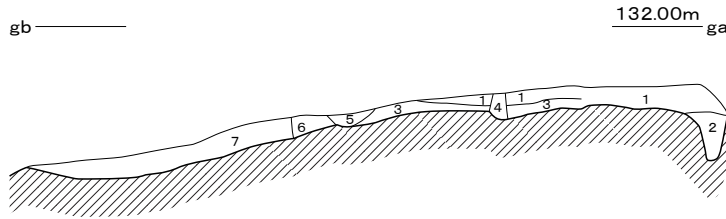
焼成部 焼成部の平面プランはゆるやかにふくらんでおり、最大幅は0.97m、燃焼部境から奥壁までの長さは1.92mである。床面の傾斜角度は20~46°と窯尻に行くに従い急になる。左側壁の貼壁は大きく失われていたが、右側壁には燃焼部から続く貼壁が残されている。左側壁で確認された石は最終操業時には完全に貼壁に塗りこめられているが、窯を作った当初からであったかは分からない。奥壁の幅は0.52m。幅22~40cmのくぼみが2段確認できる。窯内の縦断土層の観察からは、操業終了後窯内に土が流入(20・21層)した後、焚口側の天井部が崩落し(10層)、その後焼成部側の天井部が崩落したのと考えられる。なお、貼床は確認できなかった。

排煙部 丸く掘り込まれた奥壁から直立する煙道を有していたと考えられる。奥壁床面からの高さは0.86mで、排煙口は失われており径は明らかにできない。

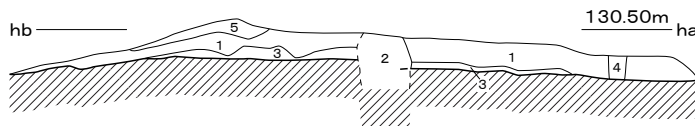
前庭部 窯体の前面部は大きく開き、長さ1.29m×幅1.65mの不成形な平坦面をとる。床面は還元されており、焚口部の外側にまで広がっている。前庭部右側の土坑は長さ1.33m×幅1.12m、左側の土坑は長さ2.2m×幅0.95mで、いずれも不整形である。



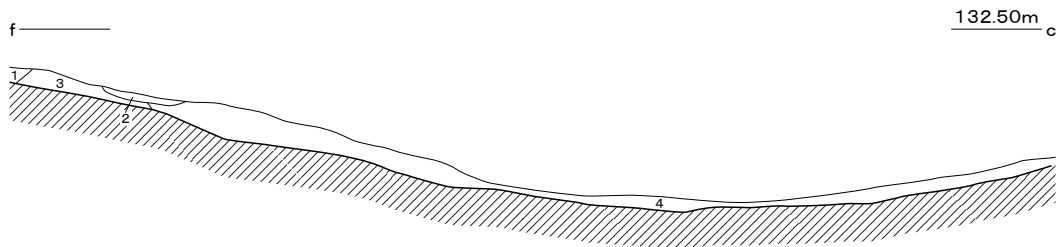
- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 褐灰色土 (10YR4/1) しまりなく軟質 灰層 | 7 灰黄色土 (2.5Y6/2) しまりなく軟質 表土か？ |
| 2 明褐灰色土 (7.5YR7/1) しまりなく軟質 谷部埋土 | 8 黒色土 (10YR2/1) しまりなく軟質 |
| 3 黄橙色土 (10YR8/6) 地山 | 9 褐灰色土 (10YR5/1) しまりなく軟質 灰層 |
| 4 黒褐色土 (10YR3/1) しまりなく軟質 灰層 | 10 黒褐色土 (10YR3/1) しまりなく軟質 焼土含む |
| 5 褐灰色土 (10YR4/1) しまりなく軟質 黄褐色地山土を含む | 11 汚れた黄橙色土 (10YR8/8) しまりなく軟質 炭含む 灰層 |
| 6 褐灰色土 (7.5YR4/1) しまりなく軟質 表土か？ | |



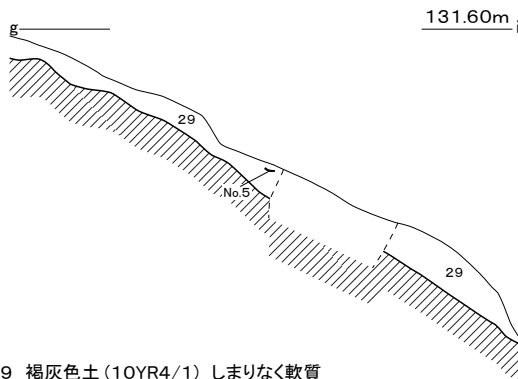
- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐灰色土 (10YR4/1) しまりなく軟質 灰層と谷部の土混 | 5 黒褐色土 (2.5Y3/1) しまりなく軟質 灰層 |
| 2 黒色土 (7.5YR2/1) しまりなく軟質 ビット内埋土 土師器出土 | 6 にぶい黄色土 (2.5Y6/4) しまりなく軟質 灰層 |
| 3 にぶい黄色土 (2.5Y6/4) しまりなく軟質 灰層 | 7 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまりなく軟質 灰層 |
| 4 ヤマイモ穴 | |



- | | |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色土 (10YR3/1) しまりなく軟質 灰層 | 4 淡黄色土 (5Y8/4) しまりなく軟質 ヤマイモ掘穴 |
| 2 灰黄色土 (2.5Y7/2) しまりなく軟質 ヤマイモ掘穴 | 5 暗灰黄色土 (2.5Y5/2) しまりなく軟質 灰層上部堆積崩落土 |
| 3 明黄褐色土 (2.5Y7/6) しまりなく軟質 地山直上 | |



- | |
|---|
| 1 黒褐色土 (5YR2/1) しまりなく軟質 灰原 |
| 2 黒色土 (5YR1.7/1) しまりなく軟質 灰原 |
| 3 にぶい橙色土 (7.5YR7/3) しまりなく軟質 谷部又は築窯前埋土 |
| 4 褐灰色土 (10YR5/1) ~ 橙色土 (7.5YR7/6) しまりなく軟質 谷部又は築窯前埋土 |



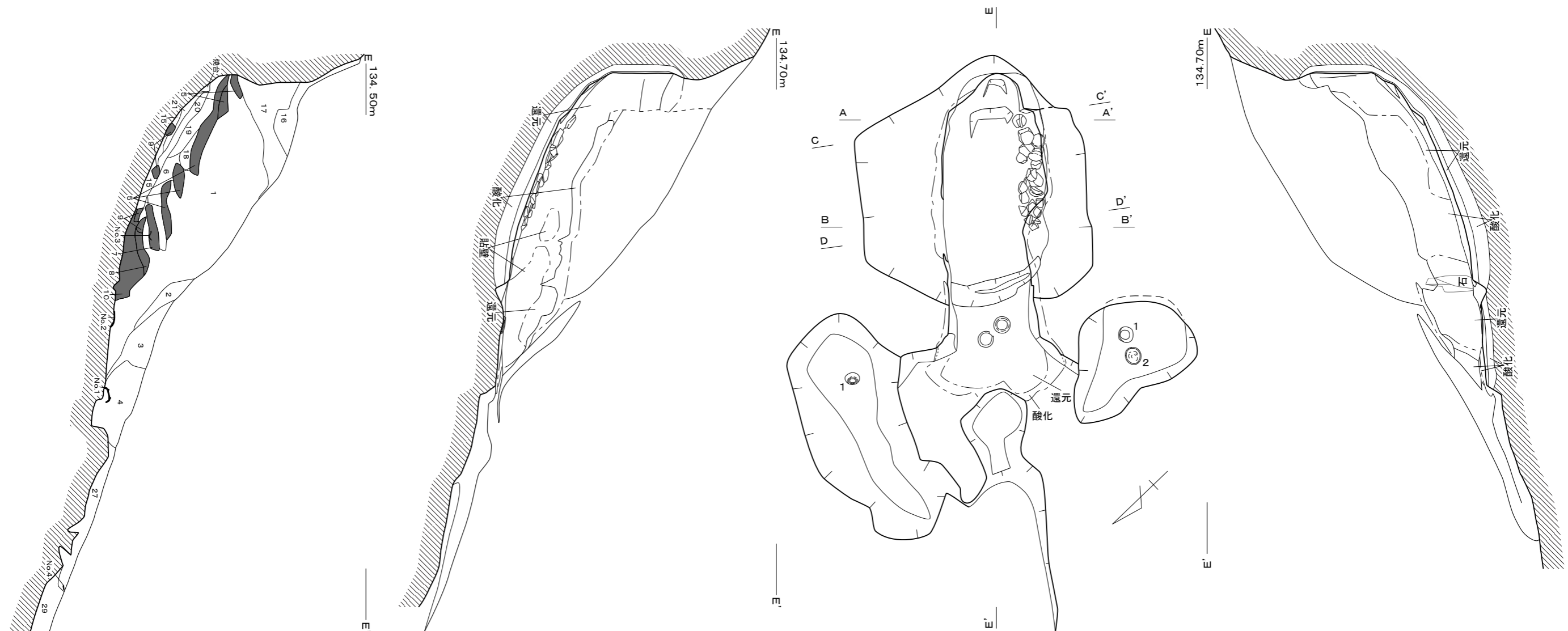
- | |
|---------------------------|
| 29 褐灰色土 (10YR4/1) しまりなく軟質 |
|---------------------------|



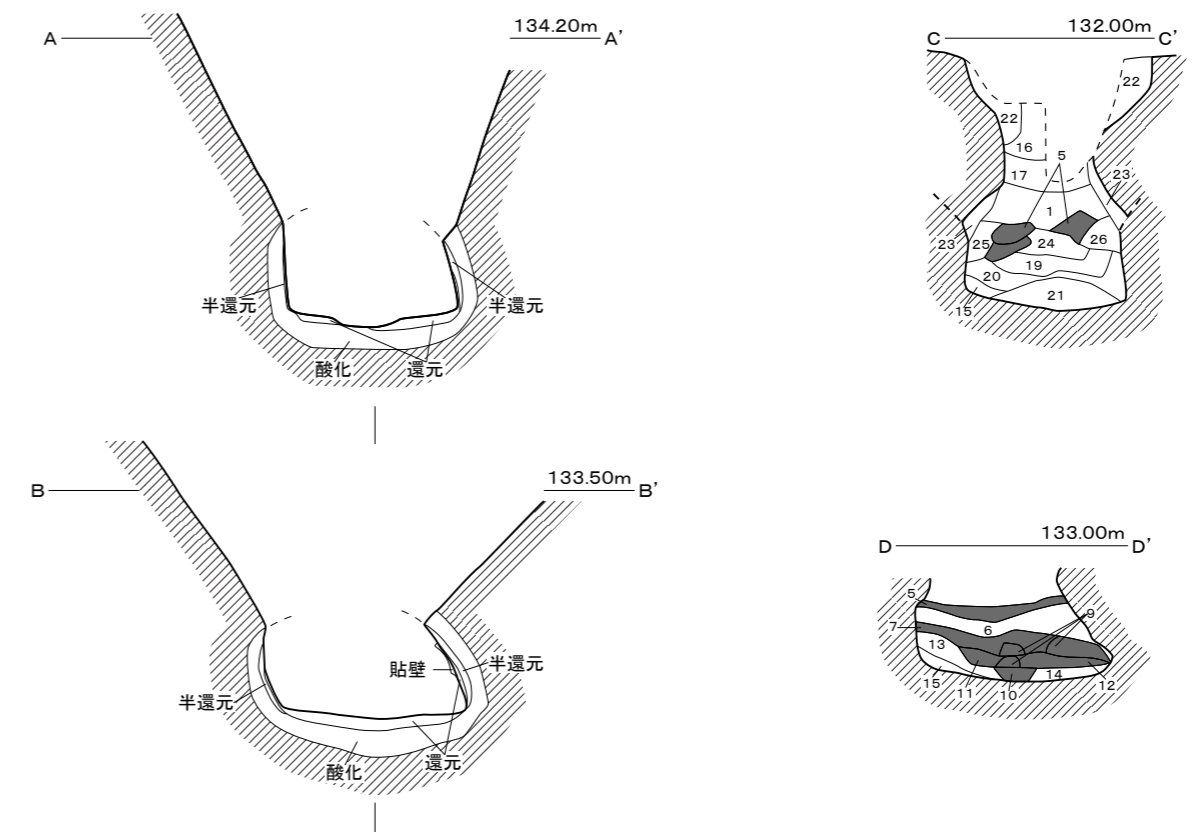
第87図 1号窯跡灰原土層断面実測図 (1/60)



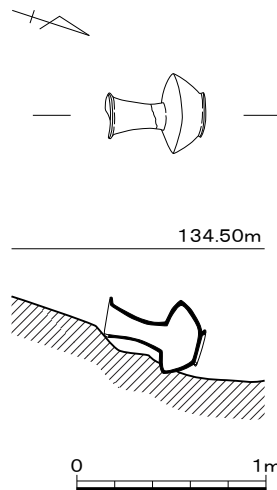
第88图 71地点地形測量图 (1/100)



- 1 浅黄橙色土 (10YR8/4) しまりあり 地山初期崩落土
- 2 にぶい黄橙色土 (10YR7/3) しまりあり 崩落後初期埋土
- 3 灰黄褐色土 (10YR5/2) しまりなく軟質 崩落後2番目埋土
- 4 赤黒色土 (7.5YR1.7/1) しまりなし 何らかの掘込か?
- 5 赤橙色土 (10YR6/8) しまりなく軟質 天井壁の一部
- 6 灰白色土 (5Y7/2) しまりなく軟質 窯体内流入土
- 7 赤橙色土 (10R6/8) 天井しまりなし 天井壁焼土面
- 8 赤橙色土 (10R6/8) 天井しまりなし 天井壁焼土面
- 9 灰白色土 (N7/) しまりあり硬質 天井壁硬化面
- 10 黒色土 (N2/) しまりあり硬質 天井壁崩落土 9を含む
- 11 赤色土 (10R5/8) しまりあり硬質 天井焼土面
- 12 明黄褐色土 (10YR7/6) しまりなく軟質 天井焼土面
- 13 オリーブ色土 (5Y6/6) しまりあり硬質 風成岩、壁のくずれ
- 14 灰白色土 (N8/) しまりあり硬質 風成岩、壁のくずれ
- 15 灰色土 (10Y8/1) しまりあり硬質 風成岩、壁のくずれ
- 16 黄橙色土 (10YR8/6) しまりなく軟質
褐灰色土 (10YR6/1) を含み崩落後と同じ陥没穴流入土
- 17 褐灰色土 (10YR6/1) しまりなく軟質 陥没穴流入腐食土
- 18 暗灰黄色土 (2.5Y5/2) しまりなく軟質 窯体内流入土
- 19 橙色土 (2.5YR6/6) しまりなく軟質 窯体内流入土 一部赤色焼土を含む
- 20 灰黄褐色土 (10YR6/2) しまりなく軟質 窯体内流入土 2次流入土
- 21 黄橙色土 (10YR8/8) しまりなく軟質 窯体内流入土 初期流入土
- 22 黄色土 (2.5Y8/6) しまりなし 地山よごれたもの
- 23 赤橙色土 (10R6/8) しまりあり 焼土壁
- 24 にぶい橙色土 (7.5YR7/4) しまりなし 焼土と炭のよごれた土混じる
- 25 浅黄色土 (2.5Y7/3) しまりなし
- 26 25に5を含む
- 27 黒色土 (7.5YR2/1) しまりなし 灰層
- 29 褐灰色土 (10YR4/1) しまりなく軟質



第89図 1号窯跡実測図 (1/40)



第90図 谷部A-2 須恵器出土状況実測図 (1/40)

灰原・谷部 検出時、窯跡の下方長さ約7mまで黒色土が大きく広がり、谷部まで続いていた。黒色土は灰層と谷部の堆積土が混ざり合ったもので、土層観察で明確に区分することはできなかった。灰層は、最も厚い所で25cm。谷部掘り下げ中に長頸壺が出土した。口縁部を斜面上方に向けた状態で検出されたもので、当初からこの状態で置かれたのかは明らかにできなかった。

(石木)

(3) 出土遺物

床面・窯体内 (第91図、図版58)

929・930は床面直上、934は窯体内崩落土出土で土層図(第89図E-E')のNo.3に当たる。931・933・936・935は焚口部埋土出土、932は窯体内埋土出土である。

杯蓋 (931~933) 931は天井部がわずかに丸味をおび、口縁端部を下方にわずかに突出させる。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデである。932は扁平で、口縁端部は下方に折り曲げる。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、ボタン様の扁平なつまみを付ける。933は天井部がやや丸みを持ち、口縁端部は下方に小さくつまみ出し断面三角形形状を呈する。天井部外面は回転ヘラケズリを施し、高さのあるボタン様のつまみを有する。

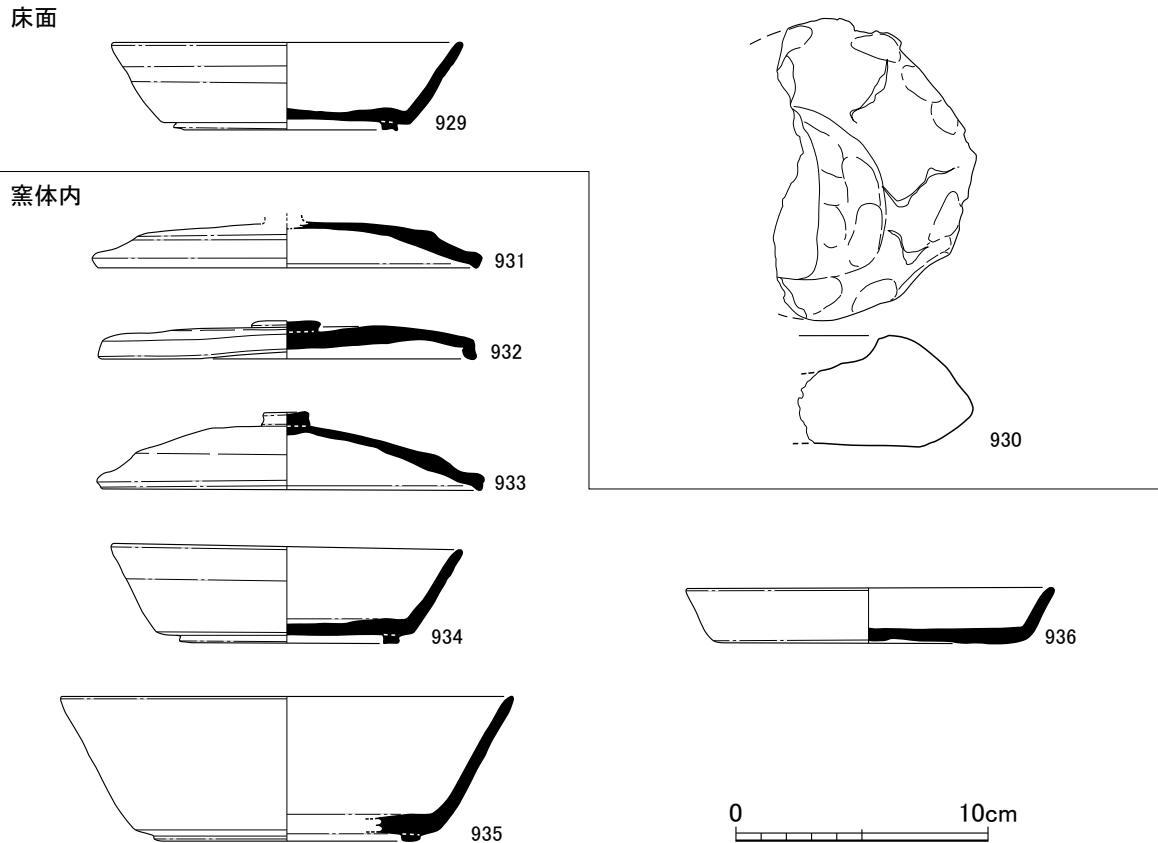
杯身 (929・934・935) いずれも体部が直線的に外方に開く。底部と口縁部の境は明瞭である。高台は低く断面方形を呈する。935は径18cmの大型品である。

皿 (936) 底部はわずかに丸みをおび、体部は直線的に外方に開く。全体的に摩滅しており調整不明瞭である。

焼台 (930) 上面は凹み、底部は平坦である。ユビオサエによる調整で、被熱により白色化する。

前庭部 (第92図、図版58・59)

右前庭部からの出土は938、947、左前庭部からの出土は948、下層から出土は937・949、前庭部中央から出土は940・941・944で、土層図(第89図E-E')の4層にあたるものが、939・942・943・945・946である。



第91図 1号窯跡出土遺物実測図(1/3)

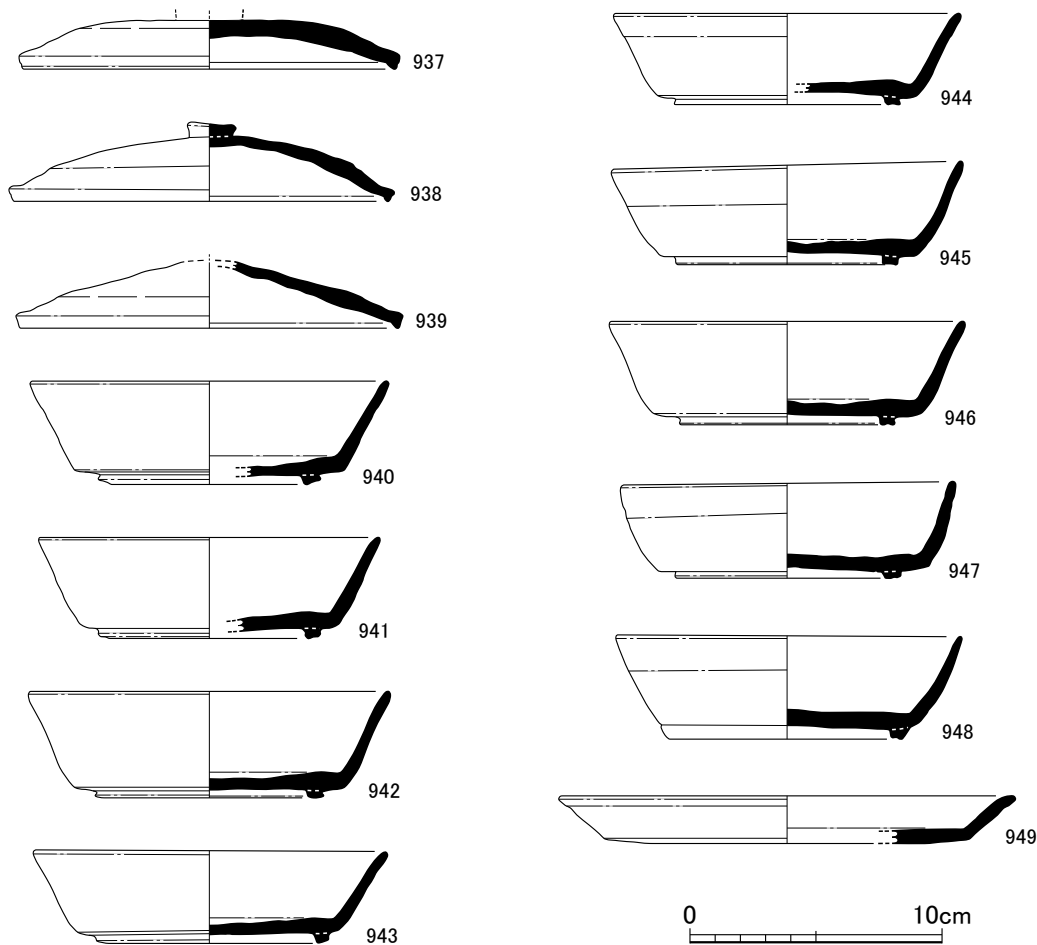
杯蓋 (937～939) 937は扁平な形態で、天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。938は天井部が丸味を持ち、ドーム状を呈する。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、扁平なボタン状のつまみが付く。939は焼き歪みが著しく、天井部は回転ヘラケズリ後ハケ状工具でナデられる。いずれも口縁端部は下方に短くつまみ出し、断面三角形を呈する。937は、天井部につまみが剥離した痕跡が見られる。

杯身 (940～948) いずれも体部が直線的に外方に開くものである。942～946は口縁部を外反させる。947は体部は直立気味に立ち上がり、948は体部が内湾気味に立ち上がる。いずれも高台が低く断面方形を呈する。

皿 (949) 体部は大きく外へ開き、口縁端部は外反する。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、体部と底部との境は明瞭である。

灰原 (第93図、図版59～61)

杯蓋 (950～973) いずれも口縁端部は下方に小さくつまみ出し、断面三角形状を呈する。950～959・962・963～973は扁平な形態で、960・961は丸味をおびドーム状を呈する。天井部は950～960・962・963・965・966・968・970～973は回転ヘラ切り、950・959は回転ヘラ切り未調整、その他は回転ヘラケズリを施す。擬宝珠様のつまみを有する962・970・972は、いずれも中央が高く扁平な形状を呈する。それ以外は、ボタン状のつまみが付き、いずれも扁平である。958は簾状の圧痕、956は板状工具の当たり痕、965・973は板状の圧痕が認められる。968～973は径18cm以上の



第92図 1号窯跡前庭部出土遺物実測図（1／3）

大型品である。973は、土層図（第87図 g'-i）のNo.5に当たる。

杯（974） 体部は直線的に外方に開き、口縁部は外反する。底部外面はヘラ切り後ナデを施し、板状の圧痕が残る。

杯身（975～981） いずれも体部は直線的に外方に開き、975・981は口縁部をわずかに外反させ、976は若干湾曲気味に立ち上がる。いずれも高台は低く、断面方形を呈する。978は底部外面に板状の工具痕が残り、981は底部外面はヘラ切り後板状工具によるケズリを施す。

稜椀（982） 口縁部のみの資料である。体部は直線的に外方に開き、口縁端部は屈曲して外方にのびる。体部外面は中位を屈曲させ、断面三角形の稜を作り出す。全体に回転ナデを施す。

皿（983・984） いずれも体部が大きく外方に開く。底部外面は回転ヘラケズリ後回転ナデを施す。

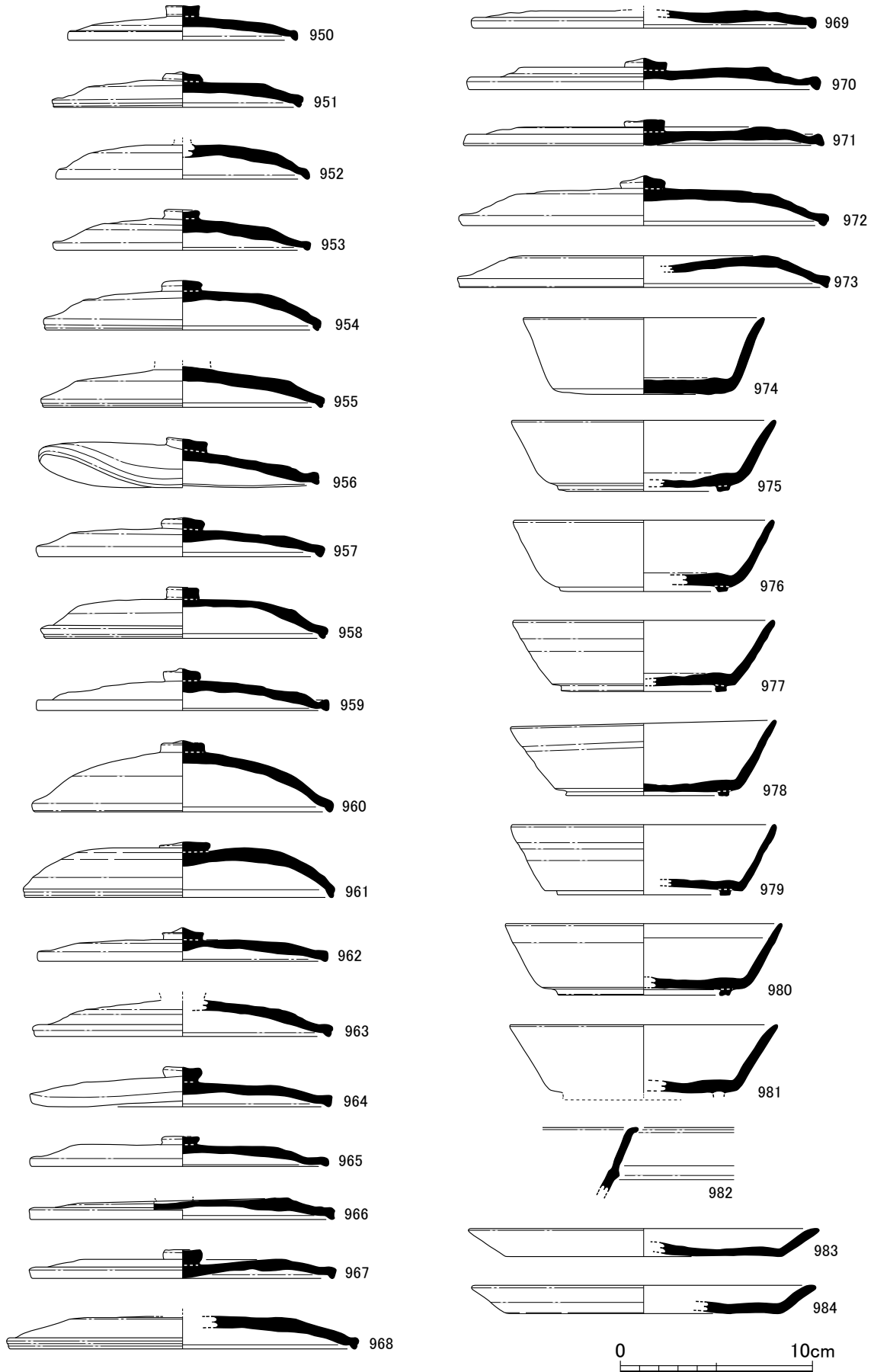
SX04（第94図）

杯身（985） 体部は直線的に外方に開き、中位から器壁は薄くなり、わずかに外反する。底部と体部の境は明瞭で、その内側に高台が付く。高台は低く断面方形を呈する。

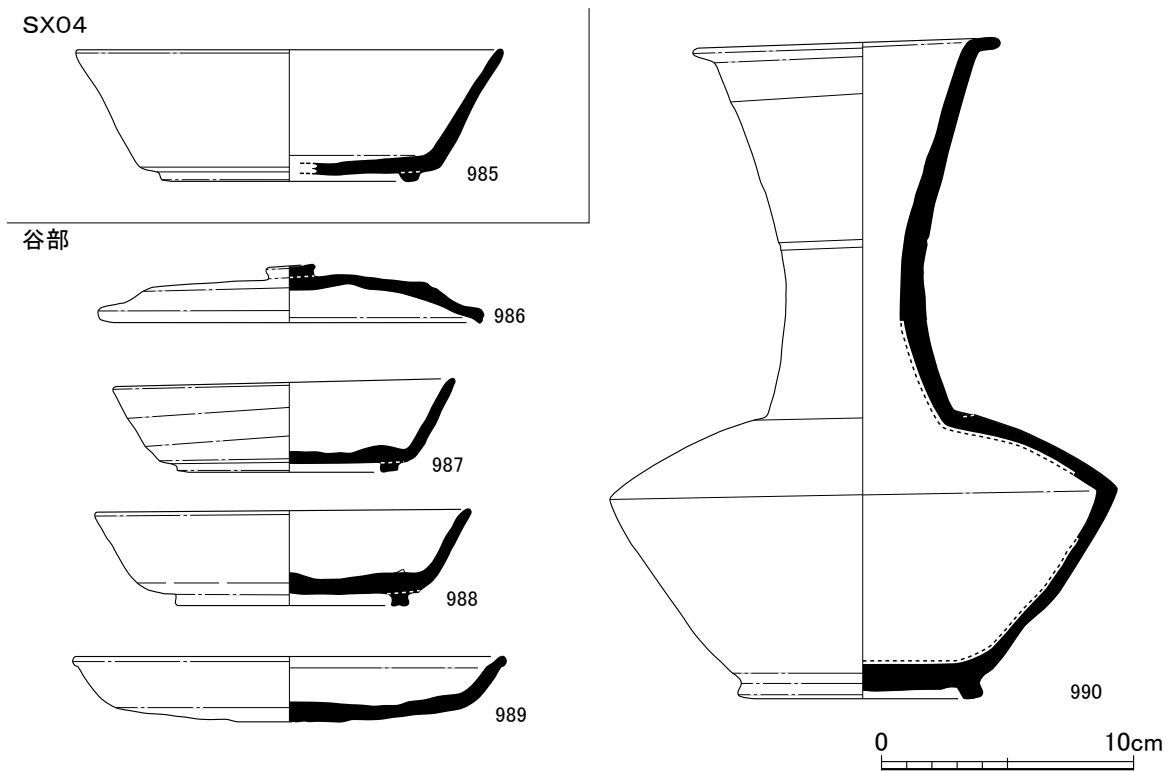
谷部（第94図、図版61・62）

杯蓋（986） 扁平な形態で焼き歪みがある。口縁端部は肥厚させ、わずかに下方に突出させる。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。ボタン状の扁平なつまみが付く。

杯身（987・988） 987は体部が直線的に外方に開き、底部外面に板状の圧痕が見られる。988は口



第93图 1号寨跡灰原出土遺物実測図(1/3)



第94図 SX04・谷部出土遺物実測図（1／3）

縁部がわずかに外反し、底部内面に重ね焼きの痕跡が認められる。いずれも高台は低く断面方形を呈する。

皿 (989) 底部は丸味をおび、体部は直線的に外方に開き、口縁端部は外反する。底部外面は回転ヘラ切り後板状工具による不定方向のケズリを施す。底部内面は重ね焼きの痕跡が認められる。

壺 (990) 長頸壺で、ほぼ完形である。頸部は外方に開き、口縁端部は外方に突出し短く仕上げる。肩部は強く張る。頸部中位に1条の沈線を巡らせる。高台は低く断面方形で外方に踏ん張る。高台の接地部に板状の圧痕が残る。谷部 A-2 杭付近の掘り下げ中に出土した。 (藤島)

(4) 出土遺物の数量

表4 71地点出土遺物重量表

※単位:g

| 地点名 | 須恵器 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 土師器 | | | | 合計 | | |
|--------|--------|------|-----------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|------|------|------|-------|--------|
| | 杯蓋B | 杯蓋A | 蓋 (不明) | 壺蓋 | 杯A | 杯B | 杯d | 杯不明 | 碗 | 皿 | 盤 | 高杯 | 鉢 | 壺 | 短頸壺 | 長頸壺 | 甕 | 瓶 | 不明製品 | 不明脚 | 杯 | 杯不明 | 甕 | | 不明 | |
| 1号窯体 | 170 | 0 | 0 | 0 | 0 | 260 | 0 | 80 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 540 | |
| 1号焚口 | 310 | 0 | 0 | 0 | 0 | 60 | 0 | 60 | 0 | 120 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 560 | |
| 1号前庭部 | 850 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,240 | 0 | 100 | 0 | 150 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 50 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,390 | |
| 1号灰原1区 | 410 | 0 | 0 | 0 | 0 | 80 | 0 | 50 | 0 | 110 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 0 | 660 | |
| 1号灰原2区 | 1,340 | 0 | 0 | 0 | 0 | 190 | 0 | 180 | 0 | 40 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,850 | |
| 1号灰原3区 | 150 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | 0 | 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 240 | |
| 1号灰原4区 | 3,030 | 0 | 0 | 0 | 30 | 310 | 0 | 370 | 0 | 360 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 570 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,670 | |
| 1号灰原5区 | 1,220 | 0 | 0 | 0 | 50 | 310 | 0 | 30 | 10 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 90 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,810 | |
| 1号灰原6区 | 2,830 | 0 | 0 | 0 | 110 | 750 | 0 | 290 | 0 | 60 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 90 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,930 | |
| 1号灰原7区 | 1,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 180 | 0 | 80 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 220 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,480 | |
| 1号灰原8区 | 660 | 0 | 0 | 0 | 50 | 210 | 0 | 110 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 140 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,170 | |
| 1号灰原 | 70 | 0 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 90 | |
| 1号灰原表土 | 190 | 0 | 0 | 0 | 0 | 140 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 330 | |
| 1号SX04 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | |
| 1号谷部 | 2,000 | 0 | 120 | 0 | 20 | 830 | 0 | 260 | 0 | 140 | 0 | 0 | 200 | 50 | 0 | 1,510 | 90 | 0 | 0 | 130 | 0 | 0 | 0 | 260 | 130 | 5,740 |
| 合計 | 14,030 | 0 | 140 | 0 | 260 | 4,700 | 0 | 1,640 | 10 | 1,100 | 0 | 0 | 200 | 50 | 0 | 1,510 | 90 | 0 | 0 | 1,440 | 0 | 0 | 0 | 260 | 130 | 25,560 |
| % | 54.9% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 1.0% | 18.4% | 0.0% | 6.4% | 0.04% | 4.3% | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 0.2% | 0.0% | 5.9% | 0.4% | 0.0% | 0.0% | 5.6% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.0% | 0.5% | 100.0% |

71地点での出土須恵器の総重量は25.56kgである。杯B蓋が54.9%と全体のほぼ半数を占めている。次いで杯Bが18.4%、長頸壺5.9%、皿4.3%の順となり、高杯の出土はない。この点は供膳具や貯蔵具のすべての器種が認められる70地点においても、高杯の出土量が1%と低いことを考慮すると、他地点も含め、高杯自体の生産比率が総じて低かったことを反映している可能性がある、本地点では、杯蓋及び杯身が量的に突出していることから、69地点と同様に、蓋や杯を主体とした生産が行われていたと考えられよう。(稗田)

(5) 小結

71地点では1基の須恵器窯跡が確認され、出土遺物から1号窯跡はⅦB期にあたりと考えられる。

1号窯跡は、操業終了後、窯内や焚口部を丁寧に片づけており興味深い。また、71地点は70地点と同じ丘陵斜面に位置しているが、1基単独で立地している。両地点の操業時期は重複すると考えられるが、71-1号窯跡は貼床がなく、あまり長期の操業を考えづらい。

今回の報告では、68→70→71地点の順に時期が下るに従い、次第に谷奥へ窯が移動していく様子が明らかになった。このことと、谷部に置かれた長頸壺が何らかの関連があるのであろうか。今後さらに周辺の窯跡を含めた遺跡動態を明らかにしながら、その意味も推測できるのではないかと考えている。(石木)

5. 72地点の調査

(1) 調査概要 (第95図、図版15)

72地点は、70・71地点の位置する丘陵から南側に入り込んだ小さな谷の東側斜面に位置する。試掘調査で窯跡が確認されたC地点にあたり、調査の結果、炭窯1基を確認した。窯跡は、斜面下方の谷に近い場所に作られており、試掘調査中に焚口部の一部を削ってしまった。また、図化できなかったが、谷部埋土中に焼土面が確認されたことから、焚口部は谷部堆積土上に開口していたものと考えられる。炭窯以外の遺構は確認できなかった。

(2) 72-炭窯跡 (第96・97図、図版15・16)

炭窯跡は焚口部を失っているが、残存長1.4m、主軸はN-86°-Wをとる。半地下式構造の平窯であり、平面プランは楕円形を呈する。窯内は艶やかな黒色を呈していた。奥壁を溝状に掘り込んだ後、床面に煙取り入れ口を石で組み、溝状の掘り込みの両側に石を積み上げて粘土を貼ることで煙道部を作り出している。

窯内の掘り下げ時に、腐食土層を除去すると石と焼土壁が堆積していた。焼土壁にはワラの痕跡があったことから、スサ入り粘土を用いていたと考えられる。

焼成部 窯体は二段掘りになっており、まず長さ1.95m、幅2.92mで楕円形に掘り下げた後、周囲を12~34cmの平坦面を残した後、さらに長さ1.82m×幅1.96m、深さ0.65mで楕円形に掘り下げて焼成部を作っている。平坦面の上には石が置かれ、粘土を20cmほど貼っている。粘土は赤く焼け固まっておりスサ入り粘土が用いられ、平坦面を利用し、天井を構築したものと考えられる。窯内は黒く焼けており、焼成部の残存長1.4m、幅1.8mである。

排煙部 奥壁を幅0.28~0.62m、高さ0.66mの範囲で溝状に掘り込んでおり、床面に石を組み、さらに前面に粘土を貼ることで煙道部を作り出している。

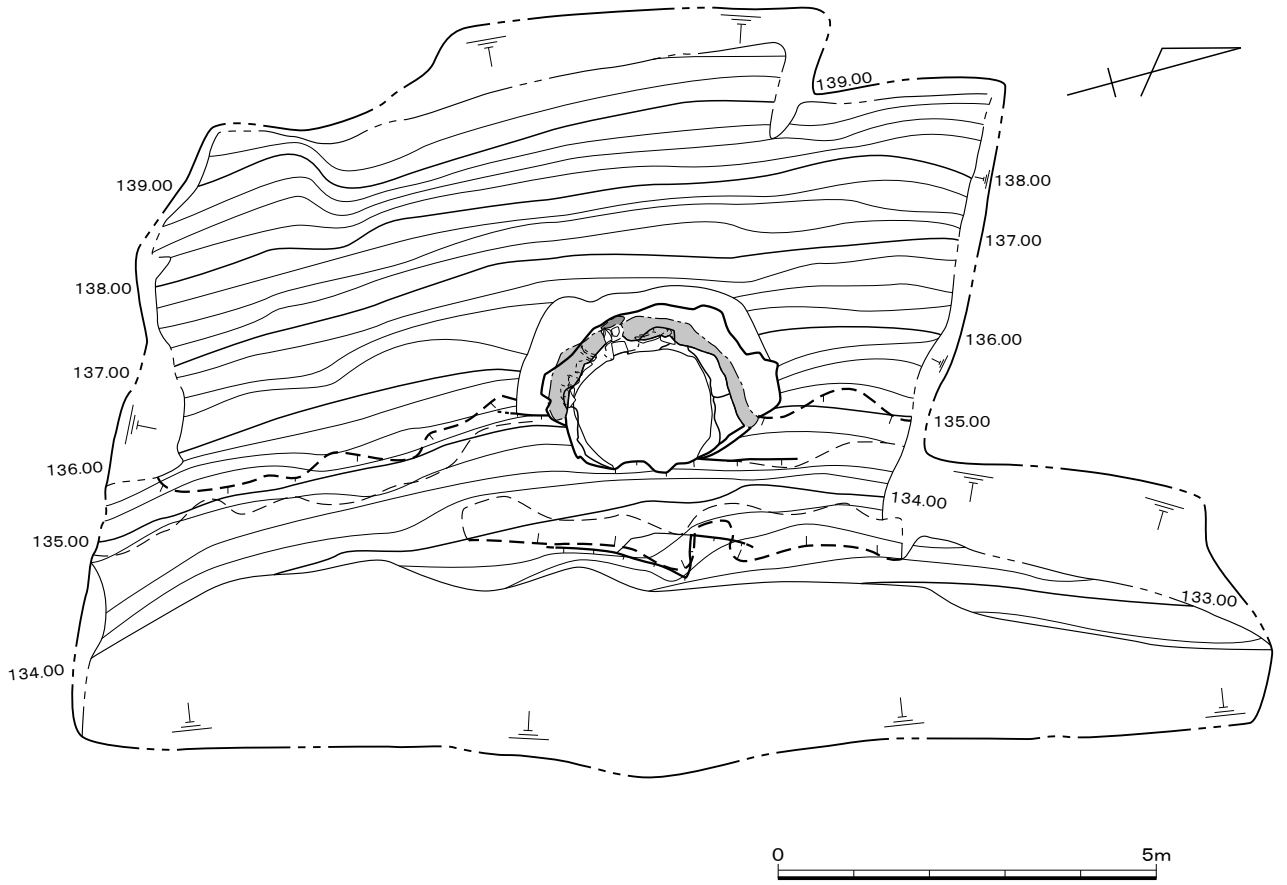
煙取り入れ口は石を組んでおり、幅20cm×高さ12cmの方形になる。溝状の掘り込みの両側壁には石が積み上げられ、煙道部の幅は煙取り入れ口で20cmほどである。排煙口は径10cmで、床面からの高さは0.95m。焼成部の周囲の平坦面より30cmほど高く作りだされる。また排煙口上の壁面が高さ54cm、幅40cmの範囲で還元している。煙道部がさらに続いていた痕跡はないことから、吹き上がった炎により還元したのではないかと考えられる。

(3) 小結

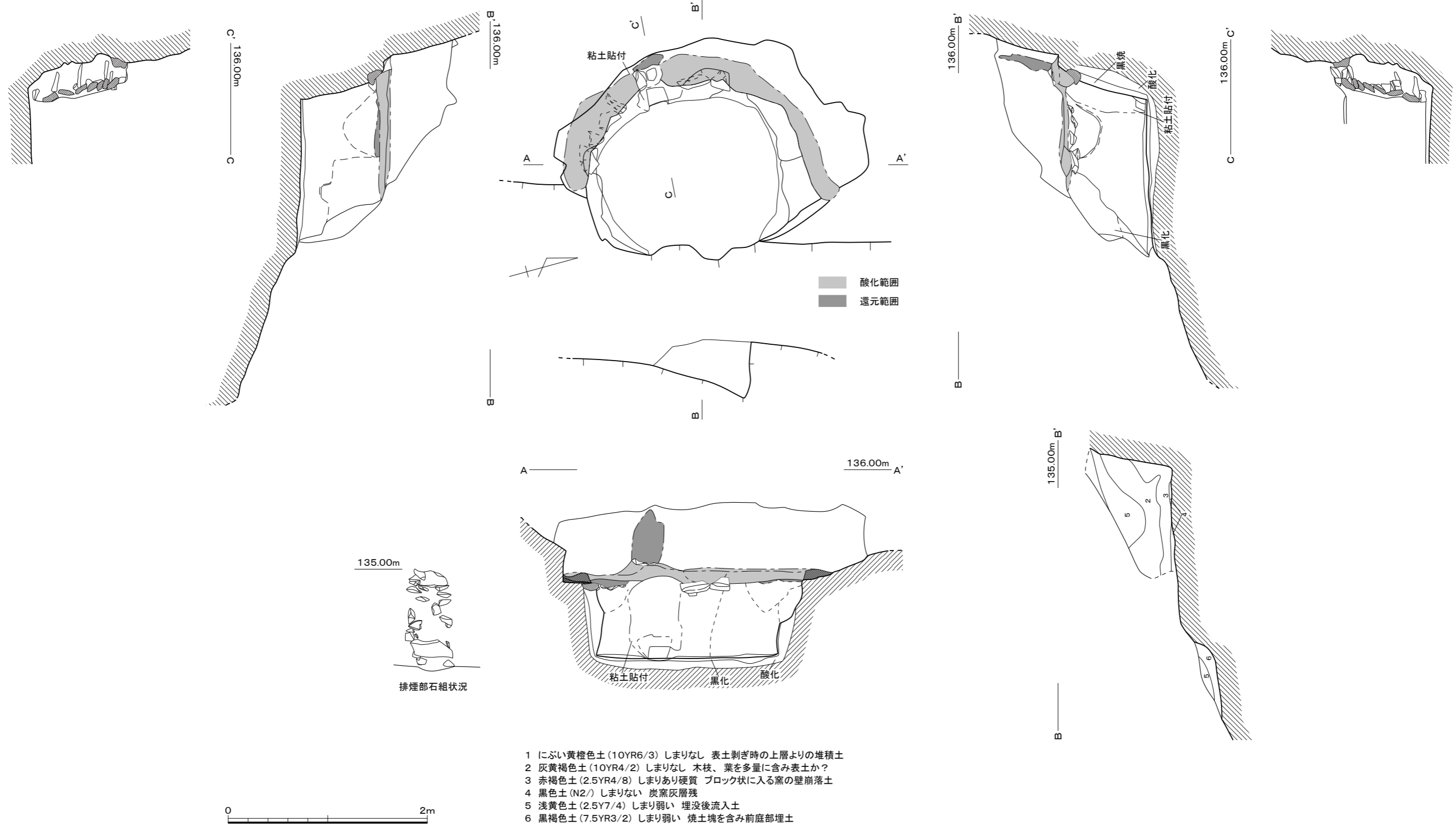
72地点では1基の炭窯が確認された。出土遺物はないことから、時期を明らかにすることはできない。また、焚口部を失っていることから、黒炭・白炭いずれを生産していたかは分からない。

これまでの牛頸窯跡群の調査で、平面プラン楕円形で平窯の炭窯は、石坂窯跡E-1号窯跡(註1)、本堂遺跡第11次調査1号窯跡(註2)で確認されている。これらの時期を見ると石坂E-1号窯跡は13世紀第2四半期から第3四半期、本堂11次1号窯跡は昭和40年代に埋没したと考えられている。

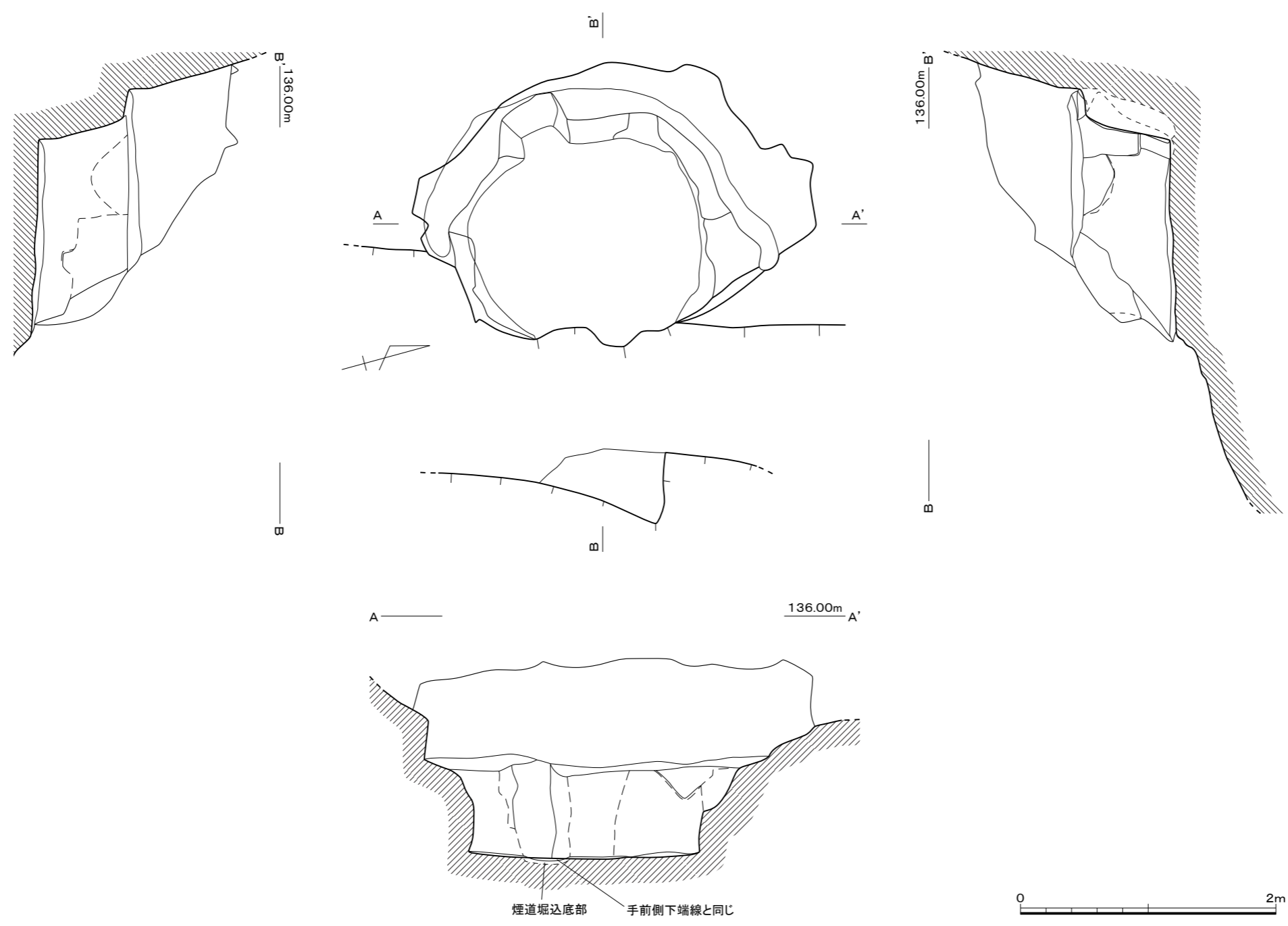
このことから、窯構造からは72-炭窯跡が作られた時代を明らかにすることはできないが、古



第95图 72地点地形测量图 (1/100)



第96図 炭窯跡実測図① (1/40)



第97図 炭窯跡実測図② (1/40)

代に牛頸窯跡群で行われていた須恵器生産の後、中世になると山深いこの地域まで森林資源を求め炭の生産が行われていることは、中世以降の牛頸周辺の森林利用と産業の在り方を考える上で重要である。 (石木)

石木秀啓1997『牛頸石坂窯跡—E地点—』大野城市文化財調査報告書第49集

石木秀啓編2007『牛頸本堂遺跡群Ⅳ～第10・11次調査～』大野城市文化財調査報告書第75集

6. 74地点の調査

(1) 調査概要 (第98図、図版16)

74地点は、70・71地点の位置する谷部をさらに南西に入り込んだ所に位置する。当初は遺構・遺物を確認していなかったが、70～73地点の調査開始後、須恵器を表採したことから試掘調査を実施し、遺構を確認したことから74地点として調査を実施することになった。

調査地は、北側に伸びる丘陵先端部にあたり、土坑が確認された。土坑はいずれも不整形なものであるが、須恵器鉢を半裁したものが出土した。(石木)

(2) SX01 (第99図、図版16)

SX01は、調査地の東側に位置する。長さ2.5m×幅0.9m、深さ1.43m、平面プラン長楕円形の土坑である。土坑の西側に不整形な落ち込みを伴うが、調査では遺構とは確認できなかった。埋土の上面からは、半裁された鉢が伏せた状態で出土した。また、土坑底面は長さ0.75m×幅0.25mの長楕円形プランとなる。埋土はバイラン土であり、炭や焼土などは出土しなかった。(石木)

(3) 出土遺物 (第102図)

鉢 (991) 底部を欠く。体部は直線的に外方に開き、口縁端部は内傾する。内外面とも強い回転ナデを施す。(藤島)

(4) SX05 (第100図、図版16)

SX05は、調査地の北側に位置する。長さ3.33m×幅2.46mの方形に近いプランを呈する土坑である。床面は不整形であり、凹凸が著しく、最も深い所で0.85mである。埋土はバイラン土であり、出土遺物には須恵器がある。(石木)

(5) 出土遺物 (第102図)

杯 (992) 口縁部の破片で、大きく外傾する。口縁端部はわずかに外反する。(藤島)

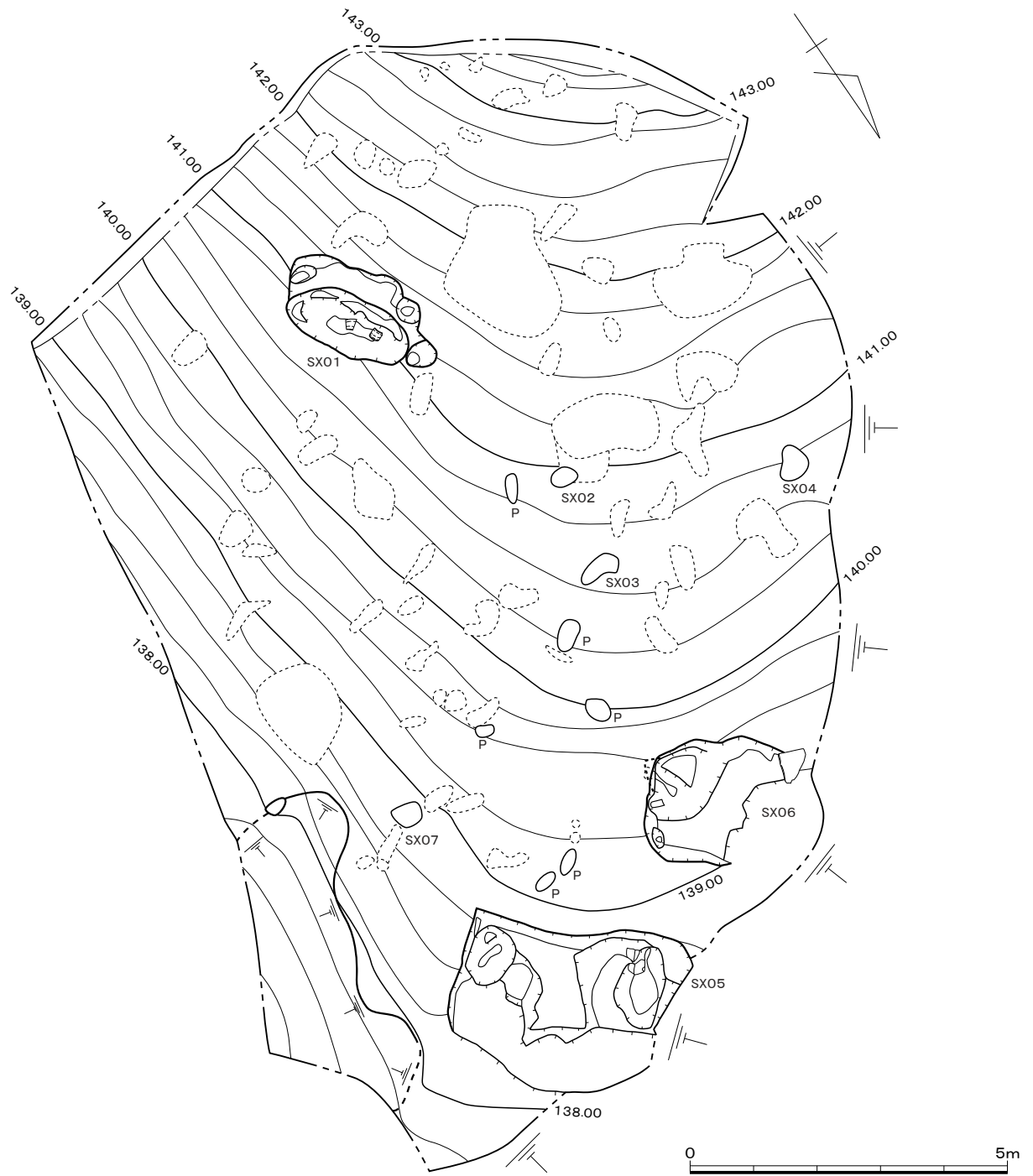
(6) SX06 (第101図)

SX06は、調査地の北側に位置する。長さ1.5m×幅1.93mの方形に近いプランを呈する土坑である。床面は不整形であり、凹凸が著しく、最も深い所で0.66mである。埋土はバイラン土であり、出土遺物はなかった。(石木)

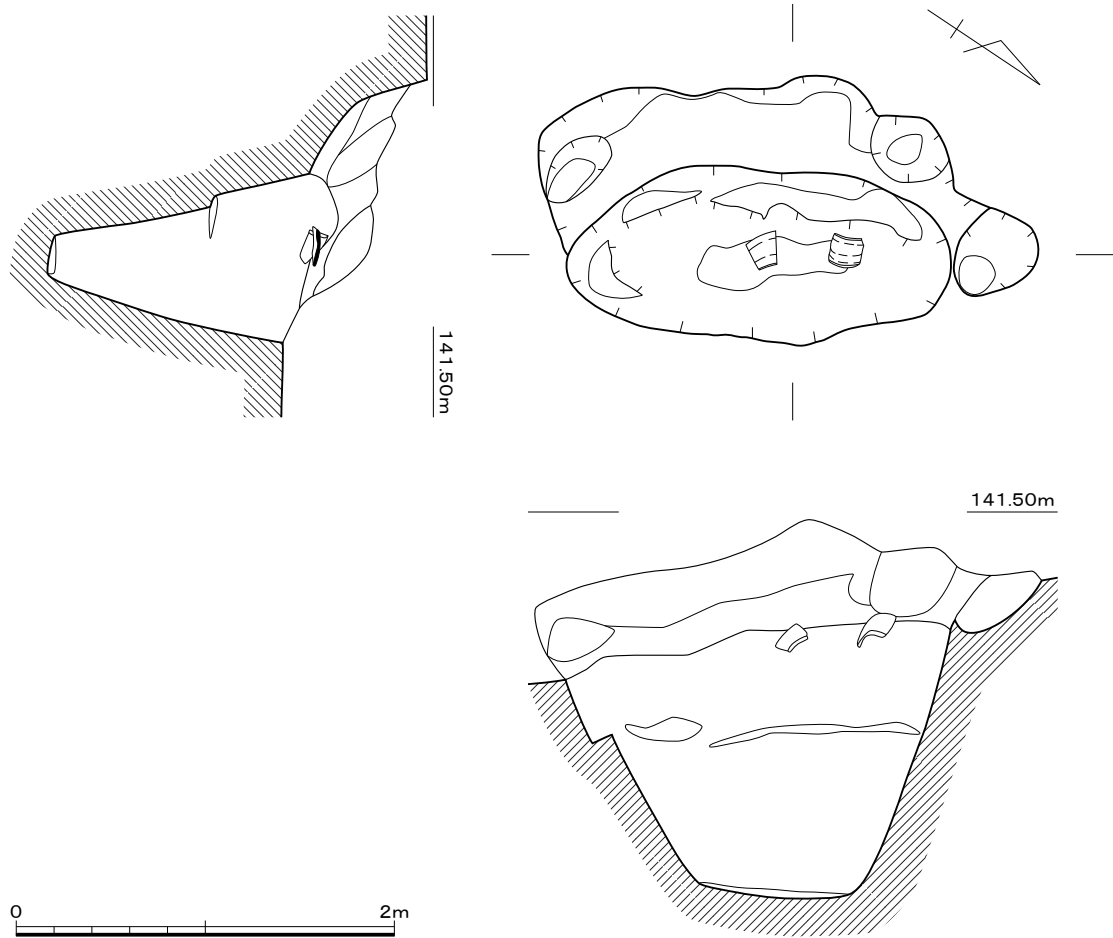
(7) 出土遺物

試掘トレンチ (第102図、図版62)

杯 (993) 底部から体部にかけての小片である。体部は直線的に外方に開き、体部と底部との境は、くの字状に屈曲する。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、体部内面は強い回転ナデを施す。(藤島)



第98图 74地点地形测量图 (1/100)



第99図 SX01実測図 (1/40)

表採 (第102図)

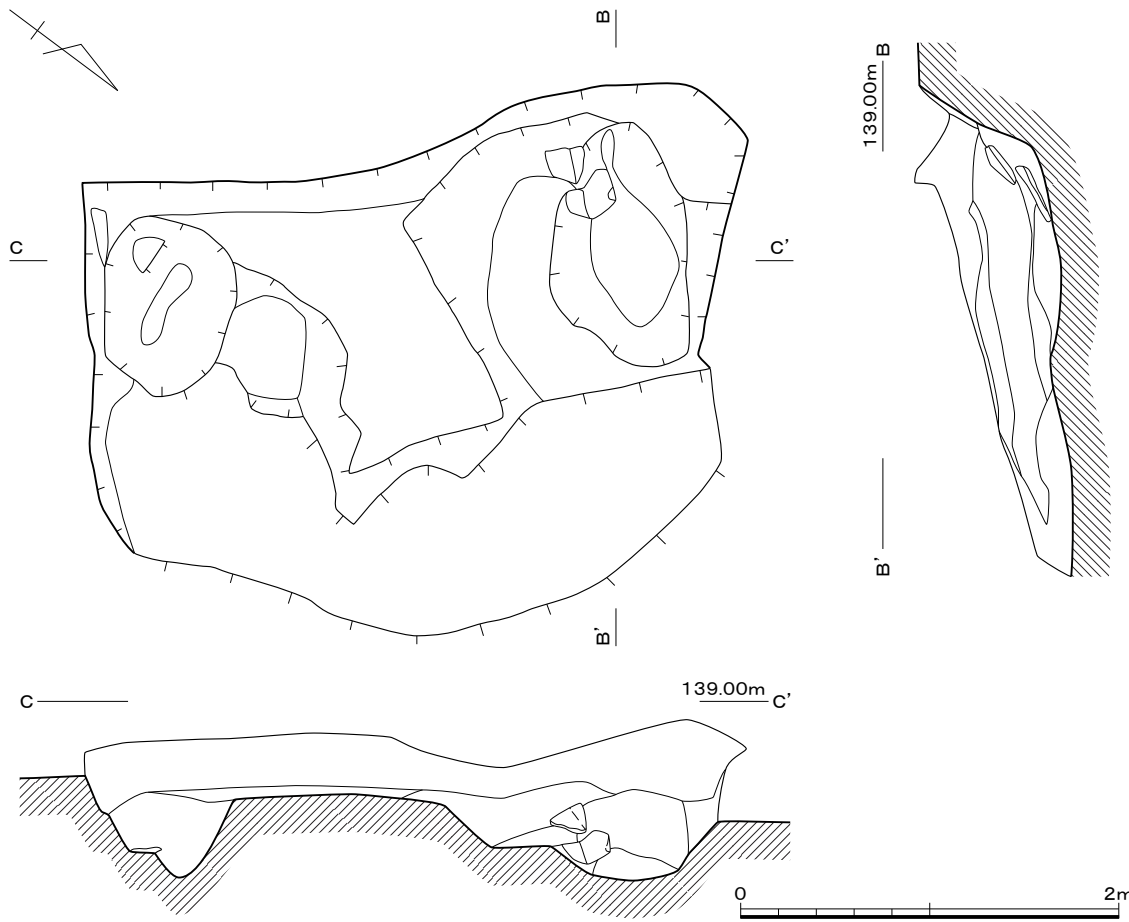
杯蓋 (994~996) 994は山形を呈し、天井部中心が高く直線的に伸び口縁部に至る。口縁端部はわずかに下方に突出させ丸くおさめる。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。995は扁平な形態をなす。口縁端部は下方に小さくつまみ出し、断面三角形状を呈する。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデを施す。996は焼き歪みの著しい破片で、形態の詳細は不明である。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。中央が突起する扁平な擬宝珠様のつまみが付く。

杯身 (997・998) いずれも底部の破片であり、底部と体部の境は明瞭で、体部は直線的に外方に立ち上がる。いずれも高台は短く断面方形を呈し、直立する。

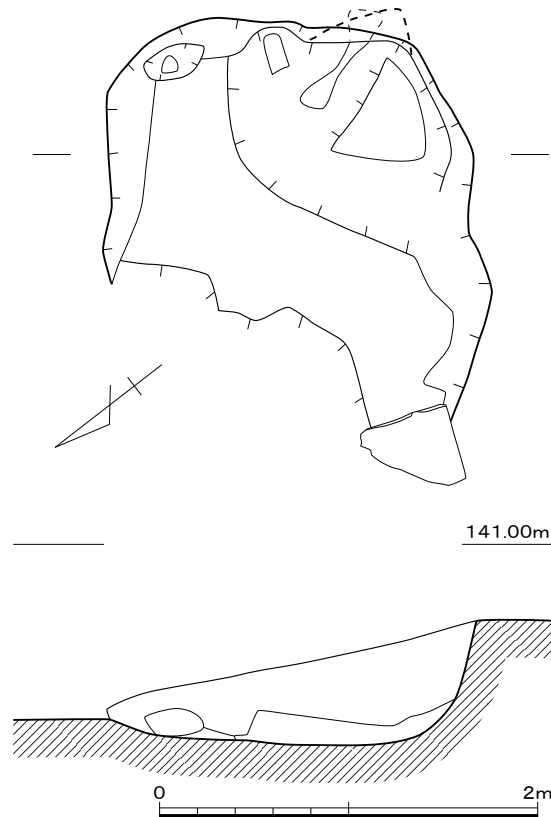
皿 (999・1000) いずれも体部は直線的に外方に開く。底部外面は回転ヘラ切り後ナデを施し、体部と底部との境は明瞭である。1000は径約20cmを測る大型品である。 (藤島)

(8) 小結

74地点では3基の土坑を報告したが、遺物が出土したピットは他にもある。SX01出土の鉢、SX05出土の杯、表採された須恵器はいずれもVII B期のものであることから、74地点の遺構はいずれもこの時期のものと考えられる。

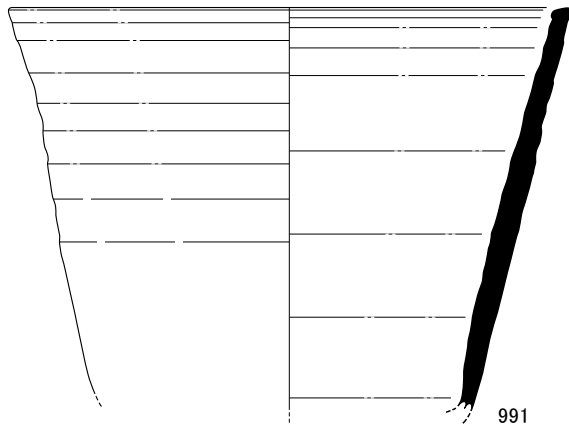


第100图 SX05实测图 (1/40)



第101图 SX06实测图 (1/40)

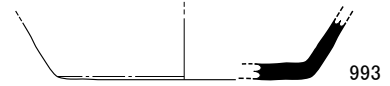
SX01



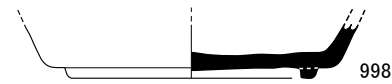
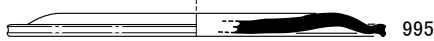
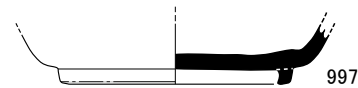
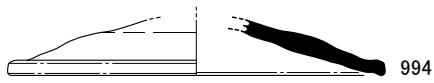
SX05



試掘トレンチ



表採



第102図 SX01・SX05・その他出土遺物実測図（1／3）

74地点は、他の地区に比べて傾斜のゆるやかな丘陵部にあたる。掘立柱建物や竪穴住居跡などの居住遺構は確認できていないが、70・71地点の操業を行ったり、あるいは薪を得るために周辺で活動していた工人が一時休息を取った場所であるかもしれない。牛頸窯跡群の調査課題として、7世紀後半以降、山林を深く入った地で須恵器窯跡に隣接して、工人が起居した場所を見つけ出すことができていない。山深い場所での調査の場合、窯跡以外の一時的な工人の居住場所についても周辺地形の観察を行いながら進めていく必要がある。（石木）

表5 68地点出土遺物観察表

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|-------------------|--------------------------------------|--|---|------|------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | |
| 1 | 須恵器 | 杯B蓋 | 1号窯跡窯体内出土最下層(5層) | ①13.4 ②4.0 つまみ径2.5 受部径16.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、摩滅のため調整不明。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を少量含む。B：やや不良。C：内外橙5YR6/8。 | ほぼ完形 | |
| 2 | 須恵器 | 杯B蓋 | 1号窯跡窯体内出土最下層(5層) | ①(13.4) ②1.9+α 受部径(15.6) | 内外面摩滅のため調整不明。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外浅黄橙10YR8/4。 | 1/8 | |
| 3 | 須恵器 | 杯B蓋 | 1号窯跡窯体内出土最下層(5層) | ①(12.2) ②2.0+α 受部径(13.6) | 外面ヘラ切り後ナデ、摩滅のため調整不明。内面摩滅のため調整不明。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：不良。C：内外橙7.5YR7/6。 | 1/4 | ヘラ記号あり。 |
| 4 | 須恵器 | 小壺 | 1号窯跡窯体内出土最下層(5層) | ①4.9 ②3.5 ③4.3 最大胴部径5.6 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰10Y6/1、内灰7.5Y5/1。 | ほぼ完形 | 小型。 |
| 5 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡窯体内出土最下層(5層) | ②14.0+α | 外面平行タタキ。内面同心円文当て具痕。 | A：3mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外にぶい橙7.5YR6/4。 | 小片 | |
| 6 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡窯体内出土最下層(5層) | ②13.3+α | 外面格子目タタキ。内面同心円文当て具痕、同心円文当て具痕後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外暗黄灰2.5Y4/2、内灰10Y5/1。 | 小片 | |
| 7 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①(13.0) ②2.3 つまみ径2.7 受部径(15.4) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石、金雲母を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/2 | |
| 8 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①16.2 ②3.4 つまみ径2.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、指オサエ。内面回転ナデ、指オサエ、摩滅のため調整不明。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を少量含む。B：不良。C：外明黄褐10YR7/6、内明黄褐10YR6/6。 | 1/2 | |
| 9 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①16.3 ②3.3 つまみ径2.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を多量含む。B：不良。C：内外明黄褐10YR7/6。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 |
| 10 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①(14.4) ②3.7 つまみ径2.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を多量含む。B：良好。C：内外灰5Y5/1。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 11 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①(15.4) ②3.6 つまみ径3.1 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰黄褐10YR6/2、内灰黄褐10YR5/2。 | 1/2 | 歪みあり。 内面に火だすきあり。 |
| 12 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①15.6 ②3.2 つまみ径2.4 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を多量含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内黄灰2.5Y6/1。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 ヘラ記号あり。 |
| 13 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①15.8 ②2.9 つまみ径2.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、指オサエ。内面回転ナデ、指オサエ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を多量含む、1mm以下の長石を多量含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内にぶい黄橙10YR7/4。 | ほぼ完形 | |
| 14 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①17.1 ②3.6 つまみ径3.3 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、棒状工具による研磨状の回転ナデ。内面回転ナデ、棒状工具による研磨状の回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を多量含む、微細な金雲母を多量含む。B：不良。C：内外橙5YR6/6。 | 3/4 | 歪みあり。 |
| 15 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①(15.3) ②2.4 つまみ径2.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を多量含む。B：やや不良。C：外灰5Y6/1、内にぶい黄2.5Y6/3。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 |
| 16 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①17.2 ②2.4 つまみ径3.2 | 外面回転ナデ、摩滅のため調整不明。内面摩滅のため調整不明。 | A：3mm以下の白色粒子を多量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：不良。C：内外橙5YR6/8。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 17 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①16.0 ②2.6 つまみ径2.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、指オサエ。内面回転ナデ、指オサエ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内黄灰2.5Y6/1。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 18 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①(17.8) ②2.2+α つまみ径2.1+α | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 3/4 | 歪みあり。 内面に降灰あり。 |
| 19 | 須恵器 | 杯G身 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①(13.6) ②3.3 ③(9.2) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を多量含む。B：不良。C：外浅黄2.5Y7/3、内灰黄2.5Y6/2。 | 1/4 | |
| 20 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①(13.9) ②5.7 ③(11.4) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：1mm以下の長石を多量含む。B：不良。C：内外橙7.5YR6/6。 | 1/4 | |

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A:胎土 B:焼成 C:色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|-----------------|-------------------|--|---|---|------------------------|------------------------------|
| 21 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ②3.4+α ③(10.8) | 外面摩滅のため調整不明、回転ナデ、回転ヘラ切り。内面摩滅のため調整不明。 | A:2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B:不良。C:内外明黄褐10YR6/6。 | 1/4 | |
| 22 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①(14.9) ②5.3 ③(10.0) | 外面回転ナデ(強め)、回転ナデ、摩滅のため調整不明。内面回転ナデ強め、一部摩滅のため調整不明。 | A:2mm以下の白色粒子を少量含む。B:不良。C:外灰白2.5Y8/2、内淡黄2.5Y8/3。 | 1/4 | |
| 23 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①(15.0) ②4.6+α | 外面回転ナデ、ヘラケズリ。内面回転ナデ、ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B:やや不良。C:外暗灰黄2.5Y5/2、内灰5Y6/1。 | 1/4 | 高台剥離あり。 |
| 24 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①(15.8) ②5.3+α | 内外面回転ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子、長石を少量含む。B:不良。C:外にふい黄橙10YR7/4、内灰黄2.5Y6/2。 | 1/3 | |
| 25 | 須恵器 | 皿 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①19.6 ②3.0~3.3 ③9.5 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:微細な長石を多量含む。B:不良。C:内外橙7.5YR6/6。 | 3/4 | 一部に黒斑あり。 |
| 26 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①(16.4) ②7.1 脚部径(10.2) | 外面回転ナデ、ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:3mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を多量含む。B:やや不良。C:外灰5Y4/1、内黄灰2.5Y4/1。 | 1/2 | |
| 27 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ①(11.8) ②2.3+α | 内外面回転ナデ。 | A:微細な長石を少量含む。B:不良。C:内外にふい橙7.5YR7/4。 | 1/6 | |
| 28 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ②2.0+α ③(11.4) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を少量含む。B:やや不良。C:外灰5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 1/4 | |
| 29 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ②2.3+α ③12.7 | 外面摩滅のため調整不明、回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面摩滅のため調整不明。 | A:3mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B:不良。C:黄橙7.5YR7/8、内明黄褐10YR7/6。 | 完形 | |
| 30 | 須恵器 | 壺 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ②6.8+α ③(11.8) | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を多量含む。B:不良。C:内外橙5YR6/8。 | 1/4 | |
| 31 | 須恵器 | 甕 | 1号窯跡窯体内埋土上層(1~3層) | ②4.3+α | 外面回転ナデ。内面摩滅のため調整不明。 | A:3mmの白色粒子を含む。B:不良。C:外橙7.5YR6/6、内橙7.5YR7/6。 | 小片 | |
| 32 | 須恵器 | 杯G蓋 | 1号窯跡覆土掘下時 | ①(8.4) ②2.1 受部径(10.6) | 外面摩滅のため調整不明。(回転ヘラ切り後ナデか)、回転ナデ。内面回転ナデ、摩滅のため調整不明(回転ナデ後ナデか)。 | A:1mm以下の白色粒子を多量含む、1mm以下の黒色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B:不良。C:内外灰5Y6/1~灰白5Y8/1。 | 5/6 | ヘラ記号あり。 |
| 33 | 須恵器 | 杯B蓋 | 1号窯跡覆土掘下時 | ①(13.9) ②3.6 つまみ径(3.0) 受部径(16.6) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、ナデ(凸凹)。 | A:1mm以下の金雲母を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B:不良。C:外暗灰黄2.5Y5/2、内にふい黄橙10YR7/4。 | 2/3 | |
| 34 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡覆土掘下時 | ①16.0 ②2.1 つまみ径2.7 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:4mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B:やや不良。C:外明オリブ灰2.5GY7/1、内オリブ灰2.5GY6/1。 | 5/6 | |
| 35 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡覆土掘下時 | ①14.8 ②4.7~4.9 ③(9.1) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、ナデ。 | A:微細な長石を多量含む、2mm以下の白色粒子を含む。B:不良。C:内外橙5YR6/6。 | 3/5 | |
| 36 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡覆土掘下時 | ①(15.2) ②6.4 ③11.2 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子、金雲母を含む。B:不良。C:外橙5YR6/6、内にふい橙5YR6/4。 | 口縁部 1/8 底部 完形 | |
| 37 | 須恵器 | 穿孔土器 | 1号窯跡覆土掘下時 | ②0.8 | 外面ヘラケズリ後ナデ。内面摩滅のため調整不明。 | A:2mm以下の石英を含む、微細な長石を多量含む。B:不良。C:外橙5YR7/6。 | 小片 | 穿孔1カ所あり。 |
| 38 | 土師器 | 甕 | 1号窯跡覆土掘下時 | ②2.5+α | 外面ナデ、ハケメ後ナデ。内面ナデ、ハケメ。 | A:3mm以下の石英を多量含む、微細な金雲母、長石を含む。B:良好。C:外にふい橙7.5YR7/4、内浅黄橙7.5YR8/6。 | 小片 | 外面に黒斑か。 |
| 39 | 鉄器 | 方頭斧 箭式鉄 鏃 | 1号窯跡覆土掘下時 | 長9.2+α 幅2.5 厚0.3 重21.01g | | | | 本位茎付近に三分分の茎片錆着あり。 |
| 40 | 須恵器 | 杯G蓋 | 灰原A区 | ①9.5 ②2.0 受部径11.5 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ、ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B:やや不良。C:外黄灰2.5Y6/1、内灰N7/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 受部打ち欠きか。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|----------------|------|----------------------------------|--|--|---|------------------------|--------------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 41 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原A区 | ①11.2 ②2.2 受部径13.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、ヘラ切り後未調整回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 完形 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 方向の異なる板状圧痕あり。 |
| 42 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原A区 | ①(12.2) ②2.1 受部径(14.4) | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、手持ちヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：不良。C：内外にふい黄橙10YR6/3。 | 1/3 | |
| 43 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原A区 | ①11.2 ②2.7 つまみ径2.4 受部径13.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：良好。C：内外灰5Y6/1。 | 3/4 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 |
| 44 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原A区 | ①11.4 ②2.8 つまみ径2.5 受部径13.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、雲母を含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y5/1、内灰N6/。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 45 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原A区 | ①12.5 ③3.0 つまみ径2.0 受部径14.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y5/1、内灰N6/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 |
| 46 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原A区 | ①(10.8) ③3.7 | | 外面回転ナデ、ヘラケズリ後ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後強いナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：不良。C：内外にふい黄橙10YR7/4。 | 口縁部 1/4 底部 完形 | ヘラ記号あり。 |
| 47 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原A区 | ①(13.2) ②4.4 ③(8.0) | | 外面摩滅のため調整不明(回転ナデか、回転ヘラ切り後ナデか)。内面摩滅のため調整不明(回転ナデか)。 | A：1mm以下の白色粒子、長石含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/2、内にふい黄橙10YR7/3。 | 1/6 | ヘラ記号あり。 |
| 48 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原A区 | ①(12.8) ③3.7 ③(8.4) | | 外面摩滅のため調整不明、ヘラ切り。内面摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。B：不良。C：外にふい黄橙10YR7/4、内黄橙7.5YR8/8。 | 1/3 | ヘラ記号あり。 |
| 49 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原A区 | ①(12.2) ②4.3 ③(8.8) | | 外面回転ナデ、ヘラケズリ後ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y5/1、内灰N5/。 | 1/4 | |
| 50 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原A区 | ①(13.2) ②4.2 | | 外面回転ナデ、ヘラケズリ後ナデ、ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、石英を含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰5Y5/1。 | 口縁部 1/6 底部 完形 | |
| 51 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原A区 | ①(15.8) ②4.9 ③(11.0) | | 外面摩滅のため調整不明、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：不良。C：内外橙7.5YR6/6。 | 口縁部 1/4 底部 完形 | |
| 52 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原A区 | ①(13.6) ②5.4+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、ナデ。 | A：微細な長石を多量に含む。B：不良。C：外にふい褐7.5YR5/4、内橙7.5YR7/6。 | 口縁部 1/3 | 高台剥離あり。 |
| 53 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原A区 | ②4.3+α ③(12.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を多量含む。B：不良。C：外にふい橙7.5YR6/4、内にふい黄橙10YR6/4。 | 底部 1/4 | |
| 54 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原A区 | ②1.5+α ③11.3 | | 内外面摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：不良。C：外にふい黄橙10YR7/4、内にふい黄橙10YR7/3。 | 底部 完形 | 底面側が二次被熱著しい。(全体的に二次被熱) 焼成前穿孔1カ所あり |
| 55 | 須恵器 | 高杯 | 灰原A区 | ②3.0+α 脚部径(10.6) | | 内外面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を多量含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y4/1 | 脚部 1/2 | |
| 56 | 須恵器 | 壺 | 灰原A区 | ①(7.4) ②4.7+α | | 内外面回転ナデ、沈線。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：やや不良。C：内外暗灰黄2.5Y5/2。 | 口縁部 1/4 | |
| 57 | 須恵器 | ミニ チュア 壺 | 灰原A区 | ①(3.0) ②1.8+α | | 内外面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 口縁部 1/4 | 歪みあり。 |
| 58 | 須恵器 | 鉢 | 灰原A区 | ①(21.4) ②10.8 | | 外面回転ナデ、沈線、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、ナデ(当て具痕残る) | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：良好。C：外灰5Y4/1、内灰N4/。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 59 | 須恵器 | 甕 | 灰原A区 | ②9.6+α | | 外面回転ナデ、沈線。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の黒色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 小片 | |
| 60 | 須恵器 | 不明 | 灰原A区 | ①(6.2) ②2.9+α | | 外面ナデ。内面ナデ、指オサエ。 | A：微細な長石を少量含む。B：不良。C：外黄灰2.5Y4/1、明黄褐10YR7/6。 | 1/4 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|------|--------------------------------------|--|--|--|-------------------------|--------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 61 | 須恵器 | 杯G蓋 | 灰原B区 | ①8.3 ②2.1 受部径10.4 | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の黒色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰N5/。 | 口縁部 一部欠損 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 |
| 62 | 須恵器 | 杯G蓋 | 灰原B区 | ①(8.6) ②2.4 受部径(10.8) | | 外面摩滅のため調整不明(回転ヘラ切り後ナデか)、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外灰5Y6/1。 | 1/6 | ヘラ記号あり。 |
| 63 | 須恵器 | 杯G蓋 | 灰原B区 | ①8.6 ②2.4 受部径10.7 | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：不良。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内にぶい黄橙10YR7/4。 | ほぼ完形 | |
| 64 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ①(11.8) ②2.6 受部径(14.0) | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を少量含む。B：不良。C：外にぶい橙7.5YR7/3、内橙5YR7/6。 | 天井部 完形 口縁部 1/4 | |
| 65 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ①12.8 ②2.9 受部径15.1 | | 外面摩滅のため調整不明(回転ヘラ切り後ナデか)、回転ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な金雲母を含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y8/2。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 |
| 66 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ①(12.9) ②3.1 受部径(15.4) | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：内外明黄褐10YR7/6。 | 1/2 | |
| 67 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ①8.4 ②3.0 つまみ径1.1 受部径10.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を多量含む、2mm以下の石英を含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：内外オリーブ灰2.5GY5/1。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 68 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ①(13.3) ②3.4 つまみ径2.6 受部径(15.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：内外灰白7.5Y7/1。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 69 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ①(13.6) ②3.3 つまみ径2.8 受部径(16.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：2mmの白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外にぶい橙7.5YR7/4、内橙5YR6/6。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 70 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ①(14.0) ②3.0 つまみ径3.0 受部径(16.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：内外灰7.5Y6/1。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 71 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ①13.8 ②3.6 つまみ径2.9 受部径16.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な金雲母を多量含む。B：やや不良。C：内外橙7.5YR7/6。 | 3/5 | |
| 72 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ①13.8 ②3.7 つまみ径2.4 受部径(16.2) | | 外面回転ナデ、摩滅のため調整不明(回転ヘラケズリか)。内面回転ナデ、ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/4。 | 1/4 | |
| 73 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ①16.4 ②2.0 つまみ径2.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 1/2 | |
| 74 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ①(17.0) ②2.1 | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内灰黄2.5Y7/2。 | 1/6 | 歪みあり。 |
| 75 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ①15.8 ②1.8+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 2/3 | つまみ剥離あり。 |
| 76 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原B区 | ②3.2+α つまみ径2.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：微細な長石を含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y6/2。 | 1/4 | |
| 77 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原B区 | ①9.6 ②3.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰黄2.5Y6/2。 | 3/4 | ヘラ記号あり。 |
| 78 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原B区 | ①(10.4) ②2.6 ③(6.0) | | 外面回転ナデ、摩滅のため調整不明。内面回転ナデ、ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：不良。C：外橙7.5YR7/6、内橙5YR6/6。 | 1/4 | |
| 79 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原B区 | ①12.5 ②2.7~2.9 ③7.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子、雲母を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 口縁部 1/2 底部 完形 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 |
| 80 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原B区 | ①(12.0) ②3.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石の少量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 1/3 | ヘラ記号あり。 簾状圧痕(板状圧痕)あり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|------|--------------------------|--|---|--|---------------------------|----------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 81 | 須恵器 | 杯A | 灰原B区 | ①(13.7) ②4.2 ③11.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、雲母、角閃石を含む。B：不良。C：外にふい黄橙10YR7/4、内にふい黄橙10YR6/3。 | 口縁部 1/6 底部 完形 | |
| 82 | 須恵器 | 杯A | 灰原B区 | ①(13.9) ②4.5 ③11.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：不良。C：外橙5YR7/6、内橙7.5YR7/6。 | 口縁部 1/6 底部 完形 | |
| 83 | 須恵器 | 杯A | 灰原B区 | ①(14.4) ②4.1+α ③(11.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：不良。C：内外にふい黄橙10YR7/3。 | 1/4 | |
| 84 | 須恵器 | 杯A | 灰原B区 | ①14.8 ②3.7 ③11.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：不良。C：外にふい黄橙10YR7/2、にふい黄橙10YR7/4。 | 口縁部 1/2 底部 完形 | 歪みあり。 |
| 85 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原B区 | ①(13.0) ②4.6 ③(9.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y6/2。 | 1/4 | |
| 86 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原B区 | ①13.3 ②4.7~4.8 ③9.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰黄褐10YR6/2。 | 2/3 | |
| 87 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原B区 | ①(14.5) ②5.0 ③(11.4) | | 外面回転ナデ。内面回転ナデ、摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を少量含む。B：不良。C：外にふい黄橙10YR6/4、内にふい黄橙10YR7/4。 | 1/4 | |
| 88 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原B区 | ①(14.0) ②5.2+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外灰5Y5/1、内灰白2.5Y7/1。 | 1/2 | 歪みあり。 高台剥離あり。 |
| 89 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原B区 | ①(13.9) ②5.6 ③(10.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y6/2。 | 1/4 | |
| 90 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原B区 | ①(15.3) ②5.0 ③12.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、石英を含む、微細な雲母を含む。B：不良。C：内外橙5YR6/6。 | 口縁部 1/12 底部 完形 | |
| 91 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原B区 | ①(14.2) ②6.0 ③(11.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/2、浅黄2.5Y7/4。 | 1/4 | |
| 92 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原B区 | ①(14.2) ②5.8+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：不良。C：外淡黄2.5Y8/3、内灰黄2.5Y7/2。 | 1/4 | 高台剥離あり。 |
| 93 | 須恵器 | 杯身 | 灰原B区 | ②2.3+α | | 外面回転ナデ、ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 小片 | |
| 94 | 須恵器 | 高杯 | 灰原B区 | ②3.6+α 脚部径(11.0) | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰5Y6/1、内灰N6/。 | 脚部 1/3 | |
| 95 | 須恵器 | 高杯 | 灰原B区 | ②5.2+α 脚部径11.7 | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面摩滅のため調整不明、回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内にふい黄橙10YR7/2。 | 脚部 1/2 杯部底部 1/12 | |
| 96 | 須恵器 | 高杯 | 灰原B区 | ②5.4+α 脚部径(11.2) | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ・摩滅のため調整不明(ナデか)、ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内灰黄褐10YR6/2。 | 脚部 1/2 杯部 一部残存 | |
| 97 | 須恵器 | 高杯 | 灰原B区 | ②4.1+α 脚部径(10.8) | | 外面板状工具による回転ナデ(ハケメまではいかない)、回転ナデ。内面回転ナデ、シボリ痕。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外灰5Y6/1、内灰白5Y7/1。 | 脚部 1/2 | 歪みあり。 |
| 98 | 須恵器 | 壺 | 灰原B区 | ①(12.0) ②3.4+α | | 内外面回転ナデ。 | A：微細な白色粒子、赤色粒子、雲母を含む。B：不良。C：内外にふい黄橙10YR7/3。 | 口縁部 1/2 | 歪みあり。 |
| 99 | 須恵器 | 壺 | 灰原B区 | ①(9.4) ②6.1+α | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 口縁部 1/4 | 瓶類か。 |
| 100 | 須恵器 | 壺 | 灰原B区 | ①(6.0) ②3.0+α | | 外面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y6/1、内暗灰N3/。 | 口縁部 1/6 | 外面に降灰あり。 内面黒化あり。 小型。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A:胎土 B:焼成 C:色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|------|----------------------------------|--|--|--|-------------|------------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 101 | 須恵器 | 壺 | 灰原B区 | ①(24.0) ②7.8+α | | 外面回転ナデ、擬格子タタキ。内面回転ナデ、当て具痕。 | A:1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B:やや不良。C:外灰赤2.5YR5/2、内にふい赤褐2.5YR5/3。 | 口縁部 1/12 | |
| 102 | 須恵器 | 壺 | 灰原B区 | ①(24.0) ②6.6+α | | 外面摩滅のため調整不明、擬格子タタキ。内面摩滅のため調整不明、当て具痕。 | A:1mm以下の白色粒子、赤色粒子を含む、微細な雲母を含む。B:不良。C:外橙2.5YR7/8、内橙5YR7/8。 | 口縁部 1/4 | 歪みあり。 |
| 103 | 土師器 | 壺 | 灰原B区 | ①(21.6) ②5.7+α | | 外面摩滅のため調整不明(回転ナデか、ハケメカ)。内面摩滅のため調整不明(ハケメカ)、ヘラケズリ。 | A:2mm以下の石英、白色粒子を含む。微細な長石を含む。B:良好。C:外にふい黄橙10YR7/4、内橙7.5YR7/6。 | 口縁部 1/12 | |
| 104 | 須恵器 | 杯G蓋 | 灰原C区 | ①8.2 ②2.2 受部径10.4 | | 外面ヘラ切り後未調整、回転ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B:良好。C:内外灰白10Y7/1。 | 1/2 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 |
| 105 | 須恵器 | 杯G蓋 | 灰原C区 | ①9.5 ②2.0 受部径11.7 | | 外面ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2.5mm以下の白色粒子を含む。微細な金雲母を含む。B:やや不良。C:外灰黄2.5Y6/2、内灰白2.5Y7/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 外面に別個体の残片付着あり。 |
| 106 | 須恵器 | 杯G蓋 | 灰原C区 | ①8.9 ②2.1 受部径10.9 | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:1.5mm以下の石英、黒色粒子を含む、1mm以下の白色粒子を含む。B:やや不良。C:内外にふい褐7.5YR6/3。 | 3/5 | ヘラ記号あり。 |
| 107 | 須恵器 | 杯G蓋 | 灰原C区 | ①9.0 ②2.1 受部径11.1 | | 外面ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:微細な長石、白色粒子を含む。B:やや不良。C:外暗灰N3/、内褐灰5YR5/1。 | 口縁部 3/5 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 |
| 108 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原C区 | ①11.3 ②2.7 受部径13.4 | | 外面回転ヘラ切り、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B:不良。C:内外にふい褐7.5YR5/4。 | ほぼ完形 | ヘラ記号あり。 |
| 109 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原C区 | ①10.3 ②2.2 受部径12.7 | | 外面摩滅のため調整不明(回転ヘラ切り後ナデか)、回転ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B:やや不良。C:内外灰黄2.5Y7/2。 | 口縁部 3/5 | ヘラ記号あり。 |
| 110 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原C区 | ①(10.4) ②2.5+α 受部径(12.7) | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後強いナデ。 | A:2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B:やや不良。C:内外灰黄2.5Y7/2。 | 口縁部 1/3 | ヘラ記号あり。 |
| 111 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原C区 | ①10.8 ②3.0 受部径13.0 | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を多量含む。B:良好。C:内外灰オリーブ5Y6/2。 | 完形 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 |
| 112 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原C区 | ①10.2 ②3.9 つまみ径1.4 受部径12.6 | | 外面摩滅のため調整不明、回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を少量含む。B:やや不良。C:外灰黄2.5Y7/2、内灰黄2.5Y5/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 焼成時割れあり。 |
| 113 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原C区 | ①11.8 ②3.5 つまみ径2.1 受部径14.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:3mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B:不良。C:内外明黄褐10YR7/6。 | 1/2 | ヘラ記号あり。 |
| 114 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原C区 | ①12.2 ②3.2 つまみ径2.1 受部径14.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:3mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石の少量含む。B:やや不良。C:外灰黄2.5Y6/1、内灰黄2.5Y6/2。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 115 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原C区 | ①12.3 ②3.5 つまみ径2.2 受部径14.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:3mm以下の白色粒子を多量含む。B:良好。C:内外灰5Y5/1。 | ほぼ完形 | ヘラ記号あり。 |
| 116 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原C区 | ①12.4 ②2.8 つまみ径2.5 受部径14.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を含む。B:良好。C:内外灰5Y5/1。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 117 | 須恵器 | 杯H蓋 | 灰原C区 | ①(10.6) ②2.8+α | | 外面回転ヘラケズリ後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A:2mm以下の石英を多量含む、2mm以下の白色粒子を含む、微細な金雲母を含む。B:やや不良。C:外灰10Y6/1、内明オリーブ灰2.5GY7/1。 | 口縁部 1/4 | ヘラ記号あり。 |
| 118 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原C区 | ①(10.0) ②3.4 ③(6.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を含む。B:良好。C:外灰N5/、内灰5Y6/1。 | 1/4 | ヘラ記号あり。 |
| 119 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原C区 | ①(10.0) ②3.2 ③(6.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を含む。B:良好。C:外灰5Y5/1、内灰5Y6/1。 | 1/2 | ヘラ記号あり。 |
| 120 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原C区 | ①(11.2) ②3.9 ③(8.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を含む。B:不良。C:内外浅黄2.5Y7/3。 | 1/2 | ヘラ記号あり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|------|--------------------------------------|--|--|--|------------------------|---------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 121 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原C区 | ①(12.1) ②4.1 ③7.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1.5mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を含む、微細な金雲母を含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/2。 | 口縁部 1/3 底部 完形 | ヘラ記号あり。 |
| 122 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原C区 | ①12.9 ②4.0 ③8.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む、2mm以下の石英を少量含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | ほぼ完形 | ヘラ記号あり。 |
| 123 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原C区 | ①12.9 ②3.9 ③9.7 | | 外面回転ナデ、ヘラケズリ後ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な金雲母を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y5/1、内にぶい黄橙10YR7/4。 | 口縁部 3/4 | ヘラ記号あり。 |
| 124 | 須恵器 | 杯身 | 灰原C区 | ②2.6+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰黄褐10YR6/2。 | 小片 | 鉢か。 |
| 125 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原C区 | ①(11.0) ②4.5 ③(7.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面摩擦のため調整不明(回転ナデか) | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰黄2.5Y6/2。 | 1/4 | ヘラ記号あり。 内面に降灰あり。 |
| 126 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原C区 | ①12.2 ②4.4~4.5 ③8.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後回転ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、石英を多量含む、微細な金雲母を含む。B：良好。C：内外灰7.5Y6/1。 | 口縁部 3/5 底部 完形 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 |
| 127 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原C区 | ①(13.0) ②4.1 ③9.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、摩擦のため調整不明(回転ナデ後ナデか)。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。B：良好。C：内外灰白N2/。 | 口縁部 1/4 底部 完形 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 内外面に降灰あり。 |
| 128 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原C区 | ②2.8+α ③8.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外にぶい橙7.5YR6/4、内灰黄褐10YR6/2。 | 底部 完形 | ヘラ記号あり。 |
| 129 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原C区 | ②3.9+α ③9.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 底部 1/2 | ヘラ記号あり。 |
| 130 | 須恵器 | 高杯 | 灰原C区 | ①(9.8) ②7.8 脚部径(7.1) | | 外面回転ナデ、沈線、カキメ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 131 | 須恵器 | 高杯 | 灰原C区 | ②3.2+α 脚部径6.7 | | 外面摩擦のため調整不明(回転ナデか)。内面摩擦のため調整不明(回転ナデか)、シボリ痕。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 脚部 完形 | ヘラ記号あり。 |
| 132 | 須恵器 | 壺蓋 | 灰原C区 | ①8.5 ②2.3 受部径9.9 | | 外面ヘラ切り後手持ちヘラケズリ、ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰白7.5Y7/1、内灰黄2.5Y7/2。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 内面に焼成時割れあり。 |
| 133 | 須恵器 | 甕 | 灰原C区 | ②4.5+α | | 外面回転ナデ、カキメ、波状文。内面回転ナデ、カキメ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1、内灰白N7/。 | 小片 | |
| 134 | 須恵器 | 甕 | 灰原C区 | ②12.3+α | | 外面回転ナデ、沈線、波状文、カキメ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰5Y6/1、内灰10Y6/1。 | 小片 | |
| 135 | 須恵器 | 不明 | 灰原C区 | 長7.3 幅5.1 厚1.3 | | 外面板状工具のナデ。内面ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰5Y5/1、内灰褐5YR5/2。 | 小片 | ヘラ記号あり。 穿孔1カ所あり。 |
| 136 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原D区 | ①10.6 ②2.6 受部径12.8 | | 外面ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：良好。C：外灰5Y5/1、内灰褐7.5YR4/2。 | 3/4 | ヘラ記号あり。 簾状圧痕あり。 |
| 137 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原D区 | ①11.2 ②2.2 受部径13.4 | | 外面回転ヘラケズリ後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石を少量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰N5/。 | 完形 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 |
| 138 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原D区 | ①(10.6) ②4.0 つまみ径1.6 受部径(12.7) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、摩擦のため調整不明。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：不良。C：外暗灰黄2.5Y5/2、内明黄褐10YR6/6。 | 1/3 | |
| 139 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原D区 | ①11.9 ②3.3 つまみ径2.4 受部径14.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1、内黄灰2.5Y4/1。 | 完形 | |
| 140 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原D区 | ①12.0 ②3.4 つまみ径2.7 受部径14.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：やや不良。C：内外浅黄2.5Y7/3。 | 4/5 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|---------------|----------------------------------|--|--|---|------------------------|---------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 141 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原D区 | ①12.7 ②4.9 つまみ径2.9 受部径15.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y6/2。 | 完形 | 窪みあり。 |
| 142 | 須恵器 | 杯B蓋 | 灰原D区 | ①13.4 ②4.5 つまみ径2.8 受部径16.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石を少量含む。B：やや不良。C：内外にぶい黄2.5Y6/4。 | ほぼ完形 | |
| 143 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原D区 | ①(9.6) ②3.1 ③(7.3) | | 外面回転ナデ、ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y5/1、内褐灰10YR5/1。 | 1/4 | |
| 144 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原D区 | ①(10.0) ②3.8 ③(6.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内浅黄2.5Y7/3。 | 1/4 | |
| 145 | 須恵器 | 杯G身 | 灰原D区 | ①(11.4) ②3.4 | | 外面回転ナデ、ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外5Y7/1。 | 1/4 | ヘラ記号あり。 |
| 146 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原D区 | ①(13.2) ②4.7 ③9.3 | | 外面摩滅のため調整不明、回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面摩滅のため調整不明。 | A：1mm以下の黒色粒子を少量含む。B：不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/4。 | 口縁部 1/3～底部 | 底部に焼成前穿孔1カ所あり |
| 147 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原D区 | ①13.2 ②4.5 ③9.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰7.5Y6/1。 | 完形 | ヘラ記号あり。 |
| 148 | 須恵器 | 杯B身 | 灰原D区 | ①(14.6) ②4.5 ③9.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外にぶい橙7.5YR6/4、内にぶい赤褐5YR5/4。 | 口縁部 1/2 | |
| 149 | 須恵器 | 鉢 | 灰原D区 | ②4.9+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰7.5Y6/1。 | 小片 | |
| 150 | 須恵器 | 甕 | 灰原D区 | ②7.6+α | | 外面回転ナデ、沈線、波状文。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰5Y6/1。 | 小片 | |
| 151 | 須恵器 | 甕 | 灰原D区 | ②6.3+α | | 外面回転ナデ、沈線、文様ヘラ描き斜行文。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 小片 | |
| 152 | 須恵器 | 甕 | 灰原D区 | ②7.2+α | | 外面回転ナデ、沈線、波状文、擬格子タタキ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外褐灰10YR4/1。 | 小片 | |
| 153 | 須恵器 | 杯B蓋 | 1号窯跡灰原A-B間ベルト | ①11.9 ②2.8+α 受部径14.6 | | 外面ヘラ切り後未調整、摩滅のため調整不明。内面摩滅のため調整不明。 | A：1mm以下の白色粒子を多量含む、1mm以下の石英を含む。B：不良(内外二次被熱なし)。C：内外灰白5Y8/2。 | 4/5 | 穿孔1カ所あり。 |
| 154 | 須恵器 | 杯B蓋 | 1号窯跡灰原下層 | ①(11.6) ②2.1+α 受部径(14.0) | | 内外面摩滅のため調整不明。 | A：1mm以下の赤色粒子を少量含む。B：不良。C：外浅黄橙10YR8/4、内橙7.5YR7/6。 | 1/3 | |
| 155 | 須恵器 | 杯B蓋 | 1号窯跡灰原最下層 | ①(12.1) ②2.1+α 受部径(14.4) | | 外面ヘラ切り未調整、摩滅のため調整不明。内面摩滅のため調整不明。 | A：1mm以下の赤色粒子、白色粒子を少量含む。B：不良。C：外黄橙10YR8/6、内橙7.5YR7/6。 | 1/4 | ヘラ記号あり。 |
| 156 | 須恵器 | 杯G身 | 1号窯跡灰原B-C間ベルト | ①(11.2) ②3.3 ③(7.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰10Y6/1。 | 1/3 | ヘラ記号あり。 |
| 157 | 須恵器 | 杯G身 | 1号窯跡灰原下層 | ①(12.6) ②3.4 ③(8.8) | | 外面摩滅のため調整不明、ヘラ切り後未調整。内面摩滅のため調整不明。 | A：3mm以下の石英を少量含む、2mm以下の赤色粒子を少量含む、微細な白色粒子を少量含む。B：不良。C：外明黄褐10YR7/6、内橙5YR7/6。 | 1/2 | ヘラ記号あり。 |
| 158 | 須恵器 | 杯 | 1号窯跡灰原半截時(上層) | ①(14.4) ②4.2 ③(9.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外にぶい黄橙10YR6/3、内にぶい橙7.5YR6/4。 | 1/3 | |
| 159 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原半截時(上層) | ①15.4 ②4.2～4.5 ③11.1 | | 外面回転ナデ、ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を多量含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内灰黄2.5Y7/2。 | 1/2 | |
| 160 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原半截時(上層) | ①(13.6) ②5.3+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白7.5Y7/1。 | 2/5 | 高台剥離あり。 |
| 161 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原A-B間ベルト | ①15.4 ②6.1 ③11.3 | | 外面回転ナデ、ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、ナデ。 | A：1mm以下の黒色粒子を含む、微細な金雲母を多量含む。B：やや不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/4。 | 口縁部 1/3 底部 完形 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|----|-----------------------------|--|--|---|------|-------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | |
| 162 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原半截時(上層) | ②8.0+ α 脚部径(11.9) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、シボリ痕。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。 | 2/3 | |
| 163 | 須恵器 | 鉢 | 1号窯跡灰原C-D間ベルト | ①(16.0) ⑤5.2 | 外面回転ナデ、手持ちヘラケズリ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外黒N2/。 | 1/3 | 歪みあり。 |
| 164 | 須恵器 | 横瓶 | 1号窯跡灰原半截時(上層) | ②16.8+ α | 外面ナデ。内面指オサエ後ナデ。 | A：微細な長石を含む。B：不良。C：内外にふい黄橙10YR7/3。 | 小片 | |
| 165 | 須恵器 | 甕 | 表土 | ②4.2+ α | 外面回転ナデ、沈線。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、微細な長石を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 小片 | |
| 166 | 須恵器 | 甕 | 表土 | 長6.0 幅11.0 厚0.8 | 外面ハケメ。内面同心円文当て具痕。 | A：1mm以下の白色粒子、石英を少量含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外にふい橙7.5YR7/4、内浅黄橙10YR8/4。 | 小片 | 穿孔1カ所あり。 |
| 167 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.21 | ①(12.8) ②2.3+ α 受部径(15.2) | 外面摩滅のため調整不明(回転ヘラケズリか、回転ナデか)。内面摩滅のため調整不明(回転ナデか)。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む、微細な長石、赤色粒子を含む。B：不良。C：内外橙5YR6/8。 | 1/6 | |
| 168 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.2 | ①13.4 ②2.7 受部径15.6 | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B：不良。C：内外橙5YR6/8。 | ほぼ完形 | つまみなし。 |
| 169 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.14 | ①(13.4) ②2.8+ α 受部径(15.8) | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の石英、白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外にふい黄橙10YR7/4、内橙5YR7/8。 | 1/5 | |
| 170 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.8 | ①(12.3) ②2.5 つまみ径2.3 受部径(15.0) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を多量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N5/。 | 1/6 | 歪みあり。 |
| 171 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.1 | ①(12.8) ④4.0 つまみ径2.6 受部径(14.4) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、摩滅のため調整不明(回転ナデか)。内面摩滅のため調整不明(回転ナデか)、回転ナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、2mm以下の白色粒子を多量含む。B：不良。C：内外黄橙7.5YR7/8。 | 2/5 | 歪みあり。 |
| 172 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.55+2号窯跡床面出土No.56 | ①(12.8) ③3.2+ α 受部径(15.0) | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ。 | A：3mm以下の石英、白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰オリーブ5Y6/2、内灰5Y6/1。 | 1/3 | つまみ剥離あり。 |
| 173 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.41 | ①13.1 ②3.3 つまみ径2.3 受部径15.2 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、摩滅のため調整不明。 | A：2mmの白色粒子を含む。B：不良。C：内外にふい黄橙10YR7/3。 | 1/2 | |
| 174 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.60 | ①(12.6) ③3.0+ α 受部径(15.2) | 外面摩滅のため調整不明(回転ヘラケズリか、回転ナデか)。内面摩滅のため調整不明(回転ナデか)、ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、石英を含む。B：不良。C：内外橙2.5YR6/8。 | 1/4 | |
| 175 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.19 | ①13.5 ④4.1 つまみ径2.6 受部径15.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。微細な長石を含む。B：不良。C：外橙5YR6/6、内にふい褐7.5YR5/3。 | 2/3 | |
| 176 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.3 | ①(13.3) ③3.3+ α 受部径(15.6) | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B：不良。C：内外橙5YR7/8。 | 1/2 | |
| 177 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.59 | ①(13.8) ④4.1 つまみ径2.3 受部径(16.0) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外橙2.5YR6/8。 | 1/4 | |
| 178 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.17 | ①13.4 ④4.1 つまみ径2.6 受部径16.0 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英、白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外橙2.5YR6/6、内橙2.5YR6/8。 | 2/3 | |
| 179 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.4 | ①(13.1) ③3.7 つまみ径(2.4) 受部径(15.4) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：5mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な金雲母を多量含む。B：不良。C：内外橙5YR6/6。 | 1/2 | |
| 180 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.10 | ①13.5 ③3.3+ α 受部径15.7 | 外面摩滅のため調整不明(回転ヘラケズリか、回転ナデか)。内面摩滅のため調整不明(回転ナデか、回転ナデ後ナデか)。 | A：3mm以下の石英を多量含む、2mm以下の白色粒子を多量含む。B：不良。C：内外橙5YR7/8。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 つまみ剥離あり。 |
| 181 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No.7 | ①(13.1) ④4.0 つまみ径2.8 受部径(15.7) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ。内面回転ナデ、摩滅のため調整不明。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外黄橙7.5YR7/8、内橙5YR7/8。 | 1/4 | 歪みあり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|--------------|-------------------------------------|--|---|--|-----|--------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 182 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No46 | ①(13.8) ②2.9+ α 受部径(16.4) | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、摩滅のため調整不明。 | A：3mm以下の石英を少量含む。 B：不良。C：内外橙7.5YR6/6。 | 1/4 | |
| 183 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No28 | ②2.0+ α つまみ径2.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：内外橙5YR6/8。 | 1/2 | |
| 184 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No51 | ②2.0+ α つまみ径2.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：不良。C：外浅黄2.5Y7/3、 内にぶい黄橙10YR7/4。 | | 天井部のみ |
| 185 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No57 | ①(13.1) ②2.6+ α 受部径(15.2) | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。 B：やや不良。C：外灰7.5Y6/1、 内灰7.5Y5/1。 | 1/6 | |
| 186 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No12 | ①(13.2) ②1.9+ α 受部径(15.4) | | 内外面摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の白色粒子、石英、 赤色粒子を含む。B：不良。C： 内外浅黄橙7.5YR7/6。 | 1/4 | |
| 187 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No49 | ①(14.0) ②1.7+ α 受部径(16.4) | | 内外面摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。 B：不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/4。 | 1/4 | |
| 188 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No48 | ①(14.2) ②2.0+ α 受部径(16.4) | | 内外面摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/4。 | 1/8 | |
| 189 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No35 | ①(14.1) ②2.6+ α 受部径(16.8) | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、 1mm以下の赤色粒子を少量含む。 B：やや不良。C：外にぶい黄橙5YR6/4、 内浅黄橙10YR8/4。 | 1/2 | |
| 190 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No53 | ①(13.8) ②1.9+ α 受部径(16.8) | | 内外面摩滅のため調整不明(回転ナデか)。 | A：1mm以下の白色粒子、石英を含む。 B：不良。C：外にぶい黄橙10YR7/3、 内にぶい黄橙10YR7/4。 | 1/4 | |
| 191 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No26 | ①(14.2) ②1.8+ α 受部径(17.2) | | 内外面摩滅のため調整不明(回転ナデか)。 | A：2mm以下の石英、白色粒子を少量含む。 B：不良。C：外浅黄橙7.5YR8/6、 内橙7.5YR7/6。 | 1/8 | |
| 192 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No52 | ①(14.4) ②2.5+ α 受部径(17.4) | | 外面摩滅のため調整不明。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、 微細な長石を含む。B：不良。 C：外橙5YR7/8、内にぶい黄橙10YR7/4。 | 1/4 | |
| 193 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No38 | ①(14.8) ②1.9+ α 受部径(17.6) | | 内外面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、 2mm以下の石英を少量含む。B： やや不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/4。 | 1/4 | |
| 194 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡床面出土No16 | ①(15.3) ②2.2+ α 受部径(18.0) | | 外面ヘラケズリ、摩滅のため調整不明。内面摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。 B：不良。C：外黄橙7.5YR8/8、 内橙5YR7/8。 | 1/2 | |
| 195 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡床面出土No22 | ①13.9 ②4.5~4.8 ③9.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、 微細な長石、赤色粒子を含む。 B：不良。C：内外橙2.5YR6/8。 | | ほぼ完形 外面底部に黒斑あり。 |
| 196 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡床面出土No5 | ②2.3+ α ③9.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を多量含む、 2mm以下の石英を多量含む、 微細な長石を多量含む。B： 不良。C：内外橙5YR7/8。 | | 底部完形 外面底部にヘラ記号か |
| 197 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡床面出土No13 | ②1.6+ α ③(9.8) | | 外面摩滅のため調整不明(回転ナデか)、 回転ヘラケズリ。内面摩滅のため調整不明。 | A：1mm以下の白色粒子、石英を含む。 B：不良。C：外にぶい黄橙10YR7/4、 内浅黄色2.5Y7/3。 | 1/3 | |
| 198 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡床面出土No44 | ②1.8+ α ③(10.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面摩滅のため調整不明。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。 | 1/4 | |
| 199 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡床面出土No9 | ①(14.2) ②3.6+ α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面摩滅のため調整不明。 | A：4mm以下の白色粒子を多量含む、 3mm以下の石英を含む、 微細な長石を含む。B：不良。C： 外橙5YR7/8、内橙7.5YR7/6。 | 1/6 | 高台欠損。 |
| 200 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡床面出土No33 | ①(14.8) ②3.7+ α | | 内外面摩滅のため調整不明(回転ナデか)。 | A：2mm以下の石英を含む、 1mm以下の白色粒子を含む。B： 不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/4。 | 1/8 | |
| 201 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡床面出土No39 | ①(14.4) ②3.6+ α | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を少量含む。 B：不良。C：外橙7.5YR7/6、 内明黄橙10YR7/6。 | 1/4 | |
| 202 | 須恵器 | 杯 | 2号窯跡床面出土No29 | ②3.6+ α | | 内外面摩滅のため調整不明(回転ナデか)。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：不良。C：内外にぶい黄橙10YR7/4。 | | 小片 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|--------------|----------------------------------|--|---|--|------------------------|-------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 203 | 須恵器 | 杯 | 2号窯跡床面直上小破片群 | ①(13.0) ②3.6+α | | 外面摩滅のため調整不明(回転ナデか、回転ヘラケズリか)。内面摩滅のため調整不明(回転ナデか)。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を多量含む。B：不良。C：内外橙5YR7/8。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 204 | 須恵器 | 杯 | 2号窯跡床面出土No54 | ①(14.2) ②3.6+α | | 内外面摩滅のため調整不明(回転ナデか)。 | A：1mm以下の白色粒子、石英を含む。B：不良。C：内外灰黄2.5Y7.2。 | 1/4 | |
| 205 | 須恵器 | 杯 | 2号窯跡床面出土No40 | ①(14.8) ②3.4+α | | 内外面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外にふい黄橙10YR7/4。 | 1/8 | |
| 206 | 須恵器 | 甕 | 2号窯跡床面出土No18 | ②10.0+α | | 外面摩滅のため調整不明(タタキか、格子目タタキか)。内面当て具痕。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。B：やや不良。C：外橙7.5YR6/6、内灰5Y6/1。 | 小片 | 外面に格子目タタキあり。 |
| 207 | 須恵器 | 杯B蓋 | 2号窯跡窯体内出土 | ①12.9 ②3.6 つまみ径2.3 受部径15.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の石英、白色粒子を多量含む。B：不良。C：内外橙2.5YR6/8。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 |
| 208 | 須恵器 | 杯B蓋 | 2号窯跡窯体内出土 | ①12.7 ②3.7 つまみ径1.6 受部径15.0 | | 外面摩滅のため調整不明、回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む。B：不良。C：外橙2.5YR6/6、内にふい橙5YR6/4。 | ほぼ完形 | |
| 209 | 須恵器 | 杯B蓋 | 2号窯跡窯体内出土 | ①14.6 ②4.1 つまみ径3.2 受部径17.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む。B：やや不良。C：外灰オリーブ5Y5/1、内褐灰5YR5/1。 | 3/4 | 歪みあり。 |
| 210 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡窯体内出土 | ①14.4 ②4.7~5.0 ③9.6 | | 外面摩滅のため調整不明(回転ナデか)、回転ナデ、ヘラ切り後ナデ。内面摩滅のため調整不明(回転ナデか)。 | A：3mm以下の白色粒子、石英を含む。B：不良。C：内外橙5YR7/6。 | 5/6 | 歪みあり。 |
| 211 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡窯体内出土 | ①(13.8) ②4.5 ③8.4 | | 外面摩滅のため調整不明(回転ナデか)、回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面摩滅のため調整不明(回転ナデか)。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。B：不良。C：外浅黄色2.5Y7/3、内灰黄色2.5Y7/2。 | 底部 完形 口縁部 1/4 | |
| 212 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡窯体内出土 | ①13.8 ②4.1~4.4 ③9.8 | | 外面回転ナデ、ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：微細な白色粒子、長石を少量含む。B：不良。C：外灰白10YR8/2、内にふい黄橙10YR7/4。 | 5/6 | |
| 213 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡窯体内出土 | ①(14.4) ②4.7 ③(10.3) | | 外面摩滅のため調整不明(回転ナデか)、回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面摩滅のため調整不明(回転ナデか)。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外にふい黄橙10YR7/4、内にふい黄橙10YR7/3。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 214 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡窯体内出土 | ①(14.6) ②4.4 ③(10.0) | | 内外面摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の白色粒子、赤色粒子を含む。B：不良。C：内外橙5YR7/8。 | 1/3 | |
| 215 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡煙出奥部埋土中 | ②2.0+α ③(7.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を多量含む。B：良好。C：外灰白N8/、内灰N6/。 | 1/4 | |
| 216 | 須恵器 | 高杯 | 2号窯跡窯体内出土 | ②7.7+α 脚部径13.0 | | 外面棒状工具による回転ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、赤色粒子、長石を含む。B：不良。C：外橙2.5YR7/9、内橙7.5YR7/6。 | 脚部 完形 | |
| 217 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡灰原？窯体内？ | ②1.4+α つまみ径(2.8) | | 外面回転ナデ、摩滅のため調整不明(回転ヘラ切り後ナデか)。内面ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N4/。 | 1/4 | |
| 218 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡灰原？窯体内？ | ①13.0 ②2.9~3.8 ③8.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰白N7/、内灰N6/。 | 4/5 | 歪みあり。 外面に降灰あり。 |

表6 69地点出土遺物観察表

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|----|-------------|--------------------------|--|--------------------------------|--|-----|-------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 219 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡の下の堆積土中 | ①(15.4) ②1.7+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/4 | |
| 220 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡の下の堆積土中 | ①(16.2) ②1.8+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/6 | 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 221 | 須恵器 | 杯d | 1号窯跡窯体内出土 | ②1.7+α ③(7.4) | | 外面ナデ、回転ヘラケズリ。内面ナデ、回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外にふい橙7.5YR6/4、内黄灰2.5Y5/1。 | 1/4 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|-------------|--------------------------|--|---|---|-----|---------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 222 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡の下の堆積土中 | ②3.7+α ③(10.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ。内面摩滅のため調整不明、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。 | 1/4 | |
| 223 | 須恵器 | 杯蓋 | 灰原出土 | ①(15.5) ②2.6 つまみ径3.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。 | | 口縁部 1/3～頂部 |
| 224 | 須恵器 | 杯蓋 | 焼土坑埋土中 | ①(14.8) ②2.6+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内黄灰2.5Y6/1。 | 1/4 | |
| 225 | 須恵器 | 杯B身 | 焼土坑埋土中 | ①(11.0) ②4.3+α | | 外面回転ナデ、ナデ。内面回転ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1、内灰N6/。 | 1/8 | 高台剥離か。 |
| 226 | 須恵器 | 杯蓋 | 表土かき落とし中出土 | ①14.1 ②3.2 つまみ径3.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。1mm以下の長石を少量含む。B：良好。C：外灰白5Y7/2、内灰5Y6/1。 | | ほぼ完形 |
| 227 | 須恵器 | 杯蓋 | 表土かき落とし中出土 | ①(16.2) ②2.2+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の黒色粒子、白色粒子を少量含む。B：不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 1/4 | つまみ剥離あり。 |
| 228 | 須恵器 | 杯B身 | 表土かき落とし中出土 | ②2.5+α ③(9.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面摩滅のため調整不明。 | A：1mm以下の黒色粒子を含む。1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | | 底部 1/4 |

表7 70地点1号窯跡出土遺物観察表

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|----|-------------------|----------------------------|--|--|---------------------------------------|-----|--|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 229 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡貼床内舟底状ビットNo.1 | ①(15.2) ②1.5 つまみ径(2.0) | | 外面回転ナデ、ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/3 | 歪みあり。 |
| 230 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体内埋土4層 | ①(20.2) ②1.9+α | | 外面摩滅のため調整不明、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：不良。C：内外灰白5Y7/1。 | 1/8 | |
| 231 | 須恵器 | 皿 | 1号窯跡煙道部上層黒色土 | ①(18.0) ②1.8 ③(14.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 1/8 | |
| 232 | 須恵器 | 不明 | 1号窯跡体内貼床一括(層位不明) | 長3.5+α 幅1.5+α 厚0.8+α | | 内外面ケズリ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | | 小片 |
| 233 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側焼台集積部 | ①(13.3) ②3.7 つまみ径2.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を多量含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 2/3 | 歪みあり。 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 234 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側焼台集積部 | ①13.7 ②4.0 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | | ほぼ完形 内外面口縁部に降灰あり。 つまみが中心からずれて貼付けられている。 |
| 235 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側焼台集積部 | ①13.6 ②3.0 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：微細な白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/。 | 2/3 | 歪みあり。 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 236 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.2 ②3.4 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | | ほぼ完形 歪みあり。 外面に降灰あり。 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 237 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.1 ②1.6 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | | ほぼ完形 歪みあり。 別個体の残片付着あり。 |
| 238 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.6 ②1.9 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | | ほぼ完形 歪みあり。 |
| 239 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.7 ②1.3 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | | ほぼ完形 歪みあり。 |
| 240 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.3 ②1.7 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ナデ後ナデ、ナデオサエ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | | ほぼ完形 歪みあり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|----------------------|--------------------------|--|--|--|------------------------|--------------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 241 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①14.3 ②2.4 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外褐灰10YR6/1、内灰N6/。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 242 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側焼台集積部 | ①(15.3) ②3.0 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 口縁部 1/2 | 歪みあり。 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 243 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡右方の落ち込み | ①(14.8) ②2.3 つまみ径1.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰10Y6/1。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 244 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側焼台集積部 | ①15.4 ②2.4 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。 | ほぼ完形 | つまみが中心からずれて貼付けられている。 |
| 245 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側焼台集積部 | ①14.8 ②2.0 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | ほぼ完形 | 内外面口縁部に降灰あり。 つまみが中心からずれて貼付けられている。 |
| 246 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側焼台集積部 | ①16.2 ②1.6 つまみ径2.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：微細な白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰白5Y7/1、内灰白5Y7/2。 | 口縁部 7/8 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 247 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側焼台集積部 | ①(15.5) ②1.4 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N6/。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 248 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①17.0 ②4.5 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/。 | 完形 | 歪みあり。 針先状の不規則な条痕あり。 |
| 249 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①16.7 ②3.8 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰5Y6/1。 | 2/3 | 歪みあり。 |
| 250 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡右方の落ち込み | ①(19.8) ②1.5+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。沈線。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰5Y6/1。 | 1/4 | |
| 251 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①(29.4) ②1.7+α | | 外面回転ヘラケズリ、ヘラケズリ後回転ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰黄2.5Y6/1。 | 1/4 | |
| 252 | 須恵器 | 杯A | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.0 ②3.4 ③9.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | ほぼ完形 | 板状圧痕あり。 |
| 253 | 須恵器 | 杯A | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.3 ②3.8 ③10.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 完形 | 簾状圧痕あり。 付着物あり。 |
| 254 | 須恵器 | 杯A | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.3 ②4.1~4.2 ③9.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 口縁部 3/4 底部 完形 | |
| 255 | 須恵器 | 杯A | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.1 ②3.9~4.0 ③8.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | ほぼ完形 | |
| 256 | 須恵器 | 杯A | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.4 ②3.7 ③9.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 7/8 | 板状圧痕あり。 |
| 257 | 須恵器 | 杯A | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.4 ②3.5~3.7 ③9.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | ほぼ完形 | |
| 258 | 須恵器 | 杯A | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.7 ②3.4~3.5 ③9.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：6mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 板状圧痕あり。 |
| 259 | 須恵器 | 杯A | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層遺物集積 | ①13.2 ②3.3 ③9.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰7.5Y6/1。 | ほぼ完形 | |
| 260 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①12.6 ②4.1~4.2 ③6.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰10Y6/1。 | 口縁部 2/3 | |
| 261 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡右方斜面 | ①(13.6) ②3.7 ③(8.4) | | 外面回転ナデ、ヘラケズリ後回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 2/5 | 高台に圧痕あり。 |
| 262 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.6 ②3.9~4.0 ③8.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰白5Y7/1、内灰黄2.5Y6/2。 | ほぼ完形 | 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 263 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.2 ②3.7~3.9 ③7.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 264 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.3 ②4.1~4.5 ③8.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|------|--|------------------------------------|--|---|---|---------------------------------------|--------------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 265 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.4 ②4.2~4.5 ③8.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 5/6 | 簾状圧痕あり。 |
| 266 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.9 ②4.4~4.5 ③8.2 | | 外面回転ナデ、回転ナデ後ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰5Y6/1。 | 完形 | 板状圧痕あり。 |
| 267 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①13.8 ②3.9 ③8.3 | | 外面回転ナデ、工具による回転ナデ沈線状の線が廻る、ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後工具によるナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N6/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 高台内に付着物あり。 |
| 268 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡右方の落ち込み | ①(14.6) ②3.7 ③(8.2) | | 外面回転ナデ、ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰7.5Y5/1。 | 1/4 | |
| 269 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区前庭右側焼台集積部 | ①(14.2) ②4.8 ③8.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。微細な金雲母を含む。B：不良。C：外灰白5Y7/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 1/2 | 焼成時割れあり。 |
| 270 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①(15.4) ②5.6 ③(9.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰5Y5/1、内灰5Y6/1。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 271 | 須恵器 | 皿 | 1号窯跡右方の落ち込み | ①(14.6) ②1.6 ③(11.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/4 | |
| 272 | 須恵器 | 皿 | 1号窯跡灰原1区前庭右側焼台集積部 | ①18.6 ②2.3 ③14.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ(工具痕)。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/1。 | 4/5 | |
| 273 | 須恵器 | 皿 | 1号窯跡前庭埋土 | ①(19.2) ②1.6 ③(16.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。 | 1/4 | |
| 274 | 須恵器 | 高杯 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土遺物集積 | ①(24.8) ②2.1+α | | 外面回転ナデ、ヘラケズリ後回転ナデ、回転ケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 口縁部 1/12 | 歪みあり。 |
| 275 | 須恵器 | 長頸壺 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層、1号窯跡縦ベルト12層横ベルト34層黒色土 | ②12.0+α ③(11.3) 最大胴部径(20.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を多量含む。B：良好。C：外暗赤灰10R4/1、内灰N6/。 | 胴部～底部 1/4 | 外面に降灰あり。 外面に別個体の残片付着あり。 |
| 276 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原1区前庭右側黄色土層 | ①(15.4) ②18.3 ③11.9 最大胴部径(26.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後タテ方向ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 口縁部 1/4 胴部 1/2 底部 ほぼ完形 | |
| 277 | 須恵器 | 穿孔土器 | 1号窯跡灰原1区埋土焼台より上+3号窯跡内5層にぶい橙色 | 長4.7 幅8.0 厚0.9 穿孔径1.6 | | 内外面摩滅のため調整不明。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。 | | 穿孔1カ所あり。 |
| 278 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原4区上層(黒色土)1号窯灰原 | ①14.3 ②3.7 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外褐灰7.5YR5/1。 | 完形 | つまみが中心からずれて貼付けられている。 |
| 279 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区(5号窯煙道検出時周辺埋土) | ①14.3 ②3.8 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、指オサエ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外青灰5PB5/1、内灰N6/。 | 3/4 | 歪みあり。 内外面口縁部に降灰あり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 280 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区(5号窯煙道検出時周辺埋土) | ①14.6 ②3.3 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、指オサエ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 完形 | 歪みあり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 281 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区(5号窯煙道検出時周辺埋土) | ①14.7 ②2.7 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 282 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区(5号窯煙道検出時周辺埋土) | ①15.1 ②2.6 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 3/4 | 内外面口縁部に降灰あり。 |
| 283 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原表土剥 | ①16.2 ②2.7 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内褐灰7.5YR6/1。 | 3/4 | 焼成時割れあり。 |
| 284 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡下灰原表土剥 | ②2.4+α つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：やや不良。C：内外にぶい黄橙10YR6/3。 | 天井部 完形 | |
| 285 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区(5号窯煙道検出時周辺埋土) | ①18.2 ②2.6 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を多量含む。B：やや不良。C：内外灰5Y6/1。 | 3/4 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----------|------------------------|--|--|--|---|------------------------|-----------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 286 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原表土剥 | ①18.5 ②3.0 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、微細な長石を含む。 B：不良。C：内外にふい黄橙10YR7/3。 | 1/4 | |
| 287 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原表土剥 | ①(22.4) 3.4 つまみ径2.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。 C：外褐灰7.5YR5/1、内褐灰10YR6/1。 | 1/4 | |
| 288 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区前庭右側焼台集積部 | ①15.7 ②1.6 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰白N7/。 | 口縁部 7/8 | 歪みあり。 |
| 289 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区 | ①17.7 ②1.7 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な黒色粒子、長石を含む。 B：やや不良。C：外灰N6/、内灰5Y6/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 290 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区灰層中 | ①(23.1) ②1.8 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰7.5Y5/1、内灰7.5Y6/1。 | 1/8 | |
| 291 | 須恵器 | 杯蓋× 杯蓋 | 1号窯跡灰原検出時 | 上：①15.0 ②1.4 つまみ径1.7 下：①14.9 ②1.4 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰N6/。内不明 | ほぼ完形 | 外面に重ね焼き痕あり。 2枚の蓋が重なる。 |
| 292 | 須恵器 | 杯蓋× 杯蓋 | 1号窯跡縦ベルト12層横ベルト34層黒色土 | 上②0.7+α 下②0.8+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外灰N4/。 | 1/3 | 同器種同士の重ね焼き。 (内面同士が合わさる。) |
| 293 | 須恵器 | 杯A | 1号窯跡灰原表土剥 | ①(12.0) ②3.2 ③(8.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/4 | |
| 294 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原3区右側(土器廃棄層上) | ①12.0 ②3.4 ③6.9 | | 外面回転ナデ、ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N4/。 | ほぼ完形 | |
| 295 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原3区下層検出土坑と混 | ①13.1 ②3.4~3.5 ③8.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：外灰N5/、内褐灰10YR6/1。 | 7/8 | 歪みあり。 |
| 296 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区(5号窯煙道検出時周辺埋土) | ①13.5 ②3.9~4.0 ③8.1 | | 内外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 297 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区(5号窯煙道検出時周辺埋土) | ①13.9 ②4.7~5.0 ③8.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石を含む。B：やや不良。C：外灰5Y6/1、内灰白5Y7/2。 | 口縁部 3/4 底部 完形 | 歪みあり。 圧痕あり。 |
| 298 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原3区右側(土器廃棄層上) | ①(13.6) ②5.0 ③(8.8) | | 外面回転ナデ、ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰7.5Y6/1。 | 1/3 | |
| 299 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区(5号窯煙道検出時周辺埋土) | ①13.9 ②4.5~4.6 ③8.5 | | 外面回転ナデ、ヘラケズリ後回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | ほぼ完形 | |
| 300 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区(5号窯煙道検出時周辺埋土) | ①14.3 ②3.9~4.6 ③8.0 | | 外面回転ナデ、ヘラ切り後ナデ。工具痕。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰白7.5Y7/1。 | ほぼ完形 | 焼成時割れあり。 |
| 301 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原3区下層検出土坑と混 | ①(16.9) ②5.6 ③10.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子、石英を含む。B：良好。C：外褐灰2.5Y4/1、内灰5Y5/1。 | 1/3 (底部は完存) | 歪みあり。 一部圧痕あり。 |
| 302 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原1区 | ①(18.4) ②5.2 ③(12.4) | | 外面回転ナデ、高台貼付け後回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：不良。C：外灰赤2.5YR5/2、内灰褐5YR6/2。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 303 | 須恵器 | 皿 | 1号窯跡灰原1区(5号窯煙道検出時周辺埋土) | ①17.2 ②2.7 ③14.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰5Y6/1、内灰白5Y7/2。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 304 | 須恵器 | 皿 | 1号窯跡灰原1区 | ①(18.3) ②2.4 ③(13.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を多量含む。B：良好。C：外灰5Y5/1、内灰N6/。 | 1/4 | 歪みあり。 板状圧痕あり。 |
| 305 | 須恵器 | 台付皿 | 1号窯跡灰原検出時 | ①(21.6) ②3.1 ③(16.0) | | 外面回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰5Y6/1。 | 1/6 | |
| 306 | 須恵器 | 台付皿 | 1号窯跡灰原検出時 | ①(23.6) ②3.0 ③(17.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ、内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰5Y5/1。 | 1/6 | 内面に重ね焼き痕あり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|----------------------------|--|--|--|---|-------------|---|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 307 | 須恵器 | 壺蓋 | 1号窯跡下灰原表土剥 | ①(14.8) ②2.3+α | | 内外面回転ナデ。 | A：微細な白色粒子を含む。B：不良。C：外灰白10YR8/1、内に ぶい黄橙10YR7/2。 | 口縁部 1/12 | |
| 308 | 須恵器 | 壺蓋 | 1号窯跡灰原表土剥 | ①(15.0) ②2.7+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナ デ。内面回転ナデ。 | A：微細な白色粒子を含む。B： やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、 内褐灰7.5YR5/1。 | 口縁部 1/6 | 歪みあり。 |
| 309 | 須恵器 | 壺蓋 | 1号窯跡灰原表土剥 | ①(17.2) ②2.5+α | | 外面回転ヘラケズリ後回転ナ デ、回転ナデ。内面回転ナ デ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外灰5Y6/1、内灰 N4/。 | 口縁部 1/8 | |
| 310 | 須恵器 | 長頸壺 | 1号窯跡灰原1区(5号窯煙道検 出時周辺埋土) | ②9.4+α ③9.3 最大胴部径21.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ後ナデ、ヘラ切り後回転ナ デ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含 む。B：やや不良。C：外灰 N6/、内にぶい黄橙10YR7/3。 | 下半部のみ | 降灰あり。 糠状圧痕あり。 |
| 311 | 須恵器 | 短頸壺 | 1号窯跡灰原3区右側(土器廃棄 層上) | ①(13.2) ②8.3+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ後回転ナデ。内面回転ナ デ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：外黄灰 2.5Y5/1、内灰N5/。 | 1/6 | |
| 312 | 須恵器 | 平瓶 | 1号窯跡灰原1区 | ①9.0 ②7.4+α | | 外面回転ナデ。内面指ナデ、 回転ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：外灰N6/、内 灰2.5Y6/1。 | 口縁部 2/3 | 歪みあり。 指頭圧痕あり。 |
| 313 | 須恵器 | 瓶子 | 1号窯跡下灰原表土剥 | ①7.0 ②17.8~17.9 ③ 10.2 最大胴部径15.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ、ナデ。内面回転ナデ、ナ デ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含 む、1mm以下の長石を多量含 む。B：良好。C：外灰N4/~灰 白5Y7/1、内灰N6/。 | 4/5 | 内外面に降灰あり。 外面底部に重ね焼き痕あ り。 外面肩部に付着物あり。 |
| 314 | 須恵器 | 双耳瓶 | 1号窯跡下灰原最下層 | ②8.9+α | | 外面ナデ、工具による切り取 り。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B：良好。C：内外灰 N4/。 | 1/8 | |
| 315 | 須恵器 | 瓶 | 1号窯跡下灰原表土剥 | ②2.2+α ③(13.6) | | 外面回転ヘラケズリ。内面回 転ナデ、ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：不良。C：外灰黄褐 10YR6/2、内褐灰10YR5/1。 | 底部 1/8 | |
| 316 | 須恵器 | 瓶 | 1号窯跡灰原2区(前庭部埋土) | ②6.6+α ③(14.8) | | 外面回転ナデ、ヘラケズリ後 ナデ、回転ヘラ切り後板状工 具によるナデ。内面回転ナ デ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：外灰白 5Y7/1、内黄灰2.5Y6/1。 | 底部 1/4 | 内面に降灰あり。 |
| 317 | 須恵器 | 鉢 | 1号窯跡灰原1区 | ①(25.3) ②11.1+α | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、 微細な雲母を含む。B：やや不 良。C：外灰5Y6/1、内褐灰 10YR6/1。 | 口縁部 1/6 | |

表8 70地点2号窯跡出土遺物観察表

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|--------------|--------------------------|--|---|---|------------|---|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 318 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡窯体内埋土 | ①(14.6) ②3.4 つまみ径2.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ、回転ナデ 後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B：良好。C：内外灰 7.5Y5/1。 | 3/5 | 歪みあり。 |
| 319 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡窯体内埋土 | ①(19.2) ②5.8 ③(13.4) | | 外面回転ナデ、ケズリ後回転 ナデ、回転ヘラ切り後回転ナ デ。内面回転ナデ、回転ナデ 後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B：良好。C：内外灰 N6/。 | 1/6 | |
| 320 | 須恵器 | 皿 | 2号窯跡窯体内焚口部周辺 | ①(17.2) ②3.2+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後板状工具によるナデ。内面 回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/3 | |
| 321 | 須恵器 | 長頸壺 | 2号窯跡窯体内埋土 | ①13.0 ②14.4+α | | 外面回転ナデ、沈線、回転ナ デ・シボリ痕。内面回転ナデ、 回転ナデ・シボリ痕。ナデ | A：2mm以下の白色粒子を多量含 む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 口縁部完存 | 外面1/2に降灰あり。 |
| 322 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡前庭部左側 | ①15.2 ②1.6 | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナ デ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2、 内明褐灰7.5YR7/2。 | 2/3 | 歪みあり。 内外面口縁部に降灰あ り。 外面に付着物あり。 内面に重ね焼き痕あり。 内外面に自然釉あり。 |
| 323 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡前庭部左側 | ①15.6 ②2.8 つまみ径1.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ、回転ナデ後ナデ。内面回 転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B：やや不良。C：内 外灰白N7/。 | 口縁部 5/6 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 324 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡前庭部左側 | ①(16.4) ②2.3 つまみ径2.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ、回転ナデ 後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外灰N4/、内灰 N5/。 | 口縁部 1/8 | |
| 325 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡前庭部左側 | ①19.5 ②2.6 つまみ径2.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ、回転ナデ後ナデ。内面回 転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含 む。B：良好。C：内外灰白 N7/。 | 口縁部 2/3 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|------------------------------------|-----------------------------------|--|---|-------------------------|---|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | |
| 326 | 須恵器 | 杯A | 2号窯跡前庭部左側 | ①12.4 ②2.9~3.3 ③9.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、微細な長石を含む。 B：やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 3/4 | 外面底部に簾状圧痕あり。 |
| 327 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡前庭部左側 | ①(14.0) ②3.9 ③9.4 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外灰N6/、内青灰5PB6/1。 | 口縁部 1/4 底部 完形 | 歪みあり。 外面底部に簾状圧痕あり。 |
| 328 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡前庭部左側 | ①(14.0) ②4.1 ③9.4 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1、内灰白10YR7/1。 | 口縁部 1/3 底部 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 329 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡前庭部左側 | ①15.1 ②3.9 ③11.6 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：やや不良。C：外灰白5Y7/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 口縁部 1/2 底部 完形 | 歪みあり。 |
| 330 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡前庭部左側 | ①(18.6) ②5.7 ③11.2 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：内外明褐灰7.5YR7/1。 | 口縁部 1/4 底部 完形 | 外面に別個体の残片付着あり。 外面に一部降灰あり。 高台は中心位置とずれている。 |
| 331 | 須恵器 | 高杯 | 2号窯跡前庭部左側 | ①(21.6) ②7.8 脚部径10.5 | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ後回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1、内明褐灰5YR7/2。 | 杯部 1/5 脚部 ほぼ完形 | 外面に降灰あり。 脚部に別個体の残片付着あり。 |
| 332 | 須恵器 | 壺蓋 | 2号窯跡前庭部左側 | ①(15.6) ②2.8+α | 外面回転ヘラズリ、回転ナデ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外灰N7/、内明褐灰7.5YR7/1。 | 口縁部 1/6 | 歪みあり。 |
| 333 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原1区 | ①(14.4) ②2.8+α | 外面回転ヘラズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰白2.5Y7/1。 | 口縁部 1/4 | |
| 334 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原1区 | ①12.8 ②2.4 つまみ径2.2 | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内黄灰2.5Y6/1。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 335 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原1区 | ①15.2 ②1.4 つまみ径2.1 | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1、内褐灰5YR6/1。 | 2/3 | 歪みあり。 |
| 336 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原1区 | ①17.0 ②1.8 つまみ径2.0 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外灰N6/、内灰10Y5/1。 | ほぼ完形 | 外面に別個体の残片付着あり。 |
| 337 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原1区 | ①(14.8) ②4.2 ③(9.4) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：外灰白5Y7/1、内明褐灰7.5YR7/1。 | 1/2 | 歪みあり。 外面に降灰あり。 外面に自然釉あり。 |
| 338 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原1区 | ①14.6 ②4.2 ③10.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：不良。C：外灰白2.5Y8/2、内浅黄2.5Y7/3。 | 1/2 | |
| 339 | 須恵器 | 皿 | 2号窯跡灰原1区 | ①(14.6) ②1.9 ③(12.0) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/3 | |
| 340 | 須恵器 | 台付皿 | 2号窯跡灰原1区 | ②2.2+α ③(20.2) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。 | 底部 1/6 | |
| 341 | 須恵器 | 高杯 | 2号窯跡灰原1区+2号窯跡前庭部左側 | ①(24.4) ②7.7 脚部径10.1 | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ、シボリ痕。内面回転ナデ、シボリ痕、ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を多量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y4/1、内黄灰2.5Y5/1。 | 口縁部 1/4 脚部 3/4 | |
| 342 | 須恵器 | 短頸壺 | 2号窯跡灰原1区+2号窯跡灰原3区+2号窯跡灰原3・4区間縦ベルト中 | ①12.2 ②14.3~15.2 ③11.4 胴部径20.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：内外灰5Y5/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 外面に重ね焼き痕あり。 外面に降灰あり。 圧痕あり。 |
| 343 | 須恵器 | 双耳瓶 | 2号窯跡灰原1区+2号窯跡灰原3区 | ①8.4 ②10.0+α | 外面回転ナデ、シボリ痕、ヘラによる面取り。内面回転ナデ、ナデ、指オサエ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内暗灰N3/~灰5Y6/1。 | 口縁部 完形 肩部 1/4 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 344 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原2区 | ①(14.8) ②2.8 つまみ径1.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外灰N6/、内灰7.5Y6/1。 | 1/4 | 外面に降灰あり。 |
| 345 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原2区 | ①(15.6) ②2.4 つまみ径2.1 | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。 | 1/4 | |
| 346 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原2区 | ①(15.6) ②3.1 つまみ径2.6 | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ、回転ナデ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 1/3 | 焼成時割れあり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|------|----------|----------------------------------|--|--|--|------------|-------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 347 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原2区 | ①20.2 ②1.6 つまみ径2.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N6/。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 348 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原2区 | ①(20.2) ②1.2+α つまみ径2.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：外褐灰10YR5/1、内褐灰10YR6/1。 | 1/3 | 歪みあり。 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 349 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原2区 | ①20.0 ②4.8~4.9 ③11.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を少量含む。B：やや不良。C：外褐灰10YR6/1、内にぶい黄橙10YR7/3。 | 口縁部 5/6 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 350 | 須恵器 | 穿孔土器 | 2号窯跡灰原2区 | 長6.1 幅4.0 厚1.0 穿孔径(1.3) | | 内外面ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外暗灰黄2.5Y5/2。 | | 整形不明 穿孔1カ所あり。 |
| 351 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①14.1 ②2.7+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 352 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①(14.2) ②3.2 つまみ径2.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ナデ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 1/3 | 歪みあり。 |
| 353 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①14.0 ②3.8 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 内外面に別個体の残片付着あり。 |
| 354 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①(14.6) ②2.8 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰白5Y7/1、内浅黄2.5Y7/3。 | 1/4 | 焼成前穿孔1カ所 |
| 355 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①15.0 ②1.9 つまみ径2.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外褐灰10YR5/1、内灰黄褐10YR5/2。 | 口縁部 2/3 | 歪みあり。 |
| 356 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①(14.8) ②1.6 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子、長石を含む。B：やや不良。C：外褐灰7.5YR6/1、内明褐灰7.5YR7/1。 | 1/3 | 歪みあり。 外面に降灰あり。 |
| 357 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①15.5 ②1.7 つまみ径2.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を多量含む。B：やや不良。C：内外褐灰5YR6/1。 | 2/3 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 外面に降灰あり。 |
| 358 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①15.9 ②2.3 つまみ径2.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子、長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1、内黄灰2.5Y6/1。 | ほぼ完形 | 外面に付着物あり。 |
| 359 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①16.0 ②2.2+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、強い回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。 | 2/3 | 歪みあり。 つまみ剥離あり。 |
| 360 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①16.0 ②1.9 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外浅黄2.5Y7/3、内にぶい黄橙10YR7/3。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 361 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①(17.4) ②3.5 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/3 | 歪みあり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 362 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①(14.8) ②1.9 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/4 | 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 363 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①15.2 ②2.0 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内黄灰2.5Y6/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 |
| 364 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①(15.4) ②1.7 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | 歪みあり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 365 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①16.0 ②2.3 つまみ径2.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 366 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①15.8 ②2.2~2.6 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 3/4 | 歪みあり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 367 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①16.6 ②1.8 つまみ径2.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰褐7.5YR6/2。 | 2/3 | 歪みあり。 外面に輪状のアタリ痕あり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|------------------------|-------------------------------|---|---|------------------------------|--|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | |
| 368 | 須恵器 | 杯A | 2号窯跡灰原3区 | 上：①13.6 下：①13.8 ②2.9 ③10.1 | 上：外面回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 下：外面回転ナデ、板状工具による回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるケズリ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 上：口縁部 3/4 下：口縁部 3/4 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 杯2枚重なる。 |
| 369 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原3区下側汚れた黄色土下層灰原 | ②2.6+α ③(7.2) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 底部 1/2 | |
| 370 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原3区 | ①(13.4) ②3.7 ③(9.2) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。 | 口縁部 1/4 底部 ほぼ完形 | 外面に工具痕あり。 |
| 371 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原3区 | ①14.3 ②4.1~4.2 ③10.1 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、2mm以下の白色粒子を多量含む。B：やや不良。C：外灰白N7/、内灰N6/1。 | 完形 | 歪みあり。 底部に焼成時割れあり。 外面に降灰あり。 外面に板状圧痕・工具痕あり。 |
| 372 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原3区 | ①14.5 ②3.5~3.6 ③9.6 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 口縁部 1/2 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 373 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原3区 | ①14.4 ②3.3~4.0 ③9.0 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の石英を少量含む。B：やや不良。C：内外灰N5/。 | 3/5 | 歪みあり。 |
| 374 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原3区 | ①15.4 ②3.8~4.1 ③12.3 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、2mm以下の白色粒子を多量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/1、内浅黄2.5Y7/3。 | ほぼ完形 | |
| 375 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原3区谷部下側褐色砂質2層(上層) | ①18.6 ②4.7~5.9 ③12.3 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、赤色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：内外褐灰5YR6/1。 | 3/4 | 歪みあり。 外面に降灰あり。 |
| 376 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原3区下側 | ①(19.4) ②5.9 ③(12.4) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内褐灰10YR6/1。 | 1/4 | |
| 377 | 須恵器 | 台付皿 | 2号窯跡灰原3区 | ②2.4+α ③(19.0) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外灰5Y6/1、内灰白5Y7/1。 | 底部 1/4 | |
| 378 | 須恵器 | 高杯 | 2号窯跡灰原3区 | ①(21.3) ②2.0+α | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む。B：やや不良。C：外灰N5/、内灰N4/。 | 口縁部 1/6 | 歪みあり。 |
| 379 | 須恵器 | 高杯 | 2号窯跡灰原3区 2号窯跡灰原4区 | ①(22.8) ②2.3+α | 外面回転ナデ、降灰により調整不明。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の石英、黒色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内黄灰2.5Y6/1。 | 口縁部 1/3 | 歪みあり。 内外面に降灰あり。 |
| 380 | 須恵器 | 高杯 | 2号窯跡灰原3区 | ②6.0+α 脚部径10.2 | 外面回転ナデ。内面回転ナデ、シボリ痕、ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 脚部 完形 | |
| 381 | 須恵器 | 高杯 | 2号窯跡灰原3区 | ②6.1+α 脚部径11.2 | 外面回転ナデ、シボリ痕。内面回転ナデ、シボリ痕、ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を多量含む、1mm以下の石英を含む。B：良好。C：内外灰白N7/。 | 脚部 3/5 | 歪みあり。 外面に降灰あり。 |
| 382 | 須恵器 | 高杯 | 2号窯跡灰原3区 | ②5.9+α 脚部径10.6 | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な雲母を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰黄褐10YR6/2。 | 脚部 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 383 | 須恵器 | 壺蓋 | 2号窯跡灰原3区 | ①(14.0) ②3.0 つまみ径2.7 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰黄2.5Y7/2、内褐灰10YR6/1。 | 1/2 | 外面に降灰あり。 |
| 384 | 須恵器 | 短頸壺 | 2号窯跡灰原3区 | ①(12.8) ②7.9+α 最大胴部径(17.8) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰白2.5Y7/1。 | 頸部 1/3 | 外面に降灰あり。 |
| 385 | 須恵器 | 甕 | 2号窯跡灰原3区 | ②8.4+α | 外面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外浅黄2.5Y7/3、内黄灰2.5Y6/1。 | 小片 | 外面に降灰あり。 |
| 386 | 須恵器 | 不明 | 2号窯跡灰原3区 | ②3.8+α | 外面回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰黄2.5Y7/2。 | 小片 | 内面に降灰あり。 |
| 387 | 須恵器 | 不明 | 2号窯跡灰原3区下側谷部褐色砂質土(上層) | ②1.4+α ③(14.0) | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N4/。 | 底部 1/8 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|------|-------------------------------|----------------------------------|--|--|--|------------|---------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 388 | 須恵器 | 穿孔土器 | 2号窯跡灰原3区下側 | 長9.2 幅4.9 厚0.7 穿孔径(1.9) | | 外面回転ケズリ、ナデ。外面 回転ナデ後ナデ | A：微細な白色粒子、長石を少量 含む。B：良好。C：外黄灰 2.5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2。 | | 穿孔1カ所あり。 杯蓋か。 |
| 389 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原4区谷部黒色土 | ①(13.6)②2.6 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ後回転ナデ。内面回転ナ デ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：外褐灰 10YR6/1、内褐灰7.5YR6/1。 | 1/3 | |
| 390 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原4区 | ①15.0②1.8 つまみ径2.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ、回転ナデ 後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を多量含 む、1mm以下の石英を含む、微 細な長石を含む。B：不良。C： 外にぶい橙2.5YR6/4、内橙 2.5YR6/6。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 |
| 391 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原4区 | ①(19.6)②2.4 つまみ径3.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ、回転ナデ 後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、 微細な黒色粒子を含む、微細な 金雲母を少量含む。B：不良。 C：内外淡黄2.5Y8/3。 | 1/4 | |
| 392 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原4区左側谷部褐色 土灰層の上層 | ①(19.6)②1.8 つまみ径2.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ後回転ナデ。内面回転ナ デ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外明褐灰 7.5YR7/1。 | 1/3 | 歪みあり。 |
| 393 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原4区 | ①(21.2)②3.9 つまみ径(3.1) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ、回転ナデ後ナデ。内面回 転ナデ、摩滅のため調整不 明。 | A：2mm以下の石英を少量含む、 微細な長石、白色粒子を含む。 B：不良。C：外にぶい橙 7.5YR7/4、内明黄褐10YR7/6。 | 1/3 | |
| 394 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原4区 | ①(20.8)②3.5 つまみ径2.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ、回転ナデ 後ナデ。 | A：微細な白色粒子、長石を含 む。B：不良。C：内外橙 7.5YR7/6。 | 口縁部 1/3 | |
| 395 | 須恵器 | 杯蓋 | 2号窯跡灰原4区 | ①20.6②3.8 つまみ径3.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ、摩滅のた め調整不明。 | A：2mm以下の石英を少量含む、 微細な長石を含む。B：不良。 C：内外にぶい黄橙10YR7/4。 | ほぼ完形 | |
| 396 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原4区 | ①11.8②3.6③7.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後板状工具によるナデ。内面 回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を多量含 む、1mm以下の石英を含む、微 細な長石を含む。B：やや不良。 C：外灰5Y6/1、内灰5Y5/1。 | 完形 | 内面に火だすきあり。 |
| 397 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原4区 | ①13.7②4.5~4.7③9.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、 1mm以下の白色粒子を含む、微 細な金雲母を含む。B：不良。 C：外黄灰2.5Y6/1、内灰白 2.5Y7/1。 | 3/4 | 歪みあり。 |
| 398 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原4区 | ①15.8②4.2③12.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後板状工具によるナデ。内面 回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の石英を含む、 2mm以下の白色粒子を多量含 む、微細な金雲母を少量含む。 B：不良。C：外灰白2.5Y8/1、 内浅黄2.5Y7/3。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 |
| 399 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原4区 | ①17.5②5.4~5.9③ 11.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の石英を含む、 3mm以下の白色粒子を多量含 む、微細な長石を少量含む。B： 不良。C：外灰黄褐10YR6/2、内 灰黄2.5Y6/2。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 高台に付着物あり。 外面に工具痕あり。 |
| 400 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原4区谷部黒色土 | ①(17.4)②5.7③(11.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ、回転ナデ 後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、 微細な長石、黒色粒子を含む。 B：良好。C：外明褐灰 7.5YR7/1、内褐灰7.5YR6/1。 | 2/3 | 歪みあり。 |
| 401 | 須恵器 | 杯B身 | 2号窯跡灰原4区 | ①18.6②5.1~5.5③ 13.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ、回転ナデ 後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、赤色粒 子を含む、1mm以下の長石、金 雲母を含む。B：不良。C：外に ぶい黄橙10YR7/4~黒褐 10YR3/1、内にぶい黄橙 10YR7/4。 | 3/4 | 歪みあり。 ヘラ記号あり。 外面底部に黒斑あり。 |
| 402 | 須恵器 | 高杯 | 2号窯跡灰原4区左側谷部褐色 土灰層の上層 | ②11.7+α 脚部径13.5 | | 外面回転ナデ。内面回転ナ デ、シボリ痕、回転ヘラ切り 後未調整、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B：良好。C：内外灰 5Y6/1。 | 脚部 完形 | |
| 403 | 須恵器 | 長頸壺 | 2号窯跡灰原4区+3・4号窯跡灰 原3区汚れた黄色土 | ②8.3+α 最大胴部径(19.8) | | 外面回転ナデ後ナデ、回転ヘ ラケズリ後ナデ、回転ヘラケ ズリ。内面回転ナデ、回転ナ デ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：外灰黄 2.5Y7/2、内灰黄2.5Y6/1。 | 胴部 1/2 | 歪みあり。 |
| 404 | 須恵器 | 鉢 | 2号窯跡灰原3区+2号窯跡灰原 4区 | ①(22.1)②11.7+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ、回転ナデ 後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外灰N4/~灰N6/ 内灰N6/。 | 1/4 | |
| 405 | | 焼台 | 2号窯跡灰原4区 | 長13.2 幅8.9 厚6.6 | | 外面指オサエ、指ナデ、未調 整。 | A：5mm以下の白色粒子を多量含 む。C：外灰黄2.5Y6/2。 | 完形 | |
| 406 | | 焼台 | 2号窯跡灰原4区 | 長15.7 幅13.5 厚8.3 | | 外面ナデ、指オサエ、指ナ デ、未調整。 | A：5mm以下の白色粒子を多量含 む。C：外暗灰黄2.5Y5/2。 | 完形 | |

表9 70地点3号窯跡出土遺物観察表

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|----|-------------------|--------------------------|--|--|----------------|----------------------------------|----|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 407 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内No.26 | ①13.1 ②2.4 つまみ径1.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/。 | 完形 | 歪みあり。 | |
| 408 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内No.9 | ①12.6 ②2.8 つまみ径1.6 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | | |
| 409 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①13.3 ②2.5 つまみ径1.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | 内面に重ね焼き痕あり。 | |
| 410 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内No.11 | ①(13.6) ②1.7+α | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を多量含む。B：不良。C：外灰7.5Y5/1、内灰白7.5Y7/1。 | 2/5 | 歪みあり。 | |
| 411 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①14.0 ②2.7 つまみ径1.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ、板状工具によるナデ。 | A：1mm以下の石英を含む。B：やや不良。C：外灰N5/、内黒N2/。 | 2/3 | 歪みあり。 内面に降灰あり。 | |
| 412 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①(12.6) ②3.5+α | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を多量含む。B：良好。C：内外灰N6/1。 | 1/2 | 歪みあり。 | |
| 413 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内44層 | ①14.4 ②2.4+α | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を多量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | 内外面に重ね焼き痕あり。 | |
| 414 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内No.6 | ①14.5 ②2.8 つまみ径2.1 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/。 | 完形 | 歪みあり。 内面に重ね焼き痕あり。 | |
| 415 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡床面No.2 | ①(14.9) ②1.6+α | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。 | 1/8 | 歪みあり。 つまみ貼付け痕あり。 | |
| 416 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡内3層黒色土 | ①(16.0) ②2.3+α | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y5/1。 | 1/5 | 歪みあり。 内面に重ね焼き痕あり。 指オサエ痕あり。 | |
| 417 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内No.17 | ①17.1 ②4.1 つまみ径1.8 | 外面指オサエ、回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰黄褐10YR4/2、暗灰黄2.5Y5/2。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 | |
| 418 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①(17.2) ②3.7 つまみ径1.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰5Y6/1。 | 1/4 | 歪みあり。 | |
| 419 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内No.32 | ①(18.6) ②2.3+α | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰7.5Y6/1。 | 1/4 | 歪みあり。 つまみ痕あり。 | |
| 420 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯内黄色土(3号窯埋土) | ①19.3 ②3.6 つまみ径2.1 | 外面ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ、指オサエ。 | A：2mm黒色粒子、白色粒子を含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 1/2 | | |
| 421 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内焚口舟底ビット内 | ①20.7 ②2.4 つまみ径2.4 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を多量含む。B：やや不良。C：外灰N4/、内灰7.5Y5/1。 | 2/3 | 歪みあり。 外面に降灰あり。 指頭痕あり。 | |
| 422 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡18層下層(2次焼成面内) | ①(20.4) ②3.2 つまみ径3.4 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 1/4 | | |
| 423 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡床面No.3 | ①(27.3) ②2.5+α | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1、内灰白7.5Y7/1。 | 1/5 | 外面に火だすきあり。 | |
| 424 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡床面No.5 | ②3.0+α つまみ径3.6 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | つまみ部 完形 | 歪みあり。 別個体の残片付着あり。 | |
| 425 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡床面No.1 | ①(13.2) ②1.0+α | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外明褐灰5YR7/1、内黒7.5YR2/1。 | 口縁部 1/5 | 外面に降灰あり。 | |
| 426 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内No.10 | ①12.9 ②2.2 つまみ径1.2 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外褐灰10YR6/1。 | 完形 | 歪みあり。 外面に別個体の残片付着あり。 | |
| 427 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡煙道部 | ①14.0 ②1.8 つまみ径1.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 3/4 | | |
| 428 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①14.8 ②1.2 つまみ径1.7 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰N6/1、内灰N5/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 | |
| 429 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内No.33 | ①15.6 ②1.9 つまみ径1.7 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/2 | 歪みあり。 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|-------------------|--------------------------|--|--|--|------------------------|--------------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 430 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①(16.1) ②2.2 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の石英を含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。 | 1/2 | |
| 431 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内44層 | ①17.9 ②1.4 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を多量含む。B：良好。C：内外灰7.5Y6/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 432 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①(18.0) ②0.8+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ後板状工具によるナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 1/2 | |
| 433 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内No12 | ①17.3 ②1.7 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白7.5Y7/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 板状圧痕あり。 |
| 434 | 須恵器 | 杯蓋 | 3号窯跡窯体内No14 | ①18.6 ②1.4+α | | 外面回転ヘラ切り後板状工具によるナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰白5Y8/1、内灰白5Y8/2。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 つまみ剥離あり。 口縁部成形時亀裂の修復痕あり。 |
| 435 | 須恵器 | 杯A | 3号窯跡内3層黒色土 | ①(9.6) ②2.5 ③(6.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の黒色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/4 | |
| 436 | 須恵器 | 杯A | 3号窯跡窯体内44層44層下層混 | ①(10.4) ②3.0 ③(7.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/3 | |
| 437 | 須恵器 | 杯A | 3号窯跡窯体内31・16層 | ①13.4 ②3.8 ③9.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を多量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | |
| 438 | 須恵器 | 杯A | 3号窯跡窯体内17層 | ①13.8 ②4.2 ③9.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石を含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 口縁部 3/4 底部 完形 | 焼成時割れあり。 内外面に火だすきあり。 |
| 439 | 須恵器 | 杯A | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①14.2 ②3.9 ③10.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子、黒色粒子を多量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y7/1～灰白2.5Y8/1、内灰白2.5Y8/1～灰白N7/。 | 口縁部 3/5 底部 完形 | |
| 440 | 須恵器 | 杯A | 3号窯跡窯体内44層 | ①14.4 ②2.9～3.0 ③9.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の黒色粒子を含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y7/1。 | 完形 | 焼成時割れあり。 簾状圧痕あり。 |
| 441 | 須恵器 | 杯A | 3号窯跡窯体内44層 | ①(15.2) ②3.9 ③(10.9) | | 内外面回転ナデ、摩滅のため調整不明。 | A：1mm以下の石英を少量含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰白2.5Y7/1。 | 1/3 | |
| 442 | 須恵器 | 杯A | 3号窯跡窯体内44層 | ①14.4 ②3.6～3.8 ③10.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の黒色粒子を多量含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/1。 | 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 443 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No8 | ①11.3 ②3.5～3.6 ③6.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 7/8 | |
| 444 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No35 | ①(11.6) ②3.7 ③6.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内灰N6/。 | 1/2 | |
| 445 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No28 | ①11.4 ②3.7～4.0 ③6.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰黄褐10YR6/2、内褐灰10YR5/1。 | 2/3 | 歪みあり。 |
| 446 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No7 | ①13.6 ②4.5～4.6 ③9.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子、長石を含む。B：やや不良。C：外灰N6/、内灰白5Y7/1。 | 7/8 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 447 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡18層下層(2次焼成面内) | ①14.3 ②2.5～3.1 ③8.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 3/4 | 歪みあり。 焼け歪んで変形あり。 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 448 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No16 | ①14.1 ②3.4～3.7 ③7.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：3mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 3/5 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 外底面に工具痕あり。 |
| 449 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No27 | ①13.7 ②3.7～4.0 ③7.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/2 | |
| 450 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No31 | ①13.8 ②3.9 ③8.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰N6/。 | 1/2 | 歪みあり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|------------|-------------------|--|--|--|---|---------------------------------------|---|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 451 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①13.7 ②3.9~4.3 ③7.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外明オリーブ灰2.5GY7/1~灰N6/1。内灰N6/1。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 高台に板状工具痕あり。 |
| 452 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内44層44層下層混 | ①(13.4) ②3.5+α | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/3 | |
| 453 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡18層下層(2次焼成面内) | ①14.0 ②4.5~4.9 ③9.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、摩滅のため調整不明(回転ナデか) | A：4mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石を含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y8/1~黄灰2.5Y5/1、内灰黄2.5Y7/2~黄灰2.5Y6/1。 | ほぼ完形 | 内面に火だすきあり。 |
| 454 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①(15.6) ②4.6 ③(8.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰7.5Y6/1、内灰白5Y7/1。 | 1/4 | 内面に火だすきあり。 |
| 455 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No13 | ①16.2 ②4.8 ③8.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の黒色粒子を含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。 | 5/6 | |
| 456 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①(17.2) ②6.1 ③(9.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外灰7.5Y6/1、内灰白7.5Y7/1。 | 1/2 | |
| 457 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内44層 | ①(17.4) ②5.8 ③(10.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、1mm以下の石英を少量含む、微細な長石を少量含む。B：不良。C：外灰5Y4/1~灰白5Y8/1、内灰白2.5Y8/2。 | 口縁部 2/5 底部 完形 | 底部に工具痕か。 |
| 458 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No34 | ①(16.0) ②5.3 ③9.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰白5Y7/1。 | 1/2 | 歪みあり。 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 459 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①17.6 ②5.4~5.6 ③10.4 | | 外面回転ナデ、ヘラケズリ後回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白7.5Y7/1。 | 3/5 | |
| 460 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No19 | ①(18.0) ②5.5 ③9.4 | | 外面摩滅のため調整不明(回転ナデか)、回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面摩滅のため調整不明(回転ナデか)。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子、長石を含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/2~黄灰2.5Y4/1、内灰白2.5Y8/2。 | 口縁部 1/4 底部 ほぼ完形 | 外底面に簾状圧痕あり。 |
| 461 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No25 | ①(17.4) ②5.8 ③10.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を少量含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 口縁部 1/4 底部 1/2 | |
| 462 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No21 | ①(18.0) ②6.3 ③(10.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の黒色粒子を少量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/2~灰5Y4/1、内灰白2.5Y8/2。 | 1/4 | |
| 463 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡窯体内No18 | ①(17.4) ②6.5 ③9.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 口縁部 1/2 底部 完形 | 外底面に工具痕あり。 |
| 464 | 須恵器 | 杯B身・ 杯蓋 | 3号窯跡窯体内黒色土層下砂質土層 | 杯B身：①(12.4) ②3.1 ③(6.6) 杯蓋：①(13.8) ②3.9 つまみ径(1.5) | | 杯B身：外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 杯蓋：外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、ナデ。 | 杯B身：A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外オリーブ灰2.5GY6/1、内灰N5/。 杯蓋：A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外灰N6/1、内灰N4/。 | 杯B身：口縁部 2/5 底部 完形 杯蓋B：1/4 | 杯蓋と杯B身の融着品 杯蓋：歪みあり。 焼成時割れあり。 内外面に降灰あり。 |
| 465 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①14.4 ②2.5 ③12.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む。B：良好。C：内外青灰10BG5/1。 | 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 466 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①A(15.2) ②2.1 ③(12.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/3 | 内外面に火だすきあり。 |
| 467 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①15.2 ②1.5~1.6 ③12.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 完形 | 焼成時割れあり。 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 468 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡窯体内45層 | ①17.4 ②2.6 ③14.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：内外灰N5/。 | 5/6 | 歪みあり。 |
| 469 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡窯体内No36 | ①(17.6) ②2.4 ③(14.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰10Y5/1、内灰10Y6/1。 | 1/8 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|------|---|--------------------------|--|--|--|-------------------------|----------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 470 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡窯体内№24 | ①(18.0) ②2.0 ③(15.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を少量含む。B：不良。C：外淡黄2.5Y8/3、内灰白2.5Y8/2。 | 1/2 | |
| 471 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡18層下層(2次焼成面内) | ①17.8 ②2.5 ③15.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | |
| 472 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡窯体内44層 | ①(16.8) ②2.0 ③(14.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：内外灰N5/。 | 1/6 | |
| 473 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下) | ①(18.8) ②2.2 ③(15.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の石英、白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/3 | |
| 474 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡窯体内黒色土層下砂質土層 | ①(18.2) ②2.7 ③(15.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の石英を少量含む。B：不良。C：外灰白5Y7/1、内灰白5Y8/1。 | 2/5 | 外面に火だすきあり。 |
| 475 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡窯体内№22 | ①(19.0) ②2.6 ③(16.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y7/1、内灰白2.5Y8/2。 | 1/4 | 外底面に工具痕あり。 |
| 476 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡18層下層(2次焼成面内) | ①(18.8) ②2.1 ③(16.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：微細な白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 口縁部 1/8 | |
| 477 | 須恵器 | 皿 | 3号窯跡窯体内20・22層 | ①(20.3) ②2.6 ③(18.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 底部 1/4 | 穿孔あり。 |
| 478 | 須恵器 | 台付皿 | 3号窯跡窯体内茨口舟底ピット内 | ②2.0+α ③(17.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：5mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N4/。 | 底部 1/2 | 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 479 | 須恵器 | 台付皿 | 3号窯跡内5層 | ②3.1+α ③15.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内黄灰2.5Y5/1。 | 底部 完形 | 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 480 | 須恵器 | 高杯 | 3号窯跡床面№4 | ①(21.4) ②2.2+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰白5Y7/1。 | 口縁部 1/4 | 歪みあり。 脚貼付け痕あり。 |
| 481 | 須恵器 | 鉢 | 3号窯跡窯体内17層(実測図下)+窯跡体内17層(44層下18層間)+窯跡体内44層下18層粘土上間砂質土器層(接合) | ①(26.0) ②15.6+α ③(13.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、ハケ状のアタリ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石を含む。B：不良。C：外灰白2.5Y7/1～灰5Y4/1。内淡黄2.5Y7/3。 | 1/2 | 内面に火だすき状の色変あり。 ハケ状圧痕あり。 |
| 482 | 須恵器 | 鉢 | 3号窯跡窯体内№15+3号窯跡内44層+3号窯跡窯体内17層(実測図下)(接合) | ①(25.5) ②16.9+α ③(13.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の石英を少量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 口縁部 1/2 底部 1/8 | 歪みあり。 |
| 483 | 須恵器 | 壺 | 3号窯跡窯体内20・22層+5層にぶい橙色(接合) | ①(47.2) ②11.1+α | | 内外面回転ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外黒N2/、暗灰N3/。 | 口縁部 1/4 | 内面に降灰あり。 |
| 484 | 須恵器 | 穿孔土器 | 3号窯跡茨口部床面直上 | ①(16.6) ②2.3+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外灰白N7/、内灰白7.5Y7/1。 | 1/6 | 穿孔1カ所あり。 杯蓋。 |

表10 70地点4号窯跡出土遺物観察表

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|----|----------------------|--------------------------|--|---------------------------------------|---|------|------------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 485 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡窯体内縦ベルト27層 | ①12.2 ②1.8 つまみ径1.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰5Y7/1。 | 3/4 | 歪みあり。 |
| 486 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡2次焼成面№5 | ①14.5 ②3.1 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰白7.5Y7/1、内灰N6/。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 487 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡左側土坑№2 | ①14.6 ②3.4 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ、指オサエ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 内外面に重ね焼き痕あり。 内外面に降灰あり。 |
| 488 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡体内上層黒色土(1号窯灰層)8層 | ①16.0 ②2.7 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/1、内灰白2.5Y7/1。 | 7/8 | 焼成時割れあり。 外面に重ね焼き痕あり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|----------------------|--------------------------------|--|--|--|------------------------|----------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 489 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡窯体内28層貼床面 | ①(19.6) ②2.0+ α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、赤色粒子、長石、雲母を含む。B：不良。C：内外橙5YR7/6。 | 1/6 | |
| 490 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡2次焼成面No8 | ①(24.4) ②2.4+ α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/8 | 外面に火だすきあり。 |
| 491 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡2次焼成面 | ①(25.5) ②2.7+ α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰5Y6/1、内灰白N7/。 | 口縁部 1/4 | 歪みあり。 |
| 492 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡2次焼成面No6 | ①15.6 ②1.9 つまみ径1.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰白N7/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 493 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡2次焼成面No7 | ①15.4 ②1.8 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白N7/。 | ほぼ完形 | 焼成時割れあり。 内面に火だすきあり。 |
| 494 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡2次焼成面No2 | ①16.2 ②1.6 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰白N7/。 | 5/6 | 歪みあり。 外面に工具痕あり。 |
| 495 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡左側土坑No4 | ①16.1 ②1.7 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | ほぼ完形 | 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 496 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡2次焼成面No4 | ①17.0 ②2.0 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1、内灰白2.5Y8/1。 | 4/5 | |
| 497 | 須恵器 | 杯蓋 | 4号窯跡2次焼成面No6 | ②1.6+ α つまみ径2.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の赤色粒子を少量含む、微細な長石を含む。B：不良。C：内外橙5YR7/6。 | 天井部 1/4 | |
| 498 | 須恵器 | 杯A | 4号窯跡左側土坑No1 | ①(14.4) ②4.2 ③(12.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を少量含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。 | 1/2 | 全体的に摩滅している。 |
| 499 | 須恵器 | 杯A | 4号窯跡上層黄色土 | ①(19.2) ②6.7 ③(14.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外灰白N7/、内灰黄2.5Y7/2。 | 1/8 | |
| 500 | 須恵器 | 杯B身 | 4号窯跡窯体内縦ベルト27層 | ①(12.2) ②3.6 ③(8.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰白N7/。 | 1/4 | |
| 501 | 須恵器 | 杯B身 | 4号窯跡窯体内47層(縦断面) | ①17.5 ②5.6~5.7 ③11.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石、雲母を含む。B：不良。C：外にふい黄橙10YR7/2、内灰白2.5Y8/2。 | 3/4 | 歪みあり。 |
| 502 | 須恵器 | 杯B身 | 4号窯跡2次焼成面No8 | ①18.1 ②5.5 ③11.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。 | 口縁部 1/2 底部 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 503 | 須恵器 | 皿 | 4号窯跡2次焼成面No7 | ①(19.0) ②2.8 ③(16.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/2。 | 1/3 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 籐状圧痕あり。 |
| 504 | 須恵器 | 皿 | 4号窯跡体内上層黒色土(1号窯灰層)8層 | ①(18.4) ②2.7+ α ③(15.7) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。 | 1/3 | 内面に火だすきあり。 |
| 505 | 須恵器 | 皿 | 4号窯跡2次焼成面No3 | ①(19.2) ②2.2 ③(17.1) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む。B：良好。C：内外灰7.5Y6/1。 | 1/4 | |
| 506 | 須恵器 | 皿 | 4号窯跡左側土坑No3 | ①19.3 ②2.2 ③16.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 507 | 須恵器 | 杯A | 4号窯跡灰原6区下層黒色土 | 長6.6 幅12.6 | | 外面回転ナデ、ヘラ切り後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外褐灰7.5Y6/1。 | | 同器形の杯が6枚重なっている。 別個体の残片付着あり。 |
| 508 | 須恵器 | 壺 | 4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①(16.9) ②3.0+ α | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外褐灰10YR6/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 口縁部 1/6 | 内面に降灰あり。 |

表11 70地点3・4号窯跡灰原1区出土遺物観察表

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A:胎土 B:焼成 C:色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|----|-----------------------------|--------------------------|--|--|--|--------------------------|--|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 509 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部 右側上層褐色土 | ①11.9 ②1.5 | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を含む。 B:良好。C:外紫灰N3/、内灰N4/。 | 3/4 | 内外面に降灰あり。 |
| 510 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区横ベルト29 層土器層 | ①(12.7) ②3.4 つまみ径1.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:3mm以下の石英を多量含む、 1mm以下の白色粒子を含む、微 細な長石を含む。B:良好。C: 内外灰7.5Y5/1。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 511 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区横ベルト29 層土器層 | ①(13.7) ②2.3+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の石英を含む、 1mm以下の白色粒子を含む。B: やや不良。C:内外灰N5/。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 512 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器廃 棄層) | ①13.8 ②3.1 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を含む。 B:良好。C:外紫灰5P5/1、内 灰N4/。 | 3/4 | 外面に別個体の残片付着 あり。 内外面に重ね焼き痕あ り。 |
| 513 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区横ベルト12 層 | ①(14.4) ②2.8 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の石英を多量含む、 1mm以下の白色粒子を含む、微 細な長石を少量含む。B:やや不 良。C:内外灰N5/。 | 3/4 | 歪みあり。 端部外面のみに降灰あ り。 内外面に重ね焼き痕あ り。 |
| 514 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区横ベルト29 層土器層 | ①(14.1) ②3.6 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A:4mm以下の石英を少量含む、 1mm以下の白色粒子を含む、微 細な長石を少量含む。B:良好。 C:内外灰5Y6/1。 | 2/5 | 歪みあり。 内外面に重ね焼き痕あ り。 |
| 515 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器集 中廃棄層) | ①(15.2) ②2.5 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ。回転 ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B:良好。C:内外灰 N4/。 | 1/4 | 歪みあり。 内面に重ね焼き痕あり。 内面に指頭痕あり。 |
| 516 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部 右側上層褐色土 | ①16.5 ②4.0 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を含む。 B:良好。C:内外紫灰5P5/1。 | 5/6 | 歪みあり。 別個体の残片付着あり。 内外面に重ね焼き痕あ り。 指頭痕あり。 |
| 517 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部 右側上層褐色土 | ①(17.6) ②3.4 つまみ径2.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子、長石、 石英を含む。B:不良。C:外灰 白2.5Y8/2、内にぶい黄橙 10YR7/3。 | 1/4 | |
| 518 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部 右側上層褐色土 | ①(17.8) ②3.8 つまみ径2.4 | | 外面回転ナデ、摩滅のため調 整不明(回転ヘラケズリか)。内 面回転ナデ、回転ナデ後ナ デ。 | A:1mm以下の白色粒子、長石を 含む。B:不良。C:外浅黄橙 10YR8/3、内にぶい黄橙 10YR7/3。 | 1/3 | |
| 519 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区下層黒色土 | ①18.6 ②4.4 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、ナデ後板状工 具によるナデ。内面回転ナ デ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の石英を含む、 1mm以下の白色粒子を含む、微 細な長石を少量含む。B:やや不 良。C:内外灰5Y6/1。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 520 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部 右側上層褐色土 | ①(14.2) ②1.7 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子、長石を 含む。B:不良。C:内外にぶい 黄橙10YR7/3。 | 3/4 | |
| 521 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部 右側上層褐色土 | ①16.3 ②2.5 つまみ径2.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子、雲母を 含む。B:やや不良。C:外黄灰 2.5Y5/1、内紫灰5P5/1。 | 3/4 | 歪みあり。 |
| 522 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区右側土器層 と4号窯跡の間 | ①17.6 ②2.0 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後板状工具によるナデ。内面 回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を含む。 B:良好。C:外灰5Y5/1、内灰 N5/。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 523 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器集 中廃棄層) | ①19.3 ②1.9 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を含む。 B:良好。C:外灰7.5Y5/1、内 灰N5/。 | 7/8 | |
| 524 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器集 中廃棄層) | ①23.5 ②2.7 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:5mm以下の白色粒子を含む、 2mm以下の黒色粒子を含む。B: 良好。C:外灰N5/、内灰 5Y6/1。 | 1/2 | |
| 525 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原1区右側土器層 | ①11.8 ②3.5 ③8.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:3mm以下の石英を含む、 1mm以下の白色粒子を含む、微 細な長石を少量含む。B:やや不 良。C:外灰N4/～暗灰N3/、内 灰N5/。 | 口縁部 2/3 底部 ほぼ完形 | 歪みあり。 外面に降灰あり。 |
| 526 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器集 中廃棄層) | ①11.3 ②3.2 ③7.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を含む。 B:良好。C:内外灰N5/。 | 7/8 | 内外面に降灰あり。 |
| 527 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器廃 棄層) | ①(13.6) ②3.6 ③(9.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後未調整。内面回転ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を含む。 B:やや不良。C:外灰黄褐 10YR6/2、内褐灰10YR6/1。 | 1/3 | |
| 528 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原1区下層黒色土 | ①(13.2) ②3.1 ③(8.7) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後板状工具によるナデ。内面 回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:5mm以下の石英を含む、 2mm以下の白色粒子を多量含 む、微細な長石を含む。B:良 好。C:内外灰7.5Y5/1。 | 口縁部 1/3 底部 1/2 | 外面に降灰あり。 内面に重ね焼き痕あり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|---|----------------------------|---|---|------------------------|-------------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | |
| 529 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器廃棄層) | ①14.1 ②3.4 ③9.4 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、微細な雲母を含む。B：やや不良。C：外灰黄褐10YR6/2、内褐灰10YR6/1。 | 2/3 | |
| 530 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部右側上層褐色土 | ①(13.8) ②3.4 ③(10.0) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y6/2。 | 1/3 | |
| 531 | 須恵器 | 杯d | 3・4号窯跡灰原1区上層褐色土 | ①(16.0) ②4.3+α ③(9.4) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：良好。C：内外灰N6/1。 | 1/6 | 歪みあり。 内外面に火だすきあり。 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 532 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原1区横ベルト28層土器層 | ①(11.4) ②3.8 ③6.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：良好。C：内外灰7.5Y6/1。 | 口縁部 1/3 底部 完形 | 工具痕あり。 |
| 533 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器廃棄層) | ①(13.0) ②4.4 ③(7.8) | 内面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 1/3 | |
| 534 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部右側上層褐色土 | ①(13.3) ②4.4 ③7.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 口縁部 1/4 底部 完形 | |
| 535 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部右側上層褐色土 | ①(14.2) ②3.7 ③9.1 | 外面回転ナデ後ナデ、回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰N5/、内黄灰2.5Y6/1。 | 口縁部 1/4 底部 完形 | |
| 536 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器集中廃棄層) | ①(17.0) ②6.0 ③10.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内浅黄2.5Y7/4。 | 口縁部 1/2 底部 完形 | 工具痕・圧痕あり。 |
| 537 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原1区土器層(黒色土) | ①(13.8) ②2.1 ③(10.8) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を少量含む、微細な白色粒子、長石を少量含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/2 | 内外面に火だすきあり。 指頭痕あり。 |
| 538 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部右側上層褐色土 | ①14.0 ②2.8 ③11.7 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、金雲母を微量含む。B：良好。C：内外灰5Y4/1。 | 1/2 | 外面に火だすきあり。 |
| 539 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原1区横ベルト29層土器層 | ①(14.4) ②2.8 ③(11.8) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、石英を含む、微細な長石を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | 内面に火だすきあり。 |
| 540 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原1区横ベルト30層+3・4号窯跡灰原1区土器層 | ①18.8 ②2.5 ③15.5 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 3/4 | 歪みあり。 内面に火だすき(繊維状のもの付着)あり。 |
| 541 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部右側上層褐色土 | ①(18.8) ②2.0 ③(15.2) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の長石、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 1/2 | |
| 542 | 須恵器 | 台付皿 | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器廃棄層) | ①(20.4) ②2.8 ③(14.4) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 1/8 | 歪みあり。 |
| 543 | 須恵器 | 高杯 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部右側上層褐色土 | ①(20.9) ②1.6+α | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y7/1。 | 1/3 | |
| 544 | 須恵器 | 高杯 | 3・4号窯跡灰原1区横ベルト29層土器層 | ①(23.6) ②1.7+α | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 杯部 1/2 | 歪みあり。 |
| 545 | 須恵器 | 高杯 | 3・4号窯跡灰原1区中層黄色土と最下層焼土層混 | ②14.1+α 脚部径12.7 | 外面回転ナデ。内面回転ナデ、ナデ未調整、ナデ。 | A：2mm以下の石英、白色粒子を少量含む、1mm以下の黒色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：内外灰白5Y7/1。 | 杯部 小片 脚部 完形 | |
| 546 | 須恵器 | 壺蓋 | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器集中廃棄層) | ①12.9 ②3.7 つまみ径1.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、内黄灰2.5Y5/1。 | 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 547 | 須恵器 | 壺 | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器集中廃棄層) | ①8.8 ②4.6+α | 外面回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ・シボリ痕。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 口縁部 完形 | |
| 548 | 須恵器 | 壺 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部右側上層褐色土 | ①(11.6) ②4.7+α | 内外面回転ナデ。 | A：2mm以下の長石を含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。 | 口縁部 1/4 | 外面に降灰あり。 |
| 549 | 須恵器 | 長頸壺 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前庭部右側上層褐色土 | ①(12.6) ②5.9+α | 外面回転ナデ、回転ナデ・シボリ痕。内面回転ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 口縁部 1/8 | |
| 550 | 須恵器 | 長頸壺 | 3・4号窯跡灰原1区(4号窯埋土)+3・4号窯跡灰原1区(4号窯～土器層間)5号窯跡黄色土埋土+3・4号窯跡灰原1区5号窯跡灰口部黒色土(最下層) | ②13.5+α ③10.0 最大胴部径20.1 | 外面回転ナデ後ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ後ナデ、回転ナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰5Y6/1。 | 胴部 ほぼ完形 底部 完形 | 内面に付着物あり。 |

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|-----|----------------------------------|--|--|--|---|-------------------------|--------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 551 | 須恵器 | 短頸壺 | 3・4号窯跡灰原1区横ベルト28層土器層 | ①(12.8) ②13.3+ α 最大胴部径(24.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後回転ナデ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を多量含む。B：やや不良。C：外灰N5/~灰7.5Y6/1、内灰N5/。 | 口縁部 1/5 胴部 1/2 | |
| 552 | 須恵器 | 瓶 | 3・4号窯跡灰原1区下層黒色土+3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ②15.8+ α 最大胴部径(20.0) | | 外面回転ナデ、沈線、ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外灰7.5Y4/1、内灰5Y6/1。 | 1/3 | |
| 553 | 須恵器 | 鉢 | 3・4号窯跡灰原1区4号窯前底部右側上層褐色土 | ②4.9+ α ③(10.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、棒状工具によるナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、長石を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内灰黄2.5Y5/1。 | 底部のみ | 外面に刺突痕・圧痕あり。 |
| 554 | 焼土塊 | 不明 | 3・4号窯跡灰原1区右側(土器廃棄層) | 長5.6 幅4.0 厚0.7 | | 外面スサ圧痕、圧痕 | A：1mm以下の白色粒子、赤色粒子、長石を含む。B：不良。C：外橙5YR7/8。 | 小片 | 葉脈痕あり。 |

表12 70地点3・4号窯跡灰原2・3区出土遺物観察表

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|----|----------------------------|--------------------------|--|----------------------------------|--------------------------------|-----|----|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 555 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原2・3区間縦ベルト(3号窯下)12層 | ①(14.0) ②2.1 ③(10.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | |

表13 70地点3・4号窯跡灰原3区出土遺物観察表

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|----|-------------------------|--------------------------|--|---|---|-----------|-------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 556 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原3区汚れた黄色土 | ①(12.8) ②2.3+ α | | 外面ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/。 | 1/6 | 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 557 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原3区2層黒色土(3号窯下灰層) | ①(8.8) ②2.3 ③(7.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/4 | |
| 558 | 須恵器 | 高杯 | 3・4号窯跡灰原3区 | ①21.1 ②5.1 脚部径10.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ・シボリ痕、ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N6/。 | ほぼ完形 | 窪みあり。 外面に降灰あり。 |
| 559 | 須恵器 | 壺 | 3・4号窯跡灰原3区汚れた黄色土 | ②9.0+ α ③(11.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ、ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。 | 底部 1/4 | |

表14 70地点3・4号窯跡灰原4・5区出土遺物観察表

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|----|-----------------------------|--------------------------|--|------------------|--|-----|----------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 560 | 須恵器 | 甕 | 3・4号窯跡灰原4・5区縦ベルト46層白色砂質層(沢) | ②9.8+ α | | 外面格子目タタキ。内面当て具痕。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外暗灰N3/、内灰黄2.5Y6/1。 | 小片 | 被熱による膨張あり。 外面に格子目タタキあり。 |

表15 70地点3・4号窯跡灰原4区出土遺物観察表

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|----|--|---------------------------|--|--|---|------------|---|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 561 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(12.4) ②3.4 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の黒色粒子、白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/4 | 歪みあり。 指頭痕あり。 |
| 562 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①12.8 ②2.8 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外にぶい黄橙10YR7/4、内黄灰2.5Y6/1。 | 3/4 | 工具痕あり。 |
| 563 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(12.9) ②2.3+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、微細な白色粒子を多量含む、微細な長石を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 564 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①13.6 ②2.9 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰10YR5/1。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 565 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①(13.6) ②2.8 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/1、内灰N6/1～灰N4/。 | 2/5 | 歪みあり。 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 566 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(13.8) ②2.6+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 2/5 | 歪みあり。 |
| 567 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(14.2) ②3.2 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/4 | 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 568 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(14.4) ②2.9 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/4 | 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 569 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(14.0) ②2.3+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/4 | 歪みあり。 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 570 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①(14.5) ②2.6 つまみ径1.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/1。 | 口縁部 1/4 | |
| 571 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①(14.7) ②3.1 つまみ径(2.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰5Y5/1。 | 1/2 | 歪みあり。 外面に重ね焼き痕あり。 内面に別個体の残片付着あり。 内面に指頭痕あり。 |
| 572 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(14.6) ②2.8+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/4 | 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 573 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①15.0 ②3.3 つまみ径1.8 | | 外面回転ヘラケズリ後ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の黒色粒子、白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 3/4 | 歪みあり。 外面に重ね焼き痕あり。 指頭痕あり。 |
| 574 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(15.9) ②2.2+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/3 | |
| 575 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①(15.6) ②3.1+α | | 外面ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の石英を多量含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：外灰N6/1、内灰6/1～灰N4/。 | 1/4 | 歪みあり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 576 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区54・57・59・61・62層混黒色土下層砂質土(縦ベルト注記) | ①16.4 ②2.9 つまみ径2.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰白N7/。 | 7/8 | 歪みあり。 |
| 577 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(16.6) ②2.9 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰7.5Y5/1。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 578 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区17層 | ①17.3 ②2.6 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、回転ヘラ切り後板状工具痕。内面回転ナデ、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：微細な白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 579 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①17.7 ②3.6 つまみ径2.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、褐色粒子、石英を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：内外橙7.5YR6/6。 | 3/5 | |
| 580 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①18.8 ②4.0 つまみ径1.6 | | 内外面回転ナデ、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：4mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|----|--|--------------------------|--|---|---|------------------------|-----------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 581 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区54・57・59・61・62層混黒色土下層砂質土(縦ベルト注記) | ①(19.6) ②3.4 つまみ径2.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰N5/、内灰白N7/。 | 口縁部 1/4 | |
| 582 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①(11.9) ②1.9 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外暗灰黄2.5Y5/2、内灰5Y4/1。 | 1/4 | |
| 583 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区54・57・59・61・62層混黒色土下層砂質土(縦ベルト注記) | ①12.2 ②1.3 つまみ径1.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ハケ状工具によるナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 9/10 | 外面に火だすきあり。外面に重ね焼き痕あり。 |
| 584 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①13.8 ②1.9 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y4/1、内黄灰2.5Y6/1。 | 1/2 | |
| 585 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(14.5) ②2.5 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/3 | 歪みあり。ヘラ記号あり。調整丁寧。 |
| 586 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①14.5 ②2.1 つまみ径1.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外にぶい黄橙10YR7/2、内褐灰10YR6/1。 | 11/12 | 歪みあり。庄痕(ツメ痕)あり。 |
| 587 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①16.4 ②1.9 つまみ径2.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ、強い回転ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 1/2 | |
| 588 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①(17.0) ②2.7 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ、指オサエ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外にぶい褐7.5YR5/3。 | 1/4 | ヘラ書須恵器「大」。 |
| 589 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ②1.3+α つまみ径2.2 | | 外面回転ナデ、ナデ。内面ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の石英を含む、微細な長石を少量含む。B：不良。C：内外灰黄褐10YR5/2。 | つまみ部 2/3 | つまみ部が凹状。 |
| 590 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①18.6 ②1.6 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。B：不良。C：内外橙7.5YR6/6。 | 1/2 | |
| 591 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①8.9 ②2.5 ③5.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 口縁部 3/5 底部 完形 | |
| 592 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(10.0) ②2.1 ③(6.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/6 | |
| 593 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(13.2) ②3.3 ③(9.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外灰黄褐10YR6/2、内にぶい黄橙10YR7/2。 | 1/4 | |
| 594 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区上層褐色土と下層黒色土(灰層)と混 | ①12.9 ②3.4 ③9.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y4/1。 | 口縁部 5/6 底部 完形 | |
| 595 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(13.0) ②3.1 ③(8.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰5Y5/1、内黄灰2.5Y5/1。 | 1/4 | |
| 596 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(13.2) ②2.9 ③(9.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外紫灰5P5/1。 | 1/8 | |
| 597 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(13.2) ②3.1 ③(9.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N6/。 | 1/6 | 内面に火だすきあり。 |
| 598 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区上層褐色土と下層黒色土(灰層)と混 | ①13.2 ②3.7 ③9.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 599 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(13.2) ②3.6 ③(8.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰5Y6/1、内黄灰2.5Y6/1。 | 1/8 | |
| 600 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区下層黒色土 | ①13.4 ②4.1 ③9.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 601 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①(14.2) ②3.3 ③(9.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰7.5Y6/1。 | 1/6 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|-----------------------------|--------------------------|--|--|------------------------|--|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | |
| 602 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(14.0) ②3.4 ③(8.4) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外紫灰5P6/1。 | 1/4 | |
| 603 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①(13.8) ②3.6 ③(10.6) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y6/2～灰白2.5Y8/2、内浅黄2.5Y7/3。 | 1/2 | 歪みあり。 内面に火だすきあり。 |
| 604 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①(14.0) ②3.3 ③(9.2) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、石英を含む、微細な雲母を少量含む。B：不良。C：内外橙7.5YR7/6。 | 1/4 | 外底面に火だすきあり。 外面に黒斑あり。 |
| 605 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(14.0) ②3.4+α ③(9.4) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外灰白10YR8/2。 | 1/6 | |
| 606 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(15.0) ②4.1+α ③(9.6) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外灰白2.5Y7/1、内灰白2.5Y8/1。 | 1/4 | 外面圧痕あり。 |
| 607 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原4区19層(焼土) | ①(14.8) ②4.1 ③(10.0) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：微細な白色粒子、長石を含む。B：不良。C：外にぶい橙7.5YR7/4、内にぶい橙7.5YR6/4。 | 1/3 | |
| 608 | 須恵器 | 杯d | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①14.8 ②4.2～4.3 ③7.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外黒N2/、内灰N6/1。 | 1/2 | 歪みあり。 内面に火だすきあり。 外面に降灰あり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 609 | 須恵器 | 杯d | 3・4号窯跡灰原4区12～16層(黄色土) | ①(15.8) ②3.9 ③(8.6) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/6 | 内面に火だすきあり。 |
| 610 | 須恵器 | 杯d | 3・4号窯跡灰原4区12～16層(黄色土) | ①(16.0) ②3.6+α | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰5Y5/1。 | 1/6 | 内面に火だすきあり。 |
| 611 | 須恵器 | 杯d | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ②4.0+α ③(8.0) | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰7.5Y6/1～灰白N7/、内灰7.5Y6/1。 | 1/4 | 内面に火だすきあり。 外面に降灰あり。 |
| 612 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(11.4) ②3.6 ③(6.6) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/8 | |
| 613 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①11.4 ②3.3～3.7 ③7.2 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | ほぼ完形 | 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 614 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区上層褐色土と下層黒色土(灰層)と混 | ①11.7 ②3.5 ③6.7 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の長石、白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 完形 | 焼成時割れあり。 内面に重ね焼き痕あり。 内面に棒状のアタリあり。 |
| 615 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区下層黒色土 | ①11.8 ②3.7～4.0 ③6.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | ほぼ完形 | 外面に降灰あり。 |
| 616 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(11.9) ②3.8 ③(7.2) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/4 | |
| 617 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①(12.1) ②4.5 ③(7.8) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を少量含む。B：不良。C：外橙7.5YR7/6～橙5YR6/6、内橙7.5YR7/6。 | 2/5 | |
| 618 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(12.9) ②4.5 ③(9.0) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/4 | |
| 619 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(13.0) ②4.4 ③7.3 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の黒色粒子を多量含む。B：やや不良。C：外灰N6/、内灰7.5Y6/1。 | 口縁部 1/2 底部 完形 | |
| 620 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ①(14.2) ②4.8 ③(8.7) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：不良。C：外黄橙10YR8/6～にぶい赤褐5YR5/3、内橙7.5YR7/6。 | 1/4 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|------------|---------------------------------|-------------------------------------|--|--|--|-------------------------|---|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 621 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(14.6) ②3.8 ③9.0 | | 外面回転ナデ後ナデ、回転ナ デ、回転ヘラ切り。内面回転 ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、 1mm以下の黒色粒子、長石を含 む。B：良好。C：外灰N4/、内 灰N6/。 | 口縁部 1/2 底部 完形 | 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 622 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(14.8) ②3.6 ③(10.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を 含む。B：良好。C：内外灰 N5/。 | 1/4 | |
| 623 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(13.8) ②3.9 ③(9.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後板状工具によるナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰N5/。 | 口縁部 1/6 底部 1/2 | |
| 624 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(14.0) ②3.8 ③(8.3) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後板状工具によるナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/4 | |
| 625 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①13.8 ②4.2~4.4 ③8.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰N4/。 | 口縁部 3/4 底部 完形 | |
| 626 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(13.6) ②3.9 ③8.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を多量含 む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 口縁部 1/3 底部 完形 | |
| 627 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①13.6 ②3.9~4.2 ③9.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後未調整。内面回転ナデ、回 転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含 む。B：やや不良。C：内外灰 5Y6/1。 | 3/4 | |
| 628 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(16.0) ②4.5 ③(11.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、ロク ロ目状回転ナデ後ナデ。 | A：微細な白色粒子を少量含む。 B：不良。C：外灰白10YR8/2、 内にふい黄橙10YR7/4。 | 1/4 | |
| 629 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区下層黒色土 | ①(15.7) ②4.5 ③9.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：外橙7.5Y7/6 ~灰N6/、内灰N6/。 | 口縁部 1/3 底部 完形 | 歪みあり。 |
| 630 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①15.5 ②5.1~5.5 ③8.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含 む。B：やや不良。C：外灰 5Y5/1、内灰5Y6/1。 | 1/2 | |
| 631 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(16.2) ②5.6 ③(10.0) | | 外面回転ナデ、回転ナデ後ナ デ、回転ヘラ切り後ナデ。内 面回転ナデ、回転ナデ後ナ デ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰5Y6/1。 | 1/2 | 板状圧痕あり。 |
| 632 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原4区上層褐色土 と下層黒色土(灰層)と混 | ①17.1 ②5.6~6.0 ③ 10.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、長石を 含む。B：不良。C：内外黄灰 2.5Y6/1。 | 口縁部 3/4 底部 完形 | 歪みあり。 |
| 633 | 須恵器 | 杯B身+ 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原4区 | 杯B身：①12.7 ②4.8 ③ 7.8 杯蓋：①14.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後塵状圧痕。内面回転ナデ、 回転ナデ後ナデ。 | 杯B身 A：2mm以下の白色粒子 を含む。B：良好。C：外褐灰 10YR4/1。 杯蓋 A：2mm以下の白色粒子を 少量含む。B：良好。C：外褐灰 10YR4/1、内褐灰10YR5/1。 | 杯B身 完形 杯蓋 完形 | 杯B身：歪みあり。 焼成時割れあり。 杯蓋：歪みあり。 杯B身と杯蓋が融着す る。 |
| 634 | 須恵器 | 不明 | 3・4号窯跡灰原4区黄色土(灰層 土) | ①(14.8) ②3.2+α | | 内外面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰5Y5/1。 | 口縁部 1/5 | |
| 635 | 須恵器 | 不明 | 3・4号窯跡灰原4区下層黒色土 | ①(9.6) ②3.7+α | | 外面回転ナデ、沈線か。内面 回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B：良好。C：外灰白 N7/、内灰N6/。 | 口縁部 1/4 | 歪みあり。 |
| 636 | 須恵器 | 不明 | 3・4号窯跡灰原4区17層 | ①(22.0) ②8.7+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、 1mm以下の石英を少量含む。B： やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、 内灰黄2.5Y6/2。 | 口縁部 1/5 | 底部貼付時指頭痕あり。 |
| 637 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(12.8) ②1.7 ③(10.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後板状工具によるナデ。内面 回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、 1mm以下の長石、黒色粒子を含 む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/4 | |
| 638 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(13.2) ②2.8 ③(8.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ、回転ヘラ切り後ナデ。内 面回転ナデ、回転ナデ後ナ デ。 | A：1mm以下の長石、白色粒子を 含む。B：良好。C：内外黄灰 2.5Y5/1。 | 1/4 | |
| 639 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原4区下層黒色土 | 上：①(13.4) 下：①13.7 ②1.9 ③10.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | 上：A：2mm以下の白色粒子を含 む。B：良好。C：内灰N5/。 下：A：2mm以下の白色粒子を含 む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 上：1/2 下：2/3 | 皿が2つ融着する。 |
| 640 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(14.4) ②1.7 ③(11.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：不良。C：内外にふい黄橙 10YR6/3。 | 1/2 | 内外面に火だすきあり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|----------|-----------------------------|-------------------------------|--|--|---|-------------------------|--------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 641 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(14.4) ②2.3+α ③(11.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 1/3 | |
| 642 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①17.0 ②3.1 ③14.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰5Y4/1。 | 1/2 | |
| 643 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(18.0) ②2.4 ③(14.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰5Y5/1。 | 1/2 | 外面に火だすきあり。 |
| 644 | 須恵器 | 皿 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(17.8) ②3.0 ③(14.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石を含む。B：やや不良。C：内外灰N5/。 | 1/2 | 棒状のアタリあり。 |
| 645 | 須恵器 | 台付皿 | 3・4号窯跡灰原4区下層黒色土 | ①(21.6) ②3.1 ③(15.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰5Y5/1、内紫灰5P5/1。 | 1/3 | 歪みあり。外面に別個体の残片付着あり。 |
| 646 | 須恵器 | 高杯 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(21.2) ②2.3+α | | 外面回転ナデ、回転ナデ後ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰N6/1、内黄灰2.5Y6/1。 | 杯部 1/3 | 歪みあり。 |
| 647 | 須恵器 | 高杯 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(21.8) ②6.5 ③(11.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ、回転ナデ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ・シボリ痕、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰N6/1。 | 杯部 1/3 脚部 3/4 | 著しい歪みあり。焼成時割れあり。外面に降灰あり。 |
| 648 | 須恵器 | 高杯 | 2・3・4号窯跡灰原4区混 | ①22.6 ②7.4+α 脚部径9.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ナデ後ナデ、シボリ痕、回転ナデ。内面回転ナデ、シボリ痕、回転ヘラケズリ後ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰2.5Y6/1～暗灰N3/、内黄灰2.5Y6/1。 | 杯部 3/5 脚部 完形 | 歪みあり。ヘラ記号あり。内面に重ね焼き痕あり。 |
| 649 | 須恵器 | 壺蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(15.0) ②2.7+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。胎土精良。B：不良。C：外灰白10YR8/2、内灰白10YR7/1～にぶい黄橙10YR7/2。 | 1/2 | 歪みあり。指頭痕あり。 |
| 650 | 須恵器 | 壺蓋 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①14.8 ②3.1 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰N4/～灰白7.5Y7/1、内灰N5/。 | 5/6 | 歪みあり。指頭痕あり。 |
| 651 | 須恵器 | 壺蓋 | 3・4号窯跡灰原4区砂層(沢の影響) | ①15.3 ②4.3 つまみ径2.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰白10YR7/1。 | 口縁部 1/2 天井部 完形 | 外面に降灰あり。外面に火だすきあり。 |
| 652 | 須恵器 | 壺 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土(灰層) | ①(8.0) ②4.3+α | | 外面回転ナデ。内面回転ナデ、カキメ状の回転ナデ。 | A：1mm以下の長石を含む。B：不良。C：外浅黄橙10YR8/4、内にぶい黄橙10YR7/3。 | 口縁部 1/3 | |
| 653 | 須恵器 | 壺 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土(灰層) | ②2.7+α | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰N4/、内暗灰N3/。 | 小片 | |
| 654 | 須恵器 | 短頸壺 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(11.4) ②7.5+α 最大胴部径(14.0) | | 外面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内黄灰2.5Y5/1。 | 口縁部 1/8 | |
| 655 | 須恵器 | 短頸壺 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ①(10.6) ②5.9+α | | 内外面回転ナデ。 | A：2mm石英を含む、1mm以下の黒色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：不良。C：外灰5Y6/1～灰白2.5Y8/2、内灰5Y6/1。 | 口縁部 2/5 | |
| 656 | 須恵器 | 短頸壺 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ②11.8+α 最大胴部径(25.1) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内紫灰5P6/1。 | 胴部 1/4 | |
| 657 | 須恵器 | 鉢 | 3・4号窯跡灰原4区黒色土 | ②7.6+α ③(14.9) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：良好。C：外灰5Y6/1、内灰白5Y7/1。 | 底部 1/2 | |
| 658 | 須恵器 | 長頸壺(突帯付) | 3・4号窯跡灰原4区上層褐色土と下層黒色土(灰層)と混 | ②4.3+α | | 内外面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 小片 | |
| 659 | 須恵器 | 鉢 | 3・4号窯跡灰原4区55層(最下層黒色土) | ②10.8+α ③(14.4) | | 外面ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、強いナデ。 | A：3mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。 | 底部 1/6 | 焼成時割れあり。 |

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|--------|--|--------------------------|--------|---|---|-------------------------|--------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 660 | 須恵器 | 瓶 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | | ②8.4+α | 外面回転ナデ、指オサエ・ナデ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 小片 | |
| 661 | 須恵器 | 把手(平瓶) | 3・4号窯跡灰原4区 | 長5.9 幅1.9 厚0.8 | | 外面面取り。内面手持ちヘラケズリ。 | A：1mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰5Y6/1。 | 把手のみ | |
| 662 | 須恵器 | 鉢 | 3・4号窯跡灰原4区下層黒色土 | ①(9.2) ②4.4 ③(6.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 口縁部 1/12 底部 完形 | 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 663 | 須恵器 | 甕 | 3・4号窯跡灰原4区54・57・59・61・62層混黒色土下層砂質土(縦ベルト注記) | ①(20.0) ②9.6+α | | 外面回転ナデ、格子目タタキ後回転ナデ、格子目タタキ。内面回転ナデ、当て具痕。 | A：4mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | |
| 664 | 須恵器 | 甕 | 3・4号窯跡灰原4区砂層(沢の影響) | ②11.8+α | | 外面回転ナデ、貼付突帯。内面回転ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 小片 | 内外面に付着物あり。内面に別個体の残片付着あり。 |
| 665 | 須恵器 | 甕 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ②3.2+α | | 外面回転ナデ。内面回転ナデ、指オサエ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 小片 | |
| 666 | 須恵器 | 穿孔土器 | 3・4号窯跡灰原4区17層 | ①(18.9) ②2.1+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/5 | 指頭痕あり。穿孔1カ所あり。杯蓋。 |
| 667 | 須恵器 | 穿孔土器 | 3・4号窯跡灰原4区砂層(沢の影響) | ②1.8+α ③(9.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。 | 底部 1/4 | 高台に圧痕あり。穿孔1カ所あり。杯身。 |
| 668 | 須恵器 | 穿孔土器 | 3・4号窯跡灰原4区最下層焼土層 | ②1.6+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外褐灰10YR4/1。 | 小片 | 穿孔1カ所あり。高環。 |
| 669 | | 焼土塊 | 3・4号窯跡灰原4区下層黒色土 | 長4.8 幅3.4 厚1.8 | | 外面スズ痕。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。C：橙5YR6/6。 | | |

表16 70地点3・4号窯跡灰原5区出土遺物観察表

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|----|------------------|--------------------------|--|---|---|-------|-------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 670 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(12.2) ②2.9 つまみ径1.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内紫灰5P5/1。 | 1/6 | 歪みあり。内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 671 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(13.0) ②4.2 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰N5/。 | 2/5 | 歪みあり。内外面に重ね焼き痕あり。指頭痕あり。 |
| 672 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(14.5) ②2.4 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、内橙7.5YR6/6。 | 1/5 | 歪みあり。外面に別個体の残片付着あり。 |
| 673 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①15.0 ②2.5 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外褐灰7.5YR6/1、内紫灰5P5/1。 | 11/12 | 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 674 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①15.5 ②2.4 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外紫灰5P6/1。 | 11/12 | 外面に重ね焼き痕あり。指頭痕あり。 |
| 675 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(15.9) ②2.9 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、強い回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子、石英を多量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰7.5Y6/1、内灰7.5Y5/1。 | 2/5 | 焼成時割れあり。 |
| 676 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(16.0) ②2.9 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の石英を少量含む。B：やや不良。C：内外灰7.5Y5/1。 | 1/3 | 歪みあり。指頭痕あり。 |
| 677 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①16.9 ②2.5 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外紫灰5P6/1。 | 2/3 | 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 678 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①18.3 ②2.5 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外灰白10YR8/2。 | 3/4 | 歪みあり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|--------------------------|--------------------------|--|---|---|-------------------------|--|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 679 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(13.6) ②2.1 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N5/。 | 1/6 | 歪みあり。 |
| 680 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①13.5 ②1.7 つまみ径1.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外掲灰10YR6/1、内灰N6/。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 681 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①15.5 ②1.7 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子、石英を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 2/3 | 歪みあり。 外面に火だすきあり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 682 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(18.0) ②1.3 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外灰7.5Y5/1、内灰7.5Y6/1。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 683 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原5区9層(黒色土灰層) | ①9.5 ②2.0 ③6.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 口縁部 2/3 底部 完形 | |
| 684 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(10.8) ②2.5+α ③(7.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰N5/。 | 口縁部 1/8 底部 1/4 | |
| 685 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原5区4区17層～6区24層黒色土 | ①(10.4) ②2.5 ③(6.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/3 | 焼成時割れあり。 |
| 686 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①10.7 ②2.6 ③7.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の石英を少量含む。B：不良。C：内外灰黄2.5Y6/2。 | ほぼ完形 | |
| 687 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原5区4区17層～6区24層黒色土 | ①(11.2) ②2.3 ③(7.6) | | 外面回転ナデ、板状工具によるケズリ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 1/4 | 焼成時割れあり。 |
| 688 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原5区4区17層～6区24層黒色土 | ①(13.0) ②3.2+α ③(9.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/。 | 1/4 | |
| 689 | 須恵器 | 杯d | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(17.2) ②3.7 ③(8.3) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を多量含む。B：不良。C：外灰褐5YR4/2、内にぶい赤褐5YR5/4。 | 1/8 | 歪みあり。 外面に火だすきあり。 |
| 690 | 須恵器 | 杯B身 | 3号窯跡灰原5区白色砂質土沢の影響土 | ②2.0+α ③(4.4) | | 外面回転ナデ、ナデ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 底部 1/4 | 小型。 |
| 691 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原5区4区17層～6区24層黒色土 | ①11.4 ②3.6 ③6.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子少量含む。B：良好。C：内外灰7.5Y5/1。 | 口縁部 1/2 底部 完形 | |
| 692 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①11.9 ②3.5～3.6 ③6.8 | | 外面回転ナデ、回転ナデ後一部ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ後一部ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：外灰5Y5/1、内灰N5/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 外面に降灰あり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 693 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(12.8) ②4.2 ③(7.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/～灰N5/、内灰N5/。 | 口縁部 1/3 底部 完形 | 歪みあり。 |
| 694 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①12.9 ②3.5～4.1 ③7.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰N6/、内灰N5/。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 695 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(13.4) ②4.2 ③(8.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰N5/。 | 口縁部 1/3 底部 1/2 | |
| 696 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①15.9 ②4.3～5.1 ③9.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 口縁部 1/2 底部 完形 | 歪みあり。 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 697 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(17.0) ②5.4 ③(9.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y4/1、内にぶい黄2.5Y6/3。 | 口縁部 1/6 底部 1/2 | |
| 698 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(22.6) ②4.1 ③(17.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を多量含む。B：不良。C：外にぶい赤褐5YR4/3、内灰5Y4/1。 | 口縁部 1/4 底部 1/2 | |

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|-----|---|--------------------------------------|--|---|--|-----------------------|-------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 699 | 須恵器 | 皿 | 3-4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①14.4 ②2.4 ③11.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 3/4 | 歪みあり。襷状圧痕あり。 |
| 700 | 須恵器 | 高杯 | 3号窯跡灰原5区白色砂質土沢の影響土 | ①(14.0) ②4.9+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰白N7/。 | 杯部 1/4 脚部 小片 | 歪みあり。外面に降灰あり。 |
| 701 | 須恵器 | 高杯 | 3-4号窯跡灰原5区4区17層～6区24層黒色土 | ②5.8+α 脚部径10.3 | | 外面回転ナデ、回転ナデ・シボリ痕。内面回転ナデ、ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 脚部のみ | 歪みあり。 |
| 702 | 須恵器 | 高杯 | 3号窯跡灰原5区白色砂質土沢の影響土 | ②10.3+α 脚部径16.4 | | 外面回転ヘラズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、シボリ痕、ナデ、工具ナデナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。B：不良。C：外灰白5Y8/1、内灰白2.5Y7/1。 | 杯部 小片 脚部 完形 | |
| 703 | 須恵器 | 壺蓋 | 3-4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ①(12.8) ②2.3 | | 外面回転ヘラズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。 | 1/4 | |
| 704 | 須恵器 | 壺 | 3-4号窯跡灰原5区4区17層～6区24層黒色土 | ①(8.0) ②3.9+α | | 外面回転ナデ。内面回転ナデ、ハケ状の回転ナデ。 | A：微細な白色粒子を少量含む。B：不良。C：内外にふい黄橙10YR6/3。 | 1/3 | |
| 705 | 須恵器 | 短頸壺 | 3-4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ②10.7+α 最大胴部径(21.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ、ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後タテ方向ナデ、ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外暗灰黄2.5Y5/2。 | 胴部 1/4 | |
| 706 | 須恵器 | 短頸壺 | 3-4号窯跡灰原5区24層黒色土 | ②18.1+α ③(13.8) 最大胴部径(28.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後タテ方向ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外にふい褐7.5YR5/4、内にふい黄褐10YR5/3。 | 胴部～底部 1/3 | |
| 707 | 須恵器 | 双耳瓶 | 3-4号窯跡灰原5区25層赤色焼土層 | ①8.8 ②24.6～24.8 ③(12.6) 最大胴部径18.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ、指オサエ・ナデ、沈線。内面回転ナデ、指オサエ・ナデ、ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子、石英を多量に含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰褐7.5YR5/2。 | 2/3 | 歪みあり。把手1ヶ所残存あり。 |
| 708 | 須恵器 | 甕 | 3-4号窯跡灰原5区9層(黒色土灰層)+3号窯跡窯体内38層(縦断面)+3号窯跡窯体内41層(縦断面)+3号窯跡窯体内黄色粘土残部最上位直上(38層か)縦断面+3号窯跡上埋土(上層)1号窯跡灰原2区 | ②24.5+α | | 外面格子目タタキ。内面当て具痕。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外黒5Y2/1、内黄灰2.5Y5/1。 | 小片 | 外面に降灰あり。格子目タタキあり。 |

表17 70地点3・4号窯跡灰原6区出土遺物観察表

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|----|--------------------|--------------------------|--|----------------------------------|--|------|-----------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 709 | 須恵器 | 杯蓋 | 3-4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①(8.1) ②2.4 つまみ径1.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/4 | |
| 710 | 須恵器 | 杯蓋 | 3-4号窯跡灰原6区24層黒色土 | ①(9.0) ②1.9 つまみ径1.2 | | 外面回転ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ、指オサエ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 711 | 須恵器 | 杯蓋 | 3-4号窯跡灰原6区24層黒色土 | ①11.4 ②3.5 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 2/3 | 歪みあり。内面に重ね焼き痕あり。外面に板状工具痕あり。 |
| 712 | 須恵器 | 杯蓋 | 3-4号窯跡灰原6区24層 | ①13.2 ②3.7 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 5/6 | 歪みあり。内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 713 | 須恵器 | 杯蓋 | 3-4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①13.7 ②3.8 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。外面に重ね焼き痕あり。 |
| 714 | 須恵器 | 杯蓋 | 3-4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(14.0) ②3.9 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/4 | 歪みあり。内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 715 | 須恵器 | 杯蓋 | 3-4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(15.2) ②3.0 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N4/。 | 1/4 | 内面に火だすきあり。指頭痕あり。 |
| 716 | 須恵器 | 杯蓋 | 3-4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(18.3) ②1.8+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。1mm以下の長石を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y5/1、内灰黄2.5Y6/2。 | 1/4 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|--------------------|---------------------------|--|---|---|-------------------------|--|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 717 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(19.1) ②1.8+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰黄2.5Y6/2。 | 1/4 | |
| 718 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①(24.9) ②2.3+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/3 | 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 719 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①15.2 ②1.2 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：5mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰黄2.5Y6/2。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 720 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(15.4) ②0.8+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰5Y5/1。 | 1/3 | |
| 721 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原6区24層 | ①(18.1) ②2.5+α つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外灰黄2.5Y6/2。 | 1/4 | |
| 722 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①17.7 ②1.7 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰5Y5/1。 | 1/2 | |
| 723 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(18.0) ②1.7 つまみ径(2.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：不良。C：内外浅黄2.5Y7/3～灰5Y5/1。 | 1/3 | |
| 724 | 須恵器 | 杯蓋 | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①18.5 ②1.5 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具ナデ(アタリ多い)。内面回転ナデ、回転ナデ板状工具ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子、長石を含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y6/2。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 725 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(10.2) ②2.5 ③(5.6) | | 外面回転ナデ、未調整・ヘラ切り離し。内面回転ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | 歪みあり。 内面に重ね焼き痕あり。 内外面に降灰あり。 |
| 726 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①(10.4) ②3.6 ③(6.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰N5/。 | 口縁部 3/5 底部 1/2 | 歪みあり。 |
| 727 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(13.2) ②2.7 ③(8.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y5/1。 | 1/2 | 外底面に簾状圧痕あり。 |
| 728 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(13.0) ②3.7 ③(9.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/2 | |
| 729 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(13.6) ②3.4 ③(9.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/3 | |
| 730 | 須恵器 | 杯A | 3・4号窯跡間土坑内(焚口部) | ①14.0 ②4.0 ③10.2 | | 外面摩擦のため調整不明(回転ナデか)、回転ヘラ切り後ナデ。内面摩擦のため調整不明(回転ナデか、回転ナデ後ナデか)。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外黄灰2.5Y5/1、内淡黄2.5Y8/3。 | 2/3 | 内面に重ね焼き痕あり。 外面にイブシ状。 |
| 731 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(11.8) ②3.2 ③6.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外褐灰10YR6/1。 | 口縁部 1/4 底部 完形 | 外面に降灰あり。 |
| 732 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(16.5) ②5.1 ③9.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外灰黄褐10YR6/2、内灰黄褐10YR5/2。 | 口縁部 1/8 底部 1/2 | 板状圧痕あり。 |
| 733 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡間土坑内(焚口部) | ①(18.0) ②4.9 ③(12.4) | | 外面摩擦のため調整不明(回転ナデか)、回転ヘラ切り後ナデ。内面摩擦のため調整不明(回転ナデか、回転ナデ後ナデか)。 | A：1mm以下の白色粒子、赤色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外灰2.5Y6/1、内にぶい橙7.5YR7/4。 | 1/4 | 外面にイブシ状。 |
| 734 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①19.0 ②5.9～6.8 ③11.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外灰N4/、内灰N5/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 焼成時割れもあるが調整は丁寧。 外面に付着物あり。 内面に火だすきあり。 高台付近外面に塗黒を呈す。 |
| 735 | 須恵器 | 杯B身 | 3・4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ②5.0 | | 内外面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。B：やや不良。C：内外灰5Y5/1。 | 小片 | 歪みあり。 |
| 736 | 須恵器 | 台付皿 | 3・4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ①(22.8) ②2.9 ③(16.1) | | 外面回転ナデ、回転ナデ・ミガキか、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外灰黄褐10YR5/2、内明赤褐2.5YR5/6。 | 1/6 | 歪みあり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-------|---------------------------------------|--------------------------------|--|---|--|-------------------------|--------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 737 | 須恵器 | 壺蓋 | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①(12.8) ②3.2 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 口縁部 1/2 体部 4/5 | 歪みあり。 調整は丁寧。 漆黒化か。 |
| 738 | 須恵器 | 壺蓋 | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①(15.9) ②4.3 つまみ径2.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 739 | 須恵器 | 壺 | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①(5.2) ②3.3+α | | 外面回転ナデ。内面回転ナデ、シボリ痕・回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、石英を少量含む、微細な長石、黒色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外灰N6/1、内灰N5/。 | 口縁部 1/4 | |
| 740 | 須恵器 | 壺 | 3・4号窯跡灰原6区1層黒色土(灰層) | ①7.8 ②4.1+α | | 外面回転ナデ、回転ナデ・シボリ痕。内面回転ナデ、回転ナデ後斜めにナデ上げる(胴と接合時に) | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。 | 口縁部 完形 | |
| 741 | 須恵器 | 壺 | 3・4号窯跡灰原6区24層 | ①(7.6) ②3.9+α | | 外面回転ナデ、沈線。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/4 | |
| 742 | 須恵器 | 短頸壺 | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ①(10.0) ②13.8+α 最大胴部径(20.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰7.5Y5/1、内灰N5/。 | 1/4 | |
| 743 | 須恵器 | 双耳瓶 | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ②10.2+α ③(11.4) | | 外面ナデ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y6/1～灰N5/、内灰N6/1。 | 胴部 1/6 | |
| 744 | 須恵器 | 鉢 | 3・4号窯跡灰原6区24層黒色土 | ①(12.0) ②5.3 ③(10.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 1/4 | |
| 745 | 須恵器 | 鉢 | 3・4号窯跡灰原6区24層 | ①(23.4) ②17.3 ③(13.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後タテナデ、強いナデ痕。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/4 | |
| 746 | 須恵器 | 甕 | 3・4号窯跡灰原6区24層 | ①(15.4) ②3.3+α | | 内外面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y5/1。 | 1/4 | 外面に降灰あり。 押しつけ痕あり。 |
| 747 | 須恵器 | 甕 | 3・4号窯跡灰原6区汚れた黄色土(2層)(下層黄色土・下層黒色土・黒色土) | ①(38.2) ②8.9+α | | 外面回転ナデ、突帯貼付け。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 口縁部 1/4 | |
| 748 | 須恵器 | 甕 | 3・4号窯跡灰原6区24層 | ①21.0 ②40.0+α 最大胴部径(38.0) | | 外面回転ナデ、格子目タタキ。内面回転ナデ、指オサエナデ、当て具痕。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外褐灰7.5YR6/1、内褐灰10YR6/1。 | 1/3 | 外面に格子目タタキあり。 |
| 749 | 須恵器 | 甕 | 3・4号窯跡灰原6区24層下層黒色土 | ②29.2+α ⑤胴部最大径(37.4) | | 外面回転ナデ、格子目タタキ。内面回転ナデ、当て具痕。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰N7/。 | 頸部～胴部 1/2 | 外面に格子目タタキあり。 |
| 750 | 須恵器 | 蓋 | 3・4号窯跡灰原6区24層黒色土 | ①(14.0) ②1.7+α | | 内外面回転ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N4/。 | 口縁部 1/4 | |
| 751 | 須恵器 | 碗(脚部) | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | ②3.1+α ③(21.2) | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外暗灰N3/、内灰N5/。 | 1/3 | |
| 752 | 須恵器 | 鳥形土製品 | 3・4号窯跡灰原6区下層黒色土 | 長6.6 幅3.7 厚6.4 | | 外面ナデ。 | A：1mm以下の黒色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 小片 | 馬形の可能性あり。 |

表18 70地点5号窯跡出土遺物観察表

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|----|--------------|--------------------------|--|------------------------------------|--|-----|--------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 753 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内6層黒色土 | ①(12.1) ②3.0+α | | 外面回転ヘラ切り後工具ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の石英を少量含む、微細な白色粒子を多量含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/4 | 歪みあり。 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 754 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No15 | ①13.6 ②2.9 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、石英、黒色粒子を少量含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/1。 | 5/6 | 内外面に降灰あり。 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 755 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内1層黒色土 | ①(14.1) ②3.1 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内青灰5PB5/1。 | 5/6 | 歪みあり。 内面に重ね焼き痕あり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|----|-------------------|---------------------------|---|--|------------|--------------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | |
| 756 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡内5層煙道側 | ①14.1 ②3.5 つまみ径1.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：外青灰5PB6/1、内 紫灰5P6/1。 | 完形 | 歪みあり。 口縁部内外面に降灰あり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 757 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内1層黒色土 | ①14.2 ②3.2 つまみ径2.0 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む、 1mm以下の黒色粒子を含む。B： 良好。C：内外灰N5/。 | 完形 | 歪みあり。 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 758 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内6層黒色土 | ①14.2 ②2.9 つまみ径1.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、 1mm以下の白色粒子を含む、微 細な長石を少量含む。B：やや不 良。C：内外灰7.5Y6/1。 | 1/2 | |
| 759 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No.14 | ①14.6 ②2.6 つまみ径2.3 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ、回転ナデ 後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、 1mm以下の白色粒子を含む。B： 良好。C：内外灰N6/1。 | 2/5 | 歪みあり。 内外面に降灰あり。 |
| 760 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内6層黒色土 | ①(14.6) ②2.2+α | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回 転ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、微細 な白色粒子、長石を含む。B：良 好。C：内外灰N6/1。 | 2/5 | 内外面に降灰あり。 つまみ付く。 |
| 761 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内1層黒色土 | ①14.5 ②2.7 つまみ径2.1 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む、 1mm以下の黒色粒子を含む。B： 良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | 歪みあり。 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 762 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No.22 | ①15.0 ②2.4 つまみ径2.5 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ、回転ナデ 後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、 1mm以下の白色粒子を含む、 1mm以下の黒色粒子を少量含 む。B：やや不良。C：外灰N6/1 ～灰白7.5Y8/1、内にふい黄橙 10YR7/2～灰白7.5Y8/1。 | 3/5 | つまみ部に付着物あり。 |
| 763 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No.13 | ①(15.0) ②3.3 つまみ径2.0 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ後ナデ、ナデ。内面回転ナ デ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英少量含む、 1mm以下の白色粒子を少量含 む。B：やや不良。C：内外灰 N6/1。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 764 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡内8層黒色土 | ①16.8 ②3.4 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰N6/。 | 7/8 | 歪みあり。 外面に火だすきあり。 指頭痕あり。 |
| 765 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡内8層黒色土 | ①16.8 ②4.5 つまみ径1.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後板状工具によるナデ。内面 回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、 2mm以下の石英を含む、微細な 長石を少量含む。B：良好。C： 内外灰N5/。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 766 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡内8層黒色土 | ①17.6 ②4.1 つまみ径1.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：外黄灰 2.5Y6/1、内褐灰10YR6/1。 | 完形 | 歪みあり。 板状圧痕あり。 指頭痕あり。 |
| 767 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No.21 | ①(18.7) ②2.6+α | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ。内面回転ナデ、回転ナデ 後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、 1mm以下の白色粒子を含む。B： 不良。C：外灰白2.5Y8/2～灰白 2.5Y7/1、内にふい黄橙 10YR7/2。 | 2/5 | 歪みあり。 |
| 768 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No.30 | ①(19.7) ②1.9+α | 外面回転ヘラケズリ後ナデ、 回転ナデ。内面回転ナデ、回 転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の黒色粒子を含む。 B：不良。C：外灰白10YR8/2、 内浅黄橙10YR8/4。 | 1/4 | つまみ痕あり。 |
| 769 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内床面③ | ①(19.9) ②2.5+α | 外面回転ヘラケズリ後ナデ、 回転ナデ。内面回転ナデ、回 転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の黒色粒子を少量含 む。B：不良。C：内外灰白 2.5Y8/2～黄灰2.5Y6/1。 | 1/4 | |
| 770 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡内焚口手前小溝 | ①(12.7) ②1.3+α | 外面回転ヘラケズリ後ナデ、 回転ナデ。内面回転ナデ、回 転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒 子を含む。B：やや不良。C：内 外黄灰2.5Y6/1。 | 1/4 | |
| 771 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内1層黒色土 | ①14.3 ②2.1 つまみ径1.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後回転ナデ。内面回転ナデ、 回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | |
| 772 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内6層黒色土 | ①(14.8) ②1.4 つまみ径(2.0) | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、 1mm以下の白色粒子を含む、微 細な長石を少量含む。B：やや不 良。C：内外灰N5/。 | 1/4 | 外面に降灰あり。 |
| 773 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No.9、No.12 | ①15.4 ②2.2 つまみ径2.4 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ、回転ヘラケズリ後ナデ。 内面回転ナデ、回転ナデ後ナ デ。 | A：3mm以下の石英を少量含む。 B：良好。C：内外灰N6/。 | 5/6 | 焼成時割れあり。 |
| 774 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡内焚口手前小溝 | ①(15.0) ②0.9+α | 外面回転ヘラケズリ後ナデ、 回転ナデ。内面回転ナデ、回 転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の黒色粒子を少量含 む。B：良好。C：外灰N5/、内 灰N6/。 | 口縁部 1/4 | 歪みあり。 |
| 775 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No.12 | ①(15.2) ②1.4 つまみ径1.7 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後回転ナデ。内面回転ナデ、 回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/8 | 歪みあり。 |
| 776 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡床面No.4 | ①15.2 ②1.6 つまみ径2.1 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ後ナデ。内面回転ナデ、回 転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：内外灰白 5Y7/1。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|----------------|--------------------------|--|--|---|-------------------------|------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 777 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No19 | ①15.4 ②1.9 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰7.5Y6/1、内灰白7.5Y7/1。 | 3/5 | |
| 778 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内28～30直下 | ①15.7 ②1.7 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：6mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 天井部 完形 口縁部 3/4 | |
| 779 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No9 | ①(16.1) ②1.7 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/3 | |
| 780 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No25 | ①(16.4) ②1.4 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/3 | |
| 781 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No18 | ①(16.3) ②1.2+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ナデ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰白N7/、内灰白7.5Y7/1。 | 2/5 | つまみ痕あり。 |
| 782 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡内8層黒色土 | ①16.9 ②1.8 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 783 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No8 | ①19.1 ②1.8 つまみ径2.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰白N7/。 | ほぼ完形 | |
| 784 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No28 | ①19.4 ②1.6 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰5Y6/1、内灰白5Y7/1。 | 天井部 完形 口縁部 1/2 | |
| 785 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No11 | ①(19.9) ②2.4 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ、板状工具によるナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰10Y6/1。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 786 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No26 | ①20.1 ②2.5 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外浅黄2.5Y7/3、内黄灰2.5Y7/2。 | 1/2 | |
| 787 | 須恵器 | 杯蓋 | 5号窯跡窯体内No24 | ①(20.3) ②1.4+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰白7.5Y8/1、内灰白N7/。 | 1/3 | |
| 788 | 須恵器 | 杯A | 5号窯跡窯体内1層黒色土 | ①13.2 ②3.4 ③9.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 2/3 | |
| 789 | 須恵器 | 杯A | 5号窯跡窯体内1層黒色土 | ①13.6 ②3.6 ③9.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰5Y6/1、内褐灰10YR6/1。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 790 | 須恵器 | 杯A | 5号窯跡内1～7層金 | ①14.0 ②3.8 ③9.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：不良。C：外灰白2.5Y7/1、内灰白10YR8/2。 | 完形 | |
| 791 | 須恵器 | 杯B身 | 5号窯跡内8層黒色土 | ①13.9 ②3.6～3.8 ③8.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：内外灰N5/。 | 3/4 | 外面一部降灰あり。 |
| 792 | 須恵器 | 杯B身 | 5号窯跡窯体内1層黒色土 | ①14.0 ②3.8～4.2 ③8.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 簾状圧痕あり。 |
| 793 | 須恵器 | 杯B身 | 5号窯跡窯体内7層黒褐色土 | ①(14.4) ②5.0 ③(9.4) | | 外面回転ナデ、ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の石英を少量含む。B：不良。C：外灰白2.5Y8/1、内灰白2.5Y8/2。 | 1/4 | 板状圧痕あり。 |
| 794 | 須恵器 | 杯B身 | 5号窯跡内8層黒色土 | ①16.9 ②4.7～5.0 ③9.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内黄灰2.5Y6/1。 | 完形 | 歪みあり。 簾状圧痕あり。 |
| 795 | 須恵器 | 杯B身 | 5号窯跡窯体内1層黒色土 | ①16.2 ②4.9～5.5 ③9.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。B：やや不良。C：内外褐灰10YR6/1。 | 3/4 | 歪みあり。 簾状圧痕あり。 |
| 796 | 須恵器 | 皿 | 5号窯跡窯体内1層黒色土 | ①(10.6) ②1.9 ③7.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N6/。 | 1/3 | |
| 797 | 須恵器 | 皿 | 5号窯跡窯体内1層黒色土 | ①(17.6) ②3.5+α ③(14.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外褐灰10YR5/1、内にぶい黄橙10YR7/2。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 798 | 須恵器 | 皿 | 5号窯跡窯体内1層黒色土 | ①(18.0) ②3.0 ③(14.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰5Y6/1。 | 1/4 | 歪みあり。 |

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|----|---------------|--------------------------|--|---|--|-------------------|------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 799 | 須恵器 | 皿 | 5号窯跡窯体内No29 | ①(18.8) ②2.5 ③(14.9) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰5Y6/1。 | 1/4 | 歪みあり。外面に重ね焼き痕あり。 |
| 800 | 須恵器 | 皿 | 5号窯跡窯体内床面⑤ | ①(20.4) ②2.4 ③(16.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外褐灰10YR6/1。 | 1/4 | 板状圧痕あり。 |
| 801 | 須恵器 | 皿 | 5号窯跡窯体内7層黒褐色土 | ①(21.0) ②2.9 ③(18.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰白N7/、内オリブ灰2.5GY6/1。 | 口縁部 1/2 底部 1/4 | 歪みあり。 |
| 802 | 須恵器 | 皿 | 5号窯跡窯体内床面② | ①(19.6) ②2.0 ③(14.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/6 | |
| 803 | 須恵器 | 皿 | 5号窯跡窯体内No10 | ①(20.0) ②2.2 ③(16.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰白7.5Y7/1。 | 1/3 | 歪みあり。内面に火だすきあり。 |

表19 70地点6号窯跡出土遺物観察表

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|-----|----------|--------------------------|--|-----------------------------------|---|---------|----|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 804 | 須恵器 | 杯蓋 | 6号窯跡窯体内 | ①(18.0) ②1.7+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を多量含む、1mm以下の石英を含む。B：やや不良。C：内外灰N6/1。 | 1/8 | |
| 805 | 須恵器 | 杯B身 | 6号窯跡前庭左側 | ②1.1+α ③(8.2) | | 外面摩滅のため調整不明、回転ナデ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を多量含む、1mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰白5Y7/1。 | 底部 1/4 | |
| 806 | 須恵器 | 杯 | 6号窯跡前庭左側 | ①(14.4) ②3.3+α | | 内外面回転ナデ。 | A：微細な白色粒子を含む、微細な黒色粒子を少量含む。B：良好。C：外灰5Y5/1、内灰白5Y7/2。 | 口縁部 1/8 | |
| 807 | 須恵器 | 皿 | 6号窯跡前庭左側 | ①(22.4) ②2.5+α ③(19.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を多量含む、1mm以下の石英を含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。 | 1/8 | |

表20 70地点SX01出土遺物観察表

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|--------|---------------|---------------------------------------|--|--|---|---------------------|--------------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 808 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(01下側) | ①(11.4) ②2.1 つまみ径1.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の石英を少量含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/1。 | 1/5 | 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 809 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(01下側) | ①(11.8) ②2.1+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：外灰N6/1、内灰5Y6/1。 | 2/5 | 歪みあり。内面に降灰あり。 |
| 810 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(01下側) | ①12.1 ②1.8 つまみ径1.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 811 | 須恵器 | 杯蓋・杯B身 | SX01黒色土(01下側) | 蓋：①(12.4) ②3.0 つまみ径1.6 杯：②1.7+α | | 蓋：外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。 杯：内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：8mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：外灰7.5Y5/1、内蓋：灰N4/、杯：灰7.5Y5/1。 | 杯蓋 1/3 杯B身 底部 完形 | 杯B身にヘラ記号あり。杯蓋外面に重ね焼き痕あり。杯蓋と杯B身が2枚癒着。 |
| 812 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(下側) | ①(13.4) ②2.6 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 813 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(01下側) | ①(14.0) ②4.6 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む、2mmの石英を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外灰N6/1、内灰N5/。 | 2/5 | 歪みあり。内面に重ね焼き痕あり。外面に降灰あり。 |

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | 形態・技法の特徴 | A:胎土 B:焼成 C:色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|----|------------------------------|--------------------------------------|---|--|-------------------------|----------------------------------|
| 814 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(下側) | ①(14.6) ②2.7+α | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を含む。 B:良好。C:外灰白2.5Y7/1、 内灰N6/。 | 口縁部 1/6 | 歪みあり。 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 815 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(01下側) | ①(14.3) ②3.0+α | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の石英を含む、 1mm以下の白色粒子を含む、 微細な長石を少量含む。B:やや不良。 C:内外灰N6/1。 | 1/8 | 歪みあり。 外面に降灰あり。 |
| 816 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(01下側) | ①(14.2) ②3.7 つまみ径2.2 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:3mm以下の石英を含む、 1mm以下の白色粒子を含む、 微細な長石を含む。B:良好。C: 内外黄灰2.5Y5/1。 | 2/5 | 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 817 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(01下側) | ①(14.7) ②3.6 つまみ径2.1 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B:良好。C:内外灰N6/。 | 口縁部 1/3 | 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 818 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(01下側) | ①(15.5) ②2.8 つまみ径1.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の石英を少量含む、 1mm以下の白色粒子を含む、 微細な長石を少量含む。B:やや不良。 C:内外灰N6/1。 | 1/3 | |
| 819 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(01下側) | ①(17.2) ②1.9+α | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ヘラケズリ、回転ナデ後ハケ状のナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を含む、 1mm以下の石英を少量含む、 微細な長石を少量含む。B:やや不良。 C:内外灰黄2.5Y7/2。 | 1/6 | ヘラ記号あり。 つまみ剥離あり。 |
| 820 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(下側) | ①(17.6) ②2.6 つまみ径2.1 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を含む。 B:良好。C:外褐灰7.5YR6/1、 内灰N6/。 | 1/3 | 内外面に重ね焼き痕あり。 |
| 821 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土層 | ①18.2 ②3.9 つまみ径2.2 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を少量含む。 B:良好。C:外灰 7.5Y6/1、内灰N6/。 | 3/4 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 822 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01+SX01黒色土(01下側) | ①23.3 ②3.0 つまみ径2.2 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B:良好。C:内外灰N6/。 | 1/2 | |
| 823 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(01下側)+SX01黄色土(黒色土下層) | ①25.4 ②3.4 つまみ径2.2 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ナデ後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子、石英を多量含む、 2mm以下の黒色粒子を含む。B:良好。C:内外黄灰 2.5Y6/1。 | 5/6 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 内外面に火だすきあり。 |
| 824 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(下側) | ①12.5 ②1.1 つまみ径1.6 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を含む。 B:やや不良。C:外灰白 2.5Y7/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 完形 | |
| 825 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(01下側) | ①14.2 ②1.7+α つまみ径1.6 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:3mm以下の石英、白色粒子を含む。B:良好。C:内外灰 7.5Y6/1。 | 1/2 | |
| 826 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(下側) | ①15.5 ②1.6 つまみ径2.1 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を多量含む。B:良好。C:内外灰N6/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 827 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黄色土層 | ①15.9 ②1.5 つまみ径2.4 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:3mm以下の白色粒子を含む。B:やや不良。C:内外灰 5Y6/1。 | ほぼ完形 | |
| 828 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(下側) | ①15.7 ②1.7 つまみ径2.0 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を含む。B:やや不良。C:内外灰白 5Y7/1。 | 7/8 | 歪みあり。 |
| 829 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01土器集積部黒色土最下層 | ①16.0 ②1.7 つまみ径1.9 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を含む。B:良好。C:外灰10Y6/1、内灰 7.5Y6/1。 | 完形 | |
| 830 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(下側) | ①18.1 ②1.5 つまみ径1.8 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:3mm以下の白色粒子を含む。B:やや不良。C:外灰黄 2.5Y7/2、内灰白2.5Y7/1。 | 2/3 | |
| 831 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(01下側) | ①(18.4) ②2.3 つまみ径2.0 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を含む。B:良好。C:内外灰7.5Y6/1。 | 1/6 | |
| 832 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黒色土(下側) | ①19.4 ②2.1 つまみ径2.5 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:1mm以下の白色粒子を含む。B:やや不良。C:内外橙 5YR6/6。 | 1/2 | 歪みあり。 簾状圧痕あり。 |
| 833 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01 | ①19.6 ②1.4 つまみ径2.2 | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:2mm以下の白色粒子を少量含む。B:やや不良。C:内外灰 7.5Y5/1。 | 天井部 完形 口縁部 3/4 | |
| 834 | 須恵器 | 杯蓋 | SX01黄色土層 | ①21.3 ②2.1 つまみ径3.0 | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A:3mm以下の白色粒子を含む。B:やや不良。C:内外黄灰 2.5Y6/1。 | 1/2 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 外面に重ね焼き痕あり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|----------------------|---------------------------------|--|--|---|--------------------------------|---------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 835 | 須恵器 | 杯A | SX01 | ①(11.0) ②2.5 ③(6.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外灰5Y6/1、内灰5Y5/1。 | 1/3 | |
| 836 | 須恵器 | 杯A | SX01黒色土(01下側) | ①(12.4) ②3.5 ③(8.9) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/3 | 内外面に火だすきあり。 |
| 837 | 須恵器 | 杯A | SX01黒色土(01下側) | ①(13.4) ②3.5 ③(10.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む。2mm以下の黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 1/3 | |
| 838 | 須恵器 | 杯A | SX01黒色土(01下側) | ①(13.2) ②3.2 ③(9.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | 外面に火だすきあり。 |
| 839 | 須恵器 | 杯A | SX01黒色土(01下側) | ①14.0 ②3.0 ③9.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後工具によるナデ。内面回転ナデ。 | A：5mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 口縁部 1/3 底部 完形 | 簾状圧痕あり。 |
| 840 | 須恵器 | 杯A | SX01+SX01黒色土層 | ①13.3 ②3.7 ③10.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 4/5 | 簾状圧痕あり。 |
| 841 | 須恵器 | 杯A | SX01黒色土(01下側) | ①(14.0) ②3.3 ③(9.0) | | 外面回転ナデ、摩滅のため調整不明。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外淡黄2.5Y8/3、内黄灰2.5Y6/1。 | 1/4 | 内面に火だすきあり。 |
| 842 | 須恵器 | 杯A | SX01黒色土層 | ①14.6 ②3.4 ③9.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後工具ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ハケ状のナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰7.5Y6/1。 | 口縁部 1/2 | |
| 843 | 須恵器 | 杯d | SX01+SX01黒色土層 | 上：①(14.2) ②4.6 ③8.4 下：②4.2+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：5mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：上：内外灰N6/、下：外暗灰N3/。 | 上：口縁部 1/2、底部完 形 下：1/4 | 杯2枚重なる。 上の杯内外面に火だすきあり。 |
| 844 | 須恵器 | 杯d | SX01+SX01土器集積部黒色土最下層 | ①(14.9) ②3.9 ③7.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/2 | 内外面に火だすきあり。 |
| 845 | 須恵器 | 杯d | SX01黄色土層(黒色土下層) | ①(15.0) ②4.0 ③7.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内青灰5PB6/1。 | 1/4 | 歪みあり。 内外面に火だすきあり。 |
| 846 | 須恵器 | 杯d | SX01 | ①15.6 ②3.6 ③7.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 1/3 | 内外面に火だすきあり。 |
| 847 | 須恵器 | 杯d | SX01黒色土層 | ①(16.4) ②3.9 ③(7.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む。B：やや不良。C：外灰5Y6/1～灰5Y4/1、内灰5Y5/1～赤褐2.5YR4/6。 | 1/4 | |
| 848 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黄色土層(黒色土下層) | ①11.3 ②3.8～4.0 ③6.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰白N7/、内灰N6/。 | 3/4 | |
| 849 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(01下側) | ①11.7 ②3.3～3.5 ③6.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰5Y4/1、内灰5Y5/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 |
| 850 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(01下側) | ①(11.6) ②3.7 ③(7.3) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外暗灰N3/。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 851 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(01下側) | ①(12.5) ②4.0 ③7.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。 | 口縁部 1/6 底部 完形 | 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 852 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(01下側) | ①(13.2) ②3.8 ③(8.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 1/4 | |
| 853 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(01下側) | ①13.6 ②4.0 ③8.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石を含む。B：やや不良。C：内外灰5Y5/1。 | 口縁部 3/4 底部 完形 | 高台に圧痕あり。 |
| 854 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黄色土層(黒色土下層) | ①13.2 ②4.1～4.2 ③8.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰白N7/、内灰N6/。 | 3/4 | 歪みあり。 内外面に火だすきあり。 |
| 855 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黄色土(黒色埋土下層) | ①13.7 ②3.7 ③9.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰5Y6/1、内灰白5Y7/1。 | 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 856 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(01下側) | ①(13.4) ②4.3 ③(8.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の黒色粒子、白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 1/4 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|-----------------|--------------------------|--|---|---|------------------------|-------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 857 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(01下側) | ①(13.0) ②3.6 ③(7.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/3 | 高台に棒状圧痕あり。 |
| 858 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(01下側) | ①13.6 ②3.6~3.7 ③8.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mmの白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | | ほぼ完形 焼成時割れあり。 |
| 859 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黄色土(黒色埋土下層) | ①13.9 ②3.4~3.8 ③8.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。 | 口縁部 3/4 | |
| 860 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(01下側) | ①13.7 ②3.7~3.8 ③8.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰5Y5/1。 | | ほぼ完形 歪みあり。 |
| 861 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(01下側) | ①(14.0) ②3.8 ③(8.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰2.5Y6/1。 | 1/4 | |
| 862 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黄色土(黒色埋土下層) | ①14.9 ②4.2~4.3 ③8.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2。 | | 完形 焼成時割れあり。 |
| 863 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(下側) | ①16.2 ②5.9~6.1 ③9.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、2mm以下の黒色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰5Y6/1。 | 口縁部 1/3 底部 完形 | |
| 864 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(01下側) | ①(16.2) ②5.8 ③(10.2) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰5Y5/1、内灰白2.5Y7/1。 | 口縁部 1/8 底部 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 865 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黄色土(黒色土下層) | ①(17.2) ②5.0 ③(11.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外橙7.5YR7/6。 | 1/2 | |
| 866 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黄色土層(黒色土下層) | ①(16.9) ②5.5 ③9.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：不良。C：内外灰白10YR8/2。 | 1/3 | |
| 867 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(下側) | ①16.3 ②4.4~4.7 ③10.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 口縁部 3/4 底部 完形 | 簾状圧痕あり。 |
| 868 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黄色土層(黒色土下層) | ①17.8 ②4.6~5.2 ③10.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外灰白2.5Y7/1、内灰黄2.5Y7/2。 | | ほぼ完形 歪みあり。 |
| 869 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黄色土層(黒色土下層) | ①(17.3) ②5.2 ③(10.4) | | 外面摩滅のため調整不明(回転ナデか)、回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面摩滅のため調整不明(回転ナデか、回転ナデ後ナデか) | A：2mm以下の白色粒子、雲母、石英を含む。B：不良。C：内外橙7.5YR7/6。 | 1/3 | 歪みあり。 |
| 870 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黒色土(01下側) | ①(18.4) ②5.5 ③(12.4) | | 外面回転ナデ、ヘラ切り後ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰5Y5/1。 | 1/4 | 高台に圧痕あり。 |
| 871 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黄色土層(黒色土下層) | ①18.0 ②5.3 ③10.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：やや不良。C：内外灰白2.5Y7/1。 | | ほぼ完形 |
| 872 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黄色土層(黒色土下層) | ①17.9 ②5.7~6.1 ③12.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰2.5Y7/2。 | | ほぼ完形 歪みあり。 |
| 873 | 須恵器 | 杯B身 | SX01黄色土(黒色土下層) | ①(21.2) ②6.0 ③(14.6) | | 外面棒状工具による研磨状の回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面棒状工具による研磨状の回転ナデ、摩滅のため調整不明(棒状工具による研磨状の回転ナデか) | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：内外橙5YR7/8。 | 1/2 | 赤焼き。 |
| 874 | 須恵器 | 皿 | SX01黒色土(01下側) | ①(13.8) ②2.0 ③(10.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰5Y6/1、内灰白N7/。 | 1/3 | 内外面に火だすきあり。 |
| 875 | 須恵器 | 皿 | SX01黒色土(01下側) | ①14.2 ②2.1 ③11.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰7.5Y6/1。 | 1/2 | 歪みあり。 |
| 876 | 須恵器 | 皿 | SX01黒色土(01下側) | ①(14.4) ③3.0+α ③(12.3) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 口縁部 1/3 | 歪みあり。 |
| 877 | 須恵器 | 皿 | SX01黒色土(01下側) | ①14.5 ②2.6+α ③12.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外褐灰10YR6/1、内黄灰2.5Y6/1。 | 3/4 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|-------------------------------------|--|--|--|---|------------------------|---------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 878 | 須恵器 | 皿 | SX01 | ①14.5 ②2.2 ③11.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰10Y5/1。 | 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 879 | 須恵器 | 皿 | SX01黄色土層(黒色土下層) | ①14.8 ②2.1 ③12.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を多量含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1～灰N5/。 | 2/3 | |
| 880 | 須恵器 | 皿 | SX01黄色土(黒色土下層) | ①14.8 ②2.1 ③12.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外橙5YR6/6～にぶい橙7.5YR6/4、内橙5YR6/6～にぶい黄橙10YR7/3。 | ほぼ完形 | 外面に火だすきあり。外底面工具痕あり。 |
| 881 | 須恵器 | 皿 | SX01黒色土(01下側) | ①14.7 ②2.1 ③11.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 |
| 882 | 須恵器 | 皿 | SX01黒色土(01下側) | ①(15.0) ②3.3 ③(12.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内灰N5/～灰N4/。 | 1/3 | 歪みあり。内外面に降灰あり。 |
| 883 | 須恵器 | 皿 | SX01黒色土(01下側) | ①(17.6) ②1.7 ③(14.1) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：微細な白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 1/4 | 外面に火だすきあり。 |
| 884 | 須恵器 | 皿 | SX01黄色土層(黒色土下層) | ①18.4 ②3.0 ③16.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を多量含む、2mm以下の石英を含む、1mm以下の黒色粒子を多量含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 |
| 885 | 須恵器 | 皿 | SX01黒色土(01下側) | ①(18.6) ②1.9 ③(14.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、赤色粒子、長石を含む。B：不良。C：内外にぶい橙7.5YR7/4～にぶい黄橙10YR7/2。 | 1/3 | 歪みあり。 |
| 886 | 須恵器 | 皿 | SX01黄色土層 | ①19.4 ②2.6 ③16.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の黒色粒子、白色粒子を含む。B：不良。C：内外浅黄2.5Y7/3。 | 4/5 | |
| 887 | 須恵器 | 皿 | SX01黄色土層(黒色土下層) | ①19.5 ②2.8 ③16.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 5/6 | |
| 888 | 須恵器 | 皿 | SX01黒色土(01下側) | ①19.8 ②2.3 ③16.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰7.5Y5/1、内灰7.5Y6/1。 | 2/3 | 歪みあり。 |
| 889 | 須恵器 | 台付皿 | SX01黒色土層 | ①(22.8) ②3.4 ③(16.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内灰N5/。 | 1/3 | 歪みあり。 |
| 890 | 須恵器 | 高杯 | SX01黒色土(下側) | ②12.9+ α 脚部径12.4 | | 外面回転ナデ、シボリ痕・回転ナデ。内面回転ナデ、シボリ痕・回転ナデ、ナデ。 | A：5mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 脚部 1/2 | |
| 891 | 須恵器 | 高杯 | SX01黒色土層 | ②13.2+ α 脚部径13.6 | | 外面回転ナデ、回転ナデ・シボリ痕。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N4/。 | 脚部のみ | |
| 892 | 須恵器 | 短頸壺 | SX01黄色土層(黒色土下層) | ①10.9 ②14.7～15.2 ③9.7 最大胴部径21.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外暗赤灰7.5R4/1、内灰N6/。 | 3/4 | 歪みあり。焼成時割れあり。 |
| 893 | 須恵器 | 短頸壺 | SX01、SX01黒色土、SX01黒色土層、SX01黒色土(01下側) | ②14.7+ α 最大胴部径18.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後指ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内褐灰7.5YR6/1。 | 胴部 2/3 | 外面に一部降灰あり。 |
| 894 | 須恵器 | 瓶 | SX01黒色土(下側) | ①(9.2) ②2.1+ α | | 内外面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外褐灰10YR4/1、内灰N6/。 | 口縁部 1/6 | |
| 895 | 須恵器 | 瓶 | SX01黒色土(下側) | ①(7.0) ②3.7+ α | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外褐灰7.5YR5/1、内黄灰2.5Y6/1。 | 口縁部 1/4 | 内面に降灰あり。 |
| 896 | 須恵器 | 瓶 | SX01黒色土 | ②15.7+ α 最大胴部径17.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、指オサエ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：内外灰N5/。 | 胴部 3/5 | |
| 897 | 須恵器 | 短頸壺 | SX01黒色土(下側) | ②19.2+ α ③(15.0) 最大胴部径(26.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後指によるタテナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 胴部 1/8 底部 1/2 | 簾状圧痕あり。 |
| 898 | 須恵器 | 鉢 | SX01黒色土(下側)、SX01黄色土(黒色土下層) | ②19.2+ α ③13.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後タテナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外褐灰10YR6/1、内灰5Y6/1。 | 胴部～底部 1/2 | |
| 899 | 須恵器 | 甕 | SX01黒色土層 | ①20.9 ②24.4+ α 最大胴部径(36.0) | | 外面回転ナデ、格子目タタキ。内面回転ナデ、ナデ、当て具痕。 | A：3mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内褐灰10YR6/1。 | 口縁部～胴部 1/3 | 外面に格子目タタキあり。 |

表21 70地点SX02出土遺物観察表

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|-----|------|--------------------------|--|--|--|------------------------|----------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 900 | 須恵器 | 杯蓋 | SX02 | ①6.3 ②1.1 つまみ径1.0 | | 外面回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰N6/1、内灰白N7/。 | 3/4 口縁の一部を欠く | 歪みあり。 外面に重ね焼き痕あり。 |
| 901 | 須恵器 | 杯蓋 | SX02 | ①11.9 ②2.9 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰N6/1。 | 1/3 | 歪みあり。 |
| 902 | 須恵器 | 杯蓋 | SX02 | ①13.9 ②4.4 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な金雲母を少量含む。B：やや不良。C：内外灰N6/1。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 903 | 須恵器 | 杯蓋 | SX02 | ①15.3 ②2.3 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。 | 2/3 | |
| 904 | 須恵器 | 杯蓋 | SX02 | ①16.0 ②3.7 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/1。 | 完形 | 歪みあり。 内外面に降灰あり。 |
| 905 | 須恵器 | 杯B身 | SX02 | ①11.8 ②3.4~3.7 ③6.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰5Y6/1。 | 口縁部 1/2 底部 完形 | 高台に圧痕あり。 |
| 906 | 須恵器 | 杯B身 | SX02 | ①13.2 ②3.8~3.9 ③8.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰10Y5/1。 | 完形 | 歪みあり。 高台に工具痕あり。 ツメ状のアタリあり。 |
| 907 | 須恵器 | 杯B身 | SX02 | ①(14.0) ②3.9 ③(8.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外青灰5BG5/1、内灰7.5Y6/1。 | 1/4 | |
| 908 | 須恵器 | 杯B身 | SX02 | ①(16.4) ②5.8 ③9.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の長石を含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 口縁部 1/2 底部 完形 | |
| 909 | 須恵器 | 杯B身 | SX02 | ①16.9 ②5.1~5.8 ③10.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り後未調整。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰5Y6/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 910 | 須恵器 | 杯B身 | SX02 | ①20.9 ②7.2~7.8 ③11.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り。内面回転ナデ、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、長石、黒色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰白5Y7/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 簾状圧痕あり。 |
| 911 | 須恵器 | 皿 | SX02 | ①18.2 ②2.8 ③14.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具によるナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後板状工具によるナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/2 | |
| 912 | 須恵器 | 高杯 | SX02 | ②13.1+α 脚部径12.6 | | 内外面回転ナデ・シボリ痕 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：良好。C：外灰白5Y7/1、内灰白N7/。 | 脚部 5/6 | |
| 913 | 須恵器 | 壺蓋 | SX02 | ②2.6+α | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 小片 | |
| 914 | 須恵器 | 瓶 | SX02 | ②8.6+α ③(12.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、板状工具によるナデ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰白2.5Y7/1、内灰白5Y7/1。 | 底部 1/2 | |
| 915 | 須恵器 | 甕 | SX02 | ①(19.6) ②6.1+α | | 外面回転ナデ、格子目タタキ。内面回転ナデ、当て具痕。 | A：1mm以下の白色粒子、長石、雲母を含む。B：不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 口縁部 1/4 | 外面に格子目タタキあり。 |

表22 70地点SP出土遺物観察表

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|-----|------|--------------------------|--|--|---|------|----------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 916 | 須恵器 | 杯A | SP03 | ①14.4 ②3.6 ③11.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後工具ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内浅黄2.5Y7/3。 | ほぼ完形 | 焼成時割れあり。 |
| 917 | 須恵器 | 杯B身 | SP03 | ①(13.6) ②4.0 ③(9.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の黒色粒子を少量含む。B：不良。C：外灰白10YR8/2、内灰白2.5Y8/2。 | 1/4 | |

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|-----|------------|---------------------------------------|--|-------------------------------------|---|-----------|-------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 918 | 須恵器 | 長頸壺 | SP03 | ②12.8+ α ③(9.2) 最大胴部径(20.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外灰7.5Y6/1、内灰N5/。 | 1/4 | |
| 919 | 須恵器 | 杯B身 | SP04 | ①13.0 ②3.7 ③8.4 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内灰黄2.5Y6/1。 | 完形 | 焼成時割れあり。 |
| 920 | 須恵器 | 杯蓋 | SP06 | ①13.5 ②3.6 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を少量含む。B：不良。C：内外灰白2.5Y8/2。 | 5/6 | つまみ部に工具痕あり。 |
| 921 | 須恵器 | 杯A | SP06 | ①(14.4) ②3.4 ③(11.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：不良。C：内外浅黄2.5Y7/3。 | 1/3 | 焼成時割れあり。 |
| 922 | 須恵器 | 皿 | SP06 | ①(21.8) ②3.1 ③(18.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内浅黄2.5Y7/3。 | 1/3 | 内面に火だすきあり。 |
| 923 | 須恵器 | 高杯 | SP06 | ②1.6+ α 脚部径(14.0) | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：外暗黒N3/、内灰7.5Y6/1。 | 底部 1/4 | 外面に降灰あり。 |
| 924 | 須恵器 | 壺 | SP06 | ①(12.0) ②2.8+ α | | 内外面回転ナデ。 | A：微細な白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内黄灰2.5Y6/1。 | 1/5 | |
| 925 | 須恵器 | 長頸壺 | SP06 | ②4.7+ α 最大胴部径(20.2) | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰7.5Y5/1、内灰白7.5Y7/1。 | 1/8 | |
| 926 | 須恵器 | 高杯 | 谷部下層汚れた黄色土 | ②10.7+ α 脚部径(10.8) | | 外面シボリ痕・回転ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、シボリ痕。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰5Y6/1、内灰N5/。 | 脚部 1/3 | |
| 927 | 須恵器 | 双耳瓶 | 谷部下層汚れた黄色土 | ②9.3+ α ③(11.6) | | 外面回転ヘラケズリ、指オサエ・ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、石英を含む。B：不良。C：外灰5Y6/1、内灰黄2.5Y7/2。 | 底部 1/2 | 外面に把手一部残存か。 |

表23 70地点1・2号窯跡出土遺物観察表

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|----|-------------------|--------------------------|--|-----------------------------------|--|------------|-------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 928 | 須恵器 | 甕 | 1・2号窯跡間谷部掘下げ+SX02 | ①(20.8) ②8.6+ α | | 外面回転ナデ、ナデ、格子目タタキ。内面回転ナデ、同心円状当て具痕。 | A：4mm以下の石英を多量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰N5/、内灰N6/1。 | 口縁部 1/2 | 外面に格子目タタキあり。内面頸部に工具痕あり。 |

表24 71地点出土遺物観察表

| 遺物番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|------|-----|----|--------------------------|---------------------------------|--|---|---|------|-----------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 929 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡窯体内床面上(図面内皿上にかぶせてあり) | ①14.0 ②3.5 ③8.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を少量含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/2 | |
| 930 | | 焼台 | 窯体内床面 | 長12.0 幅8.1+ α 厚4.5 | | 内外面指オサエ。 | A：7mm以下の石英を多量含む、4mm以下の白色粒子を多量含む。C：外灰白2.5Y7/1(高熱による白色化、一部黒灰色)。 | 1/2 | |
| 931 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焚口出土 | ①15.1 ②1.8 | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む、微細な金雲母を含む。B：良好。C：内外灰白7.5Y7/1。 | ほぼ完形 | |
| 932 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡窯体陥没穴中土埋土 | ①15.0 ②1.5 つまみ径2.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：5mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N4/、内黄灰2.5Y5/1。 | 4/5 | 歪みあり。外面に別個体の残片付着あり。 |
| 933 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡焚口右側焼台土 | ①15.1 ②3.1 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の黒色粒子、白色粒子を含む。微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。 | 1/2 | 歪みあり。つまみ付近は粘土ヒモ痕よく残る。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|-------------------------------|--------------------------|--|--|--|-------------------------|----------------------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 934 | 須恵器 | 杯身 | 1号窯跡窯体内(窯壁崩落土中 窯体内土層図No.3) | ①14.0 ②3.7~4.0 ③8.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：2.5mm以下の石英を少量含 む、1mm以下の白色粒子、黒色 粒子を含む、微細な長石を含 む。B：良好。C：内外灰白 7.5Y7/1。 | 3/5 | |
| 935 | 須恵器 | 杯身 | 窯体内焚口部埋土中 | ①(18.0) ②5.8 ③(10.6) | | 内外面回転ナデ、摩滅のため 調整不明。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、 微細な金雲母を含む。B：不良。 C：外黄灰2.5Y4/1、内淡黄 2.5Y8/3。 | 口縁部 1/8 底部 1/6 | |
| 936 | 須恵器 | 皿 | 1号窯跡焚口出土 | ①14.6 ②2.2 ③12.4 | | 内外面摩滅のため調整不明。 | A：2mm以下の石英を少量含む、 1.5mm以下の褐色粒子を多量含 む、1mm以下の白色粒子を含 む、微細な長石を含む。B：不 良。C：外黄灰2.5Y6/1、内淡黄 2.5Y8/3。 | 底部 ほぼ完形 | |
| 937 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡前庭左側土坑下層黒色 土出土 | ①(14.9) ②1.9+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回 転ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を多量含 む。B：不良。C：内外橙 5YR6/6。 | 1/4 | 歪みあり。 つまみ剥離あり。 |
| 938 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡前庭右No.2 | ①14.9 ②3.2 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰オリーブ 5Y6/2。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 939 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡前庭4層掘込土中 | ①(15.0) ②2.6+α | | 外面回転ヘラケズリ後ハケ状 工具痕、回転ヘラケズリ、回 転ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：外灰黄 2.5Y6/2、内黄灰2.5Y6/1。 | 1/3 | |
| 940 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡前庭部中央遺物集中地 点 | ①(14.3) ②4.1 ③(8.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：外灰5Y6/1、 内灰黄2.5Y6/2。 | 1/4 | |
| 941 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡前庭部中央遺物集中地 点 | ①(13.6) ②4.0 ③(8.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、黒色粒 子を少量含む。B：良好。C：内 外灰黄2.5Y7/2。 | 1/3 | |
| 942 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡前庭4層掘込土中 | ①(14.4) ②4.2 ③ (9.1) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、摩滅 のため調整不明。 | A：微細な長石を含む。B：やや 不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 1/3 | |
| 943 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡前庭4層掘込土中 | ①14.1 ②3.6~3.7 ③9.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ後ナデ。内面回転ナデ、回 転ナデ後ナデ。 | A：微細な雲母を含む。B：良 好。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 口縁部 3/4 | 焼成時割れあり。 板状圧痕あり。 |
| 944 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡前庭部中央遺物集中地 点 | ①(13.8) ②3.6 ③(9.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：内外灰 5Y5/1。 | 1/2 | |
| 945 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡前庭4層掘込土中 | ①14.0 ②3.8~4.1 ③8.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ後回転ナデ、回転ナデ、回 転ヘラ切り後ナデ。内面回転 ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：微細な長石を含む。B：良 好。C：外灰5Y6/1、内灰黄 2.5Y6/2。 | 口縁部 3/4 | 焼成時割れあり。 |
| 946 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡前庭4層掘込土中 | ①(14.2) ②4.1 ③(8.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズ リ後ナデ。内面回転ナデ、回 転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含 む、微細な長石を少量含む。B： やや不良。C：外灰白2.5Y7/1、 内灰黄2.5Y7/2。 | 1/2 | 板状圧痕あり。 |
| 947 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡前庭右No.1 | ①13.4 ②3.7~3.9 ③9.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。 B：良好。C：内外灰N6/。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 948 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡前庭左側No.1 | ①13.8 ②4.1 ③9.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後雑なナデ。内面回転ナデ、 ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を多量含 む。B：良好。C：内外灰 5Y5/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |
| 949 | 須恵器 | 皿 | 1号窯跡前庭左側土坑下層黒色 土出土 | ①(18.2) ②1.9 ③(14.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を含む、 微細な長石を少量含む。B：良 好。C：内外灰N6/。 | 1/6 | |
| 950 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原7区 | ①(11.9) ②1.8 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後未調整。内面回転ナデ、回 転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含 む。B：良好。C：内外灰 7.5Y5/1。 | 1/2 | |
| 951 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原5区 | ①12.8 ②1.9 つまみ径1.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：2.5mm以下の白色粒子を含 む、微細な長石を少量含む。B： やや不良。C：内外にふい掲 7.5YR6/3。 | 3/5 | 歪みあり。 |
| 952 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区 | ①(13.6) ②1.8+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回 転ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、雲母を 含む。B：やや不良。C：外灰黄 2.5Y6/2、内灰黄褐10YR6/2。 | 1/3 | 歪みあり。 |
| 953 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原7区 | ①13.1 ②2.1 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後回転ナデ。内面回転ナデ、 回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。 B：やや不良。C：内外灰黄 2.5Y6/2。 | 5/6 | |
| 954 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区 | ①14.3 ②2.6 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り 後ナデ。内面回転ナデ、回転 ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を多量含 む。B：良好。C：内外灰N5/。 | 完形 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 外面に重ね焼き痕あり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|-------------------|--------------------------|--|---|---|------------------------|---------------------|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 955 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原5区 | ①(14.8) ②2.1+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の石英を多量含む、2mm以下の白色粒子を多量含む。B：良好。C：内外灰白5Y7/1。 | 1/4 | 歪みあり。 つまみ剥離あり。 |
| 956 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区 | ①14.5 ②2.6 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を多量含む。B：良好。C：外灰5Y5/1、内灰オリーブ5Y6/2。 | 完形 | 歪みあり。 |
| 957 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原4区 | ①14.7 ②2.0 つまみ径2.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：6mm以下の石英を多量含む、2mm以下の白色粒子を含む、微細な金雲母を含む。B：良好。C：内外灰7.5Y5/1。 | 5/8 | |
| 958 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原4区 | ①14.6 ②2.7 つまみ径1.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子、黒色粒子を含む。B：良好。C：内外灰5Y6/1。 | 完形 | 焼成時割れあり。 簾状圧痕あり。 |
| 959 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区 | ①(15.2) ②2.2 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後未調整、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、雲母を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内灰黄2.5Y6/1。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 960 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原5区 | ①(15.6) ②3.7 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2.5mm以下の石英を含む、1mm以下の白色粒子を含む、微細な金雲母を含む。B：良好。C：内外灰白5Y7/2。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 961 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原表土剥ぎ | ①(16.0) ②2.9 つまみ径2.6 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子、石英を含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y7/3、内にぶい黄橙10YR7/2。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 962 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原5区 | ①(15.0) ②1.8 つまみ径2.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰7.5Y5/1。 | 1/4 | |
| 963 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区 | ①(15.3) ②1.9+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰5Y6/1。 | 1/4 | |
| 964 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原6区 | ①15.6 ②2.1 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 |
| 965 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原7区 | ①15.4 ②1.6 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰黄2.5Y6/1。 | 1/3 | 板状圧痕あり。 |
| 966 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区 | ①15.9 ②1.1 | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y6/2。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 つまみ剥離あり。 |
| 967 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原8区(木根カクラン内) | ①(15.8) ②1.5 つまみ径2.0 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰5Y6/1。 | 1/3 | |
| 968 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原3区 | ①(18.0) ②1.7+α | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：3mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/2～黄灰2.5Y5/1。 | 1/4 | |
| 969 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原7区 | ①(17.8) ②1.9+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 1/5 | |
| 970 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原表土剥ぎ | ①(18.2) ②1.6 つまみ径2.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y6/1。 | 1/6 | |
| 971 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区 | ①(18.8) ②1.3 つまみ径2.1 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 1/6 | 歪みあり。 |
| 972 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原2区 | ①(18.8) ②2.6 つまみ径2.3 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内灰黄2.5Y7/2～黄灰2.5Y5/1。 | 1/3 | |
| 973 | 須恵器 | 杯蓋 | 灰原縦ベルト中№5 | ①(19.2) ②1.7 | | 外面回転ヘラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、雲母を含む。B：不良。C：内外浅黄2.5Y7/3。 | 口縁部 1/4 | 板状圧痕あり。 |
| 974 | 須恵器 | 杯 | 1号窯跡灰原6区 | ①(12.6) ②4.0 ③(9.5) | | 外面回転ナデ、ヘラケズリ後ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：内外にぶい黄橙10YR6/3。 | 口縁部 1/8 底部 完形 | 板状圧痕あり。 |
| 975 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原7区 | ①(13.8) ②3.7 ③(8.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰5Y6/1。 | 1/3 | |
| 976 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原表土剥ぎ | ①(13.6) ②3.7 ③(8.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後丁寧ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N6/、内灰黄2.5Y6/1。 | 1/4 | 歪みあり。 焼成時割れあり。 |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----------|-------------------|------------------------------------|--|---|--|------------|--|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 977 | 須恵器 | 杯蓋 | 1号窯跡灰原1区 | ①(13.6) ②3.7 ③(8.6) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：やや不良。C：内外灰白5Y7/1。 | 1/4 | 歪みあり。 |
| 978 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原5区 | ①13.9 ②3.6~3.9 ③8.5 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ・板状工具痕。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の石英を少量含む、微細な金雲母を含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 3/5 | 歪みあり。 高台に簾状工具痕あり。 |
| 979 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原表土剥ぎ | ①(13.8) ②3.7 ③(9.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、雲母を含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y5/1、内黄灰2.5Y6/1。 | 1/5 | 歪みあり。 |
| 980 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原5区 | ①(14.4) ②3.8 ③(9.0) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1.5mm以下の白色粒子を含む、1mm以下の石英を含む、微細の長石を含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y7/2。 | 2/5 | |
| 981 | 須恵器 | 杯B身 | 1号窯跡灰原7区 | ①(14.0) ②3.6+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ・板状工具によるケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外黄灰2.5Y6/1。 | 1/6 | 高台剥離あり。 |
| 982 | 須恵器 | 椀(金属器模倣品) | 1号窯跡灰原5区 | ②3.4+α | | 内外面回転ナデ。 | A：3mm以下の石英を少量含む、1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：外黄灰2.5Y6/1、灰黄褐10YR6/2。 | 小片 | |
| 983 | 須恵器 | 皿 | 1号窯跡灰原5区 | ①(18.3) ②1.5 ③(14.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外灰白N7/。 | 1/6 | 歪みあり。 |
| 984 | 須恵器 | 皿 | 1号窯跡灰原5区 | ①(18.0) ②1.5 ③(14.4) | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：内外灰白5Y7/1。 | 口縁部 1/4 | |
| 985 | 須恵器 | 杯B身 | SX04 | ①(17.0) ②5.2 ③(10.2) | | 外面摩滅のため調整不明、回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面摩滅のため調整不明。 | A：2.5mm以下の褐色粒子を含む、2mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：不良。C：外黄灰2.5Y6/1、内淡黄2.5Y8/3。 | 口縁部 1/4 | |
| 986 | 須恵器 | 杯蓋 | 谷部C-1(灰原1・3・5区と混) | ①15.1 ②2.3 つまみ径1.9 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子、長石を含む。B：不良。C：外灰5Y6/1、内灰白2.5Y7/1。 | 2/3 | 歪みあり。 |
| 987 | 須恵器 | 杯身 | 谷部C-1(灰原3・5・7区と混) | ①13.6 ②3.4~3.7 ③8.8 | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外灰黄2.5Y7/2、内淡黄2.5Y7/3。 | 1/2 | 歪みあり。 板状庄痕あり。 |
| 988 | 須恵器 | 杯身 | 谷部A-1 | ①14.9 ②3.7~3.8 ③9.2 | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：不良。C：外灰白2.5Y7/1、内淡黄2.5Y8/3。 | 1/2 | 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 989 | 須恵器 | 皿 | 谷部検出後表採 | ①(17.2) ②2.6 ③(13.8) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後板状工具による不定方向のケズリ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を多量含む。B：良好。C：内外灰N6/。 | 1/5 | 口縁部に降灰あり。 内面に重ね焼き痕あり。 |
| 990 | 須恵器 | 長頸壺 | 谷部A-2(図あり) | ①12.1 ②25.8~26.2 ③9.7 最大胴部径20.1 | | 外面回転ナデ、沈線、回転ナデ後ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：内外褐灰10YR4/1。 | ほぼ完形 | 歪みあり。 板状庄痕多数あり。 焼成時割れあり。 外面に降灰あり。 |

表25 74地点出土遺物観察表

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|----|------------|--------------------------|--|---|---|-----------|-----|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | | |
| 991 | 須恵器 | 鉢 | SX01 | ①22.4 ②16.0+α | | 外面回転ナデ、回転ヘラケズリ。内面回転ナデ。 | A：2mm以下の白色粒子を少量含む、1mm以下の長石を微量含む。B：やや不良。C：外灰黄2.5Y6/2、内灰黄2.5Y7/2。 | 3/4 | |
| 992 | 須恵器 | 杯 | SX05 | ②1.9+α | | 内外面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：やや不良。C：内外灰N5/。 | 小片 | |
| 993 | 須恵器 | 杯 | 試掘調査トレンチ下段 | ②2.5+α ③(10.1) | | 外面回転ナデ、回転ヘラ切り後ナデ。内面カキメ状の回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む、微細な長石を含む、微細な金雲母を少量含む。B：やや不良。C：内外灰黄2.5Y6/2。 | 底部 1/6 | 小型。 |
| 994 | 須恵器 | 杯蓋 | 表採 | ①(15.0) ②2.2+α | | 外面回転ヘラケズリ、回転ヘラケズリ後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：外にふい黄2.5Y6/3、内灰黄2.5Y6/2。 | 1/6 | |

| 遺物 番号 | 種類 | 器種 | 出土地点 | 法量(cm・g) | 形態・技法の特徴 | A：胎土 B：焼成 C：色調 | 残存率 | 備考 |
|----------|-----|-----|------|---------------------------|----------------------------------|---|-----------|----|
| | | | | ①口径 ②器高 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 | | | | |
| 995 | 須恵器 | 杯蓋 | 表採 | ①(15.0) ②0.9+ α | 外面へラ切り後ナデ、回転ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の白色粒子を多量含む、微細な長石を少量含む。B：やや不良。C：内外灰N5/。 | 1/3 | |
| 996 | 須恵器 | 杯蓋 | 表採 | ②1.8+ α つまみ径2.4 | 外面回転ナデ、回転へラケズリ。内面回転ナデ後ナデ。 | A：4mm以下の石英を多量含む、微細な長石を含む。B：やや不良。C：内外灰白N7/。 | 小片 | |
| 997 | 須恵器 | 杯B身 | 表採 | ②2.4+ α ③(9.2) | 外面回転ナデ、回転へラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：内外黄灰2.5Y5/1。 | 底部 1/6 | |
| 998 | 須恵器 | 杯B身 | 表採 | ②2.1+ α ③(9.6) | 外面回転ナデ、回転へラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm白色粒子を少量含む。B：やや不良。C：外褐灰10YR5/1、内灰黄褐10YR5/2。 | 底部 1/6 | |
| 999 | 須恵器 | 皿 | 表採 | ①(14.8) ②1.8 ③(11.4) | 外面回転ナデ、回転へラ切り後ナデ。内面回転ナデ、回転ナデ後ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を含む。B：良好。C：外灰N5/、内黄灰2.5Y6/1。 | 1/4 | |
| 1000 | 須恵器 | 皿 | 表採 | ①(19.6) ②2.1 ③(16.2) | 外面回転ナデ、回転へラ切り後ナデ。内面回転ナデ。 | A：1mm以下の白色粒子を少量含む。B：良好。C：外黄灰2.5Y5/1、内灰5Y5/1。 | 1/6 | |

IV. 総括

1. 課題の抽出

今回報告した牛頸後田窯跡群68～72・74地点では、4地点10基の須恵器窯跡が確認された。これらの窯跡は、南北に延びる谷部に面した斜面上に作られており、その変遷は、窯の操業を行った須恵器製作者集団がどのように動いていったのかを知る上で重要である。

こうした須恵器製作者集団について、岡田裕之は「ある範囲に複数の窯が同時にあるいは連綿と営まれる」ものを窯群単位として捉え、野添・惣利・小田浦・浦ノ原・中通・牛頸ダム地区の窯跡群を取り上げ、窯群単位の変遷を分析し、その性格について検討を行った（註1）。その結果、大形の窯から小形化・複数化した窯群への変遷が追える場合、いくつかの窯群からなる場合、大形の窯のみで形成される窯群、小形化・複数化した窯のみで形成される窯群に区分し、それぞれの窯群が須恵器製作者集団の一つの単位として捉えられる可能性が高いとした。そして、須恵器窯製作者集団にはある一定の土地が割り当てられ、その範囲内で累代的に生産をおこなう必要があったとし、窯群単位を族制的な単位と捉えている。また、前代からの継続性を持たずに小形化・複数化した窯によって新しい窯群単位が形成される場合、窯群単位の再編が行われたとした。そして、須恵器製作者集団は族制的な原理をその存立基盤とし、その一方では公的な原理により包括されるという二重の原理に基づく生産関係が考えられるとした。

また、岡田は古墳時代の生産単位についてヘラ記号の分析から考察を行い（註2）、ヘラ記号は複数の生産単位に基づく製品を同時に焼成する場合に必要なものとして、古墳時代の須恵器生産の製作者もしくは製作者群を示すと考えた。併せて、律令期の生産単位についても、古墳時代と大きく変化していないが、生産の場においては一定の器種を一定量生産することに意味があり、ヘラ記号は必要なかったとしている。

さらに、岡田は古墳時代の須恵器製作者集団について宗像市須恵須賀浦遺跡の分析により、須恵器窯跡1基の操業には2～3程度の家族が携わっており、窯の操業単位を構成するものとした。この操業単位は、律令期の戸籍に相当する規模の家族集団が相当するものとし、その単位の増加は傍系親族の分節運動に対応すると考えた（註3）。

今回の調査地内の窯跡の変遷を見ていくと、68地点はV～VI期にあたる大形の1号窯跡から小形の2号窯跡に続けてVII A 期に3号窯跡を含んだ複数の窯の操業が行われたと考えられ、この群が南側に位置する69地点やVII B 期を中心とする70地点、VII B 期にあたる71地点へ移動しており、岡田の言う族制的な単位として操業にあたった須恵器製作者集団が時期を下るにつれて次第に谷奥に窯を作る場所を移動した結果として捉えられる。

また岡田の指摘する公的な原理による包括として、ヘラ書き須恵器により知られている大神部の存在が挙げられる。大神部は7世紀前半代には牛頸窯を統括していた氏族であり、8世紀前半代には複数の氏族を編成して牛頸窯の経営にあたっていたと考えられる（註4）。

牛頸窯跡群はこのような生産体制の下に操業が行われていったが、一方で岡田のいう窯群単位は

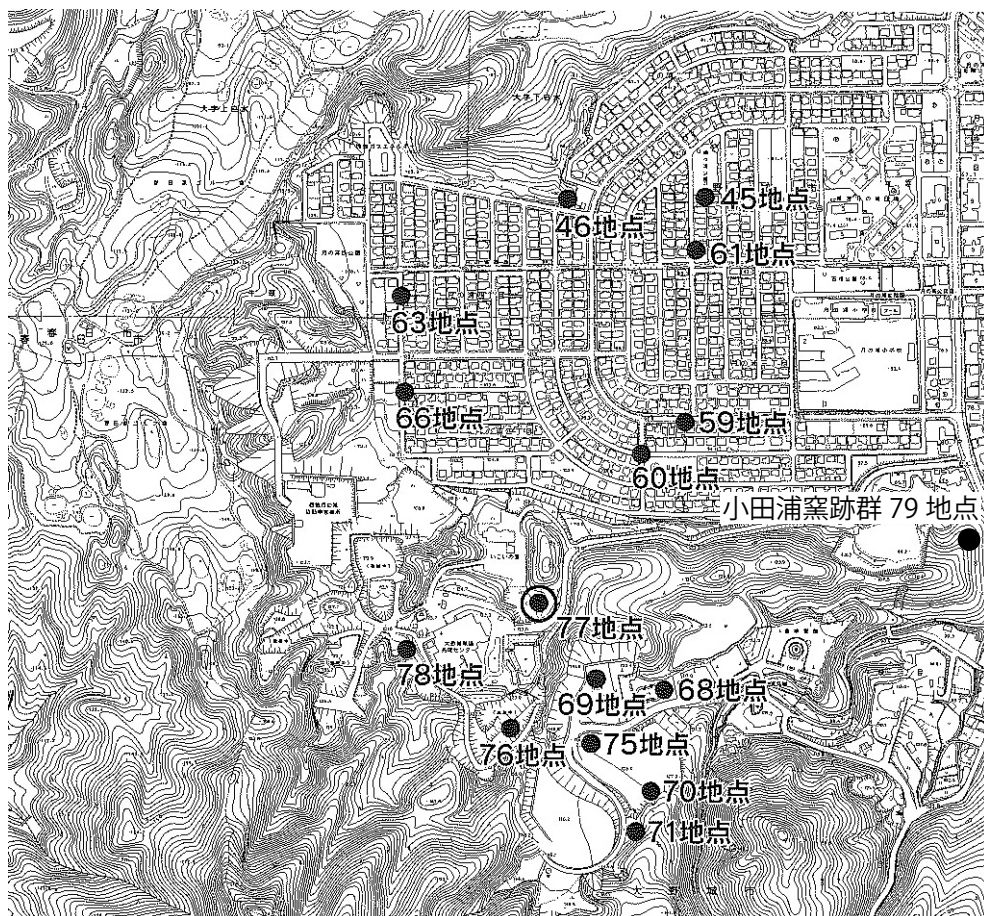
発掘調査で窯跡の存在が明らかになったものに限られており、窯群単位の認定方法には未調査の窯跡を含めたより広い範囲を考える必要がある。また、69・71地点のように単一の窯が確認される場所と68・70地点のように複数の窯が重層的に営まれる場所が近接する場合、その違いは何に基づくものであろうか。

2. 窯群の設定

後田・小田浦窯跡群は、小字名により遺跡名を分けているが、本来は丘陵を共有する一連の遺跡群である。このため、窯群設定については両遺跡群の遺跡動態を見ていく必要がある。

今回調査を行った68～71地点の窯群の移動について、最も関連が深いのは小田浦79地点である。小田浦79地点は、月の浦から谷部を登って最初の丘陵にあたり、東側にのびる丘陵の東側斜面に5基の須恵器窯跡が確認され、IV A 期からVI期の時期が考えられている。この小田浦79地点が位置する丘陵を西に入り込んだ所に、68～71地点は存在する。

この間の丘陵部に須恵器窯跡の存在は知られていないが、後田68-1号窯跡と小田浦79-4号窯跡がほぼ同じ時期であることは注目される。小田浦79-4号窯跡は表面検出のみで本格的な調査は行われていないが、かえりの短い杯B蓋を伴い、後田68-1号窯跡より後出する可能性が高い。その場合、後田68-1号窯跡は小田浦79地点より山深い場所に新たに窯場を開いたことになり、両者を一連の窯群の小群としてよいか疑念が残ることから、後田68～71地点は小田浦79地点とは異なる新たな一群として捉えることができる。



第103図 牛頸後田窯跡群のこれまでの調査地点と小田浦窯跡群79地点の調査地点
(註6より転載、一部改変)

3. 窯構造

後田・小田浦窯跡群を地形的に見ると、小田浦79地点が位置する丘陵は東西に長く伸びており、これを境に南北で窯群の範囲を分けることができる可能性がある。いずれにしても、牛頸窯跡群の須恵器窯跡は非常に広範囲に及び、調査されていない窯跡や失われた窯跡もあり、一連の窯群を設定することは中々難しい。このため、今回調査を行った後田68～71地点と西隣の谷部に位置する後田77地点の窯群が同じ須恵器製作者集団であるか、窯構造を手掛かりに見ていきたい。今回確認された窯の規模や構造及び後田77地点の窯構造は、以下のとおりである。

表26 牛頸後田窯跡群68～71・77地点の窯跡各部計測表

| 窯跡名 | 時期 | 全長 | 燃焼部長 | 焼成部長 | 焚口幅 | 最大幅 | 窯内最大高 | 窯内最小高 | 燃焼部傾斜角 | 焼成部傾斜角 |
|---------|-------------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 単位 | 期 | m | m | m | m | m | m | m | ° | ° |
| 68-1号窯跡 | V～VI | 1.5～ | 0.85 | - | 1.17 | - | - | - | 3 | - |
| 68-2号窯跡 | VI | 2.77 | 1.18 | 1.57 | 0.50 | 0.65 | 0.50 | 0.34 | 4 | 13～40 |
| 68-3号窯跡 | VII B | 2.35～ | 1.00 | 1.35～ | 0.35～ | - | - | - | 0 | 17～28 |
| 69-1号窯跡 | VII A | 0.77～ | - | 0.77～ | - | 0.70～ | - | 0.30 | - | 30 |
| 70-1号窯跡 | VII B | 2.64 | 1.26 | 1.38 | 0.92 | 1.12 | - | 0.46～ | 10 | 25～35 |
| 70-2号窯跡 | VII B | 2.42 | 0.74 | 1.59 | 0.83 | 0.88 | - | - | 12 | 14～35 |
| 70-3号窯跡 | VII B | 3.66 | 1.40 | 2.26 | 1.13 | 1.26 | 0.82～ | 0.62～ | 1～8 | 22～44 |
| 70-4号窯跡 | VII B | 3.91 | 1.12 | 2.79 | 0.95 | 1.30 | 1.22 | 0.85 | 4 | 19～50 |
| 70-5号窯跡 | VII B | 3.18 | 0.42 | 2.40 | 0.82 | 1.03 | 0.55 | 0.47 | 2 | 12～38 |
| 71-1号窯跡 | VII B | 2.54 | 0.62 | 1.92 | 0.75 | 0.97 | - | 0.47～ | 5 | 20～46 |
| 77-1号窯跡 | VII A～VII B | 2.87 | 0.57 | 2.30 | 0.74 | 0.84 | 0.47～ | 0.42 | 10 | 15～40 |

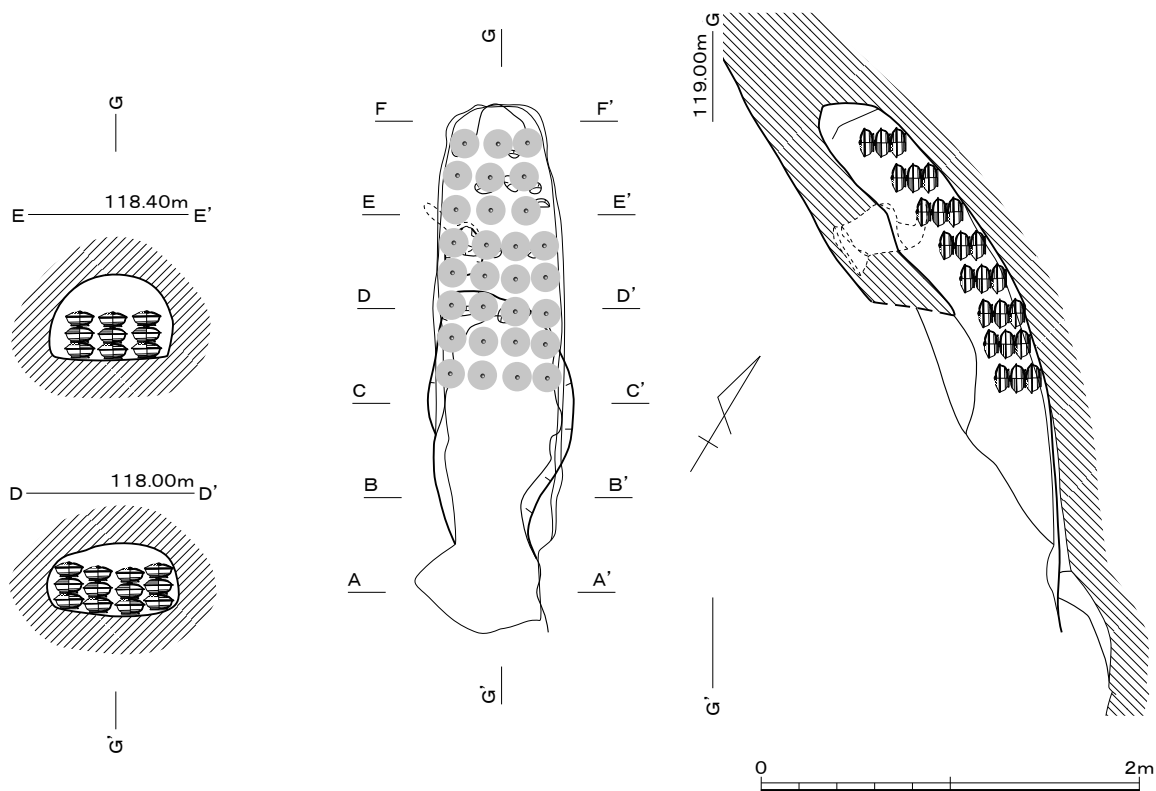
今回調査された68～71地点の各窯跡はいずれも地下式であり、68-2号窯跡を除き、いずれも直立煙道窯であったと考えられる。窯の形態として共通しているのは、焼成部の傾斜角度が煙道部側で30°を超える急なものであることである。70-4号窯跡は奥壁近くに粘土塊焼台を設置しているが、ここに土器を置こうと上るのは極めて困難であった。

また、窯の平面プランを見ていくと、68-2号窯跡は細長く、70-5号窯跡は燃焼部が絞り込まれるが、70-1・3・4号窯跡と71-1号窯跡は絞り込みが少なく、前庭部が開く形態をとり、共通性が高い。

一方で、異なっている点を挙げると70-4号窯跡では焼成部床面を掘り窪めることなく粘土塊焼台を設置しているのに対し、68-2号窯跡のように焼成部床面を掘り窪めた置台を設けている点である。VI期とVII B期における置台・焼台の設置方法の違いとして捉えることができる。

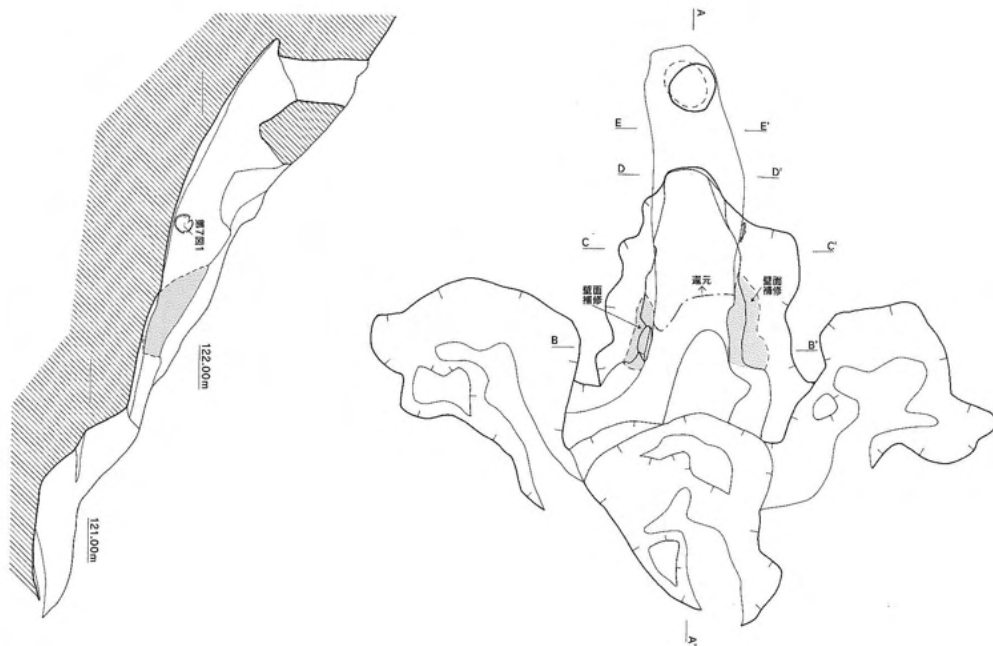
また、窯内の高さを見ていくと、70-4号窯跡のように窯内の最大高が1mを超えるものと、68-2号窯跡・70-5号窯跡のように50cm程度のものがある。窯の大きさも、窯内の高さが高い70-4号窯跡は4m近くあり、やや大型のものであり、こうした窯は甕を焼くためのものであったと考えられる。

参考までに、68-2号窯跡内から出土した須恵器杯蓋・杯身をセットにして窯詰めを行った場合、床面上に焼成部奥側は3個、燃焼部境では4個並べることができ、窯内の高さを考えると3セットを積み上げることができる。これを基に窯詰めをした場合、3個×3列、4個×5列の計8列29個で計87セットが一度に焼くことができるものと考えられる。一方で、窯内の最小高は34cmであり、これより大きなものを焼くことはできない。窯詰方法はさらに研究が必要であるが、窯で焼かれた須恵器の器種や大きさが、窯の幅や長さを決める規格の一つであった可能性も考える事ができ、今後の検討課題である。



第104図 68地点2号窯跡窯詰指定図 (1/40)

このように、68~71地点では、70-1・3・4号窯跡と71-1号窯跡は絞り込みが少なく、前庭部が開く形態をとる共通性が認められた。これに対し、77地点では、絞り込みが少なく、前庭部が開く特徴は共通するが、幅は狭く、ややゆがんだ平面プランを呈している(註6)。このことは、窯を作る場合、時代を経るにしたがって変化しながらも、全体的に共通する特徴があるが、平面プランなどに須恵器製作者集団の違いが表れている可能性がある。窯は、窯を作るにあたって主として生産することを予定していた製品の大きさに、窯幅や長さ・高さなどの規模が決められた可能性があり、窯群集団が伝統的に同じ窯構造を保有していると言うことはできない。時期ごとに焼成す



第105図 牛頸後田窯跡群77地点1号窯跡実測図 (S=1/80) (註6より転載)

る器種に応じて、窯構造を選択していると考えられ、窯構造の検討による須恵器製作者集団の同一性の検証は今後の課題である。

4. 器種別遺物数量から見た生産傾向

69・71地点のように単一の窯が確認される場所と68・70地点のように複数の窯が重層的に営まれる場所が近接する場合、窯構造の共通性から両者は同一の須恵器製作集団と考えられるが、その違いについて、制作された須恵器の器種ごとの数量により推測してみたい。

69地点は窯の残存状況が悪く参考にならないが、杯蓋・杯身のみ出土であることは注意が必要である。また、71地点の出土遺物数量を見ると、特に注目されるのは高杯・甕が全く見られないことである。一方、杯蓋・杯身が圧倒的に多く、皿もそれほど多くはないことから、71地点は杯蓋・杯身の焼成に特化した窯であったと考えられる。

これに対して、68・70地点は甕を含め様々な器種が出土しており、まんべんなく生産されていたことが分かる。特に70地点を見ると、70-4号窯跡のように窯の高さが1mを超える窯では甕の出土が目立っており、甕の生産に対応した窯構造を選択したと考えられる。

以上のことから、単独で窯が作られる71地点は杯蓋・杯身に特化した生産を行ったと考えられるが、70地点の須恵器製作者集団と同一であるかは、今後、出土須恵器の諸特徴を観察する必要がある、今後の課題としたい。

(石木)

註1 岡田裕之2003「北部九州における須恵器生産の動向」『古文化談叢』第49集 九州古文化研究会

註2 岡田裕之2003「古墳時代における須恵器の生産単位について」『史淵』第140輯 九州大学大学院人文科学研究院

註3 岡田裕之・原俊一2004「古墳時代の須恵器製作者集団」『日本考古学』第17号 日本考古学協会

註4 石木秀啓2017「牛頸窯跡群出土のヘラ書き須恵器について」『考古学・博物館学の風景』中村浩先生古稀記念論文集刊行会

註5 林潤也2007『牛頸小田浦窯跡群Ⅱ—79地点の調査—』大野城市文化財調査報告書第73集

註6 林潤也2009『牛頸後田窯跡群Ⅱ—77地点の調査—』大野城市文化財調査報告書第89集

5. 68地点1号窯跡出土の鉄鏝の性格について

68地点の1号窯跡の窯体内埋土中からほぼ完形に近い鉄鏝が出土した。茎付近に別個体が2本ほど錆着した状態で出土していて、複数本束ねていたことが分かる。当時の武器として貴重であり、例え窯跡表層の採集物であっても単なる遺失物では無く、須恵器窯跡と何某かの関連性を持つものと考えたい。調査の対象が須恵器の窯であり、出土する須恵器に注意が集中しがちで須恵器以外の遺物を見つけ出しにくい状況なので、見落としもかなりあったかと思われる。しかしながら、本窯跡の周辺では須恵器以外の遺物がかなり出土している。

特筆すべきものとして、以下、周辺での鉄鏝あるいは耳環等の出土した窯について概要を述べる。

①梅頭窯跡1次1号窯跡で、焼成部下位左側に石・焼台を持ち込み、銀象嵌鉄刀・鉄鏝・耳環その他、須恵器杯や赤色顔料が入った杯蓋が出土している。所謂横穴式石室の副葬状態とよく似ているので、廃棄須恵器窯を利用した墳墓とされている。

②梅頭窯跡2次1号窯は焼成部上位から耳環2点が出土している。1点は窯体内埋土から、もう1点は最終操業面直上から出土した。また周辺の埋土中から柳葉式と円頭斧箭式の鉄鏝2片が出土している。

③東浦窯跡2号窯からは焼成部床面から鉄鏝が出土しており、写真によると円頭斧箭式を含む数本の鉄鏝が確認できる。

④後田窯跡68地点1号窯跡では窯体内埋土から斧箭式を含む鉄鏝複数が出土している。その他『大野城市史』によると⑤春日市浦ノ原3号窯跡から耳環1点、⑥大野城市小田浦37-1号窯跡から鉄鏝が出土しているが、市史ではそれぞれの須恵器窯との関連性は無いとされている。梅頭第1次調査1号窯や第2次調査1号窯、東浦窯跡群2号窯など床面直上や最終操業面直上から耳環や鉄鏝が出土した例は廃棄窯を利用した墳墓と解釈されてきたが、窯の埋土中や須恵器窯と関連付けられていない鉄鏝等も含めその性格について、違った方向から考えてみたい。なお、ここで取り上げた須恵器以外の遺物を出した窯跡の造営時期はいずれも6世紀末～7世紀中頃の間になまるようである。

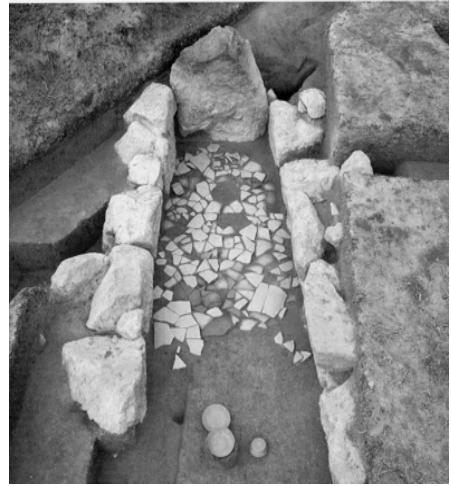
土器工人の墳墓

上記の須恵器窯が経営される6世紀後半から7世紀代にかけては横穴式石室を主体部にする小型円墳が密集して造られるが、その中には須恵器工人の古墳と推定できるものがある。後田窯跡群に近い観音山古墳群平石IV群は詳細を割愛するが、築造時期及び造営集団が明確に分けられる一群である。石室の開口方向及び築造時期により、那珂川市中原方向を向く一群と反対に牛頸窯跡群のある東方向を向く一群とがあり前者は6世紀後半頃まで、後者は6世紀末から7世紀にかけて営まれている。この後者に所属する31号墳は径5m程の小円墳で、石室は幅80cmの狭長



第106図 観音山古墳群中原IV群31号墳
(「観音山古墳群II」より転載)

で不整な長方形に同じ幅の羨道を付け、その左右に石組みを配するもので、玄室床の奥壁側半分に須恵器の甕の破片を敷き詰めている。少し離れるが、岡山県瀬戸内市の史跡寒風古窯跡群の中に寒風古墳という直径が6～7mの円墳があるがこの古墳の床も須恵器甕の破片が敷き詰められていて、観音山例と酷似している。同報告書によると横穴式石室ではないが、箱式石棺の床に須恵器甕片を敷き詰めた例として、総社市のすりばち池1・4号石棺があるという。築造時期は6世紀の前葉～中頃とされる。また、大阪南河内郡太子町では横穴式石槨の床面全体に土師器の破片が敷き詰められた松井塚古墳がある。破片は全て食器が選ばれ、調理具、貯蔵具を含まない。7世紀中頃の築造と考えられている。これも土師器づくりに関わる集団の墳墓と考えられる。



第107図 瀬戸内市寒風古墳石室
 (「史跡寒風古窯跡群」より転載)

祭祀に使用される耳環

耳環は後期古墳に一般的に副葬される装飾品の一つで、死者に装着され、その数でもって埋葬人数を想定したりする。梅頭窯跡の例も鉄鏃というより耳環の出土が埋葬施設の大きな根拠になっているが、耳環は必ずしもそういった使い方だけではなく、祭祀に使われることも知られているところである。幾つか類例を示すと、①観音山古墳群中原Ⅳ群21号墳は先に述べた31号墳の属する集団の盟主的な古墳で、耳環が7個出土しているが、そのうち4個は石室内から出土したもののだが、残りは盛土中、石室掘り方の裏込め中に白玉等と入れられ、盛土中には鉄鏃も差し込まれ、石室構築前の祭祀を行っている。②同じく観音山古墳群中原Ⅰ群33号墳の墓壙（裏込め）から耳環が出土（ⅢB新期）。③宗像市三郎丸の城ヶ谷17号墳では、石室を収める墓壙を掘削中に須恵器杯蓋に耳環2個を連環にしたものと銀製空玉を入れ、土師器高杯で蓋をした祭具が置かれていた。古墳築造前の地鎮祭祀が行われたものかと思われる。このように耳環が祭祀の道具として使われている例は枚挙に暇ないが、いづれにしろ、耳環が死者に装着したと限定できないことは周知のことである。

三宅瓦窯跡の「窯仕舞い」遺構

昭和8年に玉泉大梁氏により三宅廃寺推定地で瓦窯を調査されその概要を残されている。窯は写真や報告文によると瓦陶兼業窯であつたらしく、老司系の丸・平瓦と杯らしき土器が写っている。注目すべきは窯内中央部の東壁に接した所に板石を3枚側面と天井に組み、後背は平瓦を、もう一面は窯の壁で箱状の物を作り、前面の下には平瓦を敷き、その上に完形の杯が置かれていた。この土器は一見、弥生式土器のように見えるが焼成不十分な祝部土器の精巧な作りの様であると記述される。土器はスケッチの形態や糸底としてはあるも



第108図 瓦窯内箱型小石室(スケッチ)
 (「福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書第八輯」から転載)

の、ヘラ研磨を施した8世紀末ごろの赤焼き土器と推察される。氏はこの箱型の構造は土器を焼くためと書き残されているが、明らかに祭壇状であり、耳環や鉄鏃等の遺物は触れられていないが、「窯仕舞い」の所業と考えてよいのではとの岡山理科大学亀田教授から教示を得た。

梅頭1次1号窯例を始め、文頭で上げた耳環や鉄鏃を出土した窯は、6世紀後葉から7世紀前葉に窯の使命を終えている。三宅窯跡の窯仕舞いは時期的には降るものであるが、こういった弓矢や耳環を使った窯仕舞い（火納め）の祭祀行為は6世紀後半頃からも行われていたと考えられる。この行為が広範な窯で行われていたのか、選択的になされていたのかは資料が少なすぎてはっきりしたことが言えないが、今回の68地点1号窯の例も耳環は欠くが祭祀行為の一つと考えたい。

ところで、梅頭1次1号窯では耳環、鉄鏃に加え、象嵌装飾の大刀があり、墳墓として認識されて6世紀末の年代が与えられている。この後、牛頸窯跡群では牛頸編年のIV期とされる飛躍的に窯の数が増加する時期となるが、これは和田晴吾氏の云う「新式群集墳」の増加に伴う需要の増加の結果とも捉えられ、中央王権の共同体把握が横穴式石室の採用という規範（墓制）でなされている時期に、中央から送られたとされる象嵌大刀を所有する集団が古墳ではなく須恵器窯跡を再利用して墳墓とすることは考えにくいのではないだろうか。むしろ、生産体制あるいは経営単位の変遷の画期としての窯仕舞い（祭祀）として捉え、特に、その中でも梅頭1次1号窯の例は特別な（象徴的な）窯と捉えることも出来るのではないだろうか。（澤田）

参考文献

- 大野城市教育委員会「梅頭遺跡群Ⅰ～第1次調査～」大野城市文化財調査報告書第60集 2007
- 大野城市教育委員会「梅頭遺跡群Ⅱ～第2次調査～」大野城市文化財調査報告書第84集 2008
- 大野城市教育委員会「乙金窯跡・東浦窯跡群・大谷窯跡群」大野城市文化財調査報告書第188集 2021
- 瀬戸内市教育委員会「史跡寒風古窯跡群」瀬戸内市埋蔵文化財発掘調査報告 1 2009
- 那珂川町教育委員会「観音山古墳群Ⅱ」那珂川町文化財調査報告書第14集 1986
- 那珂川町教育委員会「観音山古墳群Ⅲ」那珂川町文化財調査報告書第17集 1988
- 福岡教育大学編クボタハウス株式会社・住友不動産株式会社「城ヶ谷古墳群」1977
- 福岡県「福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書第八輯 史蹟の部」1933
- 奈良文化財研究所編「日本の考古学」和田晴吾－前方後円墳の終焉と古墳の終末－ 2007
- 「大野城市史 上巻」2005
- 大阪府立近つ飛鳥博物館「ふたつの飛鳥の終末期古墳」－松井塚古墳－平成21年度冬期特別展図録

6. 土師器杯 d 模倣須恵器について

後田窯跡群70地点の3・4号窯跡灰原およびSX01から、特徴的な杯が出土した(第57図531、第61図608~611、第66図689、第80図843~847)。この杯は、底面から体部下半にかけて回転ヘラケズリされたもので、8世紀後半に顕著な調整の粗雑化とは逆行した様相を呈している。当該期に普遍的にみられる平底の杯Aと比較しても、形態・製作技法ともに異なる特徴を有しており、焼成方法こそ異なるものの、大宰府分類で土師器杯dと呼ばれる器種との類似点が多い(第109図1~6)。土師器杯dは8世紀後半に出現する器種であり、下記の属性により規定されている。

- ①底部から体部にかけて回転ヘラケズリ調整される。
- ②内外面ともに回転ヘラミガキが施される。
- ③底径と口径の差が大きく、体部形態が丸い。

土師器杯dの系譜は、平城宮において土師器碗Aと呼ばれる金属器模倣の土器に求められている。また、大宰府を中心に分布し、官的性格を有する遺跡や寺院、祭祀を想定できる遺跡に頻出する点が指摘されている(中島1992)。

今回出土した資料は、上記に掲げた属性のうち①・③を有しており、②が欠落するものの、土師器杯dを意識して製作されたことが明確である。一方で後田窯跡群70地点における出土量は全体の1%にも満たず、かなり客体的な存在である。この点からも杯dは、土師器主体の器種であったものと考えられる。

牛頸窯跡群における土師器杯dに類似した器種の存在は、牛頸窯跡群の一角に位置する本堂遺跡群にすでに認識されている(早瀬2008)。しかし、牛頸窯跡群全体における生産の実態が不明瞭であることから、本稿では再度出土例を整理する。また、主要な消費地と目される大宰府の出土事例についても併せて確認し、消費の状況も明らかにする。以下では、土師器杯d模倣須恵器について、便宜的に須恵器杯dと呼ぶこととする。

牛頸窯跡群の事例 現在のところ、5遺跡22点が確認されている(第109図、第27表)。8世紀後半の窯跡は多数の調査事例があるものの、須恵器杯dの出土は非常に限られており、生産していない窯の方が多かったとみられる。また、牛頸窯跡群全体の出土量からしても、主体的に生産された器種とは言い難い状況である。いずれの資料も牛頸編年ⅦB期(8世紀後半)に位置付けられることから、土師器杯dの盛行時期と一致する。

また、先に掲げた土師器杯dの属性に従って整理すると、属性①~③の全てを備えたもの(A類)と属性②が欠落したもの(B類)に大別できる。A類は、牛頸窯跡群の北部に位置する本堂遺跡群13次灰原で出土している。かなり薄手で丁寧に作られており、属性は土師器杯dと比べても遜色ない。これらは土師器工人が製作し、須恵器工人が焼成したものと想定されている(早瀬2008)。B類は、後田窯跡群に加え石坂窯跡群やハセムシ窯跡群でも出土しており、牛頸窯跡群の南部にまとまる傾向がある。回転ヘラミガキは施されないものの、底面および体部下半にかけて丁寧に回転ヘラケズリされており、精緻な印象を受ける。

A・B類については、製作手法の簡略化という型式学的な先後関係が想定されるものの、両者に大きな時期差は見出せない。生産地点が異なる点も加味すれば、製作者の土師器杯dに対する模

表27 牛頸窯跡群・大宰府出土須恵器杯 d 一覧

| No | 遺跡名 | 所在地 | 遺構名 | 出土点数 | 出典 |
|-------|-----------------|-----------|------------|------|--------------------------|
| 牛頸窯跡群 | | | | | |
| 1 | 本堂遺跡群13次 | 大野城市上大利 | 灰原3区2層 | 2 | 大野城市文化財調査報告書82集 |
| | | | 灰原3区3層 | 3 | |
| | | | 検出時 | 1 | |
| 2 | 塚原遺跡群 | 大野城市若草 | SK08 | 2 | 大野城市文化財調査報告書44集 |
| 3 | ハセムシ窯跡群 | 大野城市つつじヶ丘 | 18-II号窯跡 | 1 | 大野城市文化財調査報告書23集 |
| 4 | 石坂窯跡群D地点 | 大野城市大字牛頸 | 5号窯跡 | 2 | 大野城市文化財調査報告書210集 |
| 5 | 後田窯跡群70地点 | 大野城市大字牛頸 | 3・4号窯跡灰原1区 | 1 | 大野城市文化財調査報告書218集 (本書) |
| | | | 3・4号窯跡灰原4区 | 4 | |
| | | | 3・4号窯跡灰原5区 | 1 | |
| | | | SX01 | 5 | |
| 大宰府 | | | | | |
| 6 | 大宰府史跡76次(不丁地区) | 太宰府市観世音寺 | SD2010 | 1 | 大宰府政庁周辺官衙跡IV |
| 7 | 大宰府史跡77次(不丁地区) | 太宰府市観世音寺 | SD2340 | 1 | 大宰府政庁周辺官衙跡IV |
| 8 | 大宰府史跡129次(不丁地区) | 太宰府市観世音寺 | SX3838 | 4 | 大宰府政庁周辺官衙跡IV |
| 9 | 大宰府史跡170次 | 太宰府市観世音寺 | 褐色粘質土層 | 1 | 太宰府市の文化財36集 |
| 10 | 大宰府史跡175次(広丸地区) | 太宰府市観世音寺 | SD4345 | 1 | 大宰府政庁周辺官衙跡XI |
| 11 | 大宰府条坊跡149次 | 太宰府市観世音寺 | SD190 | 1 | 太宰府市の文化財43集 |
| 12 | 大宰府条坊跡200次 | 筑紫野市二日市 | SK298 | 1 | 筑紫野市文化財調査報告書75集 |
| 13 | 筑前国分尼寺跡13次 | 太宰府市国分 | 暗茶色土層 | 1 | 太宰府市の文化財25集 |

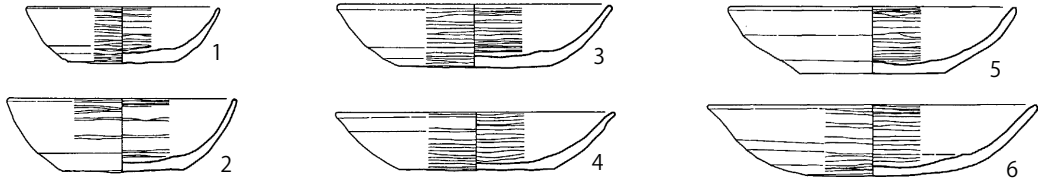
倣度合いの差異を示す可能性という見方もできる。回転ヘラミガキは、装飾性の高い調整であり、色調の明るい土師器に施されてこそ本来の視覚的効果を発揮することから、須恵器化にあたり不要な属性として排除された可能性も考えられ、形態的な模倣度の高さが重視されたと言い換えることもできよう。

大宰府の事例 大宰府出土例は、管見の限り11点を数え、牛頸窯跡群における生産量の少なさと非常に調和的な状況である。先に述べた分類によれば、いずれもB類である。時期が明らかなものについては、8世紀後半に位置することから、生産地の様相とも矛盾しない。大宰府条坊跡200次SK298からは土師器杯dとともに出土しているが、土師器杯d7点に対して須恵器杯dはわずか1点に過ぎず、土師器優位である点を示唆する。また、第109図21は口縁部に段を有することから、佐波理鏡との関連も指摘されている。

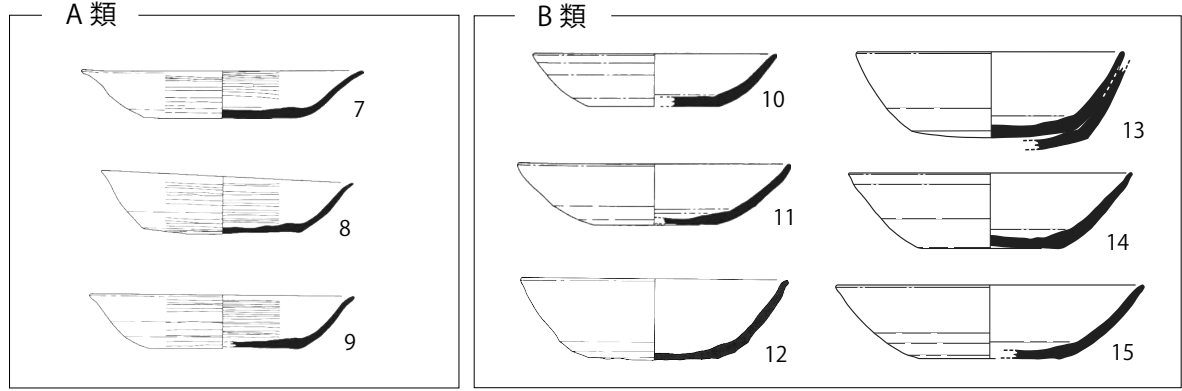
小結 牛頸窯跡群および大宰府における須恵器杯dについて概観した結果、いずれにおいても、極めて限定的な存在であることが明らかになった。これは、冒頭にも述べたように、杯dが土師器主体の器種であることを顕著に示す結果である。

須恵器による生産が行われた背景については不明だが、生産量の少なさから突発的な需要に応じて作られたものと考えられる。土師器杯dは、大宰府をはじめ官的様相の強い遺跡との相関が指摘されていることから、須恵器杯dの生産についても大宰府の関与を想定しておきたい。また、今回抽出した資料には、土師器杯dの模倣ではなく、金属器との関連を推測させるものも存在するため、どのような基準で峻別するかも今後の課題である。(山元)

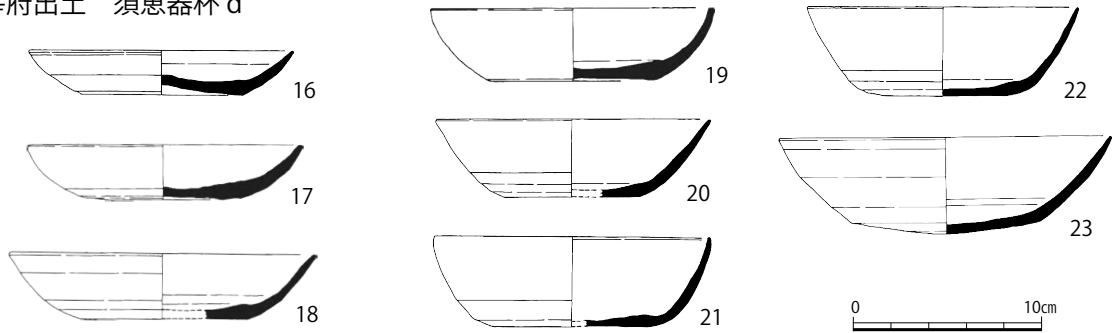
土師器杯 d



牛頸窯跡群 須恵器杯 d



大宰府出土 須恵器杯 d



1~6. 大宰府史跡 102 次 SX2999、7. 本堂遺跡群 13 次灰原 3 区 2 層、8・9. 本堂遺跡群 13 次灰原 3 区 3 層、10・11. 石坂窯跡群 F 地点 5 号窯跡
 12. 塚原遺跡群 SK08、13~15. 後田窯跡群 70 地点 SX01、16. 大宰府史跡 170 次褐灰色粘質土、17. 大宰府史跡 175 次 SD4345
 18. 大宰府史跡 76 次 SD2010、19. 大宰府条坊跡 200 次 SK298、20~22. 大宰府史跡 129 次 SX3838、23. 筑前国分尼寺跡 13 次暗茶色土

第109図 牛頸窯跡群・大宰府出土須恵器杯 d (1 / 4)

参考文献

- 中島恒次郎 1992「都へ行った土器-長岡京右京 第102次調査 SD10201出土資料-」『古文化談叢』28集 九州古文化研究会
 早瀬 賢 2008「須恵質焼成土師器杯 d」『牛頸本堂遺跡群Ⅷ』大野城市文化財調査報告書第82集

圖 版



(1) 68地点全景 (東から)



(2) 68地点検出状況 (南西から)



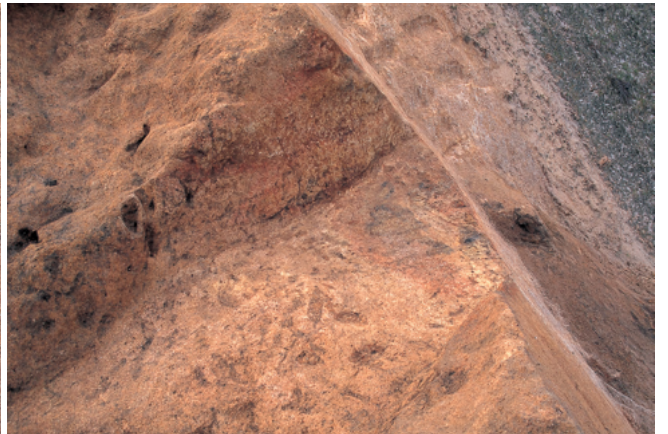
(3) 68地点検出状況 (南から)



(4) 68地点1号窯跡完掘状況 (南から)



(5) 68地点1号窯跡完掘状況 (南から)



(6) 68地点1号窯跡完掘状況 (上方から)



(7) 68地点1号窯跡土層 (南東から)



(8) 68地点1号窯跡内土層 (南から)

図版 2



(9) 68地点 1号窯跡土層ベルト (南から)



(10) 68地点 2号窯跡全景 (南東から)



(11) 68地点 2号窯跡遺物出土状況 (南東から)



(12) 68地点 2号窯跡煙道 (排煙側から)



(13) 68地点 2号窯跡奥壁部煙道掘削状況 (南西から)



(14) 68地点 3号窯跡完掘状況 (南東から)



(15) 69地点全景 (北西から)



(16) 69地点焼土坑検出状況 (北から)



(17) 69地点焼土坑完掘状況（西から）



(18) 69地点焼土坑土層（東から）



(19) 70地点調査前（北西から）



(20) 70地点検出状況（北西から）



(21) 70地点全景（北西から）



(22) 70地点1・3～5号窯跡全景（北西から）



(23) 70地点1号窯跡完掘状況（北西から）



(24) 70地点1号窯跡焚口部、4号窯跡煙道（東から）

図版4



(25) 70地点1号窯跡船底ピット遺物出土状況(北から)



(26) 70地点1号窯跡貼床除去後遺物出土状況(北西から)



(27) 70地点1号窯跡窯内縦断面土層奥壁側(東から)



(28) 70地点1号窯跡焚口部土層(北東から)



(29) 70地点1号窯跡B-B'南側土層(北から)



(30) 70地点1号窯跡前庭右側遺物出土状況(西から)



(32) 70地点2号窯跡完掘状況(北西から)



(33) 70地点2号窯跡焚口部(南から)



(34) 70地点 2号窯跡右側壁 (東から)



(35) 70地点 2号窯跡左側壁 (西から)



(36) 70地点 2号窯跡窯体縦断面土層奥壁側 (北から)



(37) 70地点 2号窯跡杭 2-A 付近土層 (西から)



(38) 70地点 2号窯跡横断面土層 (北西から)



(39) 70地点 2号窯跡灰原横断面土層杭 2B-2H (北西から)



(40) 70地点 2号窯跡灰原縦断面土層杭 2B-2C (北東から)



(41) 70地点 3号窯跡全景 (北西から)

図版6



(42) 70地点3号窯跡焚口左側壁（西から）



(43) 70地点3号窯跡焚口土層3-SA～SB(北西から)



(44) 70地点3号窯跡窯内横断面土層（北から）



(45) 70地点3号窯跡焚口縦断面土層（北東から）



(46) 70地点3号窯跡横断面土層（北から）



(47) 70地点3号窯跡窯体内土層（北から）



(51) 70地点3号窯跡内粘土検出状況（北から）



(48) 70地点 3号窯跡遺物出土状況 (北から)



(49) 70地点 3号窯跡窯体内粘土検出状況 (北から)



(50) 70地点 3号窯跡窯体内粘土検出状況 (北から)



(52) 70地点 3・4号窯跡灰原 (杭 1-DN ~ 1-D) (北から)



(53) 70地点 3・4号窯跡灰原 5区土層 (北東から)

図版 8



(54) 70地点3・4号窯跡灰原(杭1-D~1-DS)(北西から) (55) 70地点3・4号窯跡灰原3・6区縦断面土層(北東から)



(56) 70地点3・4号窯跡灰原6区縦断面土層(北東から) (57) 70地点3・4号窯跡灰原4・5区間土層(北東から)



(58) 70地点4号窯跡完掘状況(北から) (59) 70地点4号窯跡焚口部(南から)



(60) 70地点4号窯跡土坑(南西から) (61) 70地点4号窯跡左側壁(西から)



(62) 70地点4号窯跡右側壁（東から）



(63) 70地点4・5号窯跡焚口部検出状況（北から）



(65) 70地点4号窯跡4A-4B縦断面土層（東から）



(66) 70地点4号窯跡焚口部縦断面土層（北から）



(64) 70地点4号窯跡遺物出土状況（北から）



(67) 70地点4号窯跡縦断面土層（北から）



(68) 70地点4号窯跡横断面土層（北西から）

図版10



(69) 70地点4号窯跡完掘状況（北西から）



(70) 70地点4号窯跡焼台設置状況（北西から）



(71) 70地点4号窯跡遺物復元風景（北西から）



(73) 70地点5号窯跡焚口部（西から）



(72) 70地点5号窯跡完掘状況（北西から）



(74) 70地点4・5号窯跡土層（杭3B東側）（西から）



(75) 70地点5号窯跡焚口部検出状況（北西から）



(76) 70地点 5号窯跡縦断面土層（北西から）



(77) 70地点 5号窯跡煙道部（西から）



(78) 70地点 5号窯跡掘削状況復元（北から）



(79) 70地点 6号窯跡全景（北西から）



(80) 70地点 SX02全景（北から）



(81) 70地点 SX02 (A-B 土層) (東から)



(82) 71地点調査前（北西から）



(83) 71地点調査後全景（北西から）



(84) 71地点遺構検出状況（北西から）



(85) 71地点遺構検出状況窠体近景（北西から）



(86) 71地点谷部遺構検出状況（北西から）



(87) 71地点1号窠跡全景（北西から）



(88) 71地点長頸壺出土状況（東から）



(89) 71地点1号窯跡土層（南西から）



(90) 71地点1号窯跡煙道部土層（南西から）



(91) 71地点1号窯跡焚口部土層（北から）



(92) 71地点1号窯跡窯体内煙出し縦断面土層（北東から）



(93) 71地点1号窯跡内煙道土層（南西から）



(95) 71地点1号窯跡窯内K-K'土層（北西から）



(94) 71地点1号窯跡内横断面土層（北西から）

図版14



(96) 71地点1号窯跡灰原土層 (北西から)



(97) 71地点1号窯跡灰原 J-Ja 土層 (北西から)



(98) 71地点1号窯跡灰原 g-gb 土層 (北西から)



(99) 71地点1号窯跡灰原 ga-gb 土層 (北西から)



(100) 71地点1号窯跡灰原 g-ga 土層 (北西から)



(101) 71地点1号窯跡灰原 h-hb 土層 (北西から)



(105) 71地点谷部 b-ba 土層 (北西から)



(106) 71地点谷部土層 (北から)



(107) 72地点調査前（南から）



(108) 72地点完掘状況（東から）



(109) 72地点炭窯跡全景（東から）



(110) 72地点炭窯跡煙道完掘状況（東から）



(111) 72地点炭窯跡窯内（東から）



(112) 72地点炭窯跡煙出し（東から）



(113) 72地点炭窯跡煙道（東から）

図版16



(114) 72地点炭窯跡焚口下部土層（北東から）



(115) 72地点炭窯跡焚口部縦断面土層（北から）



(116) 72地点炭窯跡内縦断面土層（北から）



(117) 72地点道路側土層（西から）



(119) 74地点調査後全景（北東から）



(120) 74地点SX01遺物出土状況（南東から）



(121) 74地点SX01完掘状況（北東から）



(122) 74地点SX05完掘状況（北から）



68地点集合写真



1



7



2



9



4



10

68地点1号窯跡出土遺物①















130



139



132



140



134



142



137



143



138



146



147



156



148



161



149



163



150



223



152



226

68地点 1号窰跡出土遺物⑨
69地点出土遺物



70地点1号窯跡集合写真



229



234



233



235



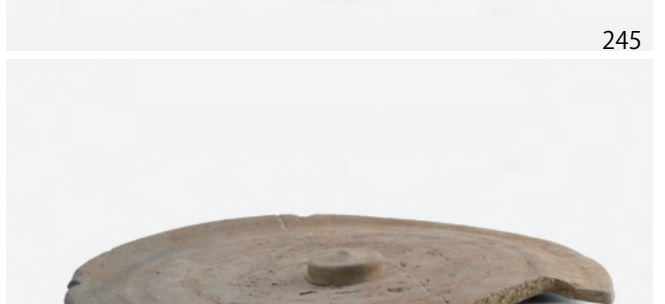
236



245



237



247



238



248



239



251



241



252



244











70地点 2号窯跡集合写真



323



326



325



329







369



379



370



381



372



382



374



375



383





399



403



400



404



401



405



402



405 · 406



70地点 3号窯跡集合写真



407



414



408



417



409



418









70地点4号窑迹集合写真



485



487



486



492



493



502



494



506



495



507



496



512



501



516

70地点4号窯跡出土遺物②
70地点3・4号窯跡灰原出土遺物①



70地点3·4号窯跡灰原4区集合写真



519



524



522



526



523



540



70地点3・4号窯跡灰原
1~3・5・6区集合写真



545



546



547











747



752



748



皿の重ね焼き状況



754



749



756



757



70地点 5号窑迹集合写真



762



765



764



766





794



795



796



810



811



817



822



824



826



827



828

70地点 5号窑迹出土遗物④
70地点 SX01出土遗物①



70地点 SX01 集合写真



829



834



833



843







893



897



896



898



899





71地点1号窑迹集合写真



942



948



943



950



947



951

71地点1号窑迹出土遺物②



71地点 1号窯跡
灰原集合写真



953



956



954



957





窯道具 集合写真

報告書抄録

| ふりがな | うしくびうしろだかまあとぐん さん | | | | | | | |
|--|--|-------|-----------------|-------------------|--------------------|----------------------------|---------|------|
| 書名 | 牛頸後田窯跡群3 | | | | | | | |
| 副書名 | 68・69・70・71・72・74地点 | | | | | | | |
| 巻次 | 3 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 大野城市文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第218集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 石木秀啓・上田龍児・山元瞭平・澤田康夫・藤島友美・稗田智美 | | | | | | | |
| 編集機関 | 大野城市 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒816-8510 福岡県大野城市曙町二丁目2番1号 電話092(501)2211 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2024年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 。'。" | 東経 。'。" | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| うしくびうしろだかまあとぐん 牛頸後田窯跡群 ちてん 68・69地点 | ふくおかけんおおのじょうしうしくび 福岡県大野城市牛頸 2471-11 ほか 他 | | | 33° 29' 42" | 130° 27' 26" | 1996年 10月24日 ～12月20日 | 約350㎡ | 霊園建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 牛頸後田窯跡群 68・69地点 | 生産遺跡 | 飛鳥・奈良 | 須恵器窯跡・土坑 | 須恵器・土師器 ・鉄鏝 | | | | |
| 要約 | 調査地は牛頸山から八つ手状に広がる山麓の急峻な斜面の中腹に位置する。須恵器の登り窯4基を検出したが、2号窯跡以外は残存状況が極めて悪く、全様は窺い知れない。68地点2号窯跡は長さ2.7m、幅0.7mで、床面の傾斜は約30°程度である。窯体内の埋土の状況から、焼成中に燃焼部付近の天井部が崩落したため放棄されたらしく、床面の遺物はある程度原位置を保っていると思われ、当該時期の須恵器焼成の際の製品の窯詰め的一端を窺い知ることができる資料と思われる。 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 。'。" | 東経 。'。" | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| うしくびうしろだかまあとぐん 牛頸後田窯跡群 ちてん 70～72・74地点 | ふくおかけんおおのじょうしうしくび 福岡県大野城市牛頸 2471-5～7・16・32 | | | 33° 29' 35" | 130° 27' 26" | 1999年 1月11日 ～3月31日 | 約1,100㎡ | 霊園建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 牛頸後田窯跡群 70～74地点 | 生産遺跡 | 奈良 | 須恵器窯跡・炭窯 ・土坑 | 須恵器 | | | | |
| 要約 | 調査地は牛頸山から北側に派生する山塊の斜面に立地する。遺構は70地点で須恵器窯6基を検出したが、そのうち1基は空焚き中に崩落したようである。71地点では須恵器窯1基を検出したが、窯体内では焼き台が片付けられた状態で見つかった。72地点では炭窯を1基検出した。円形プランの平窯で、花崗岩の岩盤を割り貫いた半地下式の窯である。出土遺物は無く時期は不明である。73地点は遺構を検出せず、地点は欠番とした。74地点は尾根上を調査したもので、不明土坑を検出した。8世紀代のものである。今回調査した窯跡群は牛頸窯跡群で最も盛んに須恵器生産が行われた時期のものであり群全体の検討材料が増加したと共に、74地点において遺構の検出があったのは窯跡群とそれに付帯する遺構の存在を確認できた上で貴重な調査成果となった。 | | | | | | | |

大野城市文化財調査報告書 第218集

牛頸後田窯跡群 3

— 68・69・70・71・72・74地点 —

令和6年3月31日

発行 大野城市
福岡県大野城市曙町2-2-1

印刷 九州コンピュータ印刷
福岡市南区向野1丁目19番1号

